

いのちの泉

カメルバプテスト教会
日本人ミニストリー月報
2003年10号

街路樹が少しずつ色づいて来ました。一本の木の葉が緑から黄色、オレンジ色と変化のある様は、ため息が出るほど美しく、これからの朝歩きが楽しくなりました。これから暫くの間は、自然の織りなす微妙な美しさを随所に楽しむことでしょう。

皆様にはお変わりなくお過ごしでいらっしゃいますか。今月は16日に日本から岸義紘先生をお迎えし、サクソフォンのコンサートと、先生のお証しを伺うチャンスに恵まれました。集会には、日本人だけでなく、中国人、韓国人、アメリカ人と、多勢の方が集まって下さり、岸先生が心を込めて演奏されるサクソフォンの音色が染み透った心で、先生のユーモラスなお証しを聞くことができ、感謝でした。

実を申しますと、私はここ一ヶ月余り、祈ることも、聖書を手取ることもできず、毎月ハーベストタイムミニストリーが送ってくれるテープを観ることもできずに過ごして来たのですが、四、五日前、ハーベストタイムのテープを意を決して観ることになりました。(意を決して、という言葉はこの時の私にとって、決して大げさな言葉ではありません。) 9月号のそのテープには、中川健一先生が最近出版された「日本人に送る聖書ものがたり」という本の製作に携わられた、編集者と挿絵画家へのインタビューが入っていました。その二人が語られる言葉と、真の謙虚な姿に私は引きつけられるように、TVの画面に見入りました。三日間続けて観ることによって、私は自分の心の中の問題点を見つけることができました。といいますのも、私は最近、ノンクリスチャンの友人達と話す時に、「私の信仰なんてこの程度...」という言葉、何度か口にしておりました(そのつど心の中に何かを感じながら)。信仰を持つことは、自分で決めることかもしれませんが、(それでさえも、主に選ばれたことであるのですが)信仰を深めることは、勿論、聖書を学ぶこともあるでしょうが、聖霊の働きによるもの、主に引き上げられてあるものではないかと思いました。それなのに「私の信仰なんてこの程度...」とは、主に対してなんと不遜な言葉を吐いたものでしょう。ほんとうに謙虚な人に出会う時、人間は自分の傲慢さに気づくのでしょうか。祈りの中で、自分の愚かさを、傲慢さを、主に詫言いました。針の穴ほどの小さな小さな私にまで、目をそそいで下さり、諭して下さる主に、心から感謝しました。ハレルヤ!

(中藤百々代)



戦争中の私達 エペソ6章10節から20節

ジョエル・ラブストランド牧師

私は、かつて日本のテレビ番組を見て六十年代と七十年代の歌謡曲を聞きました。その中の一曲は、戦争の知らない新世代についての歌詞がありました。確かに、平和の時代に生きる事は大きな恵みですが、聖歌300番を見たら違うような歌詞が書いてあるのに気がつきます。そこに「進め主イエスの兵士らよ」という歌詞が入っています。その歌は、クリスチャン生活を戦争に喩えている訳です。あるアメリカの教会は、その歌詞が今の平和の時代に相応しくないから讚美歌集から除きました。しかしどうでしょうか。使徒パウロはよく軍隊に関する表現を使います。こんなに荒々しい表現を使う必要が本当にあるかと思われるかもしれませんが、戦争についての英語の言葉があります。

「War is hell」、訳すと「戦争は地獄だ」ということです。戦争は本当に怖くて苦しめるものです。しかし、私達の霊的な戦いは戦争と同じように敵がいて、その敵と戦う備えをしなければ、攻められる時戦おうとしても対抗できません。

ベトナム戦争の後でアメリカの軍隊が徴兵制度から志願制度に変わりました。冷戦がまだ続いていたので、時々週刊誌等に米軍の戦備はどうかという課題がのっていました。ロシアに攻められたら対抗できるでしょ

うか。自分の軍隊が強かったら敵に攻められないだろうし、攻められても勝つ事が出来るという風に考えられていました。

私達も戦備が必要です。霊的戦備が必要です。しかし私達の場合は、戦いを防ぐ為ではありません。クリスチャンなら必ずサタンに狙われます。戦わずをえないのです。イエスを信じたら、サタンの敵となります。キリストの兵士となりますから、アダムとエバが罪を犯した時、この世はサタンに支配されるようになりました。誘惑した蛇と人間が、神様に呪われてしまいました。しかし、神様は人間を見捨てはなさいませんでした。呪いと一緒に救い主の約束が加えられました。主なる神は、蛇に向かって言われた。「このようなことをしたお前は、あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で、呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に、わたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き、お前は彼のかかとを砕く。」(創世記3:14、15)

キリストが現れた時、神様のものをサタンの支配から取り返す事が始まりました。イエス様が罪を赦したり、悪霊を追い出したりしておられました。ヨハネの

福音書 12 章 3 1 節にこう言われます。「今こそ、この世が裁かれる時。今、この世の支配者が追放される。」（ヨハネ 12 : 3 1）罪人がイエスを信じたら、サタンの支配から神様の支配に移されます。こういうふうに神様の御国が広がります。イエス様を信じたら、神様と平和を持つ事になりながらサタンの敵になります。十字架の上でイエス様は人間をサタンの力から贖われました。イエス様は確かな勝利を得られましたが、御国は地上でまだ安全な形になっていません。サタンは、まだ暫くこの世の支配者です。第一コリント人への手紙にこういうふうに表現されています。「次いで、世の終わりが来ます。そのとき、キリストはすべての支配、すべての権威や勢力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます。」（コリント 1 15 : 2 4）

靈的には私達は今戦争中です。戦備はできていますか。今朝の聖書箇所は私達のサタンに対する戦いに何が必要かを教えています。ここに神の武具と呼ばれています。

では、この靈的な戦いにどんな武具が必要かを考える前に 1 2 節に注目してください。「わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。」（1 2）多くの場合、私たちは外面的な問題に注意を払いますが、靈的な事を忘れてしまいます。夫婦げんかをする時や自分を傷つけた人に対してうらみをもつ時、あるいはキリストチャンとして迫害される時、その人間の相手に対する戦いだと思い込んでしまいます。教会の中でも人間関係の問題にぶつかると、「あの人が悪い」と思って、サタンの策略に気がつかない事が多いと思います。しかし、1 2 節によると、「私達の格闘は・・・」私達の格闘はサタンと悪霊どもに対するものです。サタンは色々な状況の中で私達の弱い所を狙って誘惑します。それで 1 3 節に書いてあるように神の武具が役に立ちます。

では神の武具というのは何でしょうか。1 4 節から 1 7 節まで色々なものが述べられています。最初に 1 4 節に真理の帯という武具があります。パウロはこういう武具をリストアップした時、おそらくローマ兵と鎖につながっていました。その兵士の武具を見たら旧約聖書の御言葉を思い出すでしょう。実は、この真理の帯という文句はイザヤ書 1 1 章 5 節に書かれた文句とほとんど同じです。イザヤ書の場合は、正義の帯と真実の帯という言葉はその人の性質を表す表現です。エペソ人への手紙の場合も自分の性質を表す言葉でしょう。しかし、この真理は自分の知識によるものではありません。神様の絶対的な真理です。

この真理の帯を身につけるのに聖書を勉強する必要があります。しかし、真理の帯を身につける事は、真理を知る事だけでなく、**真理を??** と真理によって生きる事も含まれていると思います。

次の武具は、1 4 節の終わりに書いてある正義の胸当てです。これはイザヤ 5 9 章 1 7 節からの引用です。その箇所には、神様は御自分の正義によって裁きと救

いをもたらしました。私達はイエス様を信じたらそのいけにえのゆえに、イエス様の義を与えられました。神様に義と認められます。しかし、この手紙はキリストチャンに対して書かれた物なので、この正義は与えられた絶対的な義だけではないと思います。日常生活の中での義による生き方も大切だと教えられています。神様に義と認めて頂いたら日常生活はどうでもいいと思う事は大きな間違いです。そう思っていたら、悪魔に左右されやすくなります。

三つ目の武具は平和の福音の備えです。これは兵士の靴です。「どうして戦争中の私たちに平和の福音の備えが必要なのだろう」と思われるかも知れません。キリストチャンになる時、サタンと戦うようになるとしたら、どういう意味で「平和の福音」と呼ばれているのでしょうか。外面的に平和がないかも知れません。マタイによる福音書 10 節 3 4 - 3 5 節にイエス様は言われました。「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思っはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。わたしは敵対させるために来たからである。人をその父に、／娘を母に、／嫁をしゅうとめに。」（マタイ 10 : 3 4 - 3 5）サタンの敵となったらサタンの支配にある人々にぶつかってしまう事がよくあります。しかし、心の中で平安があります。ローマ書 5 章 1 節に「このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、（ローマ 5 : 1）」と書いてあります。この平和の福音を伝える特権が私達に与えられました。第二コリント 5 章 1 8 - 1 9 節を御覧ください。「これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。」（コリント 2 5 : 1 8 - 1 9）パウロと同じ様に、私達はこの平和の福音を伝える事が出来ます。そうするとイザヤ書 5 2 章 7 節の御言葉は私達に当て嵌まります。「いかに美しいことか／山々を歩き巡り、良い知らせを伝える者の足は。彼は平和を告げ、恵みの良い知らせを伝え／救いを告げ／あなたの神は王となられた、と／シオンに向かって呼ばれる。」（イザヤ 5 2 : 7）福音を伝える用意をしようではありませんか。これは本当に素晴らしい特権です。第一ペテロ 3 章 1 5 節を御覧ください。「心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。」（ペテロ 1 3 : 1 5）正しい態度をもって弁明する事は難しいですね。続けて 1 6 節をお読みします。「それも、穏やかに、敬意をもって、正しい良心で、弁明するようにしなさい。そうすれば、キリストに結ばれたあなたがたの善い生活をののしる者たちは、悪

口を言ったことで恥じ入るようになるのです。」（ペテロ 1 3 : 16）

それでは、本文に戻りましょう。エペソ6章16節に四つ目の武具が見つかります。信仰の大盾です。

「なおその上に、信仰を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことができるのです。」（エペソ6 : 16）サタンは、私達を神様から引き離そうをしています。神様の愛を疑わせようとします。「神様はあなたを本当に愛していたら、こんなにひどい目にあわせないだろう」とか「神様はあなたの事を忘れたんだよ。もう神様に仕えるのをやめた方がいい」とか、色々なうそをつきますが、私達の信仰がしっかりしていたらそういう思いがあっても、心の中で燃えるようになりません。質のいい盾に当たる火矢のように消えてしまいます。当時のローマ兵の大盾は長方形でした。高さは1メートル以上で幅はその半分でした。木で作られていて表面に固い皮が張ってありました。盾につなぎがあったのでほかの盾とつなぎ合わせる事ができました。そうすると、兵士がみんな一緒に進む事が出来ました。私達も互いの信仰を強めます。教会が一致していたら一緒にサタンに対して進む事が出来ます。

では、次の武具は何でしょうか。17節を御覧ください。「また、救いを兜としてかぶり、霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」（17）救いのかぶとという神の武具は、実は先程読ませていただいたイザヤ59章17節にもなっています。「主は恵みの御業を鎧としてまとい／救いを兜としてかぶり、報復を衣としてまとい／熱情を上着として身を包まれた。」（イザヤ59 : 17）神様は救われる必要がないので、神様の場合は救われる事でなく、人を救うことを意味します。パウロの場合は多分、ちょっと違う意味で言っているのではないかと思います。つまり私達は救わ

心のマッサージ

ユダヤ笑話集 社会思想社三浦鞠郎著

自慢

ユダヤ社会では、肉の料理を食べた後、6時間以内にミルクの入った料理を食べてはいけない、という決まりがある。三人のユダヤ人がある時、どれほど自分達が信心深いかを自慢しあった。第一の男「うちにはかまどが二つあるんだ。一つは肉料理のために。もう一つはミルク料理のためにね。」第二の男「うちはもっと信心深いから、肉の料理をする女中とミルクの料理をする女中の2人がいるんだ。」第三の男「うちこそ、一番敬謙な家庭だと思うよ。何しろ「肉」という言葉を口にしたら、6時間たった後でなければ「ミルク」という言葉を口にしないのだからね。」

身代わり

詩人フランケルは、詩作だけでは食べていけないので、ある文化団体の事務主任をしていた。ある時、事務員が一人死んだ。せっちな男がいて、自分をその代わりにと、さっそく頼みに来た。その時は埋葬もまだすんでいなかった。「お安い御用だがね」とフランケルは約束した。「だが、君のような大きな男を、果して私だけで棺の中に入れられるかどうか。」

地磁気の変化

大洪水と直接の関連がないように見えますが、今回は神が天地を創造された時の地球と現在の地球が異なっ

れたのでサタンに攻められても、死に至るような負傷が決して与えられません。この兜を被らないでサタンと戦おうとするのは愚かな事です。使徒の働き19章13節から17節までお読みください。このスケワの息子たちは、自分が救われていないのにほかの人をサタンの力から救おうとしていました。しかしそれは無理でした。自分をさえ救う事が出来ませんでした。私達はイエス様によって救われたという確信をもっていたらほかの人を助ける事が可能となります。神様の子供としての権威をもって大胆にサタンと戦う事ができます。

そして、最後の武具は本文の17節に書いてあります。「霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」

（17b）。先週、陳先生はこの御霊の与え剣である御言葉についてメッセージをされました。私達はイエス様のように御言葉を使ってサタンに対して戦う事ができたらいいですね。私たちも御言葉を心に留めていたらサタンの誘惑に対抗できます。詩篇119篇11節に「あなたに罪を犯さない為、私はあなたのことばを心にたくわえました。」と書いてあります。私たちは御言葉を覚えて適用出来れば出来る程、よりよいキリストの兵士になります。「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましい？と霊、間接と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心の色々な考えやばかりごとを判別することができます。」（ヘブル4 : 12）

今、戦争中です。私達の敵サタンは神様の子供達を憎んで、私達を滅ぼそうとしています。戦備が出来ていますか。神の武具、つまり真理の帯、正義の胸当て、平和の福音の備え、信仰の大盾、救いのかぶと、御霊の剣である御言葉、全部身に着けていますか。身に着けて大胆に戦いましょう。

お祈りしましょう。

「神様はどうして毒蛇や毒グモなんか造られたのだろう」と、考えたことはありませんか。実は私も、これだけはどうしても理解できませんでした。しかし、創世記1章節で「神はお造りになった全てのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった」と書かれていることは間違いではありませんでした。神は、人間に全てのものを支配させようとして創造されました。その中には人間に害を及ぼすようなものはなかったはずで、ということ、やはり毒蛇や毒グモは、その後何かから進化して来たのではないか、と思われるかもしれません。やはり進化説が正しかったのだと。しかし、そうではありません。今、毒を持っている蛇やクモも、最初に神が創造された時には毒を持っていなかったのです。だから、全てのものは神の目に極めて良かったのです。では、なぜ今、毒蛇や毒グモが居るのでしょうか。

以前、生命の誕生の所でお話しましたが、動物の体はタンパク質できていて、タンパク質はアミノ酸の連鎖によってできています。実は蛇やクモの毒も、このタンパク質の一種なのです。そしてタンパク質のアミノ酸の連鎖に磁気が強い影響を及ぼすことが分かっています。私はウイクリフ聖書翻訳協会に奉仕していますが、毒蛇や毒グモのいる地域で奉仕するウイクリフの宣教師達は、ザッパーという簡易発電機を持って行きます。ザッパーは、電流は極めて微弱ですが、2万ボルトほどの高電圧を発生します。これを毒の入った傷口周辺に当てて電気を起こすと、多少ショックがありますが人体には影響なく、毒であるタンパク質のアミノ酸の連鎖は、この高電圧によって破壊され、毒が毒でなくなる、つまり解毒されるのです。ザッパーのお陰で毒蛇にかまれた人が、助かったという例が何件もあります。

これに関して、ある時、「地球の磁気は1400年毎に半減しているということですが」と、京都大学の地磁気研究所に問い合わせたところ、研究者の方から回答を頂きました。それによると、過去400年のデータを見ると、このまま推移すれば1000年以内に地球には磁気がなくなる可能性があるとのことでした。

聖書に拠れば、ノアの洪水は約4500年前に起こりました。そこで、この地磁気に関する情報を適用すれば、ノアの洪水当時の地磁気の強度は現在の約10倍です。この磁気強度では、現在クモなどの毒として存在するアミノ酸は、連鎖を形成しないということです。

つまり、洪水以前には毒を持った蛇やクモはいなかったのです。最初に述べたとおり、神がこれらの生き物を創造された時、それらは良かったのです。

ファイアーアントがどんどん北上して来ていると言います。以前はいなかった所まで来ていて、噛まれて被害に会う人が出ています。渡り鳥が渡る途中で方向を失って死んでしまったという話を聞くこともあります。なぜそのようなことが起こるのでしょうか。それは地磁気が弱くなっているからです。地磁気が弱くなっているためファイアーアントが活動できる範囲が広がっているのです。また渡り鳥の体内磁石が方向を探知できなくなっているのです。

私達の罪によって、人間社会が崩壊しつつあると同様に、大気や海洋汚染だけでなく、このような形で地球も物理的に崩壊しつつあります。黙示録は、これらの事はやがて起こるべきことだと言うことを私達に教えてくれています。イエス・キリストを信じる人々の上にも、このような苦難は襲います。しかし、キリストを信じる人には、そのような苦難の後に与えられる勝利と平安が約束されています。ハレルヤ!

片山進悟

「第一の天使がラッパを吹いた。すると血の混じった雹と火とが生じ、地上に投げ入れられた。地上の三分の一が焼け、木々の三分の一が焼け、すべての青草も焼けてしまった。第二の天使がラッパを吹いた。すると、火で燃えている大きな山のようなものが、海に投げ入れられた。海の三分の一が血に変わり、また被造物で海に住む生き物の三分の一は死に、船という船の三分の一が壊された。第三の天使がラッパを吹いた。すると、松明のように燃えている大きな星が、天から落ちて来て、川という川の三分の一と、その水源の上に落ちた。この星の名は「苦よもぎ」といい水の三分の一が苦よもぎのように苦くなって、そのために多くの人が死んだ。第四の天使がラッパを吹いた。すると太陽の三分の一、月の三分の一、星という星の三分の一が損なわれたので、それぞれ三分の一が暗くなって、昼はその光の三分の一を失い、夜も同じようになった。」(黙示録8章7節～12節)

お知らせ

毎月第2と第4火曜日9時半から、A240号室でエクレシアの会という、肩のこらない形での聖書の学びと楽しい交わりの集まりをしています。どなたでもお気軽にどうぞ。お問い合わせは片山姉704-843-8038まで。

日曜日午前9時半からA231号室で高見憲次兄による成人のための日曜学校、11時からR109号室でラブストランド牧師による礼拝、また月曜日午後7時からA238号室でラブストランド牧師による聖書の学が行われています。世界のベストセラー、聖書をご一緒に学びましょう。

今年もクリスマスにはJillybeanが来て、腹話術、奇術などの楽しいパフォーマンスを披露してくれます（英語です）。12月6日、土曜日午後4時半からをぜひ空けて置いて下さい。どうぞお友達もお誘い下さい。

「いのちの泉」は、シャーロット在住の日本人のコミュニケーションのための月刊紙を目指しています。皆さんも、どうぞ奮ってご参加下さい。お互いの向上に役立てるための趣旨に賛同して下さる内容であれば何でも結構です。Carmel Baptist ChurchのJapanese Ministry宛、または charlottejpn@hotmail.com にお願ひします。

編集者の一時帰国のため、11月は休刊させて頂きます。どうぞ12月号をお楽しみに。

カーメル・バプテスト教会
1145 Pineville-Matthews Rd.
Matthews, NC 28105
<http://ifc26.tripod.com>

モルモン教、エホバの証人（ものみの塔）、
統一教会とは関係のない、正統的なキリスト
教会です。安心して気軽においで下さい。

日本人ミニストリー連絡先：
李牧師（704-847-8575）
ラブストランド牧師（704-849-8851）
片山（704-843-6298）

いのちの泉

カーメルバプテスト教会
日本人ミニストリー月報
2003年10号

街路樹が少しずつ色づいて来ました。一本の木の葉が緑から黄色、オレンジ色と変化のある様は、ため息が出るほど美しく、これからの朝歩きが楽しくなりました。これから暫くの間は、自然の織りなす微妙な美しさを随所に楽しむことでしょう。

皆様にはお変わりなくお過ごしでいらっしゃいますか。今月は16日に日本から岸義紘先生をお迎えし、サクソフォンのコンサートと、先生のお証しを伺うチャンスに恵まれました。集会には、日本人だけでなく、中国人、韓国人、アメリカ人と、多勢の方が集まって下さり、岸先生が心を込めて演奏されるサクソフォンの音色が染み透った心で、先生のユーモラスなお証しを聞くことができ、感謝でした。

実を申しますと、私はここ一ヶ月余り、祈ることも、聖書を手取ることもできず、毎月ハーベストタイムミニストリーが送ってくれるテープを観ることもできずに過ごして来たのですが、四、五日前、ハーベストタイムのテープを意を決して観ることになりました。(意を決して、という言葉はこの時の私にとって、決して大げさな言葉ではありません。) 9月号のそのテープには、中川健一先生が最近出版された「日本人に送る聖書ものがたり」という本の製作に携わられた、編集者と挿絵画家へのインタビューが入っていました。その二人が語られる言葉と、真の謙虚な姿に私は引きつけられるように、TVの画面に見入りました。三日間続けて観ることによって、私は自分の心の中の問題点を見つけることができました。といいますのも、私は最近、ノンクリスチャンの友人達と話す時に、「私の信仰なんてこの程度…」という言葉、何度か口にしておりました(そのつど心の中に何かを感じながら)。信仰を持つことは、自分で決めることかもしれませんが、(それでさえも、主に選ばれたことであるのですが)信仰を深めることは、勿論、聖書を学ぶこともあるでしょうが、聖霊の働きによるもの、主に引き上げられてあるものではないかと思いました。それなのに「私の信仰なんてこの程度…」とは、主に対してなんと不遜な言葉を吐いたものでしょう。ほんとうに謙虚な人に出会う時、人間は自分の傲慢さに気づくのでしょうか。祈りの中で、自分の愚かさを、傲慢さを、主に詫言いました。針の穴ほどの小さな小さな私にまで、目をそそいで下さり、諭して下さる主に、心から感謝しました。ハレルヤ!

(中藤百々代)



戦争中の私達 エペソ6章10節から20節

ジョエル・ラブストランド牧師

私は、かつて日本のテレビ番組を見て六十年代と七十年代の歌謡曲を聞きました。その中の一曲は、戦争の知らない新世代についての歌詞がありました。確かに、平和の時代に生きる事は大きな恵みですが、聖歌300番を見たら違うような歌詞が書いてあるのに気がつきます。そこに「進め主イエスの兵士らよ」という歌詞が入っています。その歌は、クリスチャン生活を戦争に喩えている訳です。あるアメリカの教会は、その歌詞が今の平和の時代に相応しくないから讚美歌集から除きました。しかしどうでしょうか。使徒パウロはよく軍隊に関する表現を使います。こんなに荒々しい表現を使う必要が本当にあるかと思われるかもしれませんが、戦争についての英語の言葉があります。

「War is hell」、訳すと「戦争は地獄だ」ということです。戦争は本当に怖くて苦しめるものです。しかし、私達の霊的な戦いは戦争と同じように敵がいて、その敵と戦う備えをしなければ、攻められる時戦おうとしても対抗できません。

ベトナム戦争の後でアメリカの軍隊が徴兵制度から志願制度に変わりました。冷戦がまだ続いていたので、時々週刊誌等に米軍の戦備はどうかという課題がのっていました。ロシアに攻められたら対抗できるでしょ

うか。自分の軍隊が強かったら敵に攻められないだろうし、攻められても勝つ事が出来るという風に考えられていました。

私達も戦備が必要です。霊的戦備が必要です。しかし私達の場合は、戦いを防ぐ為ではありません。クリスチャンなら必ずサタンに狙われます。戦わずをえないのです。イエスを信じたら、サタンの敵となります。キリストの兵士となりますから、アダムとエバが罪を犯した時、この世はサタンに支配されるようになりました。誘惑した蛇と人間が、神様に呪われてしまいました。しかし、神様は人間を見捨てはなさいませんでした。呪いと一緒に救い主の約束が加えられました。主なる神は、蛇に向かって言われた。「このようなことをしたお前は、あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で、呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に、わたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き、お前は彼のかかとを砕く。」(創世記3:14、15)

キリストが現れた時、神様のものをサタンの支配から取り返す事が始まりました。イエス様が罪を赦したり、悪霊を追い出したりしておられました。ヨハネの

福音書 12 章 3 1 節にこう言われます。「今こそ、この世が裁かれる時。今、この世の支配者が追放される。」（ヨハネ 12 : 3 1）罪人がイエスを信じたら、サタンの支配から神様の支配に移されます。こういうふうに神様の御国が広がります。イエス様を信じたら、神様と平和を持つ事になりながらサタンの敵になります。十字架の上でイエス様は人間をサタンの力から贖われました。イエス様は確かな勝利を得られましたが、御国は地上でまだ安全な形になっていません。サタンは、まだ暫くこの世の支配者です。第一コリント人への手紙にこういうふうに表現されています。「次いで、世の終わりが来ます。そのとき、キリストはすべての支配、すべての権威や勢力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます。」（コリント 1 15 : 2 4）

靈的には私達は今戦争中です。戦備はできていますか。今朝の聖書箇所は私達のサタンに対する戦いに何が必要かを教えています。ここに神の武具と呼ばれています。

では、この靈的な戦いにどんな武具が必要かを考える前に 1 2 節に注目してください。「わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。」（1 2）多くの場合、私たちは外面的な問題に注意を払いますが、靈的な事を忘れてしまいます。夫婦げんかをする時や自分を傷つけた人に対してうらみをもつ時、あるいはキリストチャンとして迫害される時、その人間の相手に対する戦いだと思い込んでしまいます。教会の中でも人間関係の問題にぶつかると、「あの人が悪い」と思って、サタンの策略に気がつかない事が多いと思います。しかし、1 2 節によると、「私達の格闘は・・・」私達の格闘はサタンと悪霊どもに対するものです。サタンは色々な状況の中で私達の弱い所を狙って誘惑します。それで 1 3 節に書いてあるように神の武具が役に立ちます。

では神の武具というのは何でしょうか。1 4 節から 1 7 節まで色々なものが述べられています。最初に 1 4 節に真理の帯という武具があります。パウロはこういう武具をリストアップした時、おそらくローマ兵と鎖につながっていました。その兵士の武具を見たら旧約聖書の御言葉を思い出すでしょう。実は、この真理の帯という文句はイザヤ書 1 1 章 5 節に書かれた文句とほとんど同じです。イザヤ書の場合は、正義の帯と真実の帯という言葉はその人の性質を表す表現です。エペソ人への手紙の場合も自分の性質を表す言葉でしょう。しかし、この真理は自分の知識によるものではありません。神様の絶対的な真理です。

この真理の帯を身につけるのに聖書を勉強する必要があります。しかし、真理の帯を身につける事は、真理を知る事だけでなく、**真理を??** と真理によって生きる事も含まれていると思います。

次の武具は、1 4 節の終わりに書いてある正義の胸当てです。これはイザヤ 5 9 章 1 7 節からの引用です。その箇所には、神様は御自分の正義によって裁きと救

いをもたらしました。私達はイエス様を信じたらそのいけにえのゆえに、イエス様の義を与えられました。神様に義と認められます。しかし、この手紙はキリストチャンに対して書かれた物なので、この正義は与えられた絶対的な義だけではないと思います。日常生活の中での義による生き方も大切だと教えられています。神様に義と認めて頂いたら日常生活はどうでもいいと思う事は大きな間違いです。そう思っていたら、悪魔に左右されやすくなります。

三つ目の武具は平和の福音の備えです。これは兵士の靴です。「どうして戦争中の私たちに平和の福音の備えが必要なのだろう」と思われるかも知れません。キリストチャンになる時、サタンと戦うようになるとしたら、どういう意味で「平和の福音」と呼ばれているのでしょうか。外面的に平和がないかも知れません。マタイによる福音書 10 節 3 4 - 3 5 節にイエス様は言われました。「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思ってはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。わたしは敵対させるために来たからである。人をその父に、／娘を母に、／嫁をしゅうとめに。」（マタイ 10 : 3 4 - 3 5）サタンの敵となったらサタンの支配にある人々にぶつかってしまう事がよくあります。しかし、心の中で平安があります。ローマ書 5 章 1 節に「このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、（ローマ 5 : 1）」と書いてあります。この平和の福音を伝える特権が私達に与えられました。第二コリント 5 章 1 8 - 1 9 節を御覧ください。「これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。」（コリント 2 5 : 1 8 - 1 9）パウロと同じ様に、私達はこの平和の福音を伝える事が出来ます。そうするとイザヤ書 5 2 章 7 節の御言葉は私達に当て嵌まります。「いかに美しいことか／山々を歩き巡り、良い知らせを伝える者の足は。彼は平和を告げ、恵みの良い知らせを伝え／救いを告げ／あなたの神は王となられた、と／シオンに向かって呼ばれる。」（イザヤ 5 2 : 7）福音を伝える用意をしようではありませんか。これは本当に素晴らしい特権です。第一ペテロ 3 章 1 5 節を御覧ください。「心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。」（ペテロ 1 3 : 1 5）正しい態度をもって弁明する事は難しいですね。続けて 1 6 節をお読みします。「それも、穏やかに、敬意をもって、正しい良心で、弁明するようにしなさい。そうすれば、キリストに結ばれたあなたがたの善い生活をののしる者たちは、悪

口を言ったことで恥じ入るようになるのです。」（ペテロ 1 3 : 16）

それでは、本文に戻りましょう。エペソ6章16節に四つ目の武具が見つかります。信仰の大盾です。

「なおその上に、信仰を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことができるのです。」（エペソ6 : 16）サタンは、私達を神様から引き離そうをしています。神様の愛を疑わせようとします。「神様はあなたを本当に愛していたら、こんなにひどい目にあわせないだろう」とか「神様はあなたの事を忘れたんだよ。もう神様に仕えるのをやめた方がいい」とか、色々なうそをつきますが、私達の信仰がしっかりしていたらそういう思いがあっても、心の中で燃えるようになりません。質のいい盾に当たる火矢のように消えてしまいます。当時のローマ兵の大盾は長方形でした。高さは1メートル以上で幅はその半分でした。木で作られていて表面に固い皮が張ってありました。盾につなぎがあったのでほかの盾とつなぎ合わせる事ができました。そうすると、兵士がみんな一緒に進む事が出来ました。私達も互いの信仰を強めます。教会が一致していたら一緒にサタンに対して進む事が出来ます。

では、次の武具は何でしょうか。17節を御覧ください。「また、救いを兜としてかぶり、霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」（17）救いのかぶとという神の武具は、実は先程読ませていただいたイザヤ59章17節にもなっています。「主は恵みの御業を鎧としてまとい／救いを兜としてかぶり、報復を衣としてまとい／熱情を上着として身を包まれた。」（イザヤ59 : 17）神様は救われる必要がないので、神様の場合は救われる事でなく、人を救うことを意味します。パウロの場合は多分、ちょっと違う意味で言っているのではないかと思います。つまり私達は救わ

心のマッサージ

ユダヤ笑話集 社会思想社三浦鞠郎著

自慢

ユダヤ社会では、肉の料理を食べた後、6時間以内にミルクの入った料理を食べてはいけない、という決まりがある。三人のユダヤ人がある時、どれほど自分達が信心深いかを自慢しあった。第一の男「うちにはかまどが二つあるんだ。一つは肉料理のために。もう一つはミルク料理のためにね。」第二の男「うちはもっと信心深いから、肉の料理をする女中とミルクの料理をする女中の2人がいるんだ。」第三の男「うちこそ、一番敬謙な家庭だと思うよ。何しろ「肉」という言葉を口にしたら、6時間たった後でなければ「ミルク」という言葉を口にしないのだからね。」

身代わり

詩人フランケルは、詩作だけでは食べていけないので、ある文化団体の事務主任をしていた。ある時、事務員が一人死んだ。せっちな男がいて、自分をその代わりにと、さっそく頼みに来た。その時は埋葬もまだすんでいなかった。「お安い御用だがね」とフランケルは約束した。「だが、君のような大きな男を、果して私だけで棺の中に入れられるかどうか。」

地磁気の変化

大洪水と直接の関連がないように見えますが、今回は神が天地を創造された時の地球と現在の地球が異なっ

れたのでサタンに攻められても、死に至るような負傷が決して与えられません。この兜を被らないでサタンと戦おうとするのは愚かな事です。使徒の働き19章13節から17節までお読みください。このスケワの息子たちは、自分が救われていないのにほかの人をサタンの力から救おうとしていました。しかしそれは無理でした。自分をさえ救う事が出来ませんでした。私達はイエス様によって救われたという確信をもっていたらほかの人を助ける事が可能となります。神様の子供としての権威をもって大胆にサタンと戦う事ができます。

そして、最後の武具は本文の17節に書いてあります。「霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」

（17b）。先週、陳先生はこの御霊の与え剣である御言葉についてメッセージをされました。私達はイエス様のように御言葉を使ってサタンに対して戦う事ができたらいいですね。私たちも御言葉を心に留めていたらサタンの誘惑に対抗できます。詩篇119篇11節に「あなたに罪を犯さない為、私はあなたのことばを心にたくわえました。」と書いてあります。私たちは御言葉を覚えて適用出来れば出来る程、よりよいキリストの兵士になります。「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましい？と霊、間接と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心の色々な考えやばかりごとを判別することができます。」（ヘブル4 : 12）

今、戦争中です。私達の敵サタンは神様の子供達を憎んで、私達を滅ぼそうとしています。戦備が出来ていますか。神の武具、つまり真理の帯、正義の胸当て、平和の福音の備え、信仰の大盾、救いのかぶと、御霊の剣である御言葉、全部身に着けていますか。身に着けて大胆に戦いましょう。

お祈りしましょう。

「神様はどうして毒蛇や毒グモなんか造られたのだろう」と、考えたことはありませんか。実は私も、これだけはどうしても理解できませんでした。しかし、創世記1章節で「神はお造りになった全てのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった」と書かれていることは間違いではありませんでした。神は、人間に全てのものを支配させようとして創造されました。その中には人間に害を及ぼすようなものはなかったはずで、ということ、やはり毒蛇や毒グモは、その後何かから進化して来たのではないか、と思われるかもしれません。やはり進化説が正しかったのだと。しかし、そうではありません。今、毒を持っている蛇やクモも、最初に神が創造された時には毒を持っていなかったのです。だから、全てのものは神の目に極めて良かったのです。では、なぜ今、毒蛇や毒グモが居るのでしょうか。

以前、生命の誕生の所でお話しましたが、動物の体はタンパク質できていて、タンパク質はアミノ酸の連鎖によってできています。実は蛇やクモの毒も、このタンパク質の一種なのです。そしてタンパク質のアミノ酸の連鎖に磁気が強い影響を及ぼすことが分かっています。私はウイクリフ聖書翻訳協会に奉仕していますが、毒蛇や毒グモのいる地域で奉仕するウイクリフの宣教師達は、ザッパーという簡易発電機を持って行きます。ザッパーは、電流は極めて微弱ですが、2万ボルトほどの高電圧を発生します。これを毒の入った傷口周辺に当てて電気を起こすと、多少ショックがありますが人体には影響なく、毒であるタンパク質のアミノ酸の連鎖は、この高電圧によって破壊され、毒が毒でなくなる、つまり解毒されるのです。ザッパーのお陰で毒蛇にかまれた人が、助かったという例が何件もあります。

これに関して、ある時、「地球の磁気は1400年毎に半減しているということですが」と、京都大学の地磁気研究所に問い合わせたところ、研究者の方から回答を頂きました。それによると、過去400年のデータを見ると、このまま推移すれば1000年以内に地球には磁気がなくなる可能性があるとのことでした。

聖書に拠れば、ノアの洪水は約4500年前に起こりました。そこで、この地磁気に関する情報を適用すれば、ノアの洪水当時の地磁気の強度は現在の約10倍です。この磁気強度では、現在クモなどの毒として存在するアミノ酸は、連鎖を形成しないということです。

つまり、洪水以前には毒を持った蛇やクモはいなかったのです。最初に述べたとおり、神がこれらの生き物を創造された時、それらは良かったのです。

ファイアーアントがどんどん北上して来ていると言います。以前はいなかった所まで来ていて、噛まれて被害に会う人が出ています。渡り鳥が渡る途中で方向を失って死んでしまったという話を聞くこともあります。なぜそのようなことが起こるのでしょうか。それは地磁気が弱くなっているからです。地磁気が弱くなっているためファイアーアントが活動できる範囲が広がっているのです。また渡り鳥の体内磁石が方向を探知できなくなっているのです。

私達の罪によって、人間社会が崩壊しつつあると同様に、大気や海洋汚染だけでなく、このような形で地球も物理的に崩壊しつつあります。黙示録は、これらの事はやがて起こるべきことだと言うことを私達に教えてくれています。イエス・キリストを信じる人々の上にも、このような苦難は襲います。しかし、キリストを信じる人には、そのような苦難の後に与えられる勝利と平安が約束されています。ハレルヤ!

片山進悟

「第一の天使がラッパを吹いた。すると血の混じった雹と火とが生じ、地上に投げ入れられた。地上の三分の一が焼け、木々の三分の一が焼け、すべての青草も焼けてしまった。第二の天使がラッパを吹いた。すると、火で燃えている大きな山のようなものが、海に投げ入れられた。海の三分の一が血に変わり、また被造物で海に住む生き物の三分の一は死に、船という船の三分の一が壊された。第三の天使がラッパを吹いた。すると、松明のように燃えている大きな星が、天から落ちて来て、川という川の三分の一と、その水源の上に落ちた。この星の名は「苦よもぎ」といい水の三分の一が苦よもぎのように苦くなって、そのために多くの人が死んだ。第四の天使がラッパを吹いた。すると太陽の三分の一、月の三分の一、星という星の三分の一が損なわれたので、それぞれ三分の一が暗くなって、昼はその光の三分の一を失い、夜も同じようになった。」（黙示録8章7節～12節）

お知らせ

毎月第2と第4火曜日9時半から、A240号室でエクレシアの会という、肩のこらない形での聖書の学びと楽しい交わりの集まりをしています。どなたでもお気軽にどうぞ。お問い合わせは片山姉704-843-8038まで。

日曜日午前9時半からA231号室で高見憲次兄による成人のための日曜学校、11時からR109号室でラブストランド牧師による礼拝、また月曜日午後7時からA238号室でラブストランド牧師による聖書の学が行われています。世界のベストセラー、聖書をご一緒に学びましょう。

今年もクリスマスにはJillybeanが来て、腹話術、奇術などの楽しいパフォーマンスを披露してくれます（英語です）。12月6日、土曜日午後4時半からをぜひ空けて置いて下さい。どうぞお友達もお誘い下さい。

「いのちの泉」は、シャーロット在住の日本人のコミュニケーションのための月刊紙を目指しています。皆さんも、どうぞ奮ってご参加下さい。お互いの向上に役立てるための趣旨に賛同して下さる内容であれば何でも結構です。Carmel Baptist ChurchのJapanese Ministry宛、または charlottejpn@hotmail.com にお願ひします。

編集者の一時帰国のため、11月は休刊させて頂きます。どうぞ12月号をお楽しみに。

カーメル・バプテスト教会
1145 Pineville-Matthews Rd.
Matthews, NC 28105
<http://ifc26.tripod.com>

モルモン教、エホバの証人（ものみの塔）、
統一教会とは関係のない、正統的なキリスト
教会です。安心して気軽においで下さい。

日本人ミニストリー連絡先：
李牧師（704-847-8575）
ラブストランド牧師（704-849-8851）
片山（704-843-6298）

いのちの泉

カーメルバプテスト教会
日本人ミニストリー月報
2003年10号

街路樹が少しずつ色づいて来ました。一本の木の葉が緑から黄色、オレンジ色と変化のある様は、ため息が出るほど美しく、これからの朝歩きが楽しくなりました。これから暫くの間は、自然の織りなす微妙な美しさを随所に楽しむことでしょう。

皆様にはお変わりなくお過ごしでいらっしゃいますか。今月は16日に日本から岸義紘先生をお迎えし、サクソフンのコンサートと、先生のお証しを伺うチャンスに恵まれました。集会には、日本人だけでなく、中国人、韓国人、アメリカ人と、多勢の方が集まって下さり、岸先生が心を込めて演奏されるサクソフンの音色が染み透った心で、先生のユーモラスなお証しを聞くことができ、感謝でした。

実を申しますと、私はここ一ヶ月余り、祈ることも、聖書を手取ることもできず、毎月ハーベストタイムミニストリーが送ってくれるテープを観ることもできずに過ごして来たのですが、四、五日前、ハーベストタイムのテープを意を決して観ることになりました。(意を決して、という言葉はこの時の私にとって、決して大げさな言葉ではありません。) 9月号のそのテープには、中川健一先生が最近出版された「日本人に送る聖書ものがたり」という本の製作に携わられた、編集者と挿絵画家へのインタビューが入っていました。その二人が語られる言葉と、真の謙虚な姿に私は引きつけられるように、TVの画面に見入りました。三日間続けて観ることによって、私は自分の心の中の問題点を見つけることができました。といいますのも、私は最近、ノンクリスチャンの友人達と話す時に、「私の信仰なんてこの程度…」という言葉、何度か口にしておりました(そのつど心の中に何かを感じながら)。信仰を持つことは、自分で決めることかもしれませんが、(それでさえも、主に選ばれたことであるのですが)信仰を深めることは、勿論、聖書を学ぶこともあるでしょうが、聖霊の働きによるもの、主に引き上げられてあるものではないかと思いました。それなのに「私の信仰なんてこの程度…」とは、主に対してなんと不遜な言葉を吐いたものでしょう。ほんとうに謙虚な人に出会う時、人間は自分の傲慢さに気づくのでしょうか。祈りの中で、自分の愚かさを、傲慢さを、主に詫言いました。針の穴ほどの小さな小さな私にまで、目をそそいで下さり、諭して下さる主に、心から感謝しました。ハレルヤ!

(中藤百々代)



戦争中の私達 エペソ6章10節から20節

ジョエル・ラブストランド牧師

私は、かつて日本のテレビ番組を見て六十年代と七十年代の歌謡曲を聞きました。その中の一曲は、戦争の知らない新世代についての歌詞がありました。確かに、平和の時代に生きる事は大きな恵みですが、聖歌300番を見たら違うような歌詞が書いてあるのに気がつきます。そこに「進め主イエスの兵士らよ」という歌詞が入っています。その歌は、クリスチャン生活を戦争に喩えている訳です。あるアメリカの教会は、その歌詞が今の平和の時代に相応しくないから讚美歌集から除きました。しかしどうでしょうか。使徒パウロはよく軍隊に関する表現を使います。こんなに荒々しい表現を使う必要が本当にあるかと思われるかもしれませんが、戦争についての英語の言葉があります。

「War is hell」、訳すと「戦争は地獄だ」ということです。戦争は本当に怖くて苦しめるものです。しかし、私達の霊的な戦いは戦争と同じように敵がいて、その敵と戦う備えをしなければ、攻められる時戦おうとしても対抗できません。

ベトナム戦争の後でアメリカの軍隊が徴兵制度から志願制度に変わりました。冷戦がまだ続いていたので、時々週刊誌等に米軍の戦備はどうかという課題がのっていました。ロシアに攻められたら対抗できるでしょ

うか。自分の軍隊が強かったら敵に攻められないだろうし、攻められても勝つ事が出来るという風に考えられていました。

私達も戦備が必要です。霊的戦備が必要です。しかし私達の場合は、戦いを防ぐ為ではありません。クリスチャンなら必ずサタンに狙われます。戦わずをえないのです。イエスを信じたら、サタンの敵となります。キリストの兵士となりますから、アダムとエバが罪を犯した時、この世はサタンに支配されるようになりました。誘惑した蛇と人間が、神様に呪われてしまいました。しかし、神様は人間を見捨てはなさいませんでした。呪いと一緒に救い主の約束が加えられました。主なる神は、蛇に向かって言われた。「このようなことをしたお前は、あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で、呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に、わたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き、お前は彼のかかとを砕く。」(創世記3:14、15)

キリストが現れた時、神様のものをサタンの支配から取り返す事が始まりました。イエス様が罪を赦したり、悪霊を追い出したりしておられました。ヨハネの

福音書 12 章 3 1 節にこう言われます。「今こそ、この世が裁かれる時。今、この世の支配者が追放される。」（ヨハネ 12 : 3 1）罪人がイエスを信じたら、サタンの支配から神様の支配に移されます。こういうふうに神様の御国が広がります。イエス様を信じたら、神様と平和を持つ事になりながらサタンの敵になります。十字架の上でイエス様は人間をサタンの力から贖われました。イエス様は確かな勝利を得られましたが、御国は地上でまだ安全な形になっていません。サタンは、まだ暫くこの世の支配者です。第一コリント人への手紙にこういうふうに表現されています。「次いで、世の終わりが来ます。そのとき、キリストはすべての支配、すべての権威や勢力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます。」（コリント 1 15 : 2 4）

靈的には私達は今戦争中です。戦備はできていますか。今朝の聖書箇所は私達のサタンに対する戦いに何が必要かを教えています。ここに神の武具と呼ばれています。

では、この靈的な戦いにどんな武具が必要かを考える前に 1 2 節に注目してください。「わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。」（1 2）多くの場合、私たちは外面的な問題に注意を払いますが、靈的な事を忘れてしまいます。夫婦げんかをする時や自分を傷つけた人に対してうらみをもつ時、あるいはキリストチャンとして迫害される時、その人間の相手に対する戦いだと思い込んでしまいます。教会の中でも人間関係の問題にぶつかると、「あの人が悪い」と思って、サタンの策略に気がつかない事が多いと思います。しかし、1 2 節によると、「私達の格闘は・・・」私達の格闘はサタンと悪霊どもに対するものです。サタンは色々な状況の中で私達の弱い所を狙って誘惑します。それで 1 3 節に書いてあるように神の武具が役に立ちます。

では神の武具というのは何でしょうか。1 4 節から 1 7 節まで色々なものが述べられています。最初に 1 4 節に真理の帯という武具があります。パウロはこういう武具をリストアップした時、おそらくローマ兵と鎖につながっていました。その兵士の武具を見たら旧約聖書の御言葉を思い出すでしょう。実は、この真理の帯という文句はイザヤ書 1 1 章 5 節に書かれた文句とほとんど同じです。イザヤ書の場合は、正義の帯と真実の帯という言葉はその人の性質を表す表現です。エペソ人への手紙の場合も自分の性質を表す言葉でしょう。しかし、この真理は自分の知識によるものではありません。神様の絶対的な真理です。

この真理の帯を身につけるのに聖書を勉強する必要があります。しかし、真理の帯を身につける事は、真理を知る事だけでなく、**真理を??** と真理によって生きる事も含まれていると思います。

次の武具は、1 4 節の終わりに書いてある正義の胸当てです。これはイザヤ 5 9 章 1 7 節からの引用です。その箇所には、神様は御自分の正義によって裁きと救

いをもたらしました。私達はイエス様を信じたらそのいけにえのゆえに、イエス様の義を与えられました。神様に義と認められます。しかし、この手紙はキリストチャンに対して書かれた物なので、この正義は与えられた絶対的な義だけではないと思います。日常生活の中での義による生き方も大切だと教えられています。神様に義と認めて頂いたら日常生活はどうでもいいと思う事は大きな間違いです。そう思っていたら、悪魔に左右されやすくなります。

三つ目の武具は平和の福音の備えです。これは兵士の靴です。「どうして戦争中の私たちに平和の福音の備えが必要なのだろう」と思われるかも知れません。キリストチャンになる時、サタンと戦うようになるとしたら、どういう意味で「平和の福音」と呼ばれているのでしょうか。外面的に平和がないかも知れません。マタイによる福音書 10 節 3 4 - 3 5 節にイエス様は言われました。「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思ってはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。わたしは敵対させるために来たからである。人をその父に、／娘を母に、／嫁をしゅうとめに。」（マタイ 10 : 3 4 - 3 5）サタンの敵となったらサタンの支配にある人々にぶつかってしまう事がよくあります。しかし、心の中で平安があります。ローマ書 5 章 1 節に「このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、（ローマ 5 : 1）」と書いてあります。この平和の福音を伝える特権が私達に与えられました。第二コリント 5 章 1 8 - 1 9 節を御覧ください。「これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。」（コリント 2 5 : 1 8 - 1 9）パウロと同じ様に、私達はこの平和の福音を伝える事が出来ます。そうするとイザヤ書 5 2 章 7 節の御言葉は私達に当て嵌まります。「いかに美しいことか／山々を歩き巡り、良い知らせを伝える者の足は。彼は平和を告げ、恵みの良い知らせを伝え／救いを告げ／あなたの神は王となられた、と／シオンに向かって呼ばれる。」（イザヤ 5 2 : 7）福音を伝える用意をしようではありませんか。これは本当に素晴らしい特権です。第一ペテロ 3 章 1 5 節を御覧ください。「心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。」（ペテロ 1 3 : 1 5）正しい態度をもって弁明する事は難しいですね。続けて 1 6 節をお読みします。「それも、穏やかに、敬意をもって、正しい良心で、弁明するようにしなさい。そうすれば、キリストに結ばれたあなたがたの善い生活をののしる者たちは、悪

口を言ったことで恥じ入るようになるのです。」（ペテロ 1 3 : 16）

それでは、本文に戻りましょう。エペソ6章16節に四つ目の武具が見つかります。信仰の大盾です。

「なおその上に、信仰を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことができるのです。」（エペソ6 : 16）サタンは、私達を神様から引き離そうをしています。神様の愛を疑わせようとします。「神様はあなたを本当に愛していたら、こんなにひどい目にあわせないだろう」とか「神様はあなたの事を忘れたんだよ。もう神様に仕えるのをやめた方がいい」とか、色々なうそをつきますが、私達の信仰がしっかりしていたらそういう思いがあっても、心の中で燃えるようになりません。質のいい盾に当たる火矢のように消えてしまいます。当時のローマ兵の大盾は長方形でした。高さは1メートル以上で幅はその半分でした。木で作られていて表面に固い皮が張ってありました。盾につなぎがあったのでほかの盾とつなぎ合わせる事ができました。そうすると、兵士がみんな一緒に進む事が出来ました。私達も互いの信仰を強めます。教会が一致していたら一緒にサタンに対して進む事が出来ます。

では、次の武具は何でしょうか。17節を御覧ください。「また、救いを兜としてかぶり、霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」（17）救いのかぶとという神の武具は、実は先程読ませていただいたイザヤ59章17節にもなっています。「主は恵みの御業を鎧としてまとい／救いを兜としてかぶり、報復を衣としてまとい／熱情を上着として身を包まれた。」（イザヤ59 : 17）神様は救われる必要がないので、神様の場合は救われる事でなく、人を救うことを意味します。パウロの場合は多分、ちょっと違う意味で言っているのではないかと思います。つまり私達は救わ

れたのでサタンに攻められても、死に至るような負傷が決して与えられません。この兜を被らないでサタンと戦おうとするのは愚かな事です。使徒の働き19章13節から17節までお読みください。このスケワの息子たちは、自分が救われていないのにほかの人をサタンの力から救おうとしていました。しかしそれは無理でした。自分をさえ救う事が出来ませんでした。私達はイエス様によって救われたという確信をもっていたらほかの人を助ける事が可能となります。神様の子供としての権威をもって大胆にサタンと戦う事ができます。

そして、最後の武具は本文の17節に書いてあります。「霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」（17b）。先週、陳先生はこの御霊の与え剣である御言葉についてメッセージをされました。私達はイエス様のように御言葉を使ってサタンに対して戦う事ができたらいいですね。私たちも御言葉を心に留めていたらサタンの誘惑に対抗できます。詩篇119篇11節に「あなたに罪を犯さない為、私はあなたのことばを心にたくわえました。」と書いてあります。私たちは御言葉を覚えて適用出来れば出来る程、よりよいキリストの兵士になります。「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましい？と霊、間接と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心の色々な考えやばかりごとを判別することができます。」（ヘブル4 : 12）

今、戦争中です。私達の敵サタンは神様の子供達を憎んで、私達を滅ぼそうとしています。戦備が出来ていますか。神の武具、つまり真理の帯、正義の胸当て、平和の福音の備え、信仰の大盾、救いのかぶと、御霊の剣である御言葉、全部身に着けていますか。身に着けて大胆に戦いましょう。

お祈りしましょう。

心のマッサージ

ユダヤ笑話集 社会思想社三浦鞠郎著

自慢

ユダヤ社会では、肉の料理を食べた後、6時間以内にミルクの入った料理を食べてはいけない、という決まりがある。三人のユダヤ人がある時、どれほど自分達が信心深いかを自慢しあった。第一の男「うちにはかまどが二つあるんだ。一つは肉料理のために。もう一つはミルク料理のためにね。」第二の男「うちはもっと信心深いから、肉の料理をする女中とミルクの料理をする女中の2人がいるんだ。」第三の男「うちこそ、一番敬謙な家庭だと思うよ。何しろ「肉」という言葉を口にしたら、6時間たった後でなければ「ミルク」という言葉を口にしないのだからね。」

身代わり

詩人フランケルは、詩作だけでは食べていけないので、ある文化団体の事務主任をしていた。ある時、事務員が一人死んだ。せっちな男がいて、自分をその代わりにと、さっそく頼みに来た。その時は埋葬もまだすんでいなかった。「お安い御用だがね」とフランケルは約束した。「だが、君のような大きな男を、果して私だけで棺の中に入れられるかどうか。」

地磁気の変化

大洪水と直接の関連がないように見えますが、今回は神が天地を創造された時の地球と現在の地球が異なっ

ているという点で関連しているので、地磁気の変化の問題について論じることにしたいと思います。

「神様はどうして毒蛇や毒グモなんか造られたのだろう」と、考えたことはありませんか。実は私も、これだけではどうしても理解できませんでした。しかし、創世記1章節で「神はお造りになった全てのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった」と書かれていることは間違いではありませんでした。神は、人間に全てのものを支配させようとして創造されました。その中には人間に害を及ぼすようなものはなかったはずで、ということ、やはり毒蛇や毒グモは、その後何かから進化して来たのではないか、と思われるかもしれません。やはり進化説が正しかったのだと。しかし、そうではありません。今、毒を持っている蛇やクモも、最初に神が創造された時には毒を持っていなかったのです。だから、全てのものは神の目に極めて良かったのです。では、なぜ今、毒蛇や毒グモが居るのでしょうか。

以前、生命の誕生の所でお話しましたが、動物の体はタンパク質できていて、タンパク質はアミノ酸の連鎖によってできています。実は蛇やクモの毒も、このタンパク質の一種なのです。そしてタンパク質のアミノ酸の連鎖に磁気が強い影響を及ぼすことが分かっています。私はウイクリフ聖書翻訳協会に奉仕していますが、毒蛇や毒グモのいる地域で奉仕するウイクリフの宣教師達は、ザッパーという簡易発電機を持って行きます。ザッパーは、電流は極めて微弱ですが、2万ボルトほどの高電圧を発生します。これを毒の入った傷口周辺に当てて電気を起こすと、多少ショックがありますが人体には影響なく、毒であるタンパク質のアミノ酸の連鎖は、この高電圧によって破壊され、毒が毒でなくなる、つまり解毒されるのです。ザッパーのお陰で毒蛇にかまれた人が、助かったという例が何件もあります。

これに関して、ある時、「地球の磁気は1400年毎に半減しているということですが」と、京都大学の地磁気研究所に問い合わせたところ、研究者の方から回答を頂きました。それによると、過去400年のデータを見ると、このまま推移すれば1000年以内に地球には磁気がなくなる可能性があるとのことでした。

聖書に拠れば、ノアの洪水は約4500年前に起こりました。そこで、この地磁気に関する情報を適用すれば、ノアの洪水当時の地磁気の強度は現在の約10倍です。この磁気強度では、現在クモなどの毒として存在するアミノ酸は、連鎖を形成しないということです。

つまり、洪水以前には毒を持った蛇やクモはいなかったのです。最初に述べたとおり、神がこれらの生き物を創造された時、それらは良かったのです。

ファイアーアントがどんどん北上して来ていると言います。以前はいなかった所まで来ていて、噛まれて被害に会う人が出ています。渡り鳥が渡る途中で方向を失って死んでしまったという話を聞くこともあります。なぜそのようなことが起こるのでしょうか。それは地磁気が弱くなっているからです。地磁気が弱くなっているためファイアーアントが活動できる範囲が広がっているのです。また渡り鳥の体内磁石が方向を探知できなくなっているのです。

私達の罪によって、人間社会が崩壊しつつあると同様に、大気や海洋汚染だけでなく、このような形で地球も物理的に崩壊しつつあります。黙示録は、これらの事はやがて起こるべきことだと言うことを私達に教えてくれています。イエス・キリストを信じる人々の上にも、このような苦難は襲います。しかし、キリストを信じる人には、そのような苦難の後に与えられる勝利と平安が約束されています。ハレルヤ!

片山進悟

「第一の天使がラッパを吹いた。すると血の混じった雹と火とが生じ、地上に投げ入れられた。地上の三分の一が焼け、木々の三分の一が焼け、すべての青草も焼けてしまった。第二の天使がラッパを吹いた。すると、火で燃えている大きな山のようなものが、海に投げ入れられた。海の三分の一が血に変わり、また被造物で海に住む生き物の三分の一は死に、船という船の三分の一が壊された。第三の天使がラッパを吹いた。すると、松明のように燃えている大きな星が、天から落ちて来て、川という川の三分の一と、その水源の上に落ちた。この星の名は「苦よもぎ」といい水の三分の一が苦よもぎのように苦くなって、そのために多くの人が死んだ。第四の天使がラッパを吹いた。すると太陽の三分の一、月の三分の一、星という星の三分の一が損なわれたので、それぞれ三分の一が暗くなって、昼はその光の三分の一を失い、夜も同じようになった。」（黙示録8章7節～12節）

お知らせ

毎月第2と第4火曜日9時半から、A240号室でエクレシアの会という、肩のこらない形での聖書の学びと楽しい交わりの集まりをしています。どなたでもお気軽にどうぞ。お問い合わせは片山姉704-843-8038まで。

日曜日午前9時半からA231号室で高見憲次兄による成人のための日曜学校、11時からR109号室でラブストランド牧師による礼拝、また月曜日午後7時からA238号室でラブストランド牧師による聖書の学が行われています。世界のベストセラー、聖書をご一緒に学びましょう。

今年もクリスマスにはJillybeanが来て、腹話術、奇術などの楽しいパフォーマンスを披露してくれます（英語です）。12月6日、土曜日午後4時半からをぜひ空けて置いて下さい。どうぞお友達もお誘い下さい。

「いのちの泉」は、シャーロット在住の日本人のコミュニケーションのための月刊紙を目指しています。皆さんも、どうぞ奮ってご参加下さい。お互いの向上に役立てるための趣旨に賛同して下さる内容であれば何でも結構です。Carmel Baptist ChurchのJapanese Ministry宛、または charlottejpn@hotmail.com にお願ひします。

編集者の一時帰国のため、11月は休刊させて頂きます。どうぞ12月号をお楽しみに。

カーメル・バプテスト教会
1145 Pineville-Matthews Rd.
Matthews, NC 28105
<http://ifc26.tripod.com>

モルモン教、エホバの証人（ものみの塔）、
統一教会とは関係のない、正統的なキリスト
教会です。安心して気軽においで下さい。

日本人ミニストリー連絡先：
李牧師（704-847-8575）
ラブストランド牧師（704-849-8851）
片山（704-843-6298）

いのちの泉

カメルバプテスト教会
日本人ミニストリー月報
2003年10号

街路樹が少しずつ色づいて来ました。一本の木の葉が緑から黄色、オレンジ色と変化のある様は、ため息が出るほど美しく、これからの朝歩きが楽しくなりました。これから暫くの間は、自然の織りなす微妙な美しさを随所に楽しむことでしょう。

皆様にはお変わりなくお過ごしでいらっしゃいますか。今月は16日に日本から岸義紘先生をお迎えし、サクソフォンのコンサートと、先生のお証しを伺うチャンスに恵まれました。集会には、日本人だけでなく、中国人、韓国人、アメリカ人と、多勢の方が集まって下さり、岸先生が心を込めて演奏されるサクソフォンの音色が染み透った心で、先生のユーモラスなお証しを聞くことができ、感謝でした。

実を申しますと、私はここ一ヶ月余り、祈ることも、聖書を手取ることもできず、毎月ハーベストタイムミニストリーが送ってくれるテープを観ることもできずに過ごして来たのですが、四、五日前、ハーベストタイムのテープを意を決して観ることになりました。(意を決して、という言葉はこの時の私にとって、決して大げさな言葉ではありません。) 9月号のそのテープには、中川健一先生が最近出版された「日本人に送る聖書ものがたり」という本の製作に携わられた、編集者と挿絵画家へのインタビューが入っていました。その二人が語られる言葉と、真の謙虚な姿に私は引きつけられるように、TVの画面に見入りました。三日間続けて観ることによって、私は自分の心の中の問題点を見つけることができました。といいますのも、私は最近、ノンクリスチャンの友人達と話す時に、「私の信仰なんてこの程度…」という言葉、何度か口にしておりました(そのつど心の中に何かを感じながら)。信仰を持つことは、自分で決めることかもしれませんが、(それでさえも、主に選ばれたことであるのですが)信仰を深めることは、勿論、聖書を学ぶこともあるでしょうが、聖霊の働きによるもの、主に引き上げられてあるものではないかと思いました。それなのに「私の信仰なんてこの程度…」とは、主に対してなんと不遜な言葉を吐いたものでしょう。ほんとうに謙虚な人に出会う時、人間は自分の傲慢さに気づくのでしょうか。祈りの中で、自分の愚かさを、傲慢さを、主に詫言いました。針の穴ほどの小さな小さな私にまで、目をそそいで下さり、諭して下さる主に、心から感謝しました。ハレルヤ!

(中藤百々代)



戦争中の私達 エペソ6章10節から20節

ジョエル・ラブストランド牧師

私は、かつて日本のテレビ番組を見て六十年代と七十年代の歌謡曲を聞きました。その中の一曲は、戦争の知らない新世代についての歌詞がありました。確かに、平和の時代に生きる事は大きな恵みですが、聖歌300番を見たら違うような歌詞が書いてあるのに気がつきます。そこに「進め主イエスの兵士らよ」という歌詞が入っています。その歌は、クリスチャン生活を戦争に喩えている訳です。あるアメリカの教会は、その歌詞が今の平和の時代に相応しくないから讚美歌集から除きました。しかしどうでしょうか。使徒パウロはよく軍隊に関する表現を使います。こんなに荒々しい表現を使う必要が本当にあるかと思われるかもしれませんが、戦争についての英語の言葉があります。

「War is hell」、訳すと「戦争は地獄だ」ということです。戦争は本当に怖くて苦しめるものです。しかし、私達の霊的な戦いは戦争と同じように敵がいて、その敵と戦う備えをしなければ、攻められる時戦おうとしても対抗できません。

ベトナム戦争の後でアメリカの軍隊が徴兵制度から志願制度に変わりました。冷戦がまだ続いていたので、時々週刊誌等に米軍の戦備はどうかという課題がのっていました。ロシアに攻められたら対抗できるでしょ

うか。自分の軍隊が強かったら敵に攻められないだろうし、攻められても勝つ事が出来るという風に考えられていました。

私達も戦備が必要です。霊的戦備が必要です。しかし私達の場合は、戦いを防ぐ為ではありません。クリスチャンなら必ずサタンに狙われます。戦わずをえないのです。イエスを信じたら、サタンの敵となります。キリストの兵士となりますから、アダムとエバが罪を犯した時、この世はサタンに支配されるようになりました。誘惑した蛇と人間が、神様に呪われてしまいました。しかし、神様は人間を見捨てはなさいませんでした。呪いと一緒に救い主の約束が加えられました。主なる神は、蛇に向かって言われた。「このようなことをしたお前は、あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で、呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に、わたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き、お前は彼のかかとを砕く。」(創世記3:14、15)

キリストが現れた時、神様のものをサタンの支配から取り返す事が始まりました。イエス様が罪を赦したり、悪霊を追い出したりしておられました。ヨハネの

福音書 12 章 3 1 節にこう言われます。「今こそ、この世が裁かれる時。今、この世の支配者が追放される。」（ヨハネ 12 : 31）罪人がイエスを信じたら、サタンの支配から神様の支配に移されます。こういうふうに神様の御国が広がります。イエス様を信じたら、神様と平和を持つ事になりながらサタンの敵になります。十字架の上でイエス様は人間をサタンの力から贖われました。イエス様は確かな勝利を得られましたが、御国は地上でまだ安全な形になっていません。サタンは、まだ暫くこの世の支配者です。第一コリント人への手紙にこういうふうに表現されています。「次いで、世の終わりが来ます。そのとき、キリストはすべての支配、すべての権威や勢力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます。」（コリント 1 15 : 24）

靈的には私達は今戦争中です。戦備はできていますか。今朝の聖書箇所は私達のサタンに対する戦いに何が必要かを教えています。ここに神の武具と呼ばれています。

では、この靈的な戦いにどんな武具が必要かを考える前に 12 節に注目してください。「わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。」（12）多くの場合、私たちは外面的な問題に注意を払いますが、靈的な事を忘れてしまいます。夫婦げんかをする時や自分を傷つけた人に対してうらみをもつ時、あるいはキリストチャンとして迫害される時、その人間の相手に対する戦いだと思い込んでしまいます。教会の中でも人間関係の問題にぶつかると、「あの人が悪い」と思って、サタンの策略に気がつかない事が多いと思います。しかし、12 節によると、「私達の格闘は・・・」私達の格闘はサタンと悪霊どもに対するものです。サタンは色々な状況の中で私達の弱い所を狙って誘惑します。それで 13 節に書いてあるように神の武具が役に立ちます。

では神の武具というのは何でしょうか。14 節から 17 節まで色々なものが述べられています。最初に 14 節に真理の帯という武具があります。パウロはこういう武具をリストアップした時、おそらくローマ兵と鎖につながっていました。その兵士の武具を見たら旧約聖書の御言葉を思い出すでしょう。実は、この真理の帯という文句はイザヤ書 1 章 5 節に書かれた文句とほとんど同じです。イザヤ書の場合は、正義の帯と真実の帯という言葉はその人の性質を表す表現です。エペソ人への手紙の場合も自分の性質を表す言葉でしょう。しかし、この真理は自分の知識によるものではありません。神様の絶対的な真理です。

この真理の帯を身につけるのに聖書を勉強する必要があります。しかし、真理の帯を身につける事は、真理を知る事だけでなく、**真理を??** と真理によって生きる事も含まれていると思います。

次の武具は、14 節の終わりに書いてある正義の胸当てです。これはイザヤ 59 章 17 節からの引用です。その箇所には、神様は御自分の正義によって裁きと救

いをもたらしました。私達はイエス様を信じたらそのいけにえのゆえに、イエス様の義を与えられました。神様に義と認められます。しかし、この手紙はキリストチャンに対して書かれた物なので、この正義は与えられた絶対的な義だけではないと思います。日常生活の中での義による生き方も大切だと教えられています。神様に義と認めて頂いたら日常生活はどうでもいいと思う事は大きな間違いです。そう思っていたら、悪魔に左右されやすくなります。

三つ目の武具は平和の福音の備えです。これは兵士の靴です。「どうして戦争中の私たちに平和の福音の備えが必要なのだろう」と思われるかも知れません。キリストチャンになる時、サタンと戦うようになるとしたら、どういう意味で「平和の福音」と呼ばれているのでしょうか。外面的に平和がないかも知れません。マタイによる福音書 10 節 34-35 節にイエス様は言われました。「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思っはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。わたしは敵対させるために来たからである。人をその父に、／娘を母に、／嫁をしゅうとめに。」（マタイ 10 : 34-35）サタンの敵となったらサタンの支配にある人々にぶつかってしまう事がよくあります。しかし、心の中で平安があります。ローマ書 5 章 1 節に「このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、（ローマ 5 : 1）」と書いてあります。この平和の福音を伝える特権が私達に与えられました。第二コリント 5 章 18-19 節を御覧ください。「これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。」（コリント 2 5 : 18-19）パウロと同じ様に、私達はこの平和の福音を伝える事が出来ます。そうするとイザヤ書 52 章 7 節の御言葉は私達に当て嵌まります。「いかに美しいことか／山々を歩き巡り、良い知らせを伝える者の足は。彼は平和を告げ、恵みの良い知らせを伝え／救いを告げ／あなたの神は王となられた、と／シオンに向かって呼ばれる。」（イザヤ 52 : 7）福音を伝える用意をしようではありませんか。これは本当に素晴らしい特権です。第一ペテロ 3 章 15 節を御覧ください。「心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。」（ペテロ 1 3 : 15）正しい態度をもって弁明する事は難しいですね。続けて 16 節をお読みします。「それも、穏やかに、敬意をもって、正しい良心で、弁明するようにしなさい。そうすれば、キリストに結ばれたあなたがたの善い生活をののしる者たちは、悪

口を言ったことで恥じ入るようになるのです。」（ペテロ 1 3 : 16）

それでは、本文に戻りましょう。エペソ6章16節に四つ目の武具が見つかります。信仰の大盾です。

「なおその上に、信仰を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことができるのです。」（エペソ6 : 16）サタンは、私達を神様から引き離そうをしています。神様の愛を疑わせようとします。「神様はあなたを本当に愛していたら、こんなにひどい目にあわせないだろう」とか「神様はあなたの事を忘れたんだよ。もう神様に仕えるのをやめた方がいい」とか、色々なうそをつきますが、私達の信仰がしっかりしていたらそういう思いがあっても、心の中で燃えるようになりません。質のいい盾に当たる火矢のように消えてしまいます。当時のローマ兵の大盾は長方形でした。高さは1メートル以上で幅はその半分でした。木で作られていて表面に固い皮が張ってありました。盾につなぎがあったのでほかの盾とつなぎ合わせる事ができました。そうすると、兵士がみんな一緒に進む事が出来ました。私達も互いの信仰を強めます。教会が一致していたら一緒にサタンに対して進む事が出来ます。

では、次の武具は何でしょうか。17節を御覧ください。「また、救いを兜としてかぶり、霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」（17）救いのかぶとという神の武具は、実は先程読ませていただいたイザヤ59章17節にもなっています。「主は恵みの御業を鎧としてまとい／救いを兜としてかぶり、報復を衣としてまとい／熱情を上着として身を包まれた。」（イザヤ59 : 17）神様は救われる必要がないので、神様の場合は救われる事でなく、人を救うことを意味します。パウロの場合は多分、ちょっと違う意味で言っているのではないかと思います。つまり私達は救わ

心のマッサージ

ユダヤ笑話集 社会思想社三浦鞠郎著

自慢

ユダヤ社会では、肉の料理を食べた後、6時間以内にミルクの入った料理を食べてはいけない、という決まりがある。三人のユダヤ人がある時、どれほど自分達が信心深いかを自慢しあった。第一の男「うちにはかまどが二つあるんだ。一つは肉料理のために。もう一つはミルク料理のためにね。」第二の男「うちはもっと信心深いから、肉の料理をする女中とミルクの料理をする女中の2人がいるんだ。」第三の男「うちこそ、一番敬謙な家庭だと思うよ。何しろ「肉」という言葉を口にしたら、6時間たった後でなければ「ミルク」という言葉を口にしないのだからね。」

身代わり

詩人フランケルは、詩作だけでは食べていけないので、ある文化団体の事務主任をしていた。ある時、事務員が一人死んだ。せっちな男がいて、自分をその代わりにと、さっそく頼みに来た。その時は埋葬もまだすんでいなかった。「お安い御用だがね」とフランケルは約束した。「だが、君のような大きな男を、果して私だけで棺の中に入れられるかどうか。」

地磁気の変化

大洪水と直接の関連がないように見えますが、今回は神が天地を創造された時の地球と現在の地球が異なっ

れたのでサタンに攻められても、死に至るような負傷が決して与えられません。この兜を被らないでサタンと戦おうとするのは愚かな事です。使徒の働き19章13節から17節までお読みください。このスケワの息子たちは、自分が救われていないのにほかの人をサタンの力から救おうとしていました。しかしそれは無理でした。自分をさえ救う事が出来ませんでした。私達はイエス様によって救われたという確信をもっていたらほかの人を助ける事が可能となります。神様の子供としての権威をもって大胆にサタンと戦う事ができます。

そして、最後の武具は本文の17節に書いてあります。「霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」

（17b）。先週、陳先生はこの御霊の与え剣である御言葉についてメッセージをされました。私達はイエス様のように御言葉を使ってサタンに対して戦う事ができたらいいですね。私たちも御言葉を心に留めていたらサタンの誘惑に対抗できます。詩篇119篇11節に「あなたに罪を犯さない為、私はあなたのことばを心にたくわえました。」と書いてあります。私たちは御言葉を覚えて適用出来れば出来る程、よりよいキリストの兵士になります。「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましい？と霊、間接と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心の色々な考えやばかりごとを判別することができます。」（ヘブル4 : 12）

今、戦争中です。私達の敵サタンは神様の子供達を憎んで、私達を滅ぼそうとしています。戦備が出来ていますか。神の武具、つまり真理の帯、正義の胸当て、平和の福音の備え、信仰の大盾、救いのかぶと、御霊の剣である御言葉、全部身に着けていますか。身に着けて大胆に戦いましょう。

お祈りしましょう。

ているという点に関連しているので、地磁気の変化の問題について論じることにしたいと思います。

「神様はどうして毒蛇や毒グモなんか造られたのだろう」と、考えたことはありませんか。実は私も、これだけはどうしても理解できませんでした。しかし、創世記1章節で「神はお造りになった全てのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった」と書かれていることは間違いではありませんでした。神は、人間に全てのものを支配させようとして創造されました。その中には人間に害を及ぼすようなものはなかったはずで、ということ、やはり毒蛇や毒グモは、その後何かから進化して来たのではないか、と思われるかもしれません。やはり進化説が正しかったのだと。しかし、そうではありません。今、毒を持っている蛇やクモも、最初に神が創造された時には毒を持っていなかったのです。だから、全てのものは神の目に極めて良かったのです。では、なぜ今、毒蛇や毒グモが居るのでしょうか。

以前、生命の誕生の所でお話しましたが、動物の体はタンパク質できていて、タンパク質はアミノ酸の連鎖によってできています。実は蛇やクモの毒も、このタンパク質の一種なのです。そしてタンパク質のアミノ酸の連鎖に磁気が強い影響を及ぼすことが分かっています。私はウイクリフ聖書翻訳協会に奉仕していますが、毒蛇や毒グモのいる地域で奉仕するウイクリフの宣教師達は、ザッパーという簡易発電機を持って行きます。ザッパーは、電流は極めて微弱ですが、2万ボルトほどの高電圧を発生します。これを毒の入った傷口周辺に当てて電気を起こすと、多少ショックがありますが人体には影響なく、毒であるタンパク質のアミノ酸の連鎖は、この高電圧によって破壊され、毒が毒でなくなる、つまり解毒されるのです。ザッパーのお陰で毒蛇にかまれた人が、助かったという例が何件もあります。

これに関して、ある時、「地球の磁気は1400年毎に半減しているということですが」と、京都大学の地磁気研究所に問い合わせたところ、研究者の方から回答を頂きました。それによると、過去400年のデータを見ると、このまま推移すれば1000年以内に地球には磁気がなくなる可能性があるとのことでした。

聖書に拠れば、ノアの洪水は約4500年前に起こりました。そこで、この地磁気に関する情報を適用すれば、ノアの洪水当時の地磁気の強度は現在の約10倍です。この磁気強度では、現在クモなどの毒として存在するアミノ酸は、連鎖を形成しないということです。

つまり、洪水以前には毒を持った蛇やクモはいなかったのです。最初に述べたとおり、神がこれらの生き物を創造された時、それらは良かったのです。

ファイアーアントがどんどん北上して来ていると言います。以前はいなかった所まで来ていて、噛まれて被害に会う人が出ています。渡り鳥が渡る途中で方向を失って死んでしまったという話を聞くこともあります。なぜそのようなことが起こるのでしょうか。それは地磁気が弱くなっているからです。地磁気が弱くなっているためファイアーアントが活動できる範囲が広がっているのです。また渡り鳥の体内磁石が方向を探知できなくなっているのです。

私達の罪によって、人間社会が崩壊しつつあると同様に、大気や海洋汚染だけでなく、このような形で地球も物理的に崩壊しつつあります。黙示録は、これらの事はやがて起こるべきことだと言うことを私達に教えてくれています。イエス・キリストを信じる人々の上にも、このような苦難は襲います。しかし、キリストを信じる人には、そのような苦難の後に与えられる勝利と平安が約束されています。ハレルヤ!

片山進悟

「第一の天使がラッパを吹いた。すると血の混じった雹と火とが生じ、地上に投げ入れられた。地上の三分の一が焼け、木々の三分の一が焼け、すべての青草も焼けてしまった。第二の天使がラッパを吹いた。すると、火で燃えている大きな山のようなものが、海に投げ入れられた。海の三分の一が血に変わり、また被造物で海に住む生き物の三分の一は死に、船という船の三分の一が壊された。第三の天使がラッパを吹いた。すると、松明のように燃えている大きな星が、天から落ちて来て、川という川の三分の一と、その水源の上に落ちた。この星の名は「苦よもぎ」といい水の三分の一が苦よもぎのように苦くなって、そのために多くの人々が死んだ。第四の天使がラッパを吹いた。すると太陽の三分の一、月の三分の一、星という星の三分の一が損なわれたので、それぞれ三分の一が暗くなって、昼はその光の三分の一を失い、夜も同じようになった。」(黙示録8章7節～12節)

お知らせ

毎月第2と第4火曜日9時半から、A240号室でエクレシアの会という、肩のこらない形での聖書の学びと楽しい交わりの集まりをしています。どなたでもお気軽にどうぞ。お問い合わせは片山姉704-843-8038まで。

日曜日午前9時半からA231号室で高見憲次兄による成人のための日曜学校、11時からR109号室でラブストランド牧師による礼拝、また月曜日午後7時からA238号室でラブストランド牧師による聖書の学が行われています。世界のベストセラー、聖書をご一緒に学びましょう。

今年もクリスマスにはJillybeanが来て、腹話術、奇術などの楽しいパフォーマンスを披露してくれます（英語です）。12月6日、土曜日午後4時半からをぜひ空けて置いて下さい。どうぞお友達もお誘い下さい。

「いのちの泉」は、シャーロット在住の日本人のコミュニケーションのための月刊紙を目指しています。皆さんも、どうぞ奮ってご参加下さい。お互いの向上に役立てるための趣旨に賛同して下さる内容であれば何でも結構です。Carmel Baptist ChurchのJapanese Ministry宛、または charlottejpn@hotmail.com をお願いします。

編集者の一時帰国のため、11月は休刊させて頂きます。どうぞ12月号をお楽しみに。

カーメル・バプテスト教会
1145 Pineville-Matthews Rd.
Matthews, NC 28105
<http://ifc26.tripod.com>

モルモン教、エホバの証人（ものみの塔）、
統一教会とは関係のない、正統的なキリスト
教会です。安心して気軽においで下さい。

日本人ミニストリー連絡先：
李牧師（704-847-8575）
ラブストランド牧師（704-849-8851）
片山（704-843-6298）

いのちの泉

カメルバプテスト教会
日本人ミニストリー月報
2003年10号

街路樹が少しずつ色づいて来ました。一本の木の葉が緑から黄色、オレンジ色と変化のある様は、ため息が出るほど美しく、これからの朝歩きが楽しくなりました。これから暫くの間は、自然の織りなす微妙な美しさを随所に楽しむことでしょう。

皆様にはお変わりなくお過ごしでいらっしゃいますか。今月は16日に日本から岸義紘先生をお迎えし、サクソフオンのコンサートと、先生のお証しを伺うチャンスに恵まれました。集会には、日本人だけでなく、中国人、韓国人、アメリカ人と、多勢の方が集まって下さり、岸先生が心を込めて演奏されるサクソフオンの音色が染み透った心で、先生のユーモラスなお証しを聞くことができ、感謝でした。

実を申しますと、私はここ一ヶ月余り、祈ることも、聖書を手取ることもできず、毎月ハーベストタイムミニストリーが送ってくれるテープを観ることもできずに過ごして来たのですが、四、五日前、ハーベストタイムのテープを意を決して観ることになりました。(意を決して、という言葉はこの時の私にとって、決して大げさな言葉ではありません。) 9月号のそのテープには、中川健一先生が最近出版された「日本人に送る聖書ものがたり」という本の製作に携わられた、編集者と挿絵画家へのインタビューが入っていました。その二人が語られる言葉と、真の謙虚な姿に私は引きつけられるように、TVの画面に見入りました。三日間続けて観ることによって、私は自分の心の中の問題点を見つけることができました。といたしますのも、私は最近、ノンクリスチャンの友人達と話す時に、「私の信仰なんてこの程度…」という言葉、何度か口にしておりました(そのつど心の中に何かを感じながら)。信仰を持つことは、自分で決めることかもしれませんが、(それでさえも、主に選ばれたことであるのですが)信仰を深めることは、勿論、聖書を学ぶこともあるでしょうが、聖霊の働きによるもの、主に引き上げられてあるものではないかと思いました。それなのに「私の信仰なんてこの程度…」とは、主に対してなんと不遜な言葉を吐いたものでしょう。ほんとうに謙虚な人に出会う時、人間は自分の傲慢さに気づくのでしょうか。祈りの中で、自分の愚かさを、傲慢さを、主に詫言いました。針の穴ほどの小さな小さな私にまで、目をそそいで下さり、諭して下さる主に、心から感謝しました。ハレルヤ!

(中藤百々代)



戦争中の私達 エペソ6章10節から20節

ジョエル・ラブストランド牧師

私は、かつて日本のテレビ番組を見て六十年代と七十年代の歌謡曲を聞きました。その中の一曲は、戦争の知らない新世代についての歌詞がありました。確かに、平和の時代に生きる事は大きな恵みですが、聖歌300番を見たら違うような歌詞が書いてあるのに気がつきます。そこに「進め主イエスの兵士らよ」という歌詞が入っています。その歌は、クリスチャン生活を戦争に喩えている訳です。あるアメリカの教会は、その歌詞が今の平和の時代に相応しくないから讚美歌集から除きました。しかしどうでしょうか。使徒パウロはよく軍隊に関する表現を使います。こんなに荒々しい表現を使う必要が本当にあるかと思われるかもしれませんが、戦争についての英語の言葉があります。

「War is hell」、訳すと「戦争は地獄だ」ということです。戦争は本当に怖くて苦しめるものです。しかし、私達の霊的な戦いは戦争と同じように敵がいて、その敵と戦う備えをしなければ、攻められる時戦おうとしても対抗できません。

ベトナム戦争の後でアメリカの軍隊が徴兵制度から志願制度に変わりました。冷戦がまだ続いていたので、時々週刊誌等に米軍の戦備はどうかという課題がのっていました。ロシアに攻められたら対抗できるでしょ

うか。自分の軍隊が強かったら敵に攻められないだろうし、攻められても勝つ事が出来るという風に考えられていました。

私達も戦備が必要です。霊的戦備が必要です。しかし私達の場合は、戦いを防ぐ為ではありません。クリスチャンなら必ずサタンに狙われます。戦わずをえないのです。イエスを信じたら、サタンの敵となります。キリストの兵士となりますから、アダムとエバが罪を犯した時、この世はサタンに支配されるようになりました。誘惑した蛇と人間が、神様に呪われてしまいました。しかし、神様は人間を見捨てはなさいませんでした。呪いと一緒に救い主の約束が加えられました。主なる神は、蛇に向かって言われた。「このようなことをしたお前は、あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で、呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に、わたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き、お前は彼のかかとを砕く。」(創世記3:14、15)

キリストが現れた時、神様のものをサタンの支配から取り返す事が始まりました。イエス様が罪を赦したり、悪霊を追い出したりしておられました。ヨハネの

福音書 12 章 3 1 節にこう言われます。「今こそ、この世が裁かれる時。今、この世の支配者が追放される。」（ヨハネ 12 : 3 1）罪人がイエスを信じたら、サタンの支配から神様の支配に移されます。こういうふうに神様の御国が広がります。イエス様を信じたら、神様と平和を持つ事になりながらサタンの敵になります。十字架の上でイエス様は人間をサタンの力から贖われました。イエス様は確かな勝利を得られましたが、御国は地上でまだ安全な形になっていません。サタンは、まだ暫くこの世の支配者です。第一コリント人への手紙にこういうふうに表現されています。「次いで、世の終わりが来ます。そのとき、キリストはすべての支配、すべての権威や勢力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます。」（コリント 1 15 : 2 4）

靈的には私達は今戦争中です。戦備はできていますか。今朝の聖書箇所は私達のサタンに対する戦いに何が必要かを教えています。ここに神の武具と呼ばれています。

では、この靈的な戦いにどんな武具が必要かを考える前に 1 2 節に注目してください。「わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。」（1 2）多くの場合、私たちは外面的な問題に注意を払いますが、靈的な事を忘れてしまいます。夫婦げんかをする時や自分を傷つけた人に対してうらみをもつ時、あるいはキリストチャンとして迫害される時、その人間の相手に対する戦いだと思い込んでしまいます。教会の中でも人間関係の問題にぶつかると、「あの人が悪い」と思って、サタンの策略に気がつかない事が多いと思います。しかし、1 2 節によると、「私達の格闘は・・・」私達の格闘はサタンと悪霊どもに対するものです。サタンは色々な状況の中で私達の弱い所を狙って誘惑します。それで 1 3 節に書いてあるように神の武具が役に立ちます。

では神の武具というのは何でしょうか。1 4 節から 1 7 節まで色々なものが述べられています。最初に 1 4 節に真理の帯という武具があります。パウロはこういう武具をリストアップした時、おそらくローマ兵と鎖につながれていました。その兵士の武具を見たら旧約聖書の御言葉を思い出すでしょう。実は、この真理の帯という文句はイザヤ書 1 1 章 5 節に書かれた文句とほとんど同じです。イザヤ書の場合は、正義の帯と真実の帯という言葉はその人の性質を表す表現です。エペソ人への手紙の場合も自分の性質を表す言葉でしょう。しかし、この真理は自分の知識によるものではありません。神様の絶対的な真理です。

この真理の帯を身につけるのに聖書を勉強する必要があります。しかし、真理の帯を身につける事は、真理を知る事だけでなく、**真理を??** と真理によって生きる事も含まれていると思います。

次の武具は、1 4 節の終わりに書いてある正義の胸当てです。これはイザヤ 5 9 章 1 7 節からの引用です。その箇所には、神様は御自分の正義によって裁きと救

いをもたらしました。私達はイエス様を信じたらそのいけにえのゆえに、イエス様の義を与えられました。神様に義と認められます。しかし、この手紙はキリストチャンに対して書かれた物なので、この正義は与えられた絶対的な義だけではないと思います。日常生活の中での義による生き方も大切だと教えられています。神様に義と認めて頂いたら日常生活はどうでもいいと思う事は大きな間違いです。そう思っていたら、悪魔に左右されやすくなります。

三つ目の武具は平和の福音の備えです。これは兵士の靴です。「どうして戦争中の私たちに平和の福音の備えが必要なのだろう」と思われるかも知れません。キリストチャンになる時、サタンと戦うようになるとしたら、どういう意味で「平和の福音」と呼ばれているのでしょうか。外面的に平和がないかも知れません。マタイによる福音書 10 節 3 4 - 3 5 節にイエス様は言われました。「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思っはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。わたしは敵対させるために来たからである。人をその父に、／娘を母に、／嫁をしゅうとめに。」（マタイ 10 : 3 4 - 3 5）サタンの敵となったらサタンの支配にある人々にぶつかってしまう事がよくあります。しかし、心の中で平安があります。ローマ書 5 章 1 節に「このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、（ローマ 5 : 1）」と書いてあります。この平和の福音を伝える特権が私達に与えられました。第二コリント 5 章 1 8 - 1 9 節を御覧ください。「これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。」（コリント 2 5 : 1 8 - 1 9）パウロと同じ様に、私達はこの平和の福音を伝える事が出来ます。そうするとイザヤ書 5 2 章 7 節の御言葉は私達に当て嵌まります。「いかに美しいことか／山々を歩き巡り、良い知らせを伝える者の足は。彼は平和を告げ、恵みの良い知らせを伝え／救いを告げ／あなたの神は王となられた、と／シオンに向かって呼ばれる。」（イザヤ 5 2 : 7）福音を伝える用意をしようではありませんか。これは本当に素晴らしい特権です。第一ペテロ 3 章 1 5 節を御覧ください。「心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。」（ペテロ 1 3 : 1 5）正しい態度をもって弁明する事は難しいですね。続けて 1 6 節をお読みします。「それも、穏やかに、敬意をもって、正しい良心で、弁明するようにしなさい。そうすれば、キリストに結ばれたあなたがたの善い生活をののしる者たちは、悪

口を言ったことで恥じ入るようになるのです。」（ペテロ 1 3 : 16）

それでは、本文に戻りましょう。エペソ6章16節に四つ目の武具が見つかります。信仰の大盾です。

「なおその上に、信仰を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことができるのです。」（エペソ6 : 16）サタンは、私達を神様から引き離そうをしています。神様の愛を疑わせようとします。「神様はあなたを本当に愛していたら、こんなにひどい目にあわせないだろう」とか「神様はあなたの事を忘れたんだよ。もう神様に仕えるのをやめた方がいい」とか、色々なうそをつきますが、私達の信仰がしっかりしていたらそういう思いがあっても、心の中で燃えるようになりません。質のいい盾に当たる火矢のように消えてしまいます。当時のローマ兵の大盾は長方形でした。高さは1メートル以上で幅はその半分でした。木で作られていて表面に固い皮が張ってありました。盾につなぎがあったのでほかの盾とつなぎ合わせる事ができました。そうすると、兵士がみんな一緒に進む事が出来ました。私達も互いの信仰を強めます。教会が一致していたら一緒にサタンに対して進む事が出来ます。

では、次の武具は何でしょうか。17節を御覧ください。「また、救いを兜としてかぶり、霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」（17）救いのかぶとという神の武具は、実は先程読ませていただいたイザヤ59章17節にもなっています。「主は恵みの御業を鎧としてまとい／救いを兜としてかぶり、報復を衣としてまとい／熱情を上着として身を包まれた。」

（イザヤ59 : 17）神様は救われる必要がないので、神様の場合は救われる事でなく、人を救うことを意味します。パウロの場合は多分、ちょっと違う意味で言っているのではないかと思います。つまり私達は救わ

れたのでサタンに攻められても、死に至るような負傷が決して与えられません。この兜を被らないでサタンと戦おうとするのは愚かな事です。使徒の働き19章13節から17節までお読みください。このスケワの息子たちは、自分が救われていないのにほかの人をサタンの力から救おうとしていました。しかしそれは無理でした。自分をさえ救う事が出来ませんでした。私達はイエス様によって救われたという確信をもっていたらほかの人を助ける事が可能となります。神様の子供としての権威をもって大胆にサタンと戦う事ができます。

そして、最後の武具は本文の17節に書いてあります。「霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」

（17b）。先週、陳先生はこの御霊の与え剣である御言葉についてメッセージをされました。私達はイエス様のように御言葉を使ってサタンに対して戦う事ができたらいいですね。私たちも御言葉を心に留めていたらサタンの誘惑に対抗できます。詩篇119篇11節に「あなたに罪を犯さない為、私はあなたのことばを心にたくわえました。」と書いてあります。私たちは御言葉を覚えて適用出来れば出来る程、よりよいキリストの兵士になります。「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましい？と霊、間接と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心の色々な考えやばかりごとを判別することができます。」（ヘブル4 : 12）

今、戦争中です。私達の敵サタンは神様の子供達を憎んで、私達を滅ぼそうとしています。戦備が出来ていますか。神の武具、つまり真理の帯、正義の胸当て、平和の福音の備え、信仰の大盾、救いのかぶと、御霊の剣である御言葉、全部身に着けていますか。身に着けて大胆に戦いましょう。

お祈りしましょう。

心のマッサージ

ユダヤ笑話集 社会思想社三浦鞠郎著

自慢

ユダヤ社会では、肉の料理を食べた後、6時間以内にミルクの入った料理を食べてはいけない、という決まりがある。三人のユダヤ人がある時、どれほど自分達が信心深いかを自慢しあった。第一の男「うちにはかまどが二つあるんだ。一つは肉料理のために。もう一つはミルク料理のためにね。」第二の男「うちはずっと信心深いから、肉の料理をする女中とミルクの料理をする女中の2人がいるんだ。」第三の男「うちこそ、一番敬謙な家庭だと思うよ。何しろ「肉」という言葉を口にしたら、6時間たった後でなければ「ミルク」という言葉を口にしないのだからね。」

身代わり

詩人フランケルは、詩作だけでは食べていけないので、ある文化団体の事務主任をしていた。ある時、事務員が一人死んだ。せっちな男がいて、自分をその代わりにと、さっそく頼みに来た。その時は埋葬もまだすんでいなかった。「お安い御用だがね」とフランケルは約束した。「だが、君のような大きな男を、果して私だけで棺の中に入れられるかどうか。」

地磁気の変化

大洪水と直接の関連がないように見えますが、今回は神が天地を創造された時の地球と現在の地球が異なっ

ているという点に関連しているので、地磁気の変化の問題について論じることにしたいと思います。

「神様はどうして毒蛇や毒グモなんか造られたのだろう」と、考えたことはありませんか。実は私も、これだけはどうしても理解できませんでした。しかし、創世記1章節で「神はお造りになった全てのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった」と書かれていることは間違いではありませんでした。神は、人間に全てのものを支配させようとして創造されました。その中には人間に害を及ぼすようなものはなかったはずで、ということ、やはり毒蛇や毒グモは、その後何かから進化して来たのではないか、と思われるかもしれません。やはり進化説が正しかったのだと。しかし、そうではありません。今、毒を持っている蛇やクモも、最初に神が創造された時には毒を持っていなかったのです。だから、全てのものは神の目に極めて良かったのです。では、なぜ今、毒蛇や毒グモが居るのでしょうか。

以前、生命の誕生の所でお話しましたが、動物の体はタンパク質できていて、タンパク質はアミノ酸の連鎖によってできています。実は蛇やクモの毒も、このタンパク質の一種なのです。そしてタンパク質のアミノ酸の連鎖に磁気が強い影響を及ぼすことが分かっています。私はウイクリフ聖書翻訳協会に奉仕していますが、毒蛇や毒グモのいる地域で奉仕するウイクリフの宣教師達は、ザッパーという簡易発電機を持って行きます。ザッパーは、電流は極めて微弱ですが、2万ボルトほどの高電圧を発生します。これを毒の入った傷口周辺に当てて電気を起こすと、多少ショックがありますが人体には影響なく、毒であるタンパク質のアミノ酸の連鎖は、この高電圧によって破壊され、毒が毒でなくなる、つまり解毒されるのです。ザッパーのお陰で毒蛇にかまれた人が、助かったという例が何件もあります。

これに関して、ある時、「地球の磁気は1400年毎に半減しているということですが」と、京都大学の地磁気研究所に問い合わせたところ、研究者の方から回答を頂きました。それによると、過去400年のデータを見ると、このまま推移すれば1000年以内に地球には磁気がなくなる可能性があるとのことでした。

聖書に拠れば、ノアの洪水は約4500年前に起こりました。そこで、この地磁気に関する情報を適用すれば、ノアの洪水当時の地磁気の強度は現在の約10倍です。この磁気強度では、現在クモなどの毒として存在するアミノ酸は、連鎖を形成しないということです。

つまり、洪水以前には毒を持った蛇やクモはいなかったのです。最初に述べたとおり、神がこれらの生き物を創造された時、それらは良かったのです。

ファイアーアントがどんどん北上して来ていると言います。以前はいなかった所まで来ていて、噛まれて被害に会う人が出ています。渡り鳥が渡る途中で方向を失って死んでしまったという話を聞くこともあります。なぜそのようなことが起こるのでしょうか。それは地磁気が弱くなっているからです。地磁気が弱くなっているためファイアーアントが活動できる範囲が広がっているのです。また渡り鳥の体内磁石が方向を探知できなくなっているのです。

私達の罪によって、人間社会が崩壊しつつあると同様に、大気や海洋汚染だけでなく、このような形で地球も物理的に崩壊しつつあります。黙示録は、これらの事はやがて起こるべきことだと言うことを私達に教えてくれています。イエス・キリストを信じる人々の上にも、このような苦難は襲います。しかし、キリストを信じる人には、そのような苦難の後に与えられる勝利と平安が約束されています。ハレルヤ!

片山進悟

「第一の天使がラッパを吹いた。すると血の混じった雹と火とが生じ、地上に投げ入れられた。地上の三分の一が焼け、木々の三分の一が焼け、すべての青草も焼けてしまった。第二の天使がラッパを吹いた。すると、火で燃えている大きな山のようなものが、海に投げ入れられた。海の三分の一が血に変わり、また被造物で海に住む生き物の三分の一は死に、船という船の三分の一が壊された。第三の天使がラッパを吹いた。すると、松明のように燃えている大きな星が、天から落ちて来て、川という川の三分の一と、その水源の上に落ちた。この星の名は「苦よもぎ」といい水の三分の一が苦よもぎのように苦くなって、そのために多くの人々が死んだ。第四の天使がラッパを吹いた。すると太陽の三分の一、月の三分の一、星という星の三分の一が損なわれたので、それぞれ三分の一が暗くなって、昼はその光の三分の一を失い、夜も同じようになった。」(黙示録8章7節～12節)

お知らせ

毎月第2と第4火曜日9時半から、A240号室でエクレシアの会という、肩のこらない形での聖書の学びと楽しい交わりの集まりをしています。どなたでもお気軽にどうぞ。お問い合わせは片山姉704-843-8038まで。

日曜日午前9時半からA231号室で高見憲次兄による成人のための日曜学校、11時からR109号室でラブストランド牧師による礼拝、また月曜日午後7時からA238号室でラブストランド牧師による聖書の学が行われています。世界のベストセラー、聖書をご一緒に学びましょう。

今年もクリスマスにはJillybeanが来て、腹話術、奇術などの楽しいパフォーマンスを披露してくれます（英語です）。12月6日、土曜日午後4時半からをぜひ空けて置いて下さい。どうぞお友達もお誘い下さい。

「いのちの泉」は、シャーロット在住の日本人のコミュニケーションのための月刊紙を目指しています。皆さんも、どうぞ奮ってご参加下さい。お互いの向上に役立てるための趣旨に賛同して下さる内容であれば何でも結構です。Carmel Baptist ChurchのJapanese Ministry宛、または charlottejpn@hotmail.com にお願ひします。

編集者の一時帰国のため、11月は休刊させて頂きます。どうぞ12月号をお楽しみに。

カーメル・バプテスト教会
1145 Pineville-Matthews Rd.
Matthews, NC 28105
<http://ifc26.tripod.com>

モルモン教、エホバの証人（ものみの塔）、
統一教会とは関係のない、正統的なキリスト
教会です。安心して気軽においで下さい。

日本人ミニストリー連絡先：
李牧師（704-847-8575）
ラブストランド牧師（704-849-8851）
片山（704-843-6298）

いのちの泉

カーメルバプテスト教会
日本人ミニストリー月報
2003年10号

街路樹が少しずつ色づいて来ました。一本の木の葉が緑から黄色、オレンジ色と変化のある様は、ため息が出るほど美しく、これからの朝歩きが楽しくなりました。これから暫くの間は、自然の織りなす微妙な美しさを随所に楽しむことでしょう。

皆様にはお変わりなくお過ごしでいらっしゃいますか。今月は16日に日本から岸義紘先生をお迎えし、サクソフオンのコンサートと、先生のお証しを伺うチャンスに恵まれました。集会には、日本人だけでなく、中国人、韓国人、アメリカ人と、多勢の方が集まって下さり、岸先生が心を込めて演奏されるサクソフオンの音色が染み透った心で、先生のユーモラスなお証しを聞くことができ、感謝でした。

実を申しますと、私はここ一ヶ月余り、祈ることも、聖書を手取ることもできず、毎月ハーベストタイムミニストリーが送ってくれるテープを観ることもできずに過ごして来たのですが、四、五日前、ハーベストタイムのテープを意を決して観ることになりました。(意を決して、という言葉はこの時の私にとって、決して大げさな言葉ではありません。) 9月号のそのテープには、中川健一先生が最近出版された「日本人に送る聖書ものがたり」という本の製作に携わられた、編集者と挿絵画家へのインタビューが入っていました。その二人が語られる言葉と、真の謙虚な姿に私は引きつけられるように、TVの画面に見入りました。三日間続けて観ることによって、私は自分の心の中の問題点を見つけることができました。といいますのも、私は最近、ノンクリスチャンの友人達と話す時に、「私の信仰なんてこの程度…」という言葉、何度か口にしておりました(そのつど心の中に何かを感じながら)。信仰を持つことは、自分で決めることかもしれませんが、(それでさえも、主に選ばれたことであるのですが)信仰を深めることは、勿論、聖書を学ぶこともあるでしょうが、聖霊の働きによるもの、主に引き上げられてあるものではないかと思いました。それなのに「私の信仰なんてこの程度…」とは、主に対してなんと不遜な言葉を吐いたものでしょう。ほんとうに謙虚な人に出会う時、人間は自分の傲慢さに気づくのでしょうか。祈りの中で、自分の愚かさを、傲慢さを、主に詫言いました。針の穴ほどの小さな小さな私にまで、目をそそいで下さり、諭して下さる主に、心から感謝しました。ハレルヤ!

(中藤百々代)



戦争中の私達 エペソ6章10節から20節

ジョエル・ラブストランド牧師

私は、かつて日本のテレビ番組を見て六十年代と七十年代の歌謡曲を聞きました。その中の一曲は、戦争の知らない新世代についての歌詞がありました。確かに、平和の時代に生きる事は大きな恵みですが、聖歌300番を見たら違うような歌詞が書いてあるのに気がつきます。そこに「進め主イエスの兵士らよ」という歌詞が入っています。その歌は、クリスチャン生活を戦争に喩えている訳です。あるアメリカの教会は、その歌詞が今の平和の時代に相応しくないから讚美歌集から除きました。しかしどうでしょうか。使徒パウロはよく軍隊に関する表現を使います。こんなに荒々しい表現を使う必要が本当にあるかと思われるかもしれませんが、戦争についての英語の言葉があります。

「War is hell」、訳すと「戦争は地獄だ」ということです。戦争は本当に怖くて苦しめるものです。しかし、私達の霊的な戦いは戦争と同じように敵がいて、その敵と戦う備えをしなければ、攻められる時戦おうとしても対抗できません。

ベトナム戦争の後でアメリカの軍隊が徴兵制度から志願制度に変わりました。冷戦がまだ続いていたので、時々週刊誌等に米軍の戦備はどうかという課題がのっていました。ロシアに攻められたら対抗できるでしょ

うか。自分の軍隊が強かったら敵に攻められないだろうし、攻められても勝つ事が出来るという風に考えられていました。

私達も戦備が必要です。霊的戦備が必要です。しかし私達の場合は、戦いを防ぐ為ではありません。クリスチャンなら必ずサタンに狙われます。戦わずをえないのです。イエスを信じたら、サタンの敵となります。キリストの兵士となりますから、アダムとエバが罪を犯した時、この世はサタンに支配されるようになりました。誘惑した蛇と人間が、神様に呪われてしまいました。しかし、神様は人間を見捨てはなさいませんでした。呪いと一緒に救い主の約束が加えられました。主なる神は、蛇に向かって言われた。「このようなことをしたお前は、あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で、呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に、わたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き、お前は彼のかかとを砕く。」(創世記3:14、15)

キリストが現れた時、神様のものをサタンの支配から取り返す事が始まりました。イエス様が罪を赦したり、悪霊を追い出したりしておられました。ヨハネの

福音書 12 章 3 1 節にこう言われます。「今こそ、この世が裁かれる時。今、この世の支配者が追放される。」（ヨハネ 12 : 3 1）罪人がイエスを信じたら、サタンの支配から神様の支配に移されます。こういうふうに神様の御国が広がります。イエス様を信じたら、神様と平和を持つ事になりながらサタンの敵になります。十字架の上でイエス様は人間をサタンの力から贖われました。イエス様は確かな勝利を得られましたが、御国は地上でまだ安全な形になっていません。サタンは、まだ暫くこの世の支配者です。第一コリント人への手紙にこういうふうに表現されています。「次いで、世の終わりが来ます。そのとき、キリストはすべての支配、すべての権威や勢力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます。」（コリント 1 15 : 2 4）

靈的には私達は今戦争中です。戦備はできていますか。今朝の聖書箇所は私達のサタンに対する戦いに何が必要かを教えています。ここに神の武具と呼ばれています。

では、この靈的な戦いにどんな武具が必要かを考える前に 1 2 節に注目してください。「わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。」（1 2）多くの場合、私たちは外面的な問題に注意を払いますが、靈的な事を忘れてしまいます。夫婦げんかをする時や自分を傷つけた人に対してうらみをもつ時、あるいはキリストチャンとして迫害される時、その人間の相手に対する戦いだと思い込んでしまいます。教会の中でも人間関係の問題にぶつかると、「あの人が悪い」と思って、サタンの策略に気がつかない事が多いと思います。しかし、1 2 節によると、「私達の格闘は・・・」私達の格闘はサタンと悪霊どもに対するものです。サタンは色々な状況の中で私達の弱い所を狙って誘惑します。それで 1 3 節に書いてあるように神の武具が役に立ちます。

では神の武具というのは何でしょうか。1 4 節から 1 7 節まで色々なものが述べられています。最初に 1 4 節に真理の帯という武具があります。パウロはこういう武具をリストアップした時、おそらくローマ兵と鎖につながっていました。その兵士の武具を見たら旧約聖書の御言葉を思い出すでしょう。実は、この真理の帯という文句はイザヤ書 1 1 章 5 節に書かれた文句とほとんど同じです。イザヤ書の場合は、正義の帯と真実の帯という言葉はその人の性質を表す表現です。エペソ人への手紙の場合も自分の性質を表す言葉でしょう。しかし、この真理は自分の知識によるものではありません。神様の絶対的な真理です。

この真理の帯を身につけるのに聖書を勉強する必要があります。しかし、真理の帯を身につける事は、真理を知る事だけでなく、**真理を??** と真理によって生きる事も含まれていると思います。

次の武具は、1 4 節の終わりに書いてある正義の胸当てです。これはイザヤ 5 9 章 1 7 節からの引用です。その箇所には、神様は御自分の正義によって裁きと救

いをもたらしました。私達はイエス様を信じたらそのいけにえのゆえに、イエス様の義を与えられました。神様に義と認められます。しかし、この手紙はキリストチャンに対して書かれた物なので、この正義は与えられた絶対的な義だけではないと思います。日常生活の中での義による生き方も大切だと教えられています。神様に義と認めて頂いたら日常生活はどうでもいいと思う事は大きな間違いです。そう思っていたら、悪魔に左右されやすくなります。

三つ目の武具は平和の福音の備えです。これは兵士の靴です。「どうして戦争中の私たちに平和の福音の備えが必要なのだろう」と思われるかも知れません。キリストチャンになる時、サタンと戦うようになるとしたら、どういう意味で「平和の福音」と呼ばれているのでしょうか。外面的に平和がないかも知れません。マタイによる福音書 10 節 3 4 - 3 5 節にイエス様は言われました。「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思っはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。わたしは敵対させるために来たからである。人をその父に、／娘を母に、／嫁をしゅうとめに。」（マタイ 10 : 3 4 - 3 5）サタンの敵となったらサタンの支配にある人々にぶつかってしまう事がよくあります。しかし、心の中で平安があります。ローマ書 5 章 1 節に「このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、（ローマ 5 : 1）」と書いてあります。この平和の福音を伝える特権が私達に与えられました。第二コリント 5 章 1 8 - 1 9 節を御覧ください。「これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。」（コリント 2 5 : 1 8 - 1 9）パウロと同じ様に、私達はこの平和の福音を伝える事が出来ます。そうするとイザヤ書 5 2 章 7 節の御言葉は私達に当て嵌まります。「いかに美しいことか／山々を歩き巡り、良い知らせを伝える者の足は。彼は平和を告げ、恵みの良い知らせを伝え／救いを告げ／あなたの神は王となられた、と／シオンに向かって呼ばれる。」（イザヤ 5 2 : 7）福音を伝える用意をしようではありませんか。これは本当に素晴らしい特権です。第一ペテロ 3 章 1 5 節を御覧ください。「心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。」（ペテロ 1 3 : 1 5）正しい態度をもって弁明する事は難しいですね。続けて 1 6 節をお読みします。「それも、穏やかに、敬意をもって、正しい良心で、弁明するようにしなさい。そうすれば、キリストに結ばれたあなたがたの善い生活をののしる者たちは、悪

口を言ったことで恥じ入るようになるのです。」（ペテロ 1 3 : 16）

それでは、本文に戻りましょう。エペソ6章16節に四つ目の武具が見つかります。信仰の大盾です。

「なおその上に、信仰を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことができるのです。」（エペソ6 : 16）サタンは、私達を神様から引き離そうをしています。神様の愛を疑わせようとします。「神様はあなたを本当に愛していたら、こんなにひどい目にあわせないだろう」とか「神様はあなたの事を忘れたんだよ。もう神様に仕えるのをやめた方がいい」とか、色々なうそをつきますが、私達の信仰がしっかりしていたらそういう思いがあっても、心の中で燃えるようになりません。質のいい盾に当たる火矢のように消えてしまいます。当時のローマ兵の大盾は長方形でした。高さは1メートル以上で幅はその半分でした。木で作られていて表面に固い皮が張ってありました。盾につなぎがあったのでほかの盾とつなぎ合わせる事ができました。そうすると、兵士がみんな一緒に進む事が出来ました。私達も互いの信仰を強めます。教会が一致していたら一緒にサタンに対して進む事が出来ます。

では、次の武具は何でしょうか。17節を御覧ください。「また、救いを兜としてかぶり、霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」（17）救いのかぶとという神の武具は、実は先程読ませていただいたイザヤ59章17節にもなっています。「主は恵みの御業を鎧としてまとい／救いを兜としてかぶり、報復を衣としてまとい／熱情を上着として身を包まれた。」（イザヤ59 : 17）神様は救われる必要がないので、神様の場合は救われる事でなく、人を救うことを意味します。パウロの場合は多分、ちょっと違う意味で言っているのではないかと思います。つまり私達は救わ

心のマッサージ

ユダヤ笑話集 社会思想社三浦鞠郎著

自慢

ユダヤ社会では、肉の料理を食べた後、6時間以内にミルクの入った料理を食べてはいけない、という決まりがある。三人のユダヤ人がある時、どれほど自分達が信心深いかを自慢しあった。第一の男「うちにはかまどが二つあるんだ。一つは肉料理のために。もう一つはミルク料理のためにね。」第二の男「うちはもっと信心深いから、肉の料理をする女中とミルクの料理をする女中の2人がいるんだ。」第三の男「うちこそ、一番敬謙な家庭だと思うよ。何しろ「肉」という言葉を口にしたら、6時間たった後でなければ「ミルク」という言葉を口にしないのだからね。」

身代わり

詩人フランケルは、詩作だけでは食べていけないので、ある文化団体の事務主任をしていた。ある時、事務員が一人死んだ。せっちな男がいて、自分をその代わりにと、さっそく頼みに来た。その時は埋葬もまだすんでいなかった。「お安い御用だがね」とフランケルは約束した。「だが、君のような大きな男を、果して私だけで棺の中に入れられるかどうか。」

地磁気の変化

大洪水と直接の関連がないように見えますが、今回は神が天地を創造された時の地球と現在の地球が異なっ

れたのでサタンに攻められても、死に至るような負傷が決して与えられません。この兜を被らないでサタンと戦おうとするのは愚かな事です。使徒の働き19章13節から17節までお読みください。このスケワの息子たちは、自分が救われていないのにほかの人をサタンの力から救おうとしていました。しかしそれは無理でした。自分をさえ救う事が出来ませんでした。私達はイエス様によって救われたという確信をもっていたらほかの人を助ける事が可能となります。神様の子供としての権威をもって大胆にサタンと戦う事ができます。

そして、最後の武具は本文の17節に書いてあります。「霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」

（17b）。先週、陳先生はこの御霊の与え剣である御言葉についてメッセージをされました。私達はイエス様のように御言葉を使ってサタンに対して戦う事ができたらいいですね。私たちも御言葉を心に留めていたらサタンの誘惑に対抗できます。詩篇119篇11節に「あなたに罪を犯さない為、私はあなたのことばを心にたくわえました。」と書いてあります。私たちは御言葉を覚えて適用出来れば出来る程、よりよいキリストの兵士になります。「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましい？と霊、間接と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心の色々な考えやばかりごとを判別することができます。」（ヘブル4 : 12）

今、戦争中です。私達の敵サタンは神様の子供達を憎んで、私達を滅ぼそうとしています。戦備が出来ていますか。神の武具、つまり真理の帯、正義の胸当て、平和の福音の備え、信仰の大盾、救いのかぶと、御霊の剣である御言葉、全部身に着けていますか。身に着けて大胆に戦いましょう。

お祈りしましょう。

「神様はどうして毒蛇や毒グモなんか造られたのだろう」と、考えたことはありませんか。実は私も、これだけはどうしても理解できませんでした。しかし、創世記1章節で「神はお造りになった全てのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった」と書かれていることは間違いではありませんでした。神は、人間に全てのものを支配させようとして創造されました。その中には人間に害を及ぼすようなものはなかったはずで、ということ、やはり毒蛇や毒グモは、その後何かから進化して来たのではないか、と思われるかもしれません。やはり進化説が正しかったのだと。しかし、そうではありません。今、毒を持っている蛇やクモも、最初に神が創造された時には毒を持っていなかったのです。だから、全てのものは神の目に極めて良かったのです。では、なぜ今、毒蛇や毒グモが居るのでしょうか。

以前、生命の誕生の所でお話しましたが、動物の体はタンパク質できていて、タンパク質はアミノ酸の連鎖によってできています。実は蛇やクモの毒も、このタンパク質の一種なのです。そしてタンパク質のアミノ酸の連鎖に磁気が強い影響を及ぼすことが分かっています。私はウイクリフ聖書翻訳協会に奉仕していますが、毒蛇や毒グモのいる地域で奉仕するウイクリフの宣教師達は、ザッパーという簡易発電機を持って行きます。ザッパーは、電流は極めて微弱ですが、2万ボルトほどの高電圧を発生します。これを毒の入った傷口周辺に当てて電気を起こすと、多少ショックがありますが人体には影響なく、毒であるタンパク質のアミノ酸の連鎖は、この高電圧によって破壊され、毒が毒でなくなる、つまり解毒されるのです。ザッパーのお陰で毒蛇にかまれた人が、助かったという例が何件もあります。

これに関して、ある時、「地球の磁気は1400年毎に半減しているということですが」と、京都大学の地磁気研究所に問い合わせたところ、研究者の方から回答を頂きました。それによると、過去400年のデータを見ると、このまま推移すれば1000年以内に地球には磁気がなくなる可能性があるとのことでした。

聖書に拠れば、ノアの洪水は約4500年前に起こりました。そこで、この地磁気に関する情報を適用すれば、ノアの洪水当時の地磁気の強度は現在の約10倍です。この磁気強度では、現在クモなどの毒として存在するアミノ酸は、連鎖を形成しないということです。

つまり、洪水以前には毒を持った蛇やクモはいなかったのです。最初に述べたとおり、神がこれらの生き物を創造された時、それらは良かったのです。

ファイアーアントがどんどん北上して来ていると言います。以前はいなかった所まで来ていて、噛まれて被害に会う人が出ています。渡り鳥が渡る途中で方向を失って死んでしまったという話を聞くこともあります。なぜそのようなことが起こるのでしょうか。それは地磁気が弱くなっているからです。地磁気が弱くなっているためファイアーアントが活動できる範囲が広がっているのです。また渡り鳥の体内磁石が方向を探知できなくなっているのです。

私達の罪によって、人間社会が崩壊しつつあると同様に、大気や海洋汚染だけでなく、このような形で地球も物理的に崩壊しつつあります。黙示録は、これらの事はやがて起こるべきことだと言うことを私達に教えてくれています。イエス・キリストを信じる人々の上にも、このような苦難は襲います。しかし、キリストを信じる人には、そのような苦難の後に与えられる勝利と平安が約束されています。ハレルヤ!

片山進悟

「第一の天使がラッパを吹いた。すると血の混じった雹と火とが生じ、地上に投げ入れられた。地上の三分の一が焼け、木々の三分の一が焼け、すべての青草も焼けてしまった。第二の天使がラッパを吹いた。すると、火で燃えている大きな山のようなものが、海に投げ入れられた。海の三分の一が血に変わり、また被造物で海に住む生き物の三分の一は死に、船という船の三分の一が壊された。第三の天使がラッパを吹いた。すると、松明のように燃えている大きな星が、天から落ちて来て、川という川の三分の一と、その水源の上に落ちた。この星の名は「苦よもぎ」といい水の三分の一が苦よもぎのように苦くなって、そのために多くの人が死んだ。第四の天使がラッパを吹いた。すると太陽の三分の一、月の三分の一、星という星の三分の一が損なわれたので、それぞれ三分の一が暗くなって、昼はその光の三分の一を失い、夜も同じようになった。」（黙示録8章7節～12節）

お知らせ

毎月第2と第4火曜日9時半から、A240号室でエクレシアの会という、肩のこらない形での聖書の学びと楽しい交わりの集まりをしています。どなたでもお気軽にどうぞ。お問い合わせは片山姉704-843-8038まで。

日曜日午前9時半からA231号室で高見憲次兄による成人のための日曜学校、11時からR109号室でラブストランド牧師による礼拝、また月曜日午後7時からA238号室でラブストランド牧師による聖書の学が行われています。世界のベストセラー、聖書をご一緒に学びましょう。

今年もクリスマスにはJillybeanが来て、腹話術、奇術などの楽しいパフォーマンスを披露してくれます（英語です）。12月6日、土曜日午後4時半からをぜひ空けて置いて下さい。どうぞお友達もお誘い下さい。

「いのちの泉」は、シャーロット在住の日本人のコミュニケーションのための月刊紙を目指しています。皆さんも、どうぞ奮ってご参加下さい。お互いの向上に役立てるための趣旨に賛同して下さる内容であれば何でも結構です。Carmel Baptist ChurchのJapanese Ministry宛、または charlottejpn@hotmail.com をお願いします。

編集者の一時帰国のため、11月は休刊させて頂きます。どうぞ12月号をお楽しみに。

カーメル・バプテスト教会
1145 Pineville-Matthews Rd.
Matthews, NC 28105
<http://ifc26.tripod.com>

モルモン教、エホバの証人（ものみの塔）、
統一教会とは関係のない、正統的なキリスト
教会です。安心して気軽においで下さい。

日本人ミニストリー連絡先：
李牧師（704-847-8575）
ラブストランド牧師（704-849-8851）
片山（704-843-6298）

いのちの泉

カメルバプテスト教会
日本人ミニストリー月報
2003年10号

街路樹が少しずつ色づいて来ました。一本の木の葉が緑から黄色、オレンジ色と変化のある様は、ため息が出るほど美しく、これからの朝歩きが楽しくなりました。これから暫くの間は、自然の織りなす微妙な美しさを随所に楽しむことでしょう。

皆様にはお変わりなくお過ごしでいらっしゃいますか。今月は16日に日本から岸義紘先生をお迎えし、サクソフォンのコンサートと、先生のお証しを伺うチャンスに恵まれました。集会には、日本人だけでなく、中国人、韓国人、アメリカ人と、多勢の方が集まって下さり、岸先生が心を込めて演奏されるサクソフォンの音色が染み透った心で、先生のユーモラスなお証しを聞くことができ、感謝でした。

実を申しますと、私はここ一ヶ月余り、祈ることも、聖書を手取ることもできず、毎月ハーベストタイムミニストリーが送ってくれるテープを観ることもできずに過ごして来たのですが、四、五日前、ハーベストタイムのテープを意を決して観ることになりました。(意を決して、という言葉はこの時の私にとって、決して大げさな言葉ではありません。) 9月号のそのテープには、中川健一先生が最近出版された「日本人に送る聖書ものがたり」という本の製作に携わられた、編集者と挿絵画家へのインタビューが入っていました。その二人が語られる言葉と、真の謙虚な姿に私は引きつけられるように、TVの画面に見入りました。三日間続けて観ることによって、私は自分の心の中の問題点を見つけることができました。といいますのも、私は最近、ノンクリスチャンの友人達と話す時に、「私の信仰なんてこの程度…」という言葉、何度か口にしておりました(そのつど心の中に何かを感じながら)。信仰を持つことは、自分で決めることかもしれませんが、(それでさえも、主に選ばれたことであるのですが)信仰を深めることは、勿論、聖書を学ぶこともあるでしょうが、聖霊の働きによるもの、主に引き上げられてあるものではないかと思いました。それなのに「私の信仰なんてこの程度…」とは、主に対してなんと不遜な言葉を吐いたものでしょう。ほんとうに謙虚な人に出会う時、人間は自分の傲慢さに気づくのでしょうか。祈りの中で、自分の愚かさを、傲慢さを、主に詫言いました。針の穴ほどの小さな小さな私にまで、目をそそいで下さり、諭して下さる主に、心から感謝しました。ハレルヤ!

(中藤百々代)



戦争中の私達 エペソ6章10節から20節

ジョエル・ラブストランド牧師

私は、かつて日本のテレビ番組を見て六十年代と七十年代の歌謡曲を聞きました。その中の一曲は、戦争の知らない新世代についての歌詞がありました。確かに、平和の時代に生きる事は大きな恵みですが、聖歌300番を見たら違うような歌詞が書いてあるのに気がつきます。そこに「進め主イエスの兵士らよ」という歌詞が入っています。その歌は、クリスチャン生活を戦争に喩えている訳です。あるアメリカの教会は、その歌詞が今の平和の時代に相応しくないから讚美歌集から除きました。しかしどうでしょうか。使徒パウロはよく軍隊に関する表現を使います。こんなに荒々しい表現を使う必要が本当にあるかと思われるかもしれませんが、戦争についての英語の言葉があります。

「War is hell」、訳すと「戦争は地獄だ」ということです。戦争は本当に怖くて苦しめるものです。しかし、私達の霊的な戦いは戦争と同じように敵がいて、その敵と戦う備えをしなければ、攻められる時戦おうとしても対抗できません。

ベトナム戦争の後でアメリカの軍隊が徴兵制度から志願制度に変わりました。冷戦がまだ続いていたので、時々週刊誌等に米軍の戦備はどうかという課題がのっていました。ロシアに攻められたら対抗できるでしょ

うか。自分の軍隊が強かったら敵に攻められないだろうし、攻められても勝つ事が出来るという風に考えられていました。

私達も戦備が必要です。霊的戦備が必要です。しかし私達の場合は、戦いを防ぐ為ではありません。クリスチャンなら必ずサタンに狙われます。戦わずをえないのです。イエスを信じたら、サタンの敵となります。キリストの兵士となりますから、アダムとエバが罪を犯した時、この世はサタンに支配されるようになりました。誘惑した蛇と人間が、神様に呪われてしまいました。しかし、神様は人間を見捨てはなさいませんでした。呪いと一緒に救い主の約束が加えられました。主なる神は、蛇に向かって言われた。「このようなことをしたお前は、あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で、呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に、わたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き、お前は彼のかかとを砕く。」(創世記3:14、15)

キリストが現れた時、神様のものをサタンの支配から取り返す事が始まりました。イエス様が罪を赦したり、悪霊を追い出したりしておられました。ヨハネの

福音書 12 章 3 1 節にこう言われます。「今こそ、この世が裁かれる時。今、この世の支配者が追放される。」（ヨハネ 12 : 3 1）罪人がイエスを信じたら、サタンの支配から神様の支配に移されます。こういうふうに神様の御国が広がります。イエス様を信じたら、神様と平和を持つ事になりながらサタンの敵になります。十字架の上でイエス様は人間をサタンの力から贖われました。イエス様は確かな勝利を得られましたが、御国は地上でまだ安全な形になっていません。サタンは、まだ暫くこの世の支配者です。第一コリント人への手紙にこういうふうに表現されています。「次いで、世の終わりが来ます。そのとき、キリストはすべての支配、すべての権威や勢力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます。」（コリント 1 15 : 2 4）

靈的には私達は今戦争中です。戦備はできていますか。今朝の聖書箇所は私達のサタンに対する戦いに何が必要かを教えています。ここに神の武具と呼ばれています。

では、この靈的な戦いにどんな武具が必要かを考える前に 1 2 節に注目してください。「わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。」（1 2）多くの場合、私たちは外面的な問題に注意を払いますが、靈的な事を忘れてしまいます。夫婦げんかをする時や自分を傷つけた人に対してうらみをもつ時、あるいはキリストチャンとして迫害される時、その人間の相手に対する戦いだと思い込んでしまいます。教会の中でも人間関係の問題にぶつかると、「あの人が悪い」と思って、サタンの策略に気がつかない事が多いと思います。しかし、1 2 節によると、「私達の格闘は・・・」私達の格闘はサタンと悪霊どもに対するものです。サタンは色々な状況の中で私達の弱い所を狙って誘惑します。それで 1 3 節に書いてあるように神の武具が役に立ちます。

では神の武具というのは何でしょうか。1 4 節から 1 7 節まで色々なものが述べられています。最初に 1 4 節に真理の帯という武具があります。パウロはこういう武具をリストアップした時、おそらくローマ兵と鎖につながっていました。その兵士の武具を見たら旧約聖書の御言葉を思い出すでしょう。実は、この真理の帯という文句はイザヤ書 1 1 章 5 節に書かれた文句とほとんど同じです。イザヤ書の場合は、正義の帯と真実の帯という言葉はその人の性質を表す表現です。エペソ人への手紙の場合も自分の性質を表す言葉でしょう。しかし、この真理は自分の知識によるものではありません。神様の絶対的な真理です。

この真理の帯を身につけるのに聖書を勉強する必要があります。しかし、真理の帯を身につける事は、真理を知る事だけでなく、**真理を??** と真理によって生きる事も含まれていると思います。

次の武具は、1 4 節の終わりに書いてある正義の胸当てです。これはイザヤ 5 9 章 1 7 節からの引用です。その箇所には、神様は御自分の正義によって裁きと救

いをもたらしました。私達はイエス様を信じたらそのいけにえのゆえに、イエス様の義を与えられました。神様に義と認められます。しかし、この手紙はキリストチャンに対して書かれた物なので、この正義は与えられた絶対的な義だけではないと思います。日常生活の中での義による生き方も大切だと教えられています。神様に義と認めて頂いたら日常生活はどうでもいいと思う事は大きな間違いです。そう思っていたら、悪魔に左右されやすくなります。

三つ目の武具は平和の福音の備えです。これは兵士の靴です。「どうして戦争中の私たちに平和の福音の備えが必要なのだろう」と思われるかも知れません。キリストチャンになる時、サタンと戦うようになるとしたら、どういう意味で「平和の福音」と呼ばれているのでしょうか。外面的に平和がないかも知れません。マタイによる福音書 10 節 3 4 - 3 5 節にイエス様は言われました。「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思っはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。わたしは敵対させるために来たからである。人をその父に、／娘を母に、／嫁をしゅうとめに。」（マタイ 10 : 3 4 - 3 5）サタンの敵となったらサタンの支配にある人々にぶつかってしまう事がよくあります。しかし、心の中で平安があります。ローマ書 5 章 1 節に「このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、（ローマ 5 : 1）」と書いてあります。この平和の福音を伝える特権が私達に与えられました。第二コリント 5 章 1 8 - 1 9 節を御覧ください。「これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。」（コリント 2 5 : 1 8 - 1 9）パウロと同じ様に、私達はこの平和の福音を伝える事が出来ます。そうするとイザヤ書 5 2 章 7 節の御言葉は私達に当て嵌まります。「いかに美しいことか／山々を歩き巡り、良い知らせを伝える者の足は。彼は平和を告げ、恵みの良い知らせを伝え／救いを告げ／あなたの神は王となられた、と／シオンに向かって呼ばれる。」（イザヤ 5 2 : 7）福音を伝える用意をしようではありませんか。これは本当に素晴らしい特権です。第一ペテロ 3 章 1 5 節を御覧ください。「心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。」（ペテロ 1 3 : 1 5）正しい態度をもって弁明する事は難しいですね。続けて 1 6 節をお読みします。「それも、穏やかに、敬意をもって、正しい良心で、弁明するようにしなさい。そうすれば、キリストに結ばれたあなたがたの善い生活をののしる者たちは、悪

口を言ったことで恥じ入るようになるのです。」（ペテロ 1 3 : 16）

それでは、本文に戻りましょう。エペソ6章16節に四つ目の武具が見つかります。信仰の大盾です。

「なおその上に、信仰を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことができるのです。」（エペソ6 : 16）サタンは、私達を神様から引き離そうをしています。神様の愛を疑わせようとします。「神様はあなたを本当に愛していたら、こんなにひどい目にあわせないだろう」とか「神様はあなたの事を忘れたんだよ。もう神様に仕えるのをやめた方がいい」とか、色々なうそをつきますが、私達の信仰がしっかりしていたらそういう思いがあっても、心の中で燃えるようになりません。質のいい盾に当たる火矢のように消えてしまいます。当時のローマ兵の大盾は長方形でした。高さは1メートル以上で幅はその半分でした。木で作られていて表面に固い皮が張ってありました。盾につなぎがあったのでほかの盾とつなぎ合わせる事ができました。そうすると、兵士がみんな一緒に進む事が出来ました。私達も互いの信仰を強めます。教会が一致していたら一緒にサタンに対して進む事が出来ます。

では、次の武具は何でしょうか。17節を御覧ください。「また、救いを兜としてかぶり、霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」（17）救いのかぶとという神の武具は、実は先程読ませていただいたイザヤ59章17節にもなっています。「主は恵みの御業を鎧としてまとい／救いを兜としてかぶり、報復を衣としてまとい／熱情を上着として身を包まれた。」（イザヤ59 : 17）神様は救われる必要がないので、神様の場合は救われる事でなく、人を救うことを意味します。パウロの場合は多分、ちょっと違う意味で言っているのではないかと思います。つまり私達は救わ

れたのでサタンに攻められても、死に至るような負傷が決して与えられません。この兜を被らないでサタンと戦おうとするのは愚かな事です。使徒の働き19章13節から17節までお読みください。このスケワの息子たちは、自分が救われていないのにほかの人をサタンの力から救おうとしていました。しかしそれは無理でした。自分をさえ救う事が出来ませんでした。私達はイエス様によって救われたという確信をもっていたらほかの人を助ける事が可能となります。神様の子供としての権威をもって大胆にサタンと戦う事ができます。

そして、最後の武具は本文の17節に書いてあります。「霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」

（17b）。先週、陳先生はこの御霊の与え剣である御言葉についてメッセージをされました。私達はイエス様のように御言葉を使ってサタンに対して戦う事ができたらいいですね。私たちも御言葉を心に留めていたらサタンの誘惑に対抗できます。詩篇119篇11節に「あなたに罪を犯さない為、私はあなたのことばを心にたくわえました。」と書いてあります。私たちは御言葉を覚えて適用出来れば出来る程、よりよいキリストの兵士になります。「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましい？と霊、間接と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心の色々な考えやばかりごとを判別することができます。」（ヘブル4 : 12）

今、戦争中です。私達の敵サタンは神様の子供達を憎んで、私達を滅ぼそうとしています。戦備が出来ていますか。神の武具、つまり真理の帯、正義の胸当て、平和の福音の備え、信仰の大盾、救いのかぶと、御霊の剣である御言葉、全部身に着けていますか。身に着けて大胆に戦いましょう。

お祈りしましょう。

心のマッサージ

ユダヤ笑話集 社会思想社三浦鞠郎著

自慢

ユダヤ社会では、肉の料理を食べた後、6時間以内にミルクの入った料理を食べてはいけない、という決まりがある。三人のユダヤ人がある時、どれほど自分達が信心深いかを自慢しあった。第一の男「うちにはかまどが二つあるんだ。一つは肉料理のために。もう一つはミルク料理のためにね。」第二の男「うちはずっと信心深いから、肉の料理をする女中とミルクの料理をする女中の2人がいるんだ。」第三の男「うちこそ、一番敬謙な家庭だと思うよ。何しろ「肉」という言葉を口にしたら、6時間たった後でなければ「ミルク」という言葉を口にしないのだからね。」

身代わり

詩人フランケルは、詩作だけでは食べていけないので、ある文化団体の事務主任をしていた。ある時、事務員が一人死んだ。せっちな男がいて、自分をその代わりにと、さっそく頼みに来た。その時は埋葬もまだすんでいなかった。「お安い御用だがね」とフランケルは約束した。「だが、君のような大きな男を、果して私だけで棺の中に入れられるかどうか。」

地磁気の変化

大洪水と直接の関連がないように見えますが、今回は神が天地を創造された時の地球と現在の地球が異なっ

ているという点に関連しているので、地磁気の変化の問題について論じることにしたいと思います。

「神様はどうして毒蛇や毒グモなんか造られたのだろう」と、考えたことはありませんか。実は私も、これだけではどうしても理解できませんでした。しかし、創世記1章節で「神はお造りになった全てのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった」と書かれていることは間違いではありませんでした。神は、人間に全てのものを支配させようとして創造されました。その中には人間に害を及ぼすようなものはなかったはずで、ということ、やはり毒蛇や毒グモは、その後何かから進化して来たのではないか、と思われるかもしれません。やはり進化説が正しかったのだと。しかし、そうではありません。今、毒を持っている蛇やクモも、最初に神が創造された時には毒を持っていなかったのです。だから、全てのものは神の目に極めて良かったのです。では、なぜ今、毒蛇や毒グモが居るのでしょうか。

以前、生命の誕生の所でお話しましたが、動物の体はタンパク質できていて、タンパク質はアミノ酸の連鎖によってできています。実は蛇やクモの毒も、このタンパク質の一種なのです。そしてタンパク質のアミノ酸の連鎖に磁気が強い影響を及ぼすことが分かっています。私はウイクリフ聖書翻訳協会に奉仕していますが、毒蛇や毒グモのいる地域で奉仕するウイクリフの宣教師達は、ザッパーという簡易発電機を持って行きます。ザッパーは、電流は極めて微弱ですが、2万ボルトほどの高電圧を発生します。これを毒の入った傷口周辺に当てて電気を起こすと、多少ショックがありますが人体には影響なく、毒であるタンパク質のアミノ酸の連鎖は、この高電圧によって破壊され、毒が毒でなくなる、つまり解毒されるのです。ザッパーのお陰で毒蛇にかまれた人が、助かったという例が何件もあります。

これに関して、ある時、「地球の磁気は1400年毎に半減しているということですが」と、京都大学の地磁気研究所に問い合わせたところ、研究者の方から回答を頂きました。それによると、過去400年のデータを見ると、このまま推移すれば1000年以内に地球には磁気がなくなる可能性があるとのことでした。

聖書に拠れば、ノアの洪水は約4500年前に起こりました。そこで、この地磁気に関する情報を適用すれば、ノアの洪水当時の地磁気の強度は現在の約10倍です。この磁気強度では、現在クモなどの毒として存在するアミノ酸は、連鎖を形成しないということです。

つまり、洪水以前には毒を持った蛇やクモはいなかったのです。最初に述べたとおり、神がこれらの生き物を創造された時、それらは良かったのです。

ファイアーアントがどんどん北上して来ていると言います。以前はいなかった所まで来ていて、噛まれて被害に会う人が出ています。渡り鳥が渡る途中で方向を失って死んでしまったという話を聞くこともあります。なぜそのようなことが起こるのでしょうか。それは地磁気が弱くなっているからです。地磁気が弱くなっているためファイアーアントが活動できる範囲が広がっているのです。また渡り鳥の体内磁石が方向を探知できなくなっているのです。

私達の罪によって、人間社会が崩壊しつつあると同様に、大気や海洋汚染だけでなく、このような形で地球も物理的に崩壊しつつあります。黙示録は、これらの事はやがて起こるべきことだと言うことを私達に教えてくれています。イエス・キリストを信じる人々の上にも、このような苦難は襲います。しかし、キリストを信じる人には、そのような苦難の後に与えられる勝利と平安が約束されています。ハレルヤ!

片山進悟

「第一の天使がラッパを吹いた。すると血の混じった雹と火とが生じ、地上に投げ入れられた。地上の三分の一が焼け、木々の三分の一が焼け、すべての青草も焼けてしまった。第二の天使がラッパを吹いた。すると、火で燃えている大きな山のようなものが、海に投げ入れられた。海の三分の一が血に変わり、また被造物で海に住む生き物の三分の一は死に、船という船の三分の一が壊された。第三の天使がラッパを吹いた。すると、松明のように燃えている大きな星が、天から落ちて来て、川という川の三分の一と、その水源の上に落ちた。この星の名は「苦よもぎ」といい水の三分の一が苦よもぎのように苦くなって、そのため多くの人が死んだ。第四の天使がラッパを吹いた。すると太陽の三分の一、月の三分の一、星という星の三分の一が損なわれたので、それぞれ三分の一が暗くなって、昼はその光の三分の一を失い、夜も同じようになった。」（黙示録8章7節～12節）

お知らせ

毎月第2と第4火曜日9時半から、A240号室でエクレシアの会という、肩のこらない形での聖書の学びと楽しい交わりの集まりをしています。どなたでもお気軽にどうぞ。お問い合わせは片山姉704-843-8038まで。

日曜日午前9時半からA231号室で高見憲次兄による成人のための日曜学校、11時からR109号室でラブストランド牧師による礼拝、また月曜日午後7時からA238号室でラブストランド牧師による聖書の学が行われています。世界のベストセラー、聖書をご一緒に学びましょう。

今年もクリスマスにはJillybeanが来て、腹話術、奇術などの楽しいパフォーマンスを披露してくれます（英語です）。12月6日、土曜日午後4時半からをぜひ空けて置いて下さい。どうぞお友達もお誘い下さい。

「いのちの泉」は、シャーロット在住の日本人のコミュニケーションのための月刊紙を目指しています。皆さんも、どうぞ奮ってご参加下さい。お互いの向上に役立てるための趣旨に賛同して下さる内容であれば何でも結構です。Carmel Baptist ChurchのJapanese Ministry宛、または charlottejpn@hotmail.com をお願いします。

編集者の一時帰国のため、11月は休刊させて頂きます。どうぞ12月号をお楽しみに。

カーメル・バプテスト教会
1145 Pineville-Matthews Rd.
Matthews, NC 28105
<http://ifc26.tripod.com>

モルモン教、エホバの証人（ものみの塔）、
統一教会とは関係のない、正統的なキリスト
教会です。安心して気軽においで下さい。

日本人ミニストリー連絡先：
李牧師（704-847-8575）
ラブストランド牧師（704-849-8851）
片山（704-843-6298）

いのちの泉

カメルバプテスト教会
日本人ミニストリー月報
2003年10号

街路樹が少しずつ色づいて来ました。一本の木の葉が緑から黄色、オレンジ色と変化のある様は、ため息が出るほど美しく、これからの朝歩きが楽しくなりました。これから暫くの間は、自然の織りなす微妙な美しさを随所に楽しむことでしょう。

皆様にはお変わりなくお過ごしでいらっしゃいますか。今月は16日に日本から岸義紘先生をお迎えし、サクソフオンのコンサートと、先生のお証しを伺うチャンスに恵まれました。集会には、日本人だけでなく、中国人、韓国人、アメリカ人と、多勢の方が集まって下さり、岸先生が心を込めて演奏されるサクソフオンの音色が染み透った心で、先生のユーモラスなお証しを聞くことができ、感謝でした。

実を申しますと、私はここ一ヶ月余り、祈ることも、聖書を手取ることもできず、毎月ハーベストタイムミニストリーが送ってくれるテープを観ることもできずに過ごして来たのですが、四、五日前、ハーベストタイムのテープを意を決して観ることになりました。(意を決して、という言葉はこの時の私にとって、決して大げさな言葉ではありません。) 9月号のそのテープには、中川健一先生が最近出版された「日本人に送る聖書ものがたり」という本の製作に携わられた、編集者と挿絵画家へのインタビューが入っていました。その二人が語られる言葉と、真の謙虚な姿に私は引きつけられるように、TVの画面に見入りました。三日間続けて観ることによって、私は自分の心の中の問題点を見つけることができました。といいますのも、私は最近、ノンクリスチャンの友人達と話す時に、「私の信仰なんてこの程度…」という言葉、何度か口にしておりました(そのつど心の中に何かを感じながら)。信仰を持つことは、自分で決めることかもしれませんが、(それでさえも、主に選ばれたことであるのですが)信仰を深めることは、勿論、聖書を学ぶこともあるでしょうが、聖霊の働きによるもの、主に引き上げられてあるものではないかと思いました。それなのに「私の信仰なんてこの程度…」とは、主に対してなんと不遜な言葉を吐いたものでしょう。ほんとうに謙虚な人に出会う時、人間は自分の傲慢さに気づくのでしょうか。祈りの中で、自分の愚かさを、傲慢さを、主に詫言いました。針の穴ほどの小さな小さな私にまで、目をそそいで下さり、諭して下さる主に、心から感謝しました。ハレルヤ!

(中藤百々代)



戦争中の私達 エペソ6章10節から20節

ジョエル・ラブストランド牧師

私は、かつて日本のテレビ番組を見て六十年代と七十年代の歌謡曲を聞きました。その中の一曲は、戦争の知らない新世代についての歌詞がありました。確かに、平和の時代に生きる事は大きな恵みですが、聖歌300番を見たら違うような歌詞が書いてあるのに気がつきます。そこに「進め主イエスの兵士らよ」という歌詞が入っています。その歌は、クリスチャン生活を戦争に喩えている訳です。あるアメリカの教会は、その歌詞が今の平和の時代に相応しくないから讚美歌集から除きました。しかしどうでしょうか。使徒パウロはよく軍隊に関する表現を使います。こんなに荒々しい表現を使う必要が本当にあるかと思われるかもしれませんが、戦争についての英語の言葉があります。

「War is hell」、訳すと「戦争は地獄だ」ということです。戦争は本当に怖くて苦しめるものです。しかし、私達の霊的な戦いは戦争と同じように敵がいて、その敵と戦う備えをしなければ、攻められる時戦おうとしても対抗できません。

ベトナム戦争の後でアメリカの軍隊が徴兵制度から志願制度に変わりました。冷戦がまだ続いていたので、時々週刊誌等に米軍の戦備はどうかという課題がのっていました。ロシアに攻められたら対抗できるでしょ

うか。自分の軍隊が強かったら敵に攻められないだろうし、攻められても勝つ事が出来るという風に考えられていました。

私達も戦備が必要です。霊的戦備が必要です。しかし私達の場合は、戦いを防ぐ為ではありません。クリスチャンなら必ずサタンに狙われます。戦わずをえないのです。イエスを信じたら、サタンの敵となります。キリストの兵士となりますから、アダムとエバが罪を犯した時、この世はサタンに支配されるようになりました。誘惑した蛇と人間が、神様に呪われてしまいました。しかし、神様は人間を見捨てはなさいませんでした。呪いと一緒に救い主の約束が加えられました。主なる神は、蛇に向かって言われた。「このようなことをしたお前は、あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で、呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に、わたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き、お前は彼のかかとを砕く。」(創世記3:14、15)

キリストが現れた時、神様のものをサタンの支配から取り返す事が始まりました。イエス様が罪を赦したり、悪霊を追い出したりしておられました。ヨハネの

福音書 12 章 3 1 節にこう言われます。「今こそ、この世が裁かれる時。今、この世の支配者が追放される。」（ヨハネ 12 : 3 1）罪人がイエスを信じたら、サタンの支配から神様の支配に移されます。こういうふうに神様の御国が広がります。イエス様を信じたら、神様と平和を持つ事になりながらサタンの敵になります。十字架の上でイエス様は人間をサタンの力から贖われました。イエス様は確かな勝利を得られましたが、御国は地上でまだ安全な形になっていません。サタンは、まだ暫くこの世の支配者です。第一コリント人への手紙にこういうふうに表現されています。「次いで、世の終わりが来ます。そのとき、キリストはすべての支配、すべての権威や勢力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます。」（コリント 1 15 : 2 4）

靈的には私達は今戦争中です。戦備はできていますか。今朝の聖書箇所は私達のサタンに対する戦いに何が必要かを教えています。ここに神の武具と呼ばれています。

では、この靈的な戦いにどんな武具が必要かを考える前に 1 2 節に注目してください。「わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。」（1 2）多くの場合、私たちは外面的な問題に注意を払いますが、靈的な事を忘れてしまいます。夫婦げんかをする時や自分を傷つけた人に対してうらみをもつ時、あるいはキリストチャンとして迫害される時、その人間の相手に対する戦いだと思い込んでしまいます。教会の中でも人間関係の問題にぶつかると、「あの人が悪い」と思って、サタンの策略に気がつかない事が多いと思います。しかし、1 2 節によると、「私達の格闘は・・・」私達の格闘はサタンと悪霊どもに対するものです。サタンは色々な状況の中で私達の弱い所を狙って誘惑します。それで 1 3 節に書いてあるように神の武具が役に立ちます。

では神の武具というのは何でしょうか。1 4 節から 1 7 節まで色々なものが述べられています。最初に 1 4 節に真理の帯という武具があります。パウロはこういう武具をリストアップした時、おそらくローマ兵と鎖につながっていました。その兵士の武具を見たら旧約聖書の御言葉を思い出すでしょう。実は、この真理の帯という文句はイザヤ書 1 1 章 5 節に書かれた文句とほとんど同じです。イザヤ書の場合は、正義の帯と真実の帯という言葉はその人の性質を表す表現です。エペソ人への手紙の場合も自分の性質を表す言葉でしょう。しかし、この真理は自分の知識によるものではありません。神様の絶対的な真理です。

この真理の帯を身につけるのに聖書を勉強する必要があります。しかし、真理の帯を身につける事は、真理を知る事だけでなく、**真理を??** と真理によって生きる事も含まれていると思います。

次の武具は、1 4 節の終わりに書いてある正義の胸当てです。これはイザヤ 5 9 章 1 7 節からの引用です。その箇所には、神様は御自分の正義によって裁きと救

いをもたらしました。私達はイエス様を信じたらそのいけにえのゆえに、イエス様の義を与えられました。神様に義と認められます。しかし、この手紙はキリストチャンに対して書かれた物なので、この正義は与えられた絶対的な義だけではないと思います。日常生活の中での義による生き方も大切だと教えられています。神様に義と認めて頂いたら日常生活はどうでもいいと思う事は大きな間違いです。そう思っていたら、悪魔に左右されやすくなります。

三つ目の武具は平和の福音の備えです。これは兵士の靴です。「どうして戦争中の私たちに平和の福音の備えが必要なのだろう」と思われるかも知れません。キリストチャンになる時、サタンと戦うようになるとしたら、どういう意味で「平和の福音」と呼ばれているのでしょうか。外面的に平和がないかも知れません。マタイによる福音書 10 節 3 4 - 3 5 節にイエス様は言われました。「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思っはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。わたしは敵対させるために来たからである。人をその父に、／娘を母に、／嫁をしゅうとめに。」（マタイ 10 : 3 4 - 3 5）サタンの敵となったらサタンの支配にある人々にぶつかってしまう事がよくあります。しかし、心の中で平安があります。ローマ書 5 章 1 節に「このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、（ローマ 5 : 1）」と書いてあります。この平和の福音を伝える特権が私達に与えられました。第二コリント 5 章 1 8 - 1 9 節を御覧ください。「これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。」（コリント 2 5 : 1 8 - 1 9）パウロと同じ様に、私達はこの平和の福音を伝える事が出来ます。そうするとイザヤ書 5 2 章 7 節の御言葉は私達に当て嵌まります。「いかに美しいことか／山々を歩き巡り、良い知らせを伝える者の足は。彼は平和を告げ、恵みの良い知らせを伝え／救いを告げ／あなたの神は王となられた、と／シオンに向かって呼ばれる。」（イザヤ 5 2 : 7）福音を伝える用意をしようではありませんか。これは本当に素晴らしい特権です。第一ペテロ 3 章 1 5 節を御覧ください。「心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。」（ペテロ 1 3 : 1 5）正しい態度をもって弁明する事は難しいですね。続けて 1 6 節をお読みします。「それも、穏やかに、敬意をもって、正しい良心で、弁明するようにしなさい。そうすれば、キリストに結ばれたあなたがたの善い生活をののしる者たちは、悪

口を言ったことで恥じ入るようになるのです。」（ペテロ 1 3 : 16）

それでは、本文に戻りましょう。エペソ6章16節に四つ目の武具が見つかります。信仰の大盾です。

「なおその上に、信仰を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことができるのです。」（エペソ6 : 16）サタンは、私達を神様から引き離そうをしています。神様の愛を疑わせようとします。「神様はあなたを本当に愛していたら、こんなにひどい目にあわせないだろう」とか「神様はあなたの事を忘れたんだよ。もう神様に仕えるのをやめた方がいい」とか、色々なうそをつきますが、私達の信仰がしっかりしていたらそういう思いがあっても、心の中で燃えるようになりません。質のいい盾に当たる火矢のように消えてしまいます。当時のローマ兵の大盾は長方形でした。高さは1メートル以上で幅はその半分でした。木で作られていて表面に固い皮が張ってありました。盾につなぎがあったのでほかの盾とつなぎ合わせる事ができました。そうすると、兵士がみんな一緒に進む事が出来ました。私達も互いの信仰を強めます。教会が一致していたら一緒にサタンに対して進む事が出来ます。

では、次の武具は何でしょうか。17節を御覧ください。「また、救いを兜としてかぶり、霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」（17）救いのかぶとという神の武具は、実は先程読ませていただいたイザヤ59章17節にもなっています。「主は恵みの御業を鎧としてまとい／救いを兜としてかぶり、報復を衣としてまとい／熱情を上着として身を包まれた。」（イザヤ59 : 17）神様は救われる必要がないので、神様の場合は救われる事でなく、人を救うことを意味します。パウロの場合は多分、ちょっと違う意味で言っているのではないかと思います。つまり私達は救わ

心のマッサージ

ユダヤ笑話集 社会思想社三浦鞠郎著

自慢

ユダヤ社会では、肉の料理を食べた後、6時間以内にミルクの入った料理を食べてはいけない、という決まりがある。三人のユダヤ人がある時、どれほど自分達が信心深いかを自慢しあった。第一の男「うちにはかまどが二つあるんだ。一つは肉料理のために。もう一つはミルク料理のためにね。」第二の男「うちはもっと信心深いから、肉の料理をする女中とミルクの料理をする女中の2人がいるんだ。」第三の男「うちこそ、一番敬謙な家庭だと思うよ。何しろ「肉」という言葉を口にしたら、6時間たった後でなければ「ミルク」という言葉を口にしないのだからね。」

身代わり

詩人フランケルは、詩作だけでは食べていけないので、ある文化団体の事務主任をしていた。ある時、事務員が一人死んだ。せっちな男がいて、自分をその代わりにと、さっそく頼みに来た。その時は埋葬もまだすんでいなかった。「お安い御用だがね」とフランケルは約束した。「だが、君のような大きな男を、果して私だけで棺の中に入れられるかどうか。」

地磁気の変化

大洪水と直接の関連がないように見えますが、今回は神が天地を創造された時の地球と現在の地球が異なっ

れたのでサタンに攻められても、死に至るような負傷が決して与えられません。この兜を被らないでサタンと戦おうとするのは愚かな事です。使徒の働き19章13節から17節までお読みください。このスケワの息子たちは、自分が救われていないのにほかの人をサタンの力から救おうとしていました。しかしそれは無理でした。自分をさえ救う事が出来ませんでした。私達はイエス様によって救われたという確信をもっていたらほかの人を助ける事が可能となります。神様の子供としての権威をもって大胆にサタンと戦う事ができます。

そして、最後の武具は本文の17節に書いてあります。「霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」

（17b）。先週、陳先生はこの御霊の与え剣である御言葉についてメッセージをされました。私達はイエス様のように御言葉を使ってサタンに対して戦う事ができたらいいですね。私たちも御言葉を心に留めていたらサタンの誘惑に対抗できます。詩篇119篇11節に「あなたに罪を犯さない為、私はあなたのことばを心にたくわえました。」と書いてあります。私たちは御言葉を覚えて適用出来れば出来る程、よりよいキリストの兵士になります。「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましい？と霊、間接と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心の色々な考えやばかりごとを判別することができます。」（ヘブル4 : 12）

今、戦争中です。私達の敵サタンは神様の子供達を憎んで、私達を滅ぼそうとしています。戦備が出来ていますか。神の武具、つまり真理の帯、正義の胸当て、平和の福音の備え、信仰の大盾、救いのかぶと、御霊の剣である御言葉、全部身に着けていますか。身に着けて大胆に戦いましょう。

お祈りしましょう。

「神様はどうして毒蛇や毒グモなんか造られたのだろう」と、考えたことはありませんか。実は私も、これだけではどうしても理解できませんでした。しかし、創世記1章節で「神はお造りになった全てのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった」と書かれていることは間違いではありませんでした。神は、人間に全てのものを支配させようとして創造されました。その中には人間に害を及ぼすようなものはなかったはずで、ということ、やはり毒蛇や毒グモは、その後何かから進化して来たのではないか、と思われるかもしれません。やはり進化説が正しかったのだと。しかし、そうではありません。今、毒を持っている蛇やクモも、最初に神が創造された時には毒を持っていなかったのです。だから、全てのものは神の目に極めて良かったのです。では、なぜ今、毒蛇や毒グモが居るのでしょうか。

以前、生命の誕生の所でお話しましたが、動物の体はタンパク質できていて、タンパク質はアミノ酸の連鎖によってできています。実は蛇やクモの毒も、このタンパク質の一種なのです。そしてタンパク質のアミノ酸の連鎖に磁気が強い影響を及ぼすことが分かっています。私はウイクリフ聖書翻訳協会に奉仕していますが、毒蛇や毒グモのいる地域で奉仕するウイクリフの宣教師達は、ザッパーという簡易発電機を持って行きます。ザッパーは、電流は極めて微弱ですが、2万ボルトほどの高電圧を発生します。これを毒の入った傷口周辺に当てて電気を起こすと、多少ショックがありますが人体には影響なく、毒であるタンパク質のアミノ酸の連鎖は、この高電圧によって破壊され、毒が毒でなくなる、つまり解毒されるのです。ザッパーのお陰で毒蛇にかまれた人が、助かったという例が何件もあります。

これに関して、ある時、「地球の磁気は1400年毎に半減しているということですが」と、京都大学の地磁気研究所に問い合わせたところ、研究者の方から回答を頂きました。それによると、過去400年のデータを見ると、このまま推移すれば1000年以内に地球には磁気がなくなる可能性があるとのことでした。

聖書に拠れば、ノアの洪水は約4500年前に起こりました。そこで、この地磁気に関する情報を適用すれば、ノアの洪水当時の地磁気の強度は現在の約10倍です。この磁気強度では、現在クモなどの毒として存在するアミノ酸は、連鎖を形成しないということです。

つまり、洪水以前には毒を持った蛇やクモはいなかったのです。最初に述べたとおり、神がこれらの生き物を創造された時、それらは良かったのです。

ファイアーアントがどんどん北上して来ていると言います。以前はいなかった所まで来ていて、噛まれて被害に会う人が出ています。渡り鳥が渡る途中で方向を失って死んでしまったという話を聞くこともあります。なぜそのようなことが起こるのでしょうか。それは地磁気が弱くなっているからです。地磁気が弱くなっているためファイアーアントが活動できる範囲が広がっているのです。また渡り鳥の体内磁石が方向を探知できなくなっているのです。

私達の罪によって、人間社会が崩壊しつつあると同様に、大気や海洋汚染だけでなく、このような形で地球も物理的に崩壊しつつあります。黙示録は、これらの事はやがて起こるべきことだと言うことを私達に教えてくれています。イエス・キリストを信じる人々の上にも、このような苦難は襲います。しかし、キリストを信じる人には、そのような苦難の後に与えられる勝利と平安が約束されています。ハレルヤ!

片山進悟

「第一の天使がラッパを吹いた。すると血の混じった雹と火とが生じ、地上に投げ入れられた。地上の三分の一が焼け、木々の三分の一が焼け、すべての青草も焼けてしまった。第二の天使がラッパを吹いた。すると、火で燃えている大きな山のようなものが、海に投げ入れられた。海の三分の一が血に変わり、また被造物で海に住む生き物の三分の一は死に、船という船の三分の一が壊された。第三の天使がラッパを吹いた。すると、松明のように燃えている大きな星が、天から落ちて来て、川という川の三分の一と、その水源の上に落ちた。この星の名は「苦よもぎ」といい水の三分の一が苦よもぎのように苦くなって、そのために多くの人が死んだ。第四の天使がラッパを吹いた。すると太陽の三分の一、月の三分の一、星という星の三分の一が損なわれたので、それぞれ三分の一が暗くなって、昼はその光の三分の一を失い、夜も同じようになった。」（黙示録8章7節～12節）

お知らせ

毎月第2と第4火曜日9時半から、A240号室でエクレシアの会という、肩のこらない形での聖書の学びと楽しい交わりの集まりをしています。どなたでもお気軽にどうぞ。お問い合わせは片山姉704-843-8038まで。

日曜日午前9時半からA231号室で高見憲次兄による成人のための日曜学校、11時からR109号室でラブストランド牧師による礼拝、また月曜日午後7時からA238号室でラブストランド牧師による聖書の学が行われています。世界のベストセラー、聖書をご一緒に学びましょう。

今年もクリスマスにはJillybeanが来て、腹話術、奇術などの楽しいパフォーマンスを披露してくれます（英語です）。12月6日、土曜日午後4時半からをぜひ空けて置いて下さい。どうぞお友達もお誘い下さい。

「いのちの泉」は、シャーロット在住の日本人のコミュニケーションのための月刊紙を目指しています。皆さんも、どうぞ奮ってご参加下さい。お互いの向上に役立てるための趣旨に賛同して下さる内容であれば何でも結構です。Carmel Baptist ChurchのJapanese Ministry宛、または charlottejpn@hotmail.com にお願ひします。

編集者の一時帰国のため、11月は休刊させて頂きます。どうぞ12月号をお楽しみに。

カーメル・バプテスト教会
1145 Pineville-Matthews Rd.
Matthews, NC 28105
<http://ifc26.tripod.com>

モルモン教、エホバの証人（ものみの塔）、
統一教会とは関係のない、正統的なキリスト
教会です。安心して気軽においで下さい。

日本人ミニストリー連絡先：
李牧師（704-847-8575）
ラブストランド牧師（704-849-8851）
片山（704-843-6298）

いのちの泉

カメルバプテスト教会
日本人ミニストリー月報
2003年10号

街路樹が少しずつ色づいて来ました。一本の木の葉が緑から黄色、オレンジ色と変化のある様は、ため息が出るほど美しく、これからの朝歩きが楽しくなりました。これから暫くの間は、自然の織りなす微妙な美しさを随所に楽しむことでしょう。

皆様にはお変わりなくお過ごしでいらっしゃいますか。今月は16日に日本から岸義紘先生をお迎えし、サクソフオンのコンサートと、先生のお証しを伺うチャンスに恵まれました。集会には、日本人だけでなく、中国人、韓国人、アメリカ人と、多勢の方が集まって下さり、岸先生が心を込めて演奏されるサクソフオンの音色が染み透った心で、先生のユーモラスなお証しを聞くことができ、感謝でした。

実を申しますと、私はここ一ヶ月余り、祈ることも、聖書を手取ることもできず、毎月ハーベストタイムミニストリーが送ってくれるテープを観ることもできずに過ごして来たのですが、四、五日前、ハーベストタイムのテープを意を決して観ることになりました。(意を決して、という言葉はこの時の私にとって、決して大げさな言葉ではありません。) 9月号のそのテープには、中川健一先生が最近出版された「日本人に送る聖書ものがたり」という本の製作に携わられた、編集者と挿絵画家へのインタビューが入っていました。その二人が語られる言葉と、真の謙虚な姿に私は引きつけられるように、TVの画面に見入りました。三日間続けて観ることによって、私は自分の心の中の問題点を見つけることができました。といいますのも、私は最近、ノンクリスチャンの友人達と話す時に、「私の信仰なんてこの程度...」という言葉、何度か口にしておりました(そのつど心の中に何かを感じながら)。信仰を持つことは、自分で決めることかもしれませんが、(それでさえも、主に選ばれたことであるのですが)信仰を深めることは、勿論、聖書を学ぶこともあるでしょうが、聖霊の働きによるもの、主に引き上げられてあるものではないかと思いました。それなのに「私の信仰なんてこの程度...」とは、主に対してなんと不遜な言葉を吐いたものでしょう。ほんとうに謙虚な人に出会う時、人間は自分の傲慢さに気づくのでしょうか。祈りの中で、自分の愚かさを、傲慢さを、主に詫言いました。針の穴ほどの小さな小さな私にまで、目をそそいで下さり、諭して下さる主に、心から感謝しました。ハレルヤ!

(中藤百々代)



戦争中の私達 エペソ6章10節から20節

ジョエル・ラブストランド牧師

私は、かつて日本のテレビ番組を見て六十年代と七十年代の歌謡曲を聞きました。その中の一曲は、戦争の知らない新世代についての歌詞がありました。確かに、平和の時代に生きる事は大きな恵みですが、聖歌300番を見たら違うような歌詞が書いてあるのに気がつきます。そこに「進め主イエスの兵士らよ」という歌詞が入っています。その歌は、クリスチャン生活を戦争に喩えている訳です。あるアメリカの教会は、その歌詞が今の平和の時代に相応しくないから讚美歌集から除きました。しかしどうでしょうか。使徒パウロはよく軍隊に関する表現を使います。こんなに荒々しい表現を使う必要が本当にあるかと思われるかもしれませんが、戦争についての英語の言葉があります。

「War is hell」、訳すと「戦争は地獄だ」ということです。戦争は本当に怖くて苦しめるものです。しかし、私達の霊的な戦いは戦争と同じように敵がいて、その敵と戦う備えをしなければ、攻められる時戦おうとしても対抗できません。

ベトナム戦争の後でアメリカの軍隊が徴兵制度から志願制度に変わりました。冷戦がまだ続いていたので、時々週刊誌等に米軍の戦備はどうかという課題がのっていました。ロシアに攻められたら対抗できるでしょ

うか。自分の軍隊が強かったら敵に攻められないだろうし、攻められても勝つ事が出来るという風に考えられていました。

私達も戦備が必要です。霊的戦備が必要です。しかし私達の場合は、戦いを防ぐ為ではありません。クリスチャンなら必ずサタンに狙われます。戦わずをえないのです。イエスを信じたら、サタンの敵となります。キリストの兵士となりますから、アダムとエバが罪を犯した時、この世はサタンに支配されるようになりました。誘惑した蛇と人間が、神様に呪われてしまいました。しかし、神様は人間を見捨てはなさいませんでした。呪いと一緒に救い主の約束が加えられました。主なる神は、蛇に向かって言われた。「このようなことをしたお前は、あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で、呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に、わたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き、お前は彼のかかとを砕く。」(創世記3:14、15)

キリストが現れた時、神様のものをサタンの支配から取り返す事が始まりました。イエス様が罪を赦したり、悪霊を追い出したりしておられました。ヨハネの

福音書 12 章 3 1 節にこう言われます。「今こそ、この世が裁かれる時。今、この世の支配者が追放される。」（ヨハネ 12 : 3 1）罪人がイエスを信じたら、サタンの支配から神様の支配に移されます。こういうふうに神様の御国が広がります。イエス様を信じたら、神様と平和を持つ事になりながらサタンの敵になります。十字架の上でイエス様は人間をサタンの力から贖われました。イエス様は確かな勝利を得られましたが、御国は地上でまだ安全な形になっていません。サタンは、まだ暫くこの世の支配者です。第一コリント人への手紙にこういうふうに表現されています。「次いで、世の終わりが来ます。そのとき、キリストはすべての支配、すべての権威や勢力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます。」（コリント 1 15 : 2 4）

靈的には私達は今戦争中です。戦備はできていますか。今朝の聖書箇所は私達のサタンに対する戦いに何が必要かを教えています。ここに神の武具と呼ばれています。

では、この靈的な戦いにどんな武具が必要かを考える前に 1 2 節に注目してください。「わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。」（1 2）多くの場合、私たちは外面的な問題に注意を払いますが、靈的な事を忘れてしまいます。夫婦げんかをする時や自分を傷つけた人に対してうらみをもつ時、あるいはキリストチャンとして迫害される時、その人間の相手に対する戦いだと思い込んでしまいます。教会の中でも人間関係の問題にぶつかると、「あの人が悪い」と思って、サタンの策略に気がつかない事が多いと思います。しかし、1 2 節によると、「私達の格闘は・・・」私達の格闘はサタンと悪霊どもに対するものです。サタンは色々な状況の中で私達の弱い所を狙って誘惑します。それで 1 3 節に書いてあるように神の武具が役に立ちます。

では神の武具というのは何でしょうか。1 4 節から 1 7 節まで色々なものが述べられています。最初に 1 4 節に真理の帯という武具があります。パウロはこういう武具をリストアップした時、おそらくローマ兵と鎖につながれていました。その兵士の武具を見たら旧約聖書の御言葉を思い出すでしょう。実は、この真理の帯という文句はイザヤ書 1 1 章 5 節に書かれた文句とほとんど同じです。イザヤ書の場合は、正義の帯と真実の帯という言葉はその人の性質を表す表現です。エペソ人への手紙の場合も自分の性質を表す言葉でしょう。しかし、この真理は自分の知識によるものではありません。神様の絶対的な真理です。

この真理の帯を身につけるのに聖書を勉強する必要があります。しかし、真理の帯を身につける事は、真理を知る事だけでなく、**真理を??** と真理によって生きる事も含まれていると思います。

次の武具は、1 4 節の終わりに書いてある正義の胸当てです。これはイザヤ 5 9 章 1 7 節からの引用です。その箇所には、神様は御自分の正義によって裁きと救

いをもたらしました。私達はイエス様を信じたらそのいけにえのゆえに、イエス様の義を与えられました。神様に義と認められます。しかし、この手紙はキリストチャンに対して書かれた物なので、この正義は与えられた絶対的な義だけではないと思います。日常生活の中での義による生き方も大切だと教えられています。神様に義と認めて頂いたら日常生活はどうでもいいと思う事は大きな間違いです。そう思っていたら、悪魔に左右されやすくなります。

三つ目の武具は平和の福音の備えです。これは兵士の靴です。「どうして戦争中の私たちに平和の福音の備えが必要なのだろう」と思われるかも知れません。キリストチャンになる時、サタンと戦うようになるとしたら、どういう意味で「平和の福音」と呼ばれているのでしょうか。外面的に平和がないかも知れません。マタイによる福音書 10 節 3 4 - 3 5 節にイエス様は言われました。「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思っはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。わたしは敵対させるために来たからである。人をその父に、／娘を母に、／嫁をしゅうとめに。」（マタイ 10 : 3 4 - 3 5）サタンの敵となったらサタンの支配にある人々にぶつかってしまう事がよくあります。しかし、心の中で平安があります。ローマ書 5 章 1 節に「このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、（ローマ 5 : 1）」と書いてあります。この平和の福音を伝える特権が私達に与えられました。第二コリント 5 章 1 8 - 1 9 節を御覧ください。「これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。」（コリント 2 5 : 1 8 - 1 9）パウロと同じ様に、私達はこの平和の福音を伝える事が出来ます。そうするとイザヤ書 5 2 章 7 節の御言葉は私達に当て嵌まります。「いかに美しいことか／山々を歩き巡り、良い知らせを伝える者の足は。彼は平和を告げ、恵みの良い知らせを伝え／救いを告げ／あなたの神は王となられた、と／シオンに向かって呼ばれる。」（イザヤ 5 2 : 7）福音を伝える用意をしようではありませんか。これは本当に素晴らしい特権です。第一ペテロ 3 章 1 5 節を御覧ください。「心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。」（ペテロ 1 3 : 1 5）正しい態度をもって弁明する事は難しいですね。続けて 1 6 節をお読みします。「それも、穏やかに、敬意をもって、正しい良心で、弁明するようにしなさい。そうすれば、キリストに結ばれたあなたがたの善い生活をののしる者たちは、悪

口を言ったことで恥じ入るようになるのです。」（ペテロ 1 3 : 16）

それでは、本文に戻りましょう。エペソ6章16節に四つ目の武具が見つかります。信仰の大盾です。

「なおその上に、信仰を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことができるのです。」（エペソ6 : 16）サタンは、私達を神様から引き離そうをしています。神様の愛を疑わせようとします。「神様はあなたを本当に愛していたら、こんなにひどい目にあわせないだろう」とか「神様はあなたの事を忘れたんだよ。もう神様に仕えるのをやめた方がいい」とか、色々なうそをつきますが、私達の信仰がしっかりしていたらそういう思いがあっても、心の中で燃えるようになりません。質のいい盾に当たる火矢のように消えてしまいます。当時のローマ兵の大盾は長方形でした。高さは1メートル以上で幅はその半分でした。木で作られていて表面に固い皮が張ってありました。盾につなぎがあったのでほかの盾とつなぎ合わせる事ができました。そうすると、兵士がみんな一緒に進む事が出来ました。私達も互いの信仰を強めます。教会が一致していたら一緒にサタンに対して進む事が出来ます。

では、次の武具は何でしょうか。17節を御覧ください。「また、救いを兜としてかぶり、霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」（17）救いのかぶとという神の武具は、実は先程読ませていただいたイザヤ59章17節にもなっています。「主は恵みの御業を鎧としてまとい／救いを兜としてかぶり、報復を衣としてまとい／熱情を上着として身を包まれた。」

（イザヤ59 : 17）神様は救われる必要がないので、神様の場合は救われる事でなく、人を救うことを意味します。パウロの場合は多分、ちょっと違う意味で言っているのではないかと思います。つまり私達は救わ

れたのでサタンに攻められても、死に至るような負傷が決して与えられません。この兜を被らないでサタンと戦おうとするのは愚かな事です。使徒の働き19章13節から17節までお読みください。このスケワの息子たちは、自分が救われていないのにほかの人をサタンの力から救おうとしていました。しかしそれは無理でした。自分をさえ救う事が出来ませんでした。私達はイエス様によって救われたという確信をもっていたらほかの人を助ける事が可能となります。神様の子供としての権威をもって大胆にサタンと戦う事ができます。

そして、最後の武具は本文の17節に書いてあります。「霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」

（17b）。先週、陳先生はこの御霊の与え剣である御言葉についてメッセージをされました。私達はイエス様のように御言葉を使ってサタンに対して戦う事ができればいいですね。私たちも御言葉を心に留めていたらサタンの誘惑に対抗できます。詩篇119篇11節に「あなたに罪を犯さない為、私はあなたのことばを心にたくわえました。」と書いてあります。私たちは御言葉を覚えて適用出来れば出来る程、よりよいキリストの兵士になります。「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましい？と霊、間接と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心の色々な考えやばかりごとを判別することができます。」（ヘブル4 : 12）

今、戦争中です。私達の敵サタンは神様の子供達を憎んで、私達を滅ぼそうとしています。戦備が出来ていますか。神の武具、つまり真理の帯、正義の胸当て、平和の福音の備え、信仰の大盾、救いのかぶと、御霊の剣である御言葉、全部身に着けていますか。身に着けて大胆に戦いましょう。

お祈りしましょう。

心のマッサージ

ユダヤ笑話集 社会思想社三浦鞠郎著

自慢

ユダヤ社会では、肉の料理を食べた後、6時間以内にミルクの入った料理を食べてはいけない、という決まりがある。三人のユダヤ人がある時、どれほど自分達が信心深いかを自慢しあった。第一の男「うちにはかまどが二つあるんだ。一つは肉料理のために。もう一つはミルク料理のためにね。」第二の男「うちはずっと信心深いから、肉の料理をする女中とミルクの料理をする女中の2人がいるんだ。」第三の男「うちこそ、一番敬謙な家庭だと思うよ。何しろ「肉」という言葉を口にしたら、6時間たった後でなければ「ミルク」という言葉を口にしないのだからね。」

身代わり

詩人フランケルは、詩作だけでは食べていけないので、ある文化団体の事務主任をしていた。ある時、事務員が一人死んだ。せっちな男がいて、自分をその代わりにと、さっそく頼みに来た。その時は埋葬もまだすんでいなかった。「お安い御用だがね」とフランケルは約束した。「だが、君のような大きな男を、果して私だけで棺の中に入れられるかどうか。」

地磁気の変化

大洪水と直接の関連がないように見えますが、今回は神が天地を創造された時の地球と現在の地球が異なっ

ているという点に関連しているので、地磁気の変化の問題について論じることにしたいと思います。

「神様はどうして毒蛇や毒グモなんか造られたのだろう」と、考えたことはありませんか。実は私も、これだけはどうしても理解できませんでした。しかし、創世記1章節で「神はお造りになった全てのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった」と書かれていることは間違いではありませんでした。神は、人間に全てのものを支配させようとして創造されました。その中には人間に害を及ぼすようなものはなかったはずで、ということ、やはり毒蛇や毒グモは、その後何かから進化して来たのではないか、と思われるかもしれません。やはり進化説が正しかったのだと。しかし、そうではありません。今、毒を持っている蛇やクモも、最初に神が創造された時には毒を持っていなかったのです。だから、全てのものは神の目に極めて良かったのです。では、なぜ今、毒蛇や毒グモが居るのでしょうか。

以前、生命の誕生の所でお話しましたが、動物の体はタンパク質できていて、タンパク質はアミノ酸の連鎖によってできています。実は蛇やクモの毒も、このタンパク質の一種なのです。そしてタンパク質のアミノ酸の連鎖に磁気が強い影響を及ぼすことが分かっています。私はウイクリフ聖書翻訳協会に奉仕していますが、毒蛇や毒グモのいる地域で奉仕するウイクリフの宣教師達は、ザッパーという簡易発電機を持って行きます。ザッパーは、電流は極めて微弱ですが、2万ボルトほどの高電圧を発生します。これを毒の入った傷口周辺に当てて電気を起こすと、多少ショックがありますが人体には影響なく、毒であるタンパク質のアミノ酸の連鎖は、この高電圧によって破壊され、毒が毒でなくなる、つまり解毒されるのです。ザッパーのお陰で毒蛇にかまれた人が、助かったという例が何件もあります。

これに関して、ある時、「地球の磁気は1400年毎に半減しているということですが」と、京都大学の地磁気研究所に問い合わせたところ、研究者の方から回答を頂きました。それによると、過去400年のデータを見ると、このまま推移すれば1000年以内に地球には磁気がなくなる可能性があるとのことでした。

聖書に拠れば、ノアの洪水は約4500年前に起こりました。そこで、この地磁気に関する情報を適用すれば、ノアの洪水当時の地磁気の強度は現在の約10倍です。この磁気強度では、現在クモなどの毒として存在するアミノ酸は、連鎖を形成しないということです。

つまり、洪水以前には毒を持った蛇やクモはいなかったのです。最初に述べたとおり、神がこれらの生き物を創造された時、それらは良かったのです。

ファイアーアントがどんどん北上して来ていると言います。以前はいなかった所まで来ていて、噛まれて被害に会う人が出ています。渡り鳥が渡る途中で方向を失って死んでしまったという話を聞くこともあります。なぜそのようなことが起こるのでしょうか。それは地磁気が弱くなっているからです。地磁気が弱くなっているためファイアーアントが活動できる範囲が広がっているのです。また渡り鳥の体内磁石が方向を探知できなくなっているのです。

私達の罪によって、人間社会が崩壊しつつあると同様に、大気や海洋汚染だけでなく、このような形で地球も物理的に崩壊しつつあります。黙示録は、これらの事はやがて起こるべきことだと言うことを私達に教えてくれています。イエス・キリストを信じる人々の上にも、このような苦難は襲います。しかし、キリストを信じる人には、そのような苦難の後に与えられる勝利と平安が約束されています。ハレルヤ!

片山進悟

「第一の天使がラッパを吹いた。すると血の混じった雹と火とが生じ、地上に投げ入れられた。地上の三分の一が焼け、木々の三分の一が焼け、すべての青草も焼けてしまった。第二の天使がラッパを吹いた。すると、火で燃えている大きな山のようなものが、海に投げ入れられた。海の三分の一が血に変わり、また被造物で海に住む生き物の三分の一は死に、船という船の三分の一が壊された。第三の天使がラッパを吹いた。すると、松明のように燃えている大きな星が、天から落ちて来て、川という川の三分の一と、その水源の上に落ちた。この星の名は「苦よもぎ」といい水の三分の一が苦よもぎのように苦くなって、そのために多くの人が死んだ。第四の天使がラッパを吹いた。すると太陽の三分の一、月の三分の一、星という星の三分の一が損なわれたので、それぞれ三分の一が暗くなって、昼はその光の三分の一を失い、夜も同じようになった。」（黙示録8章7節～12節）

お知らせ

毎月第2と第4火曜日9時半から、A240号室でエクレシアの会という、肩のこらない形での聖書の学びと楽しい交わりの集まりをしています。どなたでもお気軽にどうぞ。お問い合わせは片山姉704-843-8038まで。

日曜日午前9時半からA231号室で高見憲次兄による成人のための日曜学校、11時からR109号室でラブストランド牧師による礼拝、また月曜日午後7時からA238号室でラブストランド牧師による聖書の学が行われています。世界のベストセラー、聖書をご一緒に学びましょう。

今年もクリスマスにはJillybeanが来て、腹話術、奇術などの楽しいパフォーマンスを披露してくれます（英語です）。12月6日、土曜日午後4時半からをぜひ空けて置いて下さい。どうぞお友達もお誘い下さい。

「いのちの泉」は、シャーロット在住の日本人のコミュニケーションのための月刊紙を目指しています。皆さんも、どうぞ奮ってご参加下さい。お互いの向上に役立てるための趣旨に賛同して下さる内容であれば何でも結構です。Carmel Baptist ChurchのJapanese Ministry宛、または charlottejpn@hotmail.com にお願ひします。

編集者の一時帰国のため、11月は休刊させて頂きます。どうぞ12月号をお楽しみに。

カーメル・バプテスト教会
1145 Pineville-Matthews Rd.
Matthews, NC 28105
<http://ifc26.tripod.com>

モルモン教、エホバの証人（ものみの塔）、
統一教会とは関係のない、正統的なキリスト
教会です。安心して気軽においで下さい。

日本人ミニストリー連絡先：
李牧師（704-847-8575）
ラブストランド牧師（704-849-8851）
片山（704-843-6298）

いのちの泉

カメルバプテスト教会
日本人ミニストリー月報
2003年10号

街路樹が少しずつ色づいて来ました。一本の木の葉が緑から黄色、オレンジ色と変化のある様は、ため息が出るほど美しく、これからの朝歩きが楽しくなりました。これから暫くの間は、自然の織りなす微妙な美しさを随所に楽しむことでしょう。

皆様にはお変わりなくお過ごしでいらっしゃいますか。今月は16日に日本から岸義紘先生をお迎えし、サクソフオンのコンサートと、先生のお証しを伺うチャンスに恵まれました。集会には、日本人だけでなく、中国人、韓国人、アメリカ人と、多勢の方が集まって下さり、岸先生が心を込めて演奏されるサクソフオンの音色が染み透った心で、先生のユーモラスなお証しを聞くことができ、感謝でした。

実を申しますと、私はここ一ヶ月余り、祈ることも、聖書を手取ることもできず、毎月ハーベストタイムミニストリーが送ってくれるテープを観ることもできずに過ごして来たのですが、四、五日前、ハーベストタイムのテープを意を決して観ることになりました。(意を決して、という言葉はこの時の私にとって、決して大げさな言葉ではありません。) 9月号のそのテープには、中川健一先生が最近出版された「日本人に送る聖書ものがたり」という本の製作に携わられた、編集者と挿絵画家へのインタビューが入っていました。その二人が語られる言葉と、真の謙虚な姿に私は引きつけられるように、TVの画面に見入りました。三日間続けて観ることによって、私は自分の心の中の問題点を見つけることができました。といいますのも、私は最近、ノンクリスチャンの友人達と話す時に、「私の信仰なんてこの程度…」という言葉、何度か口にしておりました(そのつど心の中に何かを感じながら)。信仰を持つことは、自分で決めることかもしれませんが、(それでさえも、主に選ばれたことであるのですが)信仰を深めることは、勿論、聖書を学ぶこともあるでしょうが、聖霊の働きによるもの、主に引き上げられてあるものではないかと思いました。それなのに「私の信仰なんてこの程度…」とは、主に対してなんと不遜な言葉を吐いたものでしょう。ほんとうに謙虚な人に出会う時、人間は自分の傲慢さに気づくのでしょうか。祈りの中で、自分の愚かさを、傲慢さを、主に詫言いました。針の穴ほどの小さな小さな私にまで、目をそそいで下さり、諭して下さる主に、心から感謝しました。ハレルヤ!

(中藤百々代)



戦争中の私達 エペソ6章10節から20節

ジョエル・ラブストランド牧師

私は、かつて日本のテレビ番組を見て六十年代と七十年代の歌謡曲を聞きました。その中の一曲は、戦争の知らない新世代についての歌詞がありました。確かに、平和の時代に生きる事は大きな恵みですが、聖歌300番を見たら違うような歌詞が書いてあるのに気がつきます。そこに「進め主イエスの兵士らよ」という歌詞が入っています。その歌は、クリスチャン生活を戦争に喩えている訳です。あるアメリカの教会は、その歌詞が今の平和の時代に相応しくないから讚美歌集から除きました。しかしどうでしょうか。使徒パウロはよく軍隊に関する表現を使います。こんなに荒々しい表現を使う必要が本当にあるかと思われるかもしれませんが、戦争についての英語の言葉があります。

「War is hell」、訳すと「戦争は地獄だ」ということです。戦争は本当に怖くて苦しめるものです。しかし、私達の霊的な戦いは戦争と同じように敵がいて、その敵と戦う備えをしなければ、攻められる時戦おうとしても対抗できません。

ベトナム戦争の後でアメリカの軍隊が徴兵制度から志願制度に変わりました。冷戦がまだ続いていたので、時々週刊誌等に米軍の戦備はどうかという課題がのっていました。ロシアに攻められたら対抗できるでしょ

うか。自分の軍隊が強かったら敵に攻められないだろうし、攻められても勝つ事が出来るという風に考えられていました。

私達も戦備が必要です。霊的戦備が必要です。しかし私達の場合は、戦いを防ぐ為ではありません。クリスチャンなら必ずサタンに狙われます。戦わずをえないのです。イエスを信じたら、サタンの敵となります。キリストの兵士となりますから、アダムとエバが罪を犯した時、この世はサタンに支配されるようになりました。誘惑した蛇と人間が、神様に呪われてしまいました。しかし、神様は人間を見捨てはなさいませんでした。呪いと一緒に救い主の約束が加えられました。主なる神は、蛇に向かって言われた。「このようなことをしたお前は、あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で、呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に、わたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き、お前は彼のかかとを砕く。」(創世記3:14、15)

キリストが現れた時、神様のものをサタンの支配から取り返す事が始まりました。イエス様が罪を赦したり、悪霊を追い出したりしておられました。ヨハネの

福音書 12 章 3 1 節にこう言われます。「今こそ、この世が裁かれる時。今、この世の支配者が追放される。」（ヨハネ 12 : 3 1）罪人がイエスを信じたら、サタンの支配から神様の支配に移されます。こういうふうに神様の御国が広がります。イエス様を信じたら、神様と平和を持つ事になりながらサタンの敵になります。十字架の上でイエス様は人間をサタンの力から贖われました。イエス様は確かな勝利を得られましたが、御国は地上でまだ安全な形になっていません。サタンは、まだ暫くこの世の支配者です。第一コリント人への手紙にこういうふうに表現されています。「次いで、世の終わりが来ます。そのとき、キリストはすべての支配、すべての権威や勢力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます。」（コリント 1 15 : 2 4）

靈的には私達は今戦争中です。戦備はできていますか。今朝の聖書箇所は私達のサタンに対する戦いに何が必要かを教えています。ここに神の武具と呼ばれています。

では、この靈的な戦いにどんな武具が必要かを考える前に 1 2 節に注目してください。「わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。」（1 2）多くの場合、私たちは外面的な問題に注意を払いますが、靈的な事を忘れてしまいます。夫婦げんかをする時や自分を傷つけた人に対してうらみをもつ時、あるいはキリストチャンとして迫害される時、その人間の相手に対する戦いだと思い込んでしまいます。教会の中でも人間関係の問題にぶつかると、「あの人が悪い」と思って、サタンの策略に気がつかない事が多いと思います。しかし、1 2 節によると、「私達の格闘は・・・」私達の格闘はサタンと悪霊どもに対するものです。サタンは色々な状況の中で私達の弱い所を狙って誘惑します。それで 1 3 節に書いてあるように神の武具が役に立ちます。

では神の武具というのは何でしょうか。1 4 節から 1 7 節まで色々なものが述べられています。最初に 1 4 節に真理の帯という武具があります。パウロはこういう武具をリストアップした時、おそらくローマ兵と鎖につながれていました。その兵士の武具を見たら旧約聖書の御言葉を思い出すでしょう。実は、この真理の帯という文句はイザヤ書 1 1 章 5 節に書かれた文句とほとんど同じです。イザヤ書の場合は、正義の帯と真実の帯という言葉はその人の性質を表す表現です。エペソ人への手紙の場合も自分の性質を表す言葉でしょう。しかし、この真理は自分の知識によるものではありません。神様の絶対的な真理です。

この真理の帯を身につけるのに聖書を勉強する必要があります。しかし、真理の帯を身につける事は、真理を知る事だけでなく、**真理を??** と真理によって生きる事も含まれていると思います。

次の武具は、1 4 節の終わりに書いてある正義の胸当てです。これはイザヤ 5 9 章 1 7 節からの引用です。その箇所には、神様は御自分の正義によって裁きと救

いをもたらしました。私達はイエス様を信じたらそのいけにえのゆえに、イエス様の義を与えられました。神様に義と認められます。しかし、この手紙はキリストチャンに対して書かれた物なので、この正義は与えられた絶対的な義だけではないと思います。日常生活の中での義による生き方も大切だと教えられています。神様に義と認めて頂いたら日常生活はどうでもいいと思う事は大きな間違いです。そう思っていたら、悪魔に左右されやすくなります。

三つ目の武具は平和の福音の備えです。これは兵士の靴です。「どうして戦争中の私たちに平和の福音の備えが必要なのだろう」と思われるかも知れません。キリストチャンになる時、サタンと戦うようになるとしたら、どういう意味で「平和の福音」と呼ばれているのでしょうか。外面的に平和がないかも知れません。マタイによる福音書 10 節 3 4 - 3 5 節にイエス様は言われました。「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思っはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。わたしは敵対させるために来たからである。人をその父に、／娘を母に、／嫁をしゅうとめに。」（マタイ 10 : 3 4 - 3 5）サタンの敵となったらサタンの支配にある人々にぶつかってしまう事がよくあります。しかし、心の中で平安があります。ローマ書 5 章 1 節に「このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、（ローマ 5 : 1）」と書いてあります。この平和の福音を伝える特権が私達に与えられました。第二コリント 5 章 1 8 - 1 9 節を御覧ください。「これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。」（コリント 2 5 : 1 8 - 1 9）パウロと同じ様に、私達はこの平和の福音を伝える事が出来ます。そうするとイザヤ書 5 2 章 7 節の御言葉は私達に当て嵌まります。「いかに美しいことか／山々を歩き巡り、良い知らせを伝える者の足は。彼は平和を告げ、恵みの良い知らせを伝え／救いを告げ／あなたの神は王となられた、と／シオンに向かって呼ばれる。」（イザヤ 5 2 : 7）福音を伝える用意をしようではありませんか。これは本当に素晴らしい特権です。第一ペテロ 3 章 1 5 節を御覧ください。「心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。」（ペテロ 1 3 : 1 5）正しい態度をもって弁明する事は難しいですね。続けて 1 6 節をお読みします。「それも、穏やかに、敬意をもって、正しい良心で、弁明するようにしなさい。そうすれば、キリストに結ばれたあなたがたの善い生活をののしる者たちは、悪

口を言ったことで恥じ入るようになるのです。」（ペテロ 1 3 : 16）

それでは、本文に戻りましょう。エペソ6章16節に四つ目の武具が見つかります。信仰の大盾です。

「なおその上に、信仰を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことができるのです。」（エペソ6 : 16）サタンは、私達を神様から引き離そうをしています。神様の愛を疑わせようとします。「神様はあなたを本当に愛していたら、こんなにひどい目にあわせないだろう」とか「神様はあなたの事を忘れたんだよ。もう神様に仕えるのをやめた方がいい」とか、色々なうそをつきますが、私達の信仰がしっかりしていたらそういう思いがあっても、心の中で燃えるようになりません。質のいい盾に当たる火矢のように消えてしまいます。当時のローマ兵の大盾は長方形でした。高さは1メートル以上で幅はその半分でした。木で作られていて表面に固い皮が張ってありました。盾につなぎがあったのでほかの盾とつなぎ合わせる事ができました。そうすると、兵士がみんな一緒に進む事が出来ました。私達も互いの信仰を強めます。教会が一致していたら一緒にサタンに対して進む事が出来ます。

では、次の武具は何でしょうか。17節を御覧ください。「また、救いを兜としてかぶり、霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」（17）救いのかぶとという神の武具は、実は先程読ませていただいたイザヤ59章17節にもなっています。「主は恵みの御業を鎧としてまとい／救いを兜としてかぶり、報復を衣としてまとい／熱情を上着として身を包まれた。」

（イザヤ59 : 17）神様は救われる必要がないので、神様の場合は救われる事でなく、人を救うことを意味します。パウロの場合は多分、ちょっと違う意味で言っているのではないかと思います。つまり私達は救わ

れたのでサタンに攻められても、死に至るような負傷が決して与えられません。この兜を被らないでサタンと戦おうとするのは愚かな事です。使徒の働き19章13節から17節までお読みください。このスケワの息子たちは、自分が救われていないのにほかの人をサタンの力から救おうとしていました。しかしそれは無理でした。自分をさえ救う事が出来ませんでした。私達はイエス様によって救われたという確信をもっていたらほかの人を助ける事が可能となります。神様の子供としての権威をもって大胆にサタンと戦う事ができます。

そして、最後の武具は本文の17節に書いてあります。「霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」

（17b）。先週、陳先生はこの御霊の与え剣である御言葉についてメッセージをされました。私達はイエス様のように御言葉を使ってサタンに対して戦う事ができればいいですね。私たちも御言葉を心に留めていたらサタンの誘惑に対抗できます。詩篇119篇11節に「あなたに罪を犯さない為、私はあなたのことばを心にたくわえました。」と書いてあります。私たちは御言葉を覚えて適用出来れば出来る程、よりよいキリストの兵士になります。「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましい？と霊、間接と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心の色々な考えやばかりごとを判別することができます。」（ヘブル4 : 12）

今、戦争中です。私達の敵サタンは神様の子供達を憎んで、私達を滅ぼそうとしています。戦備が出来ていますか。神の武具、つまり真理の帯、正義の胸当て、平和の福音の備え、信仰の大盾、救いのかぶと、御霊の剣である御言葉、全部身に着けていますか。身に着けて大胆に戦いましょう。

お祈りしましょう。

心のマッサージ

ユダヤ笑話集 社会思想社三浦鞠郎著

自慢

ユダヤ社会では、肉の料理を食べた後、6時間以内にミルクの入った料理を食べてはいけない、という決まりがある。三人のユダヤ人がある時、どれほど自分達が信心深いかを自慢しあった。第一の男「うちにはかまどが二つあるんだ。一つは肉料理のために。もう一つはミルク料理のためにね。」第二の男「うちはもっと信心深いから、肉の料理をする女中とミルクの料理をする女中の2人がいるんだ。」第三の男「うちこそ、一番敬謙な家庭だと思うよ。何しろ「肉」という言葉を口にしたら、6時間たった後でなければ「ミルク」という言葉を口にしないのだからね。」

身代わり

詩人フランケルは、詩作だけでは食べていけないので、ある文化団体の事務主任をしていた。ある時、事務員が一人死んだ。せっちな男がいて、自分をその代わりにと、さっそく頼みに来た。その時は埋葬もまだすんでいなかった。「お安い御用だがね」とフランケルは約束した。「だが、君のような大きな男を、果して私だけで棺の中に入れられるかどうか。」

地磁気の変化

大洪水と直接の関連がないように見えますが、今回は神が天地を創造された時の地球と現在の地球が異なっ

ているという点に関連しているので、地磁気の変化の問題について論じることにしたいと思います。

「神様はどうして毒蛇や毒グモなんか造られたのだろう」と、考えたことはありませんか。実は私も、これだけではどうしても理解できませんでした。しかし、創世記1章節で「神はお造りになった全てのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった」と書かれていることは間違いではありませんでした。神は、人間に全てのものを支配させようとして創造されました。その中には人間に害を及ぼすようなものはなかったはずで、ということ、やはり毒蛇や毒グモは、その後何かから進化して来たのではないか、と思われるかもしれません。やはり進化説が正しかったのだと。しかし、そうではありません。今、毒を持っている蛇やクモも、最初に神が創造された時には毒を持っていなかったのです。だから、全てのものは神の目に極めて良かったのです。では、なぜ今、毒蛇や毒グモが居るのでしょうか。

以前、生命の誕生の所でお話しましたが、動物の体はタンパク質できていて、タンパク質はアミノ酸の連鎖によってできています。実は蛇やクモの毒も、このタンパク質の一種なのです。そしてタンパク質のアミノ酸の連鎖に磁気が強い影響を及ぼすことが分かっています。私はウイクリフ聖書翻訳協会に奉仕していますが、毒蛇や毒グモのいる地域で奉仕するウイクリフの宣教師達は、ザッパーという簡易発電機を持って行きます。ザッパーは、電流は極めて微弱ですが、2万ボルトほどの高電圧を発生します。これを毒の入った傷口周辺に当てて電気を起こすと、多少ショックがありますが人体には影響なく、毒であるタンパク質のアミノ酸の連鎖は、この高電圧によって破壊され、毒が毒でなくなる、つまり解毒されるのです。ザッパーのお陰で毒蛇にかまれた人が、助かったという例が何件もあります。

これに関して、ある時、「地球の磁気は1400年毎に半減しているということですが」と、京都大学の地磁気研究所に問い合わせたところ、研究者の方から回答を頂きました。それによると、過去400年のデータを見ると、このまま推移すれば1000年以内に地球には磁気がなくなる可能性があるとのことでした。

聖書に拠れば、ノアの洪水は約4500年前に起こりました。そこで、この地磁気に関する情報を適用すれば、ノアの洪水当時の地磁気の強度は現在の約10倍です。この磁気強度では、現在クモなどの毒として存在するアミノ酸は、連鎖を形成しないということです。

つまり、洪水以前には毒を持った蛇やクモはいなかったのです。最初に述べたとおり、神がこれらの生き物を創造された時、それらは良かったのです。

ファイアーアントがどんどん北上して来ていると言います。以前はいなかった所まで来ていて、噛まれて被害に会う人が出ています。渡り鳥が渡る途中で方向を失って死んでしまったという話を聞くこともあります。なぜそのようなことが起こるのでしょうか。それは地磁気が弱くなっているからです。地磁気が弱くなっているためファイアーアントが活動できる範囲が広がっているのです。また渡り鳥の体内磁石が方向を探知できなくなっているのです。

私達の罪によって、人間社会が崩壊しつつあると同様に、大気や海洋汚染だけでなく、このような形で地球も物理的に崩壊しつつあります。黙示録は、これらの事はやがて起こるべきことだと言うことを私達に教えてくれています。イエス・キリストを信じる人々の上にも、このような苦難は襲います。しかし、キリストを信じる人には、そのような苦難の後に与えられる勝利と平安が約束されています。ハレルヤ!

片山進悟

「第一の天使がラッパを吹いた。すると血の混じった雹と火とが生じ、地上に投げ入れられた。地上の三分の一が焼け、木々の三分の一が焼け、すべての青草も焼けてしまった。第二の天使がラッパを吹いた。すると、火で燃えている大きな山のようなものが、海に投げ入れられた。海の三分の一が血に変わり、また被造物で海に住む生き物の三分の一は死に、船という船の三分の一が壊された。第三の天使がラッパを吹いた。すると、松明のように燃えている大きな星が、天から落ちて来て、川という川の三分の一と、その水源の上に落ちた。この星の名は「苦よもぎ」といい水の三分の一が苦よもぎのように苦くなって、そのために多くの人々が死んだ。第四の天使がラッパを吹いた。すると太陽の三分の一、月の三分の一、星という星の三分の一が損なわれたので、それぞれ三分の一が暗くなって、昼はその光の三分の一を失い、夜も同じようになった。」(黙示録8章7節～12節)

お知らせ

毎月第2と第4火曜日9時半から、A240号室でエクレシアの会という、肩のこらない形での聖書の学びと楽しい交わりの集まりをしています。どなたでもお気軽にどうぞ。お問い合わせは片山姉704-843-8038まで。

日曜日午前9時半からA231号室で高見憲次兄による成人のための日曜学校、11時からR109号室でラブストランド牧師による礼拝、また月曜日午後7時からA238号室でラブストランド牧師による聖書の学が行われています。世界のベストセラー、聖書をご一緒に学びましょう。

今年もクリスマスにはJillybeanが来て、腹話術、奇術などの楽しいパフォーマンスを披露してくれます（英語です）。12月6日、土曜日午後4時半からをぜひ空けて置いて下さい。どうぞお友達もお誘い下さい。

「いのちの泉」は、シャーロット在住の日本人のコミュニケーションのための月刊紙を目指しています。皆さんも、どうぞ奮ってご参加下さい。お互いの向上に役立てるための趣旨に賛同して下さる内容であれば何でも結構です。Carmel Baptist ChurchのJapanese Ministry宛、または charlottejpn@hotmail.com にお願ひします。

編集者の一時帰国のため、11月は休刊させて頂きます。どうぞ12月号をお楽しみに。

カーメル・バプテスト教会
1145 Pineville-Matthews Rd.
Matthews, NC 28105
<http://ifc26.tripod.com>

モルモン教、エホバの証人（ものみの塔）、
統一教会とは関係のない、正統的なキリスト
教会です。安心して気軽においで下さい。

日本人ミニストリー連絡先：
李牧師（704-847-8575）
ラブストランド牧師（704-849-8851）
片山（704-843-6298）

いのちの泉

カメルバプテスト教会
日本人ミニストリー月報
2003年10号

街路樹が少しずつ色づいて来ました。一本の木の葉が緑から黄色、オレンジ色と変化のある様は、ため息が出るほど美しく、これからの朝歩きが楽しくなりました。これから暫くの間は、自然の織りなす微妙な美しさを随所に楽しむことでしょう。

皆様にはお変わりなくお過ごしでいらっしゃいますか。今月は16日に日本から岸義紘先生をお迎えし、サクソフオンのコンサートと、先生のお証しを伺うチャンスに恵まれました。集会には、日本人だけでなく、中国人、韓国人、アメリカ人と、多勢の方が集まって下さり、岸先生が心を込めて演奏されるサクソフオンの音色が染み透った心で、先生のユーモラスなお証しを聞くことができ、感謝でした。

実を申しますと、私はここ一ヶ月余り、祈ることも、聖書を手取ることもできず、毎月ハーベストタイムミニストリーが送ってくれるテープを観ることもできずに過ごして来たのですが、四、五日前、ハーベストタイムのテープを意を決して観ることになりました。(意を決して、という言葉はこの時の私にとって、決して大げさな言葉ではありません。) 9月号のそのテープには、中川健一先生が最近出版された「日本人に送る聖書ものがたり」という本の製作に携わられた、編集者と挿絵画家へのインタビューが入っていました。その二人が語られる言葉と、真の謙虚な姿に私は引きつけられるように、TVの画面に見入りました。三日間続けて観ることによって、私は自分の心の中の問題点を見つけることができました。といいますのも、私は最近、ノンクリスチャンの友人達と話す時に、「私の信仰なんてこの程度...」という言葉、何度か口にしておりました(そのつど心の中に何かを感じながら)。信仰を持つことは、自分で決めることかもしれませんが、(それでさえも、主に選ばれたことであるのですが)信仰を深めることは、勿論、聖書を学ぶこともあるでしょうが、聖霊の働きによるもの、主に引き上げられてあるものではないかと思いました。それなのに「私の信仰なんてこの程度...」とは、主に対してなんと不遜な言葉を吐いたものでしょう。ほんとうに謙虚な人に出会う時、人間は自分の傲慢さに気づくのでしょうか。祈りの中で、自分の愚かさを、傲慢さを、主に詫言いました。針の穴ほどの小さな小さな私にまで、目をそそいで下さり、諭して下さる主に、心から感謝しました。ハレルヤ!

(中藤百々代)



戦争中の私達 エペソ6章10節から20節

ジョエル・ラブストランド牧師

私は、かつて日本のテレビ番組を見て六十年代と七十年代の歌謡曲を聞きました。その中の一曲は、戦争の知らない新世代についての歌詞がありました。確かに、平和の時代に生きる事は大きな恵みですが、聖歌300番を見たら違うような歌詞が書いてあるのに気がつきます。そこに「進め主イエスの兵士らよ」という歌詞が入っています。その歌は、クリスチャン生活を戦争に喩えている訳です。あるアメリカの教会は、その歌詞が今の平和の時代に相応しくないから讚美歌集から除きました。しかしどうでしょうか。使徒パウロはよく軍隊に関する表現を使います。こんなに荒々しい表現を使う必要が本当にあるかと思われるかもしれませんが、戦争についての英語の言葉があります。

「War is hell」、訳すと「戦争は地獄だ」ということです。戦争は本当に怖くて苦しめるものです。しかし、私達の霊的な戦いは戦争と同じように敵がいて、その敵と戦う備えをしなければ、攻められる時戦おうとしても対抗できません。

ベトナム戦争の後でアメリカの軍隊が徴兵制度から志願制度に変わりました。冷戦がまだ続いていたので、時々週刊誌等に米軍の戦備はどうかという課題がのっていました。ロシアに攻められたら対抗できるでしょ

うか。自分の軍隊が強かったら敵に攻められないだろうし、攻められても勝つ事が出来るという風に考えられていました。

私達も戦備が必要です。霊的戦備が必要です。しかし私達の場合は、戦いを防ぐ為ではありません。クリスチャンなら必ずサタンに狙われます。戦わずをえないのです。イエスを信じたら、サタンの敵となります。キリストの兵士となりますから、アダムとエバが罪を犯した時、この世はサタンに支配されるようになりました。誘惑した蛇と人間が、神様に呪われてしまいました。しかし、神様は人間を見捨てはなさいませんでした。呪いと一緒に救い主の約束が加えられました。主なる神は、蛇に向かって言われた。「このようなことをしたお前は、あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で、呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に、わたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き、お前は彼のかかとを砕く。」(創世記3:14、15)

キリストが現れた時、神様のものをサタンの支配から取り返す事が始まりました。イエス様が罪を赦したり、悪霊を追い出したりしておられました。ヨハネの

福音書 12 章 3 1 節にこう言われます。「今こそ、この世が裁かれる時。今、この世の支配者が追放される。」（ヨハネ 12 : 3 1）罪人がイエスを信じたら、サタンの支配から神様の支配に移されます。こういうふうに神様の御国が広がります。イエス様を信じたら、神様と平和を持つ事になりながらサタンの敵になります。十字架の上でイエス様は人間をサタンの力から贖われました。イエス様は確かな勝利を得られましたが、御国は地上でまだ安全な形になっていません。サタンは、まだ暫くこの世の支配者です。第一コリント人への手紙にこういうふうに表現されています。「次いで、世の終わりが来ます。そのとき、キリストはすべての支配、すべての権威や勢力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます。」（コリント 1 15 : 2 4）

靈的には私達は今戦争中です。戦備はできていますか。今朝の聖書箇所は私達のサタンに対する戦いに何が必要かを教えています。ここに神の武具と呼ばれています。

では、この靈的な戦いにどんな武具が必要かを考える前に 1 2 節に注目してください。「わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。」（1 2）多くの場合、私たちは外面的な問題に注意を払いますが、靈的な事を忘れてしまいます。夫婦げんかをする時や自分を傷つけた人に対してうらみをもつ時、あるいはキリストチャンとして迫害される時、その人間の相手に対する戦いだと思い込んでしまいます。教会の中でも人間関係の問題にぶつかると、「あの人が悪い」と思って、サタンの策略に気がつかない事が多いと思います。しかし、1 2 節によると、「私達の格闘は・・・」私達の格闘はサタンと悪霊どもに対するものです。サタンは色々な状況の中で私達の弱い所を狙って誘惑します。それで 1 3 節に書いてあるように神の武具が役に立ちます。

では神の武具というのは何でしょうか。1 4 節から 1 7 節まで色々なものが述べられています。最初に 1 4 節に真理の帯という武具があります。パウロはこういう武具をリストアップした時、おそらくローマ兵と鎖につながっていました。その兵士の武具を見たら旧約聖書の御言葉を思い出すでしょう。実は、この真理の帯という文句はイザヤ書 1 1 章 5 節に書かれた文句とほとんど同じです。イザヤ書の場合は、正義の帯と真実の帯という言葉はその人の性質を表す表現です。エペソ人への手紙の場合も自分の性質を表す言葉でしょう。しかし、この真理は自分の知識によるものではありません。神様の絶対的な真理です。

この真理の帯を身につけるのに聖書を勉強する必要があります。しかし、真理の帯を身につける事は、真理を知る事だけでなく、**真理を??** と真理によって生きる事も含まれていると思います。

次の武具は、1 4 節の終わりに書いてある正義の胸当てです。これはイザヤ 5 9 章 1 7 節からの引用です。その箇所には、神様は御自分の正義によって裁きと救

いをもたらしました。私達はイエス様を信じたらそのいけにえのゆえに、イエス様の義を与えられました。神様に義と認められます。しかし、この手紙はキリストチャンに対して書かれた物なので、この正義は与えられた絶対的な義だけではないと思います。日常生活の中での義による生き方も大切だと教えられています。神様に義と認めて頂いたら日常生活はどうでもいいと思う事は大きな間違いです。そう思っていたら、悪魔に左右されやすくなります。

三つ目の武具は平和の福音の備えです。これは兵士の靴です。「どうして戦争中の私たちに平和の福音の備えが必要なのだろう」と思われるかも知れません。キリストチャンになる時、サタンと戦うようになるとしたら、どういう意味で「平和の福音」と呼ばれているのでしょうか。外面的に平和がないかも知れません。マタイによる福音書 10 節 3 4 - 3 5 節にイエス様は言われました。「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思っはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。わたしは敵対させるために来たからである。人をその父に、／娘を母に、／嫁をしゅうとめに。」（マタイ 10 : 3 4 - 3 5）サタンの敵となったらサタンの支配にある人々にぶつかってしまう事がよくあります。しかし、心の中で平安があります。ローマ書 5 章 1 節に「このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、（ローマ 5 : 1）」と書いてあります。この平和の福音を伝える特権が私達に与えられました。第二コリント 5 章 1 8 - 1 9 節を御覧ください。「これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。」（コリント 2 5 : 1 8 - 1 9）パウロと同じ様に、私達はこの平和の福音を伝える事が出来ます。そうするとイザヤ書 5 2 章 7 節の御言葉は私達に当て嵌まります。「いかに美しいことか／山々を歩き巡り、良い知らせを伝える者の足は。彼は平和を告げ、恵みの良い知らせを伝え／救いを告げ／あなたの神は王となられた、と／シオンに向かって呼ばれる。」（イザヤ 5 2 : 7）福音を伝える用意をしようではありませんか。これは本当に素晴らしい特権です。第一ペテロ 3 章 1 5 節を御覧ください。「心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。」（ペテロ 1 3 : 1 5）正しい態度をもって弁明する事は難しいですね。続けて 1 6 節をお読みします。「それも、穏やかに、敬意をもって、正しい良心で、弁明するようにしなさい。そうすれば、キリストに結ばれたあなたがたの善い生活をののしる者たちは、悪

口を言ったことで恥じ入るようになるのです。」（ペテロ 1 3 : 16）

それでは、本文に戻りましょう。エペソ6章16節に四つ目の武具が見つかります。信仰の大盾です。

「なおその上に、信仰を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことができるのです。」（エペソ6 : 16）サタンは、私達を神様から引き離そうをしています。神様の愛を疑わせようとします。「神様はあなたを本当に愛していたら、こんなにひどい目にあわせないだろう」とか「神様はあなたの事を忘れたんだよ。もう神様に仕えるのをやめた方がいい」とか、色々なうそをつきますが、私達の信仰がしっかりしていたらそういう思いがあっても、心の中で燃えるようになりません。質のいい盾に当たる火矢のように消えてしまいます。当時のローマ兵の大盾は長方形でした。高さは1メートル以上で幅はその半分でした。木で作られていて表面に固い皮が張ってありました。盾につなぎがあったのでほかの盾とつなぎ合わせる事ができました。そうすると、兵士がみんな一緒に進む事が出来ました。私達も互いの信仰を強めます。教会が一致していたら一緒にサタンに対して進む事が出来ます。

では、次の武具は何でしょうか。17節を御覧ください。「また、救いを兜としてかぶり、霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」（17）救いのかぶとという神の武具は、実は先程読ませていただいたイザヤ59章17節にもなっています。「主は恵みの御業を鎧としてまとい／救いを兜としてかぶり、報復を衣としてまとい／熱情を上着として身を包まれた。」（イザヤ59 : 17）神様は救われる必要がないので、神様の場合は救われる事でなく、人を救うことを意味します。パウロの場合は多分、ちょっと違う意味で言っているのではないかと思います。つまり私達は救わ

心のマッサージ

ユダヤ笑話集 社会思想社三浦鞠郎著

自慢

ユダヤ社会では、肉の料理を食べた後、6時間以内にミルクの入った料理を食べてはいけない、という決まりがある。三人のユダヤ人がある時、どれほど自分達が信心深いかを自慢しあった。第一の男「うちにはかまどが二つあるんだ。一つは肉料理のために。もう一つはミルク料理のためにね。」第二の男「うちはもっと信心深いから、肉の料理をする女中とミルクの料理をする女中の2人がいるんだ。」第三の男「うちこそ、一番敬謙な家庭だと思うよ。何しろ「肉」という言葉を口にしたら、6時間たった後でなければ「ミルク」という言葉を口にしないのだからね。」

身代わり

詩人フランケルは、詩作だけでは食べていけないので、ある文化団体の事務主任をしていた。ある時、事務員が一人死んだ。せっちな男がいて、自分をその代わりにと、さっそく頼みに来た。その時は埋葬もまだすんでいなかった。「お安い御用だがね」とフランケルは約束した。「だが、君のような大きな男を、果して私だけで棺の中に入れられるかどうか。」

地磁気の変化

大洪水と直接の関連がないように見えますが、今回は神が天地を創造された時の地球と現在の地球が異なっ

れたのでサタンに攻められても、死に至るような負傷が決して与えられません。この兜を被らないでサタンと戦おうとするのは愚かな事です。使徒の働き19章13節から17節までお読みください。このスケワの息子たちは、自分が救われていないのにほかの人をサタンの力から救おうとしていました。しかしそれは無理でした。自分をさえ救う事が出来ませんでした。私達はイエス様によって救われたという確信をもっていたらほかの人を助ける事が可能となります。神様の子供としての権威をもって大胆にサタンと戦う事ができます。

そして、最後の武具は本文の17節に書いてあります。「霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」

（17b）。先週、陳先生はこの御霊の与え剣である御言葉についてメッセージをされました。私達はイエス様のように御言葉を使ってサタンに対して戦う事ができたらいいですね。私たちも御言葉を心に留めていたらサタンの誘惑に対抗できます。詩篇119篇11節に「あなたに罪を犯さない為、私はあなたのことばを心にたくわえました。」と書いてあります。私たちは御言葉を覚えて適用出来れば出来る程、よりよいキリストの兵士になります。「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましい？と霊、間接と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心の色々な考えやばかりごとを判別することができます。」（ヘブル4 : 12）

今、戦争中です。私達の敵サタンは神様の子供達を憎んで、私達を滅ぼそうとしています。戦備が出来ていますか。神の武具、つまり真理の帯、正義の胸当て、平和の福音の備え、信仰の大盾、救いのかぶと、御霊の剣である御言葉、全部身に着けていますか。身に着けて大胆に戦いましょう。

お祈りしましょう。

「神様はどうして毒蛇や毒グモなんか造られたのだろう」と、考えたことはありませんか。実は私も、これだけはどうしても理解できませんでした。しかし、創世記1章節で「神はお造りになった全てのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった」と書かれていることは間違いではありませんでした。神は、人間に全てのものを支配させようとして創造されました。その中には人間に害を及ぼすようなものはなかったはずで、ということ、やはり毒蛇や毒グモは、その後何かから進化して来たのではないか、と思われるかもしれません。やはり進化説が正しかったのだと。しかし、そうではありません。今、毒を持っている蛇やクモも、最初に神が創造された時には毒を持っていなかったのです。だから、全てのものは神の目に極めて良かったのです。では、なぜ今、毒蛇や毒グモが居るのでしょうか。

以前、生命の誕生の所でお話しましたが、動物の体はタンパク質できていて、タンパク質はアミノ酸の連鎖によってできています。実は蛇やクモの毒も、このタンパク質の一種なのです。そしてタンパク質のアミノ酸の連鎖に磁気が強い影響を及ぼすことが分かっています。私はウイクリフ聖書翻訳協会に奉仕していますが、毒蛇や毒グモのいる地域で奉仕するウイクリフの宣教師達は、ザッパーという簡易発電機を持って行きます。ザッパーは、電流は極めて微弱ですが、2万ボルトほどの高電圧を発生します。これを毒の入った傷口周辺に当てて電気を起こすと、多少ショックがありますが人体には影響なく、毒であるタンパク質のアミノ酸の連鎖は、この高電圧によって破壊され、毒が毒でなくなる、つまり解毒されるのです。ザッパーのお陰で毒蛇にかまれた人が、助かったという例が何件もあります。

これに関して、ある時、「地球の磁気は1400年毎に半減しているということですが」と、京都大学の地磁気研究所に問い合わせたところ、研究者の方から回答を頂きました。それによると、過去400年のデータを見ると、このまま推移すれば1000年以内に地球には磁気がなくなる可能性があるとのことでした。

聖書に拠れば、ノアの洪水は約4500年前に起こりました。そこで、この地磁気に関する情報を適用すれば、ノアの洪水当時の地磁気の強度は現在の約10倍です。この磁気強度では、現在クモなどの毒として存在するアミノ酸は、連鎖を形成しないということです。

つまり、洪水以前には毒を持った蛇やクモはいなかったのです。最初に述べたとおり、神がこれらの生き物を創造された時、それらは良かったのです。

ファイアーアントがどんどん北上して来ていると言います。以前はいなかった所まで来ていて、噛まれて被害に会う人が出ています。渡り鳥が渡る途中で方向を失って死んでしまったという話を聞くこともあります。なぜそのようなことが起こるのでしょうか。それは地磁気が弱くなっているからです。地磁気が弱くなっているためファイアーアントが活動できる範囲が広がっているのです。また渡り鳥の体内磁石が方向を探知できなくなっているのです。

私達の罪によって、人間社会が崩壊しつつあると同様に、大気や海洋汚染だけでなく、このような形で地球も物理的に崩壊しつつあります。黙示録は、これらの事はやがて起こるべきことだと言うことを私達に教えてくれています。イエス・キリストを信じる人々の上にも、このような苦難は襲います。しかし、キリストを信じる人には、そのような苦難の後に与えられる勝利と平安が約束されています。ハレルヤ!

片山進悟

「第一の天使がラッパを吹いた。すると血の混じった雹と火とが生じ、地上に投げ入れられた。地上の三分の一が焼け、木々の三分の一が焼け、すべての青草も焼けてしまった。第二の天使がラッパを吹いた。すると、火で燃えている大きな山のようなものが、海に投げ入れられた。海の三分の一が血に変わり、また被造物で海に住む生き物の三分の一は死に、船という船の三分の一が壊された。第三の天使がラッパを吹いた。すると、松明のように燃えている大きな星が、天から落ちて来て、川という川の三分の一と、その水源の上に落ちた。この星の名は「苦よもぎ」といい水の三分の一が苦よもぎのように苦くなって、そのために多くの人が死んだ。第四の天使がラッパを吹いた。すると太陽の三分の一、月の三分の一、星という星の三分の一が損なわれたので、それぞれ三分の一が暗くなって、昼はその光の三分の一を失い、夜も同じようになった。」（黙示録8章7節～12節）

お知らせ

毎月第2と第4火曜日9時半から、A240号室でエクレシアの会という、肩のこらない形での聖書の学びと楽しい交わりの集まりをしています。どなたでもお気軽にどうぞ。お問い合わせは片山姉704-843-8038まで。

日曜日午前9時半からA231号室で高見憲次兄による成人のための日曜学校、11時からR109号室でラブストランド牧師による礼拝、また月曜日午後7時からA238号室でラブストランド牧師による聖書の学が行われています。世界のベストセラー、聖書をご一緒に学びましょう。

今年もクリスマスにはJillybeanが来て、腹話術、奇術などの楽しいパフォーマンスを披露してくれます（英語です）。12月6日、土曜日午後4時半からをぜひ空けて置いて下さい。どうぞお友達もお誘い下さい。

「いのちの泉」は、シャーロット在住の日本人のコミュニケーションのための月刊紙を目指しています。皆さんも、どうぞ奮ってご参加下さい。お互いの向上に役立てるための趣旨に賛同して下さる内容であれば何でも結構です。Carmel Baptist ChurchのJapanese Ministry宛、または charlottejpn@hotmail.com にお願ひします。

編集者の一時帰国のため、11月は休刊させて頂きます。どうぞ12月号をお楽しみに。

カーメル・バプテスト教会
1145 Pineville-Matthews Rd.
Matthews, NC 28105
<http://ifc26.tripod.com>

モルモン教、エホバの証人（ものみの塔）、
統一教会とは関係のない、正統的なキリスト
教会です。安心して気軽においで下さい。

日本人ミニストリー連絡先：
李牧師（704-847-8575）
ラブストランド牧師（704-849-8851）
片山（704-843-6298）

いのちの泉

カーメルバプテスト教会
日本人ミニストリー月報
2003年10号

街路樹が少しずつ色づいて来ました。一本の木の葉が緑から黄色、オレンジ色と変化のある様は、ため息が出るほど美しく、これからの朝歩きが楽しくなりました。これから暫くの間は、自然の織りなす微妙な美しさを随所に楽しむことでしょう。

皆様にはお変わりなくお過ごしでいらっしゃいますか。今月は16日に日本から岸義紘先生をお迎えし、サクソフオンのコンサートと、先生のお証しを伺うチャンスに恵まれました。集会には、日本人だけでなく、中国人、韓国人、アメリカ人と、多勢の方が集まって下さり、岸先生が心を込めて演奏されるサクソフオンの音色が染み透った心で、先生のユーモラスなお証しを聞くことができ、感謝でした。

実を申しますと、私はここ一ヶ月余り、祈ることも、聖書を手取ることもできず、毎月ハーベストタイムミニストリーが送ってくれるテープを観ることもできずに過ごして来たのですが、四、五日前、ハーベストタイムのテープを意を決して観ることになりました。(意を決して、という言葉はこの時の私にとって、決して大げさな言葉ではありません。) 9月号のそのテープには、中川健一先生が最近出版された「日本人に送る聖書ものがたり」という本の製作に携わられた、編集者と挿絵画家へのインタビューが入っていました。その二人が語られる言葉と、真の謙虚な姿に私は引きつけられるように、TVの画面に見入りました。三日間続けて観ることによって、私は自分の心の中の問題点を見つけることができました。といたしますのも、私は最近、ノンクリスチャンの友人達と話す時に、「私の信仰なんてこの程度…」という言葉、何度か口にしておりました(そのつど心の中に何かを感じながら)。信仰を持つことは、自分で決めることかもしれませんが、(それでさえも、主に選ばれたことであるのですが)信仰を深めることは、勿論、聖書を学ぶこともあるでしょうが、聖霊の働きによるもの、主に引き上げられてあるものではないかと思いました。それなのに「私の信仰なんてこの程度…」とは、主に対してなんと不遜な言葉を吐いたものでしょう。ほんとうに謙虚な人に出会う時、人間は自分の傲慢さに気づくのでしょうか。祈りの中で、自分の愚かさを、傲慢さを、主に詫言いました。針の穴ほどの小さな小さな私にまで、目をそそいで下さり、諭して下さる主に、心から感謝しました。ハレルヤ!

(中藤百々代)



戦争中の私達 エペソ6章10節から20節

ジョエル・ラブストランド牧師

私は、かつて日本のテレビ番組を見て六十年代と七十年代の歌謡曲を聞きました。その中の一曲は、戦争の知らない新世代についての歌詞がありました。確かに、平和の時代に生きる事は大きな恵みですが、聖歌300番を見たら違うような歌詞が書いてあるのに気がつきます。そこに「進め主イエスの兵士らよ」という歌詞が入っています。その歌は、クリスチャン生活を戦争に喩えている訳です。あるアメリカの教会は、その歌詞が今の平和の時代に相応しくないから讚美歌集から除きました。しかしどうでしょうか。使徒パウロはよく軍隊に関する表現を使います。こんなに荒々しい表現を使う必要が本当にあるかと思われるかもしれませんが、戦争についての英語の言葉があります。

「War is hell」、訳すと「戦争は地獄だ」ということです。戦争は本当に怖くて苦しめるものです。しかし、私達の霊的な戦いは戦争と同じように敵がいて、その敵と戦う備えをしなければ、攻められる時戦おうとしても対抗できません。

ベトナム戦争の後でアメリカの軍隊が徴兵制度から志願制度に変わりました。冷戦がまだ続いていたので、時々週刊誌等に米軍の戦備はどうかという課題がのっていました。ロシアに攻められたら対抗できるでしょ

うか。自分の軍隊が強かったら敵に攻められないだろうし、攻められても勝つ事が出来るという風に考えられていました。

私達も戦備が必要です。霊的戦備が必要です。しかし私達の場合は、戦いを防ぐ為ではありません。クリスチャンなら必ずサタンに狙われます。戦わずをえないのです。イエスを信じたら、サタンの敵となります。キリストの兵士となりますから、アダムとエバが罪を犯した時、この世はサタンに支配されるようになりました。誘惑した蛇と人間が、神様に呪われてしまいました。しかし、神様は人間を見捨てはなさいませんでした。呪いと一緒に救い主の約束が加えられました。主なる神は、蛇に向かって言われた。「このようなことをしたお前は、あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で、呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に、わたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き、お前は彼のかかとを砕く。」(創世記3:14、15)

キリストが現れた時、神様のものをサタンの支配から取り返す事が始まりました。イエス様が罪を赦したり、悪霊を追い出したりしておられました。ヨハネの

福音書 12 章 3 1 節にこう言われます。「今こそ、この世が裁かれる時。今、この世の支配者が追放される。」（ヨハネ 12 : 3 1）罪人がイエスを信じたら、サタンの支配から神様の支配に移されます。こういうふうに神様の御国が広がります。イエス様を信じたら、神様と平和を持つ事になりながらサタンの敵になります。十字架の上でイエス様は人間をサタンの力から贖われました。イエス様は確かな勝利を得られましたが、御国は地上でまだ安全な形になっていません。サタンは、まだ暫くこの世の支配者です。第一コリント人への手紙にこういうふうに表現されています。「次いで、世の終わりが来ます。そのとき、キリストはすべての支配、すべての権威や勢力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます。」（コリント 1 15 : 2 4）

靈的には私達は今戦争中です。戦備はできていますか。今朝の聖書箇所は私達のサタンに対する戦いに何が必要かを教えています。ここに神の武具と呼ばれています。

では、この靈的な戦いにどんな武具が必要かを考える前に 1 2 節に注目してください。「わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。」（1 2）多くの場合、私たちは外面的な問題に注意を払いますが、靈的な事を忘れてしまいます。夫婦げんかをする時や自分を傷つけた人に対してうらみをもつ時、あるいはキリストチャンとして迫害される時、その人間の相手に対する戦いだと思い込んでしまいます。教会の中でも人間関係の問題にぶつかると、「あの人が悪い」と思って、サタンの策略に気がつかない事が多いと思います。しかし、1 2 節によると、「私達の格闘は・・・」私達の格闘はサタンと悪霊どもに対するものです。サタンは色々な状況の中で私達の弱い所を狙って誘惑します。それで 1 3 節に書いてあるように神の武具が役に立ちます。

では神の武具というのは何でしょうか。1 4 節から 1 7 節まで色々なものが述べられています。最初に 1 4 節に真理の帯という武具があります。パウロはこういう武具をリストアップした時、おそらくローマ兵と鎖につながっていました。その兵士の武具を見たら旧約聖書の御言葉を思い出すでしょう。実は、この真理の帯という文句はイザヤ書 1 1 章 5 節に書かれた文句とほとんど同じです。イザヤ書の場合は、正義の帯と真実の帯という言葉はその人の性質を表す表現です。エペソ人への手紙の場合も自分の性質を表す言葉でしょう。しかし、この真理は自分の知識によるものではありません。神様の絶対的な真理です。

この真理の帯を身につけるのに聖書を勉強する必要があります。しかし、真理の帯を身につける事は、真理を知る事だけでなく、**真理を??** と真理によって生きる事も含まれていると思います。

次の武具は、1 4 節の終わりに書いてある正義の胸当てです。これはイザヤ 5 9 章 1 7 節からの引用です。その箇所には、神様は御自分の正義によって裁きと救

いをもたらしました。私達はイエス様を信じたらそのいけにえのゆえに、イエス様の義を与えられました。神様に義と認められます。しかし、この手紙はキリストチャンに対して書かれた物なので、この正義は与えられた絶対的な義だけではないと思います。日常生活の中での義による生き方も大切だと教えられています。神様に義と認めて頂いたら日常生活はどうでもいいと思う事は大きな間違いです。そう思っていたら、悪魔に左右されやすくなります。

三つ目の武具は平和の福音の備えです。これは兵士の靴です。「どうして戦争中の私たちに平和の福音の備えが必要なのだろう」と思われるかも知れません。キリストチャンになる時、サタンと戦うようになるとしたら、どういう意味で「平和の福音」と呼ばれているのでしょうか。外面的に平和がないかも知れません。マタイによる福音書 10 節 3 4 - 3 5 節にイエス様は言われました。「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思ってはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。わたしは敵対させるために来たからである。人をその父に、／娘を母に、／嫁をしゅうとめに。」（マタイ 10 : 3 4 - 3 5）サタンの敵となったらサタンの支配にある人々にぶつかってしまう事がよくあります。しかし、心の中で平安があります。ローマ書 5 章 1 節に「このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、（ローマ 5 : 1）」と書いてあります。この平和の福音を伝える特権が私達に与えられました。第二コリント 5 章 1 8 - 1 9 節を御覧ください。「これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。」（コリント 2 5 : 1 8 - 1 9）パウロと同じ様に、私達はこの平和の福音を伝える事が出来ます。そうするとイザヤ書 5 2 章 7 節の御言葉は私達に当て嵌まります。「いかに美しいことか／山々を歩き巡り、良い知らせを伝える者の足は。彼は平和を告げ、恵みの良い知らせを伝え／救いを告げ／あなたの神は王となられた、と／シオンに向かって呼ばれる。」（イザヤ 5 2 : 7）福音を伝える用意をしようではありませんか。これは本当に素晴らしい特権です。第一ペテロ 3 章 1 5 節を御覧ください。「心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。」（ペテロ 1 3 : 1 5）正しい態度をもって弁明する事は難しいですね。続けて 1 6 節をお読みします。「それも、穏やかに、敬意をもって、正しい良心で、弁明するようにしなさい。そうすれば、キリストに結ばれたあなたがたの善い生活をののしる者たちは、悪

口を言ったことで恥じ入るようになるのです。」（ペテロ 1 3 : 16）

それでは、本文に戻りましょう。エペソ6章16節に四つ目の武具が見つかります。信仰の大盾です。

「なおその上に、信仰を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことができるのです。」（エペソ6 : 16）サタンは、私達を神様から引き離そうをしています。神様の愛を疑わせようとしています。「神様はあなたを本当に愛していたら、こんなにひどい目にあわせないだろう」とか「神様はあなたの事を忘れたんだよ。もう神様に仕えるのをやめた方がいい」とか、色々なうそをつきますが、私達の信仰がしっかりしていたらそういう思いがあっても、心の中で燃えるようになりません。質のいい盾に当たる火矢のように消えてしまいます。当時のローマ兵の大盾は長方形でした。高さは1メートル以上で幅はその半分でした。木で作られていて表面に固い皮が張ってありました。盾につなぎがあったのでほかの盾とつなぎ合わせる事ができました。そうすると、兵士がみんな一緒に進む事が出来ました。私達も互いの信仰を強めます。教会が一致していたら一緒にサタンに対して進む事が出来ます。

では、次の武具は何でしょうか。17節を御覧ください。「また、救いを兜としてかぶり、霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」（17）救いのかぶとという神の武具は、実は先程読ませていただいたイザヤ59章17節にもなっています。「主は恵みの御業を鎧としてまとい／救いを兜としてかぶり、報復を衣としてまとい／熱情を上着として身を包まれた。」（イザヤ59 : 17）神様は救われる必要がないので、神様の場合は救われる事でなく、人を救うことを意味します。パウロの場合は多分、ちょっと違う意味で言っているのではないかと思います。つまり私達は救わ

れたのでサタンに攻められても、死に至るような負傷が決して与えられません。この兜を被らないでサタンと戦おうとするのは愚かな事です。使徒の働き19章13節から17節までお読みください。このスケワの息子たちは、自分が救われていないのにほかの人をサタンの力から救おうとしていました。しかしそれは無理でした。自分をさえ救う事が出来ませんでした。私達はイエス様によって救われたという確信をもっていたらほかの人を助ける事が可能となります。神様の子供としての権威をもって大胆にサタンと戦う事ができます。

そして、最後の武具は本文の17節に書いてあります。「霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」

（17b）。先週、陳先生はこの御霊の与え剣である御言葉についてメッセージをされました。私達はイエス様のように御言葉を使ってサタンに対して戦う事ができたらいいですね。私たちも御言葉を心に留めていたらサタンの誘惑に対抗できます。詩篇119篇11節に「あなたに罪を犯さない為、私はあなたのことばを心にたくわえました。」と書いてあります。私たちは御言葉を覚えて適用出来れば出来る程、よりよいキリストの兵士になります。「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましい？と霊、間接と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心の色々な考えやばかりごとを判別することができます。」（ヘブル4 : 12）

今、戦争中です。私達の敵サタンは神様の子供達を憎んで、私達を滅ぼそうとしています。戦備が出来ていますか。神の武具、つまり真理の帯、正義の胸当て、平和の福音の備え、信仰の大盾、救いのかぶと、御霊の剣である御言葉、全部身に着けていますか。身に着けて大胆に戦いましょう。

お祈りしましょう。

心のマッサージ

ユダヤ笑話集 社会思想社三浦鞠郎著

自慢

ユダヤ社会では、肉の料理を食べた後、6時間以内にミルクの入った料理を食べてはいけない、という決まりがある。三人のユダヤ人がある時、どれほど自分達が信心深いかを自慢しあった。第一の男「うちにはかまどが二つあるんだ。一つは肉料理のために。もう一つはミルク料理のためにね。」第二の男「うちはもっと信心深いから、肉の料理をする女中とミルクの料理をする女中の2人がいるんだ。」第三の男「うちこそ、一番敬謙な家庭だと思うよ。何しろ「肉」という言葉を口にしたら、6時間たった後でなければ「ミルク」という言葉を口にしないのだからね。」

身代わり

詩人フランケルは、詩作だけでは食べていけないので、ある文化団体の事務主任をしていた。ある時、事務員が一人死んだ。せっちな男がいて、自分をその代わりにと、さっそく頼みに来た。その時は埋葬もまだすんでいなかった。「お安い御用だがね」とフランケルは約束した。「だが、君のような大きな男を、果して私だけで棺の中に入れられるかどうか。」

地磁気の変化

大洪水と直接の関連がないように見えますが、今回は神が天地を創造された時の地球と現在の地球が異なっ

ているという点に関連しているので、地磁気の変化の問題について論じることにしたいと思います。

「神様はどうして毒蛇や毒グモなんか造られたのだろう」と、考えたことはありませんか。実は私も、これだけはどうしても理解できませんでした。しかし、創世記1章節で「神はお造りになった全てのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった」と書かれていることは間違いではありませんでした。神は、人間に全てのものを支配させようとして創造されました。その中には人間に害を及ぼすようなものはなかったはずで、ということ、やはり毒蛇や毒グモは、その後何かから進化して来たのではないか、と思われるかもしれません。やはり進化説が正しかったのだと。しかし、そうではありません。今、毒を持っている蛇やクモも、最初に神が創造された時には毒を持っていなかったのです。だから、全てのものは神の目に極めて良かったのです。では、なぜ今、毒蛇や毒グモが居るのでしょうか。

以前、生命の誕生の所でお話しましたが、動物の体はタンパク質できていて、タンパク質はアミノ酸の連鎖によってできています。実は蛇やクモの毒も、このタンパク質の一種なのです。そしてタンパク質のアミノ酸の連鎖に磁気が強い影響を及ぼすことが分かっています。私はウイクリフ聖書翻訳協会に奉仕していますが、毒蛇や毒グモのいる地域で奉仕するウイクリフの宣教師達は、ザッパーという簡易発電機を持って行きます。ザッパーは、電流は極めて微弱ですが、2万ボルトほどの高電圧を発生します。これを毒の入った傷口周辺に当てて電気を起こすと、多少ショックがありますが人体には影響なく、毒であるタンパク質のアミノ酸の連鎖は、この高電圧によって破壊され、毒が毒でなくなる、つまり解毒されるのです。ザッパーのお陰で毒蛇にかまれた人が、助かったという例が何件もあります。

これに関して、ある時、「地球の磁気は1400年毎に半減しているということですが」と、京都大学の地磁気研究所に問い合わせたところ、研究者の方から回答を頂きました。それによると、過去400年のデータを見ると、このまま推移すれば1000年以内に地球には磁気がなくなる可能性があるとのことでした。

聖書に拠れば、ノアの洪水は約4500年前に起こりました。そこで、この地磁気に関する情報を適用すれば、ノアの洪水当時の地磁気の強度は現在の約10倍です。この磁気強度では、現在クモなどの毒として存在するアミノ酸は、連鎖を形成しないということです。

つまり、洪水以前には毒を持った蛇やクモはいなかったのです。最初に述べたとおり、神がこれらの生き物を創造された時、それらは良かったのです。

ファイアーアントがどんどん北上して来ていると言います。以前はいなかった所まで来ていて、噛まれて被害に会う人が出ています。渡り鳥が渡る途中で方向を失って死んでしまったという話を聞くこともあります。なぜそのようなことが起こるのでしょうか。それは地磁気が弱くなっているからです。地磁気が弱くなっているためファイアーアントが活動できる範囲が広がっているのです。また渡り鳥の体内磁石が方向を探知できなくなっているのです。

私達の罪によって、人間社会が崩壊しつつあると同様に、大気や海洋汚染だけでなく、このような形で地球も物理的に崩壊しつつあります。黙示録は、これらの事はやがて起こるべきことだと言うことを私達に教えてくれています。イエス・キリストを信じる人々の上にも、このような苦難は襲います。しかし、キリストを信じる人には、そのような苦難の後に与えられる勝利と平安が約束されています。ハレルヤ!

片山進悟

「第一の天使がラッパを吹いた。すると血の混じった雹と火とが生じ、地上に投げ入れられた。地上の三分の一が焼け、木々の三分の一が焼け、すべての青草も焼けてしまった。第二の天使がラッパを吹いた。すると、火で燃えている大きな山のようなものが、海に投げ入れられた。海の三分の一が血に変わり、また被造物で海に住む生き物の三分の一は死に、船という船の三分の一が壊された。第三の天使がラッパを吹いた。すると、松明のように燃えている大きな星が、天から落ちて来て、川という川の三分の一と、その水源の上に落ちた。この星の名は「苦よもぎ」といい水の三分の一が苦よもぎのように苦くなって、そのため多くの人が死んだ。第四の天使がラッパを吹いた。すると太陽の三分の一、月の三分の一、星という星の三分の一が損なわれたので、それぞれ三分の一が暗くなって、昼はその光の三分の一を失い、夜も同じようになった。」（黙示録8章7節～12節）

お知らせ

毎月第2と第4火曜日9時半から、A240号室でエクレシアの会という、肩のこらない形での聖書の学びと楽しい交わりの集まりをしています。どなたでもお気軽にどうぞ。お問い合わせは片山姉704-843-8038まで。

日曜日午前9時半からA231号室で高見憲次兄による成人のための日曜学校、11時からR109号室でラブストランド牧師による礼拝、また月曜日午後7時からA238号室でラブストランド牧師による聖書の学が行われています。世界のベストセラー、聖書をご一緒に学びましょう。

今年もクリスマスにはJillybeanが来て、腹話術、奇術などの楽しいパフォーマンスを披露してくれます（英語です）。12月6日、土曜日午後4時半からをぜひ空けて置いて下さい。どうぞお友達もお誘い下さい。

「いのちの泉」は、シャーロット在住の日本人のコミュニケーションのための月刊紙を目指しています。皆さんも、どうぞ奮ってご参加下さい。お互いの向上に役立てるための趣旨に賛同して下さる内容であれば何でも結構です。Carmel Baptist ChurchのJapanese Ministry宛、または charlottejpn@hotmail.com にお願ひします。

編集者の一時帰国のため、11月は休刊させて頂きます。どうぞ12月号をお楽しみに。

カーメル・バプテスト教会
1145 Pineville-Matthews Rd.
Matthews, NC 28105
<http://ifc26.tripod.com>

モルモン教、エホバの証人（ものみの塔）、
統一教会とは関係のない、正統的なキリスト
教会です。安心して気軽においで下さい。

日本人ミニストリー連絡先：
李牧師（704-847-8575）
ラブストランド牧師（704-849-8851）
片山（704-843-6298）

いのちの泉

カメルバプテスト教会
日本人ミニストリー月報
2003年10号

街路樹が少しずつ色づいて来ました。一本の木の葉が緑から黄色、オレンジ色と変化のある様は、ため息が出るほど美しく、これからの朝歩きが楽しくなりました。これから暫くの間は、自然の織りなす微妙な美しさを随所に楽しむことでしょう。

皆様にはお変わりなくお過ごしでいらっしゃいますか。今月は16日に日本から岸義紘先生をお迎えし、サクソフオンのコンサートと、先生のお証しを伺うチャンスに恵まれました。集会には、日本人だけでなく、中国人、韓国人、アメリカ人と、多勢の方が集まって下さり、岸先生が心を込めて演奏されるサクソフオンの音色が染み透った心で、先生のユーモラスなお証しを聞くことができ、感謝でした。

実を申しますと、私はここ一ヶ月余り、祈ることも、聖書を手取ることもできず、毎月ハーベストタイムミニストリーが送ってくれるテープを観ることもできずに過ごして来たのですが、四、五日前、ハーベストタイムのテープを意を決して観ることになりました。(意を決して、という言葉はこの時の私にとって、決して大げさな言葉ではありません。) 9月号のそのテープには、中川健一先生が最近出版された「日本人に送る聖書ものがたり」という本の製作に携わられた、編集者と挿絵画家へのインタビューが入っていました。その二人が語られる言葉と、真の謙虚な姿に私は引きつけられるように、TVの画面に見入りました。三日間続けて観ることによって、私は自分の心の中の問題点を見つけることができました。といいますのも、私は最近、ノンクリスチャンの友人達と話す時に、「私の信仰なんてこの程度…」という言葉、何度か口にしておりました(そのつど心の中に何かを感じながら)。信仰を持つことは、自分で決めることかもしれませんが、(それでさえも、主に選ばれたことであるのですが)信仰を深めることは、勿論、聖書を学ぶこともあるでしょうが、聖霊の働きによるもの、主に引き上げられてあるものではないかと思いました。それなのに「私の信仰なんてこの程度…」とは、主に対してなんと不遜な言葉を吐いたものでしょう。ほんとうに謙虚な人に出会う時、人間は自分の傲慢さに気づくのでしょうか。祈りの中で、自分の愚かさを、傲慢さを、主に詫言いました。針の穴ほどの小さな小さな私にまで、目をそそいで下さり、諭して下さる主に、心から感謝しました。ハレルヤ!

(中藤百々代)



戦争中の私達 エペソ6章10節から20節

ジョエル・ラブストランド牧師

私は、かつて日本のテレビ番組を見て六十年代と七十年代の歌謡曲を聞きました。その中の一曲は、戦争の知らない新世代についての歌詞がありました。確かに、平和の時代に生きる事は大きな恵みですが、聖歌300番を見たら違うような歌詞が書いてあるのに気がつきます。そこに「進め主イエスの兵士らよ」という歌詞が入っています。その歌は、クリスチャン生活を戦争に喩えている訳です。あるアメリカの教会は、その歌詞が今の平和の時代に相応しくないから讚美歌集から除きました。しかしどうでしょうか。使徒パウロはよく軍隊に関する表現を使います。こんなに荒々しい表現を使う必要が本当にあるかと思われるかもしれませんが、戦争についての英語の言葉があります。

「War is hell」、訳すと「戦争は地獄だ」ということです。戦争は本当に怖くて苦しめるものです。しかし、私達の霊的な戦いは戦争と同じように敵がいて、その敵と戦う備えをしなければ、攻められる時戦おうとしても対抗できません。

ベトナム戦争の後でアメリカの軍隊が徴兵制度から志願制度に変わりました。冷戦がまだ続いていたので、時々週刊誌等に米軍の戦備はどうかという課題がのっていました。ロシアに攻められたら対抗できるでしょ

うか。自分の軍隊が強かったら敵に攻められないだろうし、攻められても勝つ事が出来るという風に考えられていました。

私達も戦備が必要です。霊的戦備が必要です。しかし私達の場合は、戦いを防ぐ為ではありません。クリスチャンなら必ずサタンに狙われます。戦わずをえないのです。イエスを信じたら、サタンの敵となります。キリストの兵士となりますから、アダムとエバが罪を犯した時、この世はサタンに支配されるようになりました。誘惑した蛇と人間が、神様に呪われてしまいました。しかし、神様は人間を見捨てはなさいませんでした。呪いと一緒に救い主の約束が加えられました。主なる神は、蛇に向かって言われた。「このようなことをしたお前は、あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で、呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に、わたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き、お前は彼のかかとを砕く。」(創世記3:14、15)

キリストが現れた時、神様のものをサタンの支配から取り返す事が始まりました。イエス様が罪を赦したり、悪霊を追い出したりしておられました。ヨハネの

福音書 12 章 3 1 節にこう言われます。「今こそ、この世が裁かれる時。今、この世の支配者が追放される。」（ヨハネ 12 : 3 1）罪人がイエスを信じたら、サタンの支配から神様の支配に移されます。こういうふうに神様の御国が広がります。イエス様を信じたら、神様と平和を持つ事になりながらサタンの敵になります。十字架の上でイエス様は人間をサタンの力から贖われました。イエス様は確かな勝利を得られましたが、御国は地上でまだ安全な形になっていません。サタンは、まだ暫くこの世の支配者です。第一コリント人への手紙にこういうふうに表現されています。「次いで、世の終わりが来ます。そのとき、キリストはすべての支配、すべての権威や勢力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます。」（コリント 1 15 : 2 4）

靈的には私達は今戦争中です。戦備はできていますか。今朝の聖書箇所は私達のサタンに対する戦いに何が必要かを教えています。ここに神の武具と呼ばれています。

では、この靈的な戦いにどんな武具が必要かを考える前に 1 2 節に注目してください。「わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。」（1 2）多くの場合、私たちは外面的な問題に注意を払いますが、靈的な事を忘れてしまいます。夫婦げんかをする時や自分を傷つけた人に対してうらみをもつ時、あるいはキリストチャンとして迫害される時、その人間の相手に対する戦いだと思い込んでしまいます。教会の中でも人間関係の問題にぶつかると、「あの人が悪い」と思って、サタンの策略に気がつかない事が多いと思います。しかし、1 2 節によると、「私達の格闘は・・・」私達の格闘はサタンと悪霊どもに対するものです。サタンは色々な状況の中で私達の弱い所を狙って誘惑します。それで 1 3 節に書いてあるように神の武具が役に立ちます。

では神の武具というのは何でしょうか。1 4 節から 1 7 節まで色々なものが述べられています。最初に 1 4 節に真理の帯という武具があります。パウロはこういう武具をリストアップした時、おそらくローマ兵と鎖につながっていました。その兵士の武具を見たら旧約聖書の御言葉を思い出すでしょう。実は、この真理の帯という文句はイザヤ書 1 1 章 5 節に書かれた文句とほとんど同じです。イザヤ書の場合は、正義の帯と真実の帯という言葉はその人の性質を表す表現です。エペソ人への手紙の場合も自分の性質を表す言葉でしょう。しかし、この真理は自分の知識によるものではありません。神様の絶対的な真理です。

この真理の帯を身につけるのに聖書を勉強する必要があります。しかし、真理の帯を身につける事は、真理を知る事だけでなく、**真理を??** と真理によって生きる事も含まれていると思います。

次の武具は、1 4 節の終わりに書いてある正義の胸当てです。これはイザヤ 5 9 章 1 7 節からの引用です。その箇所には、神様は御自分の正義によって裁きと救

いをもたらしました。私達はイエス様を信じたらそのいけにえのゆえに、イエス様の義を与えられました。神様に義と認められます。しかし、この手紙はキリストチャンに対して書かれた物なので、この正義は与えられた絶対的な義だけではないと思います。日常生活の中での義による生き方も大切だと教えられています。神様に義と認めて頂いたら日常生活はどうでもいいと思う事は大きな間違いです。そう思っていたら、悪魔に左右されやすくなります。

三つ目の武具は平和の福音の備えです。これは兵士の靴です。「どうして戦争中の私たちに平和の福音の備えが必要なのだろう」と思われるかも知れません。キリストチャンになる時、サタンと戦うようになるとしたら、どういう意味で「平和の福音」と呼ばれているのでしょうか。外面的に平和がないかも知れません。マタイによる福音書 10 節 3 4 - 3 5 節にイエス様は言われました。「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思っはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。わたしは敵対させるために来たからである。人をその父に、／娘を母に、／嫁をしゅうとめに。」（マタイ 10 : 3 4 - 3 5）サタンの敵となったらサタンの支配にある人々にぶつかってしまう事がよくあります。しかし、心の中で平安があります。ローマ書 5 章 1 節に「このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、（ローマ 5 : 1）」と書いてあります。この平和の福音を伝える特権が私達に与えられました。第二コリント 5 章 1 8 - 1 9 節を御覧ください。「これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。」（コリント 2 5 : 1 8 - 1 9）パウロと同じ様に、私達はこの平和の福音を伝える事が出来ます。そうするとイザヤ書 5 2 章 7 節の御言葉は私達に当て嵌まります。「いかに美しいことか／山々を歩き巡り、良い知らせを伝える者の足は。彼は平和を告げ、恵みの良い知らせを伝え／救いを告げ／あなたの神は王となられた、と／シオンに向かって呼ばれる。」（イザヤ 5 2 : 7）福音を伝える用意をしようではありませんか。これは本当に素晴らしい特権です。第一ペテロ 3 章 1 5 節を御覧ください。「心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。」（ペテロ 1 3 : 1 5）正しい態度をもって弁明する事は難しいですね。続けて 1 6 節をお読みします。「それも、穏やかに、敬意をもって、正しい良心で、弁明するようにしなさい。そうすれば、キリストに結ばれたあなたがたの善い生活をののしる者たちは、悪

口を言ったことで恥じ入るようになるのです。」（ペテロ 1 3 : 16）

それでは、本文に戻りましょう。エペソ6章16節に四つ目の武具が見つかります。信仰の大盾です。

「なおその上に、信仰を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことができるのです。」（エペソ6 : 16）サタンは、私達を神様から引き離そうをしています。神様の愛を疑わせようとします。「神様はあなたを本当に愛していたら、こんなにひどい目にあわせないだろう」とか「神様はあなたの事を忘れたんだよ。もう神様に仕えるのをやめた方がいい」とか、色々なうそをつきますが、私達の信仰がしっかりしていたらそういう思いがあっても、心の中で燃えるようになりません。質のいい盾に当たる火矢のように消えてしまいます。当時のローマ兵の大盾は長方形でした。高さは1メートル以上で幅はその半分でした。木で作られていて表面に固い皮が張ってありました。盾につなぎがあったのでほかの盾とつなぎ合わせる事ができました。そうすると、兵士がみんな一緒に進む事が出来ました。私達も互いの信仰を強めます。教会が一致していたら一緒にサタンに対して進む事が出来ます。

では、次の武具は何でしょうか。17節を御覧ください。「また、救いを兜としてかぶり、霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」（17）救いのかぶとという神の武具は、実は先程読ませていただいたイザヤ59章17節にもなっています。「主は恵みの御業を鎧としてまとい／救いを兜としてかぶり、報復を衣としてまとい／熱情を上着として身を包まれた。」（イザヤ59 : 17）神様は救われる必要がないので、神様の場合は救われる事でなく、人を救うことを意味します。パウロの場合は多分、ちょっと違う意味で言っているのではないかと思います。つまり私達は救わ

れたのでサタンに攻められても、死に至るような負傷が決して与えられません。この兜を被らないでサタンと戦おうとするのは愚かな事です。使徒の働き19章13節から17節までお読みください。このスケワの息子たちは、自分が救われていないのにほかの人をサタンの力から救おうとしていました。しかしそれは無理でした。自分をさえ救う事が出来ませんでした。私達はイエス様によって救われたという確信をもっていたらほかの人を助ける事が可能となります。神様の子供としての権威をもって大胆にサタンと戦う事ができます。

そして、最後の武具は本文の17節に書いてあります。「霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」（17b）。先週、陳先生はこの御霊の与え剣である御言葉についてメッセージをされました。私達はイエス様のように御言葉を使ってサタンに対して戦う事ができればいいですね。私たちも御言葉を心に留めていたらサタンの誘惑に対抗できます。詩篇119篇11節に「あなたに罪を犯さない為、私はあなたのことばを心にたくわえました。」と書いてあります。私たちは御言葉を覚えて適用出来れば出来る程、よりよいキリストの兵士になります。「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましい？と霊、間接と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心の色々な考えやばかりごとを判別することができます。」（ヘブル4 : 12）

今、戦争中です。私達の敵サタンは神様の子供達を憎んで、私達を滅ぼそうとしています。戦備が出来ていますか。神の武具、つまり真理の帯、正義の胸当て、平和の福音の備え、信仰の大盾、救いのかぶと、御霊の剣である御言葉、全部身に着けていますか。身に着けて大胆に戦いましょう。

お祈りしましょう。

心のマッサージ

ユダヤ笑話集 社会思想社三浦鞠郎著

自慢

ユダヤ社会では、肉の料理を食べた後、6時間以内にミルクの入った料理を食べてはいけない、という決まりがある。三人のユダヤ人がある時、どれほど自分達が信心深いかを自慢しあった。第一の男「うちにはかまどが二つあるんだ。一つは肉料理のために。もう一つはミルク料理のためにね。」第二の男「うちはもっと信心深いから、肉の料理をする女中とミルクの料理をする女中の2人がいるんだ。」第三の男「うちこそ、一番敬謙な家庭だと思うよ。何しろ「肉」という言葉を口にしたら、6時間たった後でなければ「ミルク」という言葉を口にしないのだからね。」

身代わり

詩人フランケルは、詩作だけでは食べていけないので、ある文化団体の事務主任をしていた。ある時、事務員が一人死んだ。せっちな男がいて、自分をその代わりにと、さっそく頼みに来た。その時は埋葬もまだすんでいなかった。「お安い御用だがね」とフランケルは約束した。「だが、君のような大きな男を、果して私だけで棺の中に入れられるかどうか。」

地磁気の変化

大洪水と直接の関連がないように見えますが、今回は神が天地を創造された時の地球と現在の地球が異なっ

ているという点に関連しているので、地磁気の変化の問題について論じることにしたいと思います。

「神様はどうして毒蛇や毒グモなんか造られたのだろう」と、考えたことはありませんか。実は私も、これだけではどうしても理解できませんでした。しかし、創世記1章節で「神はお造りになった全てのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった」と書かれていることは間違いではありませんでした。神は、人間に全てのものを支配させようとして創造されました。その中には人間に害を及ぼすようなものはなかったはずで、ということ、やはり毒蛇や毒グモは、その後何かから進化して来たのではないか、と思われるかもしれません。やはり進化説が正しかったのだと。しかし、そうではありません。今、毒を持っている蛇やクモも、最初に神が創造された時には毒を持っていなかったのです。だから、全てのものは神の目に極めて良かったのです。では、なぜ今、毒蛇や毒グモが居るのでしょうか。

以前、生命の誕生の所でお話しましたが、動物の体はタンパク質できていて、タンパク質はアミノ酸の連鎖によってできています。実は蛇やクモの毒も、このタンパク質の一種なのです。そしてタンパク質のアミノ酸の連鎖に磁気が強い影響を及ぼすことが分かっています。私はウイクリフ聖書翻訳協会に奉仕していますが、毒蛇や毒グモのいる地域で奉仕するウイクリフの宣教師達は、ザッパーという簡易発電機を持って行きます。ザッパーは、電流は極めて微弱ですが、2万ボルトほどの高電圧を発生します。これを毒の入った傷口周辺に当てて電気を起こすと、多少ショックがありますが人体には影響なく、毒であるタンパク質のアミノ酸の連鎖は、この高電圧によって破壊され、毒が毒でなくなる、つまり解毒されるのです。ザッパーのお陰で毒蛇にかまれた人が、助かったという例が何件もあります。

これに関して、ある時、「地球の磁気は1400年毎に半減しているということですが」と、京都大学の地磁気研究所に問い合わせたところ、研究者の方から回答を頂きました。それによると、過去400年のデータを見ると、このまま推移すれば1000年以内に地球には磁気がなくなる可能性があるとのことでした。

聖書に拠れば、ノアの洪水は約4500年前に起こりました。そこで、この地磁気に関する情報を適用すれば、ノアの洪水当時の地磁気の強度は現在の約10倍です。この磁気強度では、現在クモなどの毒として存在するアミノ酸は、連鎖を形成しないということです。

つまり、洪水以前には毒を持った蛇やクモはいなかったのです。最初に述べたとおり、神がこれらの生き物を創造された時、それらは良かったのです。

ファイアーアントがどんどん北上して来ていると言います。以前はいなかった所まで来ていて、噛まれて被害に会う人が出ています。渡り鳥が渡る途中で方向を失って死んでしまったという話を聞くこともあります。なぜそのようなことが起こるのでしょうか。それは地磁気が弱くなっているからです。地磁気が弱くなっているためファイアーアントが活動できる範囲が広がっているのです。また渡り鳥の体内磁石が方向を探知できなくなっているのです。

私達の罪によって、人間社会が崩壊しつつあると同様に、大気や海洋汚染だけでなく、このような形で地球も物理的に崩壊しつつあります。黙示録は、これらの事はやがて起こるべきことだと言うことを私達に教えてくれています。イエス・キリストを信じる人々の上にも、このような苦難は襲います。しかし、キリストを信じる人には、そのような苦難の後に与えられる勝利と平安が約束されています。ハレルヤ!

片山進悟

「第一の天使がラッパを吹いた。すると血の混じった雹と火とが生じ、地上に投げ入れられた。地上の三分の一が焼け、木々の三分の一が焼け、すべての青草も焼けてしまった。第二の天使がラッパを吹いた。すると、火で燃えている大きな山のようなものが、海に投げ入れられた。海の三分の一が血に変わり、また被造物で海に住む生き物の三分の一は死に、船という船の三分の一が壊された。第三の天使がラッパを吹いた。すると、松明のように燃えている大きな星が、天から落ちて来て、川という川の三分の一と、その水源の上に落ちた。この星の名は「苦よもぎ」といい水の三分の一が苦よもぎのように苦くなって、そのために多くの人が死んだ。第四の天使がラッパを吹いた。すると太陽の三分の一、月の三分の一、星という星の三分の一が損なわれたので、それぞれ三分の一が暗くなって、昼はその光の三分の一を失い、夜も同じようになった。」（黙示録8章7節～12節）

お知らせ

毎月第2と第4火曜日9時半から、A240号室でエクレシアの会という、肩のこらない形での聖書の学びと楽しい交わりの集まりをしています。どなたでもお気軽にどうぞ。お問い合わせは片山姉704-843-8038まで。

日曜日午前9時半からA231号室で高見憲次兄による成人のための日曜学校、11時からR109号室でラブストランド牧師による礼拝、また月曜日午後7時からA238号室でラブストランド牧師による聖書の学が行われています。世界のベストセラー、聖書をご一緒に学びましょう。

今年もクリスマスにはJillybeanが来て、腹話術、奇術などの楽しいパフォーマンスを披露してくれます（英語です）。12月6日、土曜日午後4時半からをぜひ空けて置いて下さい。どうぞお友達もお誘い下さい。

「いのちの泉」は、シャーロット在住の日本人のコミュニケーションのための月刊紙を目指しています。皆さんも、どうぞ奮ってご参加下さい。お互いの向上に役立てるための趣旨に賛同して下さる内容であれば何でも結構です。Carmel Baptist ChurchのJapanese Ministry宛、または charlottejpn@hotmail.com にお願ひします。

編集者の一時帰国のため、11月は休刊させて頂きます。どうぞ12月号をお楽しみに。

カーメル・バプテスト教会
1145 Pineville-Matthews Rd.
Matthews, NC 28105
<http://ifc26.tripod.com>

モルモン教、エホバの証人（ものみの塔）、
統一教会とは関係のない、正統的なキリスト
教会です。安心して気軽においで下さい。

日本人ミニストリー連絡先：
李牧師（704-847-8575）
ラブストランド牧師（704-849-8851）
片山（704-843-6298）

いのちの泉

カメルバプテスト教会
日本人ミニストリー月報
2003年10号

街路樹が少しずつ色づいて来ました。一本の木の葉が緑から黄色、オレンジ色と変化のある様は、ため息が出るほど美しく、これからの朝歩きが楽しくなりました。これから暫くの間は、自然の織りなす微妙な美しさを随所に楽しむことでしょう。

皆様にはお変わりなくお過ごしでいらっしゃいますか。今月は16日に日本から岸義紘先生をお迎えし、サクソフオンのコンサートと、先生のお証しを伺うチャンスに恵まれました。集会には、日本人だけでなく、中国人、韓国人、アメリカ人と、多勢の方が集まって下さり、岸先生が心を込めて演奏されるサクソフオンの音色が染み透った心で、先生のユーモラスなお証しを聞くことができ、感謝でした。

実を申しますと、私はここ一ヶ月余り、祈ることも、聖書を手取ることもできず、毎月ハーベストタイムミニストリーが送ってくれるテープを観ることもできずに過ごして来たのですが、四、五日前、ハーベストタイムのテープを意を決して観ることになりました。(意を決して、という言葉はこの時の私にとって、決して大げさな言葉ではありません。) 9月号のそのテープには、中川健一先生が最近出版された「日本人に送る聖書ものがたり」という本の製作に携わられた、編集者と挿絵画家へのインタビューが入っていました。その二人が語られる言葉と、真の謙虚な姿に私は引きつけられるように、TVの画面に見入りました。三日間続けて観ることによって、私は自分の心の中の問題点を見つけることができました。といいますのも、私は最近、ノンクリスチャンの友人達と話す時に、「私の信仰なんてこの程度...」という言葉、何度か口にしておりました(そのつど心の中に何かを感じながら)。信仰を持つことは、自分で決めることかもしれませんが、(それでさえも、主に選ばれたことであるのですが)信仰を深めることは、勿論、聖書を学ぶこともあるでしょうが、聖霊の働きによるもの、主に引き上げられてあるものではないかと思いました。それなのに「私の信仰なんてこの程度...」とは、主に対してなんと不遜な言葉を吐いたものでしょう。ほんとうに謙虚な人に出会う時、人間は自分の傲慢さに気づくのでしょうか。祈りの中で、自分の愚かさを、傲慢さを、主に詫言いました。針の穴ほどの小さな小さな私にまで、目をそそいで下さり、諭して下さる主に、心から感謝しました。ハレルヤ!

(中藤百々代)



戦争中の私達 エペソ6章10節から20節

ジョエル・ラブストランド牧師

私は、かつて日本のテレビ番組を見て六十年代と七十年代の歌謡曲を聞きました。その中の一曲は、戦争の知らない新世代についての歌詞がありました。確かに、平和の時代に生きる事は大きな恵みですが、聖歌300番を見たら違うような歌詞が書いてあるのに気がつきます。そこに「進め主イエスの兵士らよ」という歌詞が入っています。その歌は、クリスチャン生活を戦争に喩えている訳です。あるアメリカの教会は、その歌詞が今の平和の時代に相応しくないから讚美歌集から除きました。しかしどうでしょうか。使徒パウロはよく軍隊に関する表現を使います。こんなに荒々しい表現を使う必要が本当にあるかと思われるかもしれませんが、戦争についての英語の言葉があります。

「War is hell」、訳すと「戦争は地獄だ」ということです。戦争は本当に怖くて苦しめるものです。しかし、私達の霊的な戦いは戦争と同じように敵がいて、その敵と戦う備えをしなければ、攻められる時戦おうとしても対抗できません。

ベトナム戦争の後でアメリカの軍隊が徴兵制度から志願制度に変わりました。冷戦がまだ続いていたので、時々週刊誌等に米軍の戦備はどうかという課題がのっていました。ロシアに攻められたら対抗できるでしょ

うか。自分の軍隊が強かったら敵に攻められないだろうし、攻められても勝つ事が出来るという風に考えられていました。

私達も戦備が必要です。霊的戦備が必要です。しかし私達の場合は、戦いを防ぐ為ではありません。クリスチャンなら必ずサタンに狙われます。戦わずをえないのです。イエスを信じたら、サタンの敵となります。キリストの兵士となりますから、アダムとエバが罪を犯した時、この世はサタンに支配されるようになりました。誘惑した蛇と人間が、神様に呪われてしまいました。しかし、神様は人間を見捨てはなさいませんでした。呪いと一緒に救い主の約束が加えられました。主なる神は、蛇に向かって言われた。「このようなことをしたお前は、あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で、呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に、わたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き、お前は彼のかかとを砕く。」(創世記3:14、15)

キリストが現れた時、神様のものをサタンの支配から取り返す事が始まりました。イエス様が罪を赦したり、悪霊を追い出したりしておられました。ヨハネの

福音書 12 章 3 1 節にこう言われます。「今こそ、この世が裁かれる時。今、この世の支配者が追放される。」（ヨハネ 12 : 3 1）罪人がイエスを信じたら、サタンの支配から神様の支配に移されます。こういうふうに神様の御国が広がります。イエス様を信じたら、神様と平和を持つ事になりながらサタンの敵になります。十字架の上でイエス様は人間をサタンの力から贖われました。イエス様は確かな勝利を得られましたが、御国は地上でまだ安全な形になっていません。サタンは、まだ暫くこの世の支配者です。第一コリント人への手紙にこういうふうに表現されています。「次いで、世の終わりが来ます。そのとき、キリストはすべての支配、すべての権威や勢力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます。」（コリント 1 15 : 2 4）

靈的には私達は今戦争中です。戦備はできていますか。今朝の聖書箇所は私達のサタンに対する戦いに何が必要かを教えています。ここに神の武具と呼ばれています。

では、この靈的な戦いにどんな武具が必要かを考える前に 1 2 節に注目してください。「わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。」（1 2）多くの場合、私たちは外面的な問題に注意を払いますが、靈的な事を忘れてしまいます。夫婦げんかをする時や自分を傷つけた人に対してうらみをもつ時、あるいはキリストチャンとして迫害される時、その人間の相手に対する戦いだと思い込んでしまいます。教会の中でも人間関係の問題にぶつかると、「あの人が悪い」と思って、サタンの策略に気がつかない事が多いと思います。しかし、1 2 節によると、「私達の格闘は・・・」私達の格闘はサタンと悪霊どもに対するものです。サタンは色々な状況の中で私達の弱い所を狙って誘惑します。それで 1 3 節に書いてあるように神の武具が役に立ちます。

では神の武具というのは何でしょうか。1 4 節から 1 7 節まで色々なものが述べられています。最初に 1 4 節に真理の帯という武具があります。パウロはこういう武具をリストアップした時、おそらくローマ兵と鎖につながっていました。その兵士の武具を見たら旧約聖書の御言葉を思い出すでしょう。実は、この真理の帯という文句はイザヤ書 1 1 章 5 節に書かれた文句とほとんど同じです。イザヤ書の場合は、正義の帯と真実の帯という言葉はその人の性質を表す表現です。エペソ人への手紙の場合も自分の性質を表す言葉でしょう。しかし、この真理は自分の知識によるものではありません。神様の絶対的な真理です。

この真理の帯を身につけるのに聖書を勉強する必要があります。しかし、真理の帯を身につける事は、真理を知る事だけでなく、**真理を??** と真理によって生きる事も含まれていると思います。

次の武具は、1 4 節の終わりに書いてある正義の胸当てです。これはイザヤ 5 9 章 1 7 節からの引用です。その箇所には、神様は御自分の正義によって裁きと救

いをもたらしました。私達はイエス様を信じたらそのいけにえのゆえに、イエス様の義を与えられました。神様に義と認められます。しかし、この手紙はキリストチャンに対して書かれた物なので、この正義は与えられた絶対的な義だけではないと思います。日常生活の中での義による生き方も大切だと教えられています。神様に義と認めて頂いたら日常生活はどうでもいいと思う事は大きな間違いです。そう思っていたら、悪魔に左右されやすくなります。

三つ目の武具は平和の福音の備えです。これは兵士の靴です。「どうして戦争中の私たちに平和の福音の備えが必要なのだろう」と思われるかも知れません。キリストチャンになる時、サタンと戦うようになるとしたら、どういう意味で「平和の福音」と呼ばれているのでしょうか。外面的に平和がないかも知れません。マタイによる福音書 10 節 3 4 - 3 5 節にイエス様は言われました。「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思っはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。わたしは敵対させるために来たからである。人をその父に、／娘を母に、／嫁をしゅうとめに。」（マタイ 10 : 3 4 - 3 5）サタンの敵となったらサタンの支配にある人々にぶつかってしまう事がよくあります。しかし、心の中で平安があります。ローマ書 5 章 1 節に「このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、（ローマ 5 : 1）」と書いてあります。この平和の福音を伝える特権が私達に与えられました。第二コリント 5 章 1 8 - 1 9 節を御覧ください。「これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。」（コリント 2 5 : 1 8 - 1 9）パウロと同じ様に、私達はこの平和の福音を伝える事が出来ます。そうするとイザヤ書 5 2 章 7 節の御言葉は私達に当て嵌まります。「いかに美しいことか／山々を歩き巡り、良い知らせを伝える者の足は。彼は平和を告げ、恵みの良い知らせを伝え／救いを告げ／あなたの神は王となられた、と／シオンに向かって呼ばれる。」（イザヤ 5 2 : 7）福音を伝える用意をしようではありませんか。これは本当に素晴らしい特権です。第一ペテロ 3 章 1 5 節を御覧ください。「心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。」（ペテロ 1 3 : 1 5）正しい態度をもって弁明する事は難しいですね。続けて 1 6 節をお読みします。「それも、穏やかに、敬意をもって、正しい良心で、弁明するようにしなさい。そうすれば、キリストに結ばれたあなたがたの善い生活をののしる者たちは、悪

口を言ったことで恥じ入るようになるのです。」（ペテロ 1 3 : 16）

それでは、本文に戻りましょう。エペソ6章16節に四つ目の武具が見つかります。信仰の大盾です。

「なおその上に、信仰を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことができるのです。」（エペソ6 : 16）サタンは、私達を神様から引き離そうをしています。神様の愛を疑わせようとします。「神様はあなたを本当に愛していたら、こんなにひどい目にあわせないだろう」とか「神様はあなたの事を忘れたんだよ。もう神様に仕えるのをやめた方がいい」とか、色々なうそをつきますが、私達の信仰がしっかりしていたらそういう思いがあっても、心の中で燃えるようになりません。質のいい盾に当たる火矢のように消えてしまいます。当時のローマ兵の大盾は長方形でした。高さは1メートル以上で幅はその半分でした。木で作られていて表面に固い皮が張ってありました。盾につなぎがあったのでほかの盾とつなぎ合わせる事ができました。そうすると、兵士がみんな一緒に進む事が出来ました。私達も互いの信仰を強めます。教会が一致していたら一緒にサタンに対して進む事が出来ます。

では、次の武具は何でしょうか。17節を御覧ください。「また、救いを兜としてかぶり、霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」（17）救いのかぶとという神の武具は、実は先程読ませていただいたイザヤ59章17節にもなっています。「主は恵みの御業を鎧としてまとい／救いを兜としてかぶり、報復を衣としてまとい／熱情を上着として身を包まれた。」（イザヤ59 : 17）神様は救われる必要がないので、神様の場合は救われる事でなく、人を救うことを意味します。パウロの場合は多分、ちょっと違う意味で言っているのではないかと思います。つまり私達は救わ

心のマッサージ

ユダヤ笑話集 社会思想社三浦鞠郎著

自慢

ユダヤ社会では、肉の料理を食べた後、6時間以内にミルクの入った料理を食べてはいけない、という決まりがある。三人のユダヤ人がある時、どれほど自分達が信心深いかを自慢しあった。第一の男「うちにはかまどが二つあるんだ。一つは肉料理のために。もう一つはミルク料理のためにね。」第二の男「うちはもっと信心深いから、肉の料理をする女中とミルクの料理をする女中の2人がいるんだ。」第三の男「うちこそ、一番敬謙な家庭だと思うよ。何しろ「肉」という言葉を口にしたら、6時間たった後でなければ「ミルク」という言葉を口にしないのだからね。」

身代わり

詩人フランケルは、詩作だけでは食べていけないので、ある文化団体の事務主任をしていた。ある時、事務員が一人死んだ。せっちな男がいて、自分をその代わりにと、さっそく頼みに来た。その時は埋葬もまだすんでいなかった。「お安い御用だがね」とフランケルは約束した。「だが、君のような大きな男を、果して私だけで棺の中に入れられるかどうか。」

地磁気の変化

大洪水と直接の関連がないように見えますが、今回は神が天地を創造された時の地球と現在の地球が異なっ

れたのでサタンに攻められても、死に至るような負傷が決して与えられません。この兜を被らないでサタンと戦おうとするのは愚かな事です。使徒の働き19章13節から17節までお読みください。このスケワの息子たちは、自分が救われていないのにほかの人をサタンの力から救おうとしていました。しかしそれは無理でした。自分をさえ救う事が出来ませんでした。私達はイエス様によって救われたという確信をもっていたらほかの人を助ける事が可能となります。神様の子供としての権威をもって大胆にサタンと戦う事ができます。

そして、最後の武具は本文の17節に書いてあります。「霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」

（17b）。先週、陳先生はこの御霊の与え剣である御言葉についてメッセージをされました。私達はイエス様のように御言葉を使ってサタンに対して戦う事ができたらいいですね。私たちも御言葉を心に留めていたらサタンの誘惑に対抗できます。詩篇119篇11節に「あなたに罪を犯さない為、私はあなたのことばを心にたくわえました。」と書いてあります。私たちは御言葉を覚えて適用出来れば出来る程、よりよいキリストの兵士になります。「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましい？と霊、間接と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心の色々な考えやばかりごとを判別することができます。」（ヘブル4 : 12）

今、戦争中です。私達の敵サタンは神様の子供達を憎んで、私達を滅ぼそうとしています。戦備が出来ていますか。神の武具、つまり真理の帯、正義の胸当て、平和の福音の備え、信仰の大盾、救いのかぶと、御霊の剣である御言葉、全部身に着けていますか。身に着けて大胆に戦いましょう。

お祈りしましょう。

「神様はどうして毒蛇や毒グモなんか造られたのだろう」と、考えたことはありませんか。実は私も、これだけではどうしても理解できませんでした。しかし、創世記1章節で「神はお造りになった全てのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった」と書かれていることは間違いではありませんでした。神は、人間に全てのものを支配させようとして創造されました。その中には人間に害を及ぼすようなものはなかったはずで、ということ、やはり毒蛇や毒グモは、その後何かから進化して来たのではないか、と思われるかもしれません。やはり進化説が正しかったのだと。しかし、そうではありません。今、毒を持っている蛇やクモも、最初に神が創造された時には毒を持っていなかったのです。だから、全てのものは神の目に極めて良かったのです。では、なぜ今、毒蛇や毒グモが居るのでしょうか。

以前、生命の誕生の所でお話しましたが、動物の体はタンパク質できていて、タンパク質はアミノ酸の連鎖によってできています。実は蛇やクモの毒も、このタンパク質の一種なのです。そしてタンパク質のアミノ酸の連鎖に磁気が強い影響を及ぼすことが分かっています。私はウイクリフ聖書翻訳協会に奉仕していますが、毒蛇や毒グモのいる地域で奉仕するウイクリフの宣教師達は、ザッパーという簡易発電機を持って行きます。ザッパーは、電流は極めて微弱ですが、2万ボルトほどの高電圧を発生します。これを毒の入った傷口周辺に当てて電気を起こすと、多少ショックがありますが人体には影響なく、毒であるタンパク質のアミノ酸の連鎖は、この高電圧によって破壊され、毒が毒でなくなる、つまり解毒されるのです。ザッパーのお陰で毒蛇にかまれた人が、助かったという例が何件もあります。

これに関して、ある時、「地球の磁気は1400年毎に半減しているということですが」と、京都大学の地磁気研究所に問い合わせたところ、研究者の方から回答を頂きました。それによると、過去400年のデータを見ると、このまま推移すれば1000年以内に地球には磁気がなくなる可能性があるとのことでした。

聖書に拠れば、ノアの洪水は約4500年前に起こりました。そこで、この地磁気に関する情報を適用すれば、ノアの洪水当時の地磁気の強度は現在の約10倍です。この磁気強度では、現在クモなどの毒として存在するアミノ酸は、連鎖を形成しないということです。

つまり、洪水以前には毒を持った蛇やクモはいなかったのです。最初に述べたとおり、神がこれらの生き物を創造された時、それらは良かったのです。

ファイアーアントがどんどん北上して来ていると言います。以前はいなかった所まで来ていて、噛まれて被害に会う人が出ています。渡り鳥が渡る途中で方向を失って死んでしまったという話を聞くこともあります。なぜそのようなことが起こるのでしょうか。それは地磁気が弱くなっているからです。地磁気が弱くなっているためファイアーアントが活動できる範囲が広がっているのです。また渡り鳥の体内磁石が方向を探知できなくなっているのです。

私達の罪によって、人間社会が崩壊しつつあると同様に、大気や海洋汚染だけでなく、このような形で地球も物理的に崩壊しつつあります。黙示録は、これらの事はやがて起こるべきことだと言うことを私達に教えてくれています。イエス・キリストを信じる人々の上にも、このような苦難は襲います。しかし、キリストを信じる人には、そのような苦難の後に与えられる勝利と平安が約束されています。ハレルヤ!

片山進悟

「第一の天使がラッパを吹いた。すると血の混じった雹と火とが生じ、地上に投げ入れられた。地上の三分の一が焼け、木々の三分の一が焼け、すべての青草も焼けてしまった。第二の天使がラッパを吹いた。すると、火で燃えている大きな山のようなものが、海に投げ入れられた。海の三分の一が血に変わり、また被造物で海に住む生き物の三分の一は死に、船という船の三分の一が壊された。第三の天使がラッパを吹いた。すると、松明のように燃えている大きな星が、天から落ちて来て、川という川の三分の一と、その水源の上に落ちた。この星の名は「苦よもぎ」といい水の三分の一が苦よもぎのように苦くなって、そのために多くの人々が死んだ。第四の天使がラッパを吹いた。すると太陽の三分の一、月の三分の一、星という星の三分の一が損なわれたので、それぞれ三分の一が暗くなって、昼はその光の三分の一を失い、夜も同じようになった。」(黙示録8章7節～12節)

お知らせ

毎月第2と第4火曜日9時半から、A240号室でエクレシアの会という、肩のこらない形での聖書の学びと楽しい交わりの集まりをしています。どなたでもお気軽にどうぞ。お問い合わせは片山姉704-843-8038まで。

日曜日午前9時半からA231号室で高見憲次兄による成人のための日曜学校、11時からR109号室でラブストランド牧師による礼拝、また月曜日午後7時からA238号室でラブストランド牧師による聖書の学が行われています。世界のベストセラー、聖書をご一緒に学びましょう。

今年もクリスマスにはJillybeanが来て、腹話術、奇術などの楽しいパフォーマンスを披露してくれます（英語です）。12月6日、土曜日午後4時半からをぜひ空けて置いて下さい。どうぞお友達もお誘い下さい。

「いのちの泉」は、シャーロット在住の日本人のコミュニケーションのための月刊紙を目指しています。皆さんも、どうぞ奮ってご参加下さい。お互いの向上に役立てるための趣旨に賛同して下さる内容であれば何でも結構です。Carmel Baptist ChurchのJapanese Ministry宛、または charlottejpn@hotmail.com にお願ひします。

編集者の一時帰国のため、11月は休刊させて頂きます。どうぞ12月号をお楽しみに。

カーメル・バプテスト教会
1145 Pineville-Matthews Rd.
Matthews, NC 28105
<http://ifc26.tripod.com>

モルモン教、エホバの証人（ものみの塔）、
統一教会とは関係のない、正統的なキリスト
教会です。安心して気軽においで下さい。

日本人ミニストリー連絡先：
李牧師（704-847-8575）
ラブストランド牧師（704-849-8851）
片山（704-843-6298）

いのちの泉

カーメルバプテスト教会
日本人ミニストリー月報
2003年10号

街路樹が少しずつ色づいて来ました。一本の木の葉が緑から黄色、オレンジ色と変化のある様は、ため息が出るほど美しく、これからの朝歩きが楽しくなりました。これから暫くの間は、自然の織りなす微妙な美しさを随所に楽しむことでしょう。

皆様にはお変わりなくお過ごしでいらっしゃいますか。今月は16日に日本から岸義紘先生をお迎えし、サクソフォンのコンサートと、先生のお証しを伺うチャンスに恵まれました。集会には、日本人だけでなく、中国人、韓国人、アメリカ人と、多勢の方が集まって下さり、岸先生が心を込めて演奏されるサクソフォンの音色が染み透った心で、先生のユーモラスなお証しを聞くことができ、感謝でした。

実を申しますと、私はここ一ヶ月余り、祈ることも、聖書を手取ることもできず、毎月ハーベストタイムミニストリーが送ってくれるテープを観ることもできずに過ごして来たのですが、四、五日前、ハーベストタイムのテープを意を決して観ることになりました。(意を決して、という言葉はこの時の私にとって、決して大げさな言葉ではありません。) 9月号のそのテープには、中川健一先生が最近出版された「日本人に送る聖書ものがたり」という本の製作に携わられた、編集者と挿絵画家へのインタビューが入っていました。その二人が語られる言葉と、真の謙虚な姿に私は引きつけられるように、TVの画面に見入りました。三日間続けて観ることによって、私は自分の心の中の問題点を見つけることができました。といいますのも、私は最近、ノンクリスチャンの友人達と話す時に、「私の信仰なんてこの程度...」という言葉、何度か口にしておりました(そのつど心の中に何かを感じながら)。信仰を持つことは、自分で決めることかもしれませんが、(それでさえも、主に選ばれたことであるのですが)信仰を深めることは、勿論、聖書を学ぶこともあるでしょうが、聖霊の働きによるもの、主に引き上げられてあるものではないかと思いました。それなのに「私の信仰なんてこの程度...」とは、主に対してなんと不遜な言葉を吐いたものでしょう。ほんとうに謙虚な人に出会う時、人間は自分の傲慢さに気づくのでしょうか。祈りの中で、自分の愚かさを、傲慢さを、主に詫言いました。針の穴ほどの小さな小さな私にまで、目をそそいで下さり、諭して下さる主に、心から感謝しました。ハレルヤ!

(中藤百々代)



戦争中の私達 エペソ6章10節から20節

ジョエル・ラブストランド牧師

私は、かつて日本のテレビ番組を見て六十年代と七十年代の歌謡曲を聞きました。その中の一曲は、戦争の知らない新世代についての歌詞がありました。確かに、平和の時代に生きる事は大きな恵みですが、聖歌300番を見たら違うような歌詞が書いてあるのに気がつきます。そこに「進め主イエスの兵士らよ」という歌詞が入っています。その歌は、クリスチャン生活を戦争に喩えている訳です。あるアメリカの教会は、その歌詞が今の平和の時代に相応しくないから讚美歌集から除きました。しかしどうでしょうか。使徒パウロはよく軍隊に関する表現を使います。こんなに荒々しい表現を使う必要が本当にあるかと思われるかもしれませんが、戦争についての英語の言葉があります。

「War is hell」、訳すと「戦争は地獄だ」ということです。戦争は本当に怖くて苦しめるものです。しかし、私達の霊的な戦いは戦争と同じように敵がいて、その敵と戦う備えをしなければ、攻められる時戦おうとしても対抗できません。

ベトナム戦争の後でアメリカの軍隊が徴兵制度から志願制度に変わりました。冷戦がまだ続いていたので、時々週刊誌等に米軍の戦備はどうかという課題がのっていました。ロシアに攻められたら対抗できるでしょ

うか。自分の軍隊が強かったら敵に攻められないだろうし、攻められても勝つ事が出来るという風に考えられていました。

私達も戦備が必要です。霊的戦備が必要です。しかし私達の場合は、戦いを防ぐ為ではありません。クリスチャンなら必ずサタンに狙われます。戦わずをえないのです。イエスを信じたら、サタンの敵となります。キリストの兵士となりますから、アダムとエバが罪を犯した時、この世はサタンに支配されるようになりました。誘惑した蛇と人間が、神様に呪われてしまいました。しかし、神様は人間を見捨てはなさいませんでした。呪いと一緒に救い主の約束が加えられました。主なる神は、蛇に向かって言われた。「このようなことをしたお前は、あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で、呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に、わたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き、お前は彼のかかとを砕く。」(創世記3:14、15)

キリストが現れた時、神様のものをサタンの支配から取り返す事が始まりました。イエス様が罪を赦したり、悪霊を追い出したりしておられました。ヨハネの

福音書 12 章 3 1 節にこう言われます。「今こそ、この世が裁かれる時。今、この世の支配者が追放される。」（ヨハネ 12 : 3 1）罪人がイエスを信じたら、サタンの支配から神様の支配に移されます。こういうふうに神様の御国が広がります。イエス様を信じたら、神様と平和を持つ事になりながらサタンの敵になります。十字架の上でイエス様は人間をサタンの力から贖われました。イエス様は確かな勝利を得られましたが、御国は地上でまだ安全な形になっていません。サタンは、まだ暫くこの世の支配者です。第一コリント人への手紙にこういうふうに表現されています。「次いで、世の終わりが来ます。そのとき、キリストはすべての支配、すべての権威や勢力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます。」（コリント 1 15 : 2 4）

靈的には私達は今戦争中です。戦備はできていますか。今朝の聖書箇所は私達のサタンに対する戦いに何が必要かを教えています。ここに神の武具と呼ばれています。

では、この靈的な戦いにどんな武具が必要かを考える前に 1 2 節に注目してください。「わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。」（1 2）多くの場合、私たちは外面的な問題に注意を払いますが、靈的な事を忘れてしまいます。夫婦げんかをする時や自分を傷つけた人に対してうらみをもつ時、あるいはキリストチャンとして迫害される時、その人間の相手に対する戦いだと思い込んでしまいます。教会の中でも人間関係の問題にぶつかると、「あの人が悪い」と思って、サタンの策略に気がつかない事が多いと思います。しかし、1 2 節によると、「私達の格闘は・・・」私達の格闘はサタンと悪霊どもに対するものです。サタンは色々な状況の中で私達の弱い所を狙って誘惑します。それで 1 3 節に書いてあるように神の武具が役に立ちます。

では神の武具というのは何でしょうか。1 4 節から 1 7 節まで色々なものが述べられています。最初に 1 4 節に真理の帯という武具があります。パウロはこういう武具をリストアップした時、おそらくローマ兵と鎖につながっていました。その兵士の武具を見たら旧約聖書の御言葉を思い出すでしょう。実は、この真理の帯という文句はイザヤ書 1 1 章 5 節に書かれた文句とほとんど同じです。イザヤ書の場合は、正義の帯と真実の帯という言葉はその人の性質を表す表現です。エペソ人への手紙の場合も自分の性質を表す言葉でしょう。しかし、この真理は自分の知識によるものではありません。神様の絶対的な真理です。

この真理の帯を身につけるのに聖書を勉強する必要があります。しかし、真理の帯を身につける事は、真理を知る事だけでなく、**真理を??** と真理によって生きる事も含まれていると思います。

次の武具は、1 4 節の終わりに書いてある正義の胸当てです。これはイザヤ 5 9 章 1 7 節からの引用です。その箇所には、神様は御自分の正義によって裁きと救

いをもたらしました。私達はイエス様を信じたらそのいけにえのゆえに、イエス様の義を与えられました。神様に義と認められます。しかし、この手紙はキリストチャンに対して書かれた物なので、この正義は与えられた絶対的な義だけではないと思います。日常生活の中での義による生き方も大切だと教えられています。神様に義と認めて頂いたら日常生活はどうでもいいと思う事は大きな間違いです。そう思っていたら、悪魔に左右されやすくなります。

三つ目の武具は平和の福音の備えです。これは兵士の靴です。「どうして戦争中の私たちに平和の福音の備えが必要なのだろう」と思われるかも知れません。キリストチャンになる時、サタンと戦うようになるとしたら、どういう意味で「平和の福音」と呼ばれているのでしょうか。外面的に平和がないかも知れません。マタイによる福音書 10 節 3 4 - 3 5 節にイエス様は言われました。「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思っはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。わたしは敵対させるために来たからである。人をその父に、／娘を母に、／嫁をしゅうとめに。」（マタイ 10 : 3 4 - 3 5）サタンの敵となったらサタンの支配にある人々にぶつかってしまう事がよくあります。しかし、心の中で平安があります。ローマ書 5 章 1 節に「このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、（ローマ 5 : 1）」と書いてあります。この平和の福音を伝える特権が私達に与えられました。第二コリント 5 章 1 8 - 1 9 節を御覧ください。「これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。」（コリント 2 5 : 1 8 - 1 9）パウロと同じ様に、私達はこの平和の福音を伝える事が出来ます。そうするとイザヤ書 5 2 章 7 節の御言葉は私達に当て嵌まります。「いかに美しいことか／山々を歩き巡り、良い知らせを伝える者の足は。彼は平和を告げ、恵みの良い知らせを伝え／救いを告げ／あなたの神は王となられた、と／シオンに向かって呼ばれる。」（イザヤ 5 2 : 7）福音を伝える用意をしようではありませんか。これは本当に素晴らしい特権です。第一ペテロ 3 章 1 5 節を御覧ください。「心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。」（ペテロ 1 3 : 1 5）正しい態度をもって弁明する事は難しいですね。続けて 1 6 節をお読みします。「それも、穏やかに、敬意をもって、正しい良心で、弁明するようにしなさい。そうすれば、キリストに結ばれたあなたがたの善い生活をののしる者たちは、悪

口を言ったことで恥じ入るようになるのです。」（ペテロ 1 3 : 16）

それでは、本文に戻りましょう。エペソ6章16節に四つ目の武具が見つかります。信仰の大盾です。

「なおその上に、信仰を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことができるのです。」（エペソ6 : 16）サタンは、私達を神様から引き離そうをしています。神様の愛を疑わせようとします。「神様はあなたを本当に愛していたら、こんなにひどい目にあわせないだろう」とか「神様はあなたの事を忘れたんだよ。もう神様に仕えるのをやめた方がいい」とか、色々なうそをつきますが、私達の信仰がしっかりしていたらそういう思いがあっても、心の中で燃えるようになりません。質のいい盾に当たる火矢のように消えてしまいます。当時のローマ兵の大盾は長方形でした。高さは1メートル以上で幅はその半分でした。木で作られていて表面に固い皮が張ってありました。盾につなぎがあったのでほかの盾とつなぎ合わせる事ができました。そうすると、兵士がみんな一緒に進む事が出来ました。私達も互いの信仰を強めます。教会が一致していたら一緒にサタンに対して進む事が出来ます。

では、次の武具は何でしょうか。17節を御覧ください。「また、救いを兜としてかぶり、霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」（17）救いのかぶとという神の武具は、実は先程読ませていただいたイザヤ59章17節にもなっています。「主は恵みの御業を鎧としてまとい／救いを兜としてかぶり、報復を衣としてまとい／熱情を上着として身を包まれた。」（イザヤ59 : 17）神様は救われる必要がないので、神様の場合は救われる事でなく、人を救うことを意味します。パウロの場合は多分、ちょっと違う意味で言っているのではないかと思います。つまり私達は救わ

れたのでサタンに攻められても、死に至るような負傷が決して与えられません。この兜を被らないでサタンと戦おうとするのは愚かな事です。使徒の働き19章13節から17節までお読みください。このスケワの息子たちは、自分が救われていないのにほかの人をサタンの力から救おうとしていました。しかしそれは無理でした。自分をさえ救う事が出来ませんでした。私達はイエス様によって救われたという確信をもっていたらほかの人を助ける事が可能となります。神様の子供としての権威をもって大胆にサタンと戦う事ができます。

そして、最後の武具は本文の17節に書いてあります。「霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」

（17b）。先週、陳先生はこの御霊の与え剣である御言葉についてメッセージをされました。私達はイエス様のように御言葉を使ってサタンに対して戦う事ができればいいですね。私たちも御言葉を心に留めていたらサタンの誘惑に対抗できます。詩篇119篇11節に「あなたに罪を犯さない為、私はあなたのことばを心にたくわえました。」と書いてあります。私たちは御言葉を覚えて適用出来れば出来る程、よりよいキリストの兵士になります。「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましい？と霊、間接と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心の色々な考えやばかりごとを判別することができます。」（ヘブル4 : 12）

今、戦争中です。私達の敵サタンは神様の子供達を憎んで、私達を滅ぼそうとしています。戦備が出来ていますか。神の武具、つまり真理の帯、正義の胸当て、平和の福音の備え、信仰の大盾、救いのかぶと、御霊の剣である御言葉、全部身に着けていますか。身に着けて大胆に戦いましょう。

お祈りしましょう。

心のマッサージ

ユダヤ笑話集 社会思想社三浦鞠郎著

自慢

ユダヤ社会では、肉の料理を食べた後、6時間以内にミルクの入った料理を食べてはいけない、という決まりがある。三人のユダヤ人がある時、どれほど自分達が信心深いかを自慢しあった。第一の男「うちにはかまどが二つあるんだ。一つは肉料理のために。もう一つはミルク料理のためにね。」第二の男「うちはもっと信心深いから、肉の料理をする女中とミルクの料理をする女中の2人がいるんだ。」第三の男「うちこそ、一番敬謙な家庭だと思うよ。何しろ「肉」という言葉を口にしたら、6時間たった後でなければ「ミルク」という言葉を口にしないのだからね。」

身代わり

詩人フランケルは、詩作だけでは食べていけないので、ある文化団体の事務主任をしていた。ある時、事務員が一人死んだ。せっちな男がいて、自分をその代わりにと、さっそく頼みに来た。その時は埋葬もまだすんでいなかった。「お安い御用だがね」とフランケルは約束した。「だが、君のような大きな男を、果して私だけで棺の中に入れられるかどうか。」

地磁気の変化

大洪水と直接の関連がないように見えますが、今回は神が天地を創造された時の地球と現在の地球が異なっ

ているという点に関連しているので、地磁気の変化の問題について論じることにしたいと思います。

「神様はどうして毒蛇や毒グモなんか造られたのだろう」と、考えたことはありませんか。実は私も、これだけはどうしても理解できませんでした。しかし、創世記1章節で「神はお造りになった全てのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった」と書かれていることは間違いではありませんでした。神は、人間に全てのものを支配させようとして創造されました。その中には人間に害を及ぼすようなものはなかったはずで、ということ、やはり毒蛇や毒グモは、その後何かから進化して来たのではないか、と思われるかもしれません。やはり進化説が正しかったのだと。しかし、そうではありません。今、毒を持っている蛇やクモも、最初に神が創造された時には毒を持っていなかったのです。だから、全てのものは神の目に極めて良かったのです。では、なぜ今、毒蛇や毒グモが居るのでしょうか。

以前、生命の誕生の所でお話しましたが、動物の体はタンパク質できていて、タンパク質はアミノ酸の連鎖によってできています。実は蛇やクモの毒も、このタンパク質の一種なのです。そしてタンパク質のアミノ酸の連鎖に磁気が強い影響を及ぼすことが分かっています。私はウイクリフ聖書翻訳協会に奉仕していますが、毒蛇や毒グモのいる地域で奉仕するウイクリフの宣教師達は、ザッパーという簡易発電機を持って行きます。ザッパーは、電流は極めて微弱ですが、2万ボルトほどの高電圧を発生します。これを毒の入った傷口周辺に当てて電気を起こすと、多少ショックがありますが人体には影響なく、毒であるタンパク質のアミノ酸の連鎖は、この高電圧によって破壊され、毒が毒でなくなる、つまり解毒されるのです。ザッパーのお陰で毒蛇にかまれた人が、助かったという例が何件もあります。

これに関して、ある時、「地球の磁気は1400年毎に半減しているということですが」と、京都大学の地磁気研究所に問い合わせたところ、研究者の方から回答を頂きました。それによると、過去400年のデータを見ると、このまま推移すれば1000年以内に地球には磁気がなくなる可能性があるとのことでした。

聖書に拠れば、ノアの洪水は約4500年前に起こりました。そこで、この地磁気に関する情報を適用すれば、ノアの洪水当時の地磁気の強度は現在の約10倍です。この磁気強度では、現在クモなどの毒として存在するアミノ酸は、連鎖を形成しないということです。

つまり、洪水以前には毒を持った蛇やクモはいなかったのです。最初に述べたとおり、神がこれらの生き物を創造された時、それらは良かったのです。

ファイアーアントがどんどん北上して来ていると言います。以前はいなかった所まで来ていて、噛まれて被害に会う人が出ています。渡り鳥が渡る途中で方向を失って死んでしまったという話を聞くこともあります。なぜそのようなことが起こるのでしょうか。それは地磁気が弱くなっているからです。地磁気が弱くなっているためファイアーアントが活動できる範囲が広がっているのです。また渡り鳥の体内磁石が方向を探知できなくなっているのです。

私達の罪によって、人間社会が崩壊しつつあると同様に、大気や海洋汚染だけでなく、このような形で地球も物理的に崩壊しつつあります。黙示録は、これらの事はやがて起こるべきことだと言うことを私達に教えてくれています。イエス・キリストを信じる人々の上にも、このような苦難は襲います。しかし、キリストを信じる人には、そのような苦難の後に与えられる勝利と平安が約束されています。ハレルヤ!

片山進悟

「第一の天使がラッパを吹いた。すると血の混じった雹と火とが生じ、地上に投げ入れられた。地上の三分の一が焼け、木々の三分の一が焼け、すべての青草も焼けてしまった。第二の天使がラッパを吹いた。すると、火で燃えている大きな山のようなものが、海に投げ入れられた。海の三分の一が血に変わり、また被造物で海に住む生き物の三分の一は死に、船という船の三分の一が壊された。第三の天使がラッパを吹いた。すると、松明のように燃えている大きな星が、天から落ちて来て、川という川の三分の一と、その水源の上に落ちた。この星の名は「苦よもぎ」といい水の三分の一が苦よもぎのように苦くなって、そのために多くの人が死んだ。第四の天使がラッパを吹いた。すると太陽の三分の一、月の三分の一、星という星の三分の一が損なわれたので、それぞれ三分の一が暗くなって、昼はその光の三分の一を失い、夜も同じようになった。」(黙示録8章7節～12節)

お知らせ

毎月第2と第4火曜日9時半から、A240号室でエクレシアの会という、肩のこらない形での聖書の学びと楽しい交わりの集まりをしています。どなたでもお気軽にどうぞ。お問い合わせは片山姉704-843-8038まで。

日曜日午前9時半からA231号室で高見憲次兄による成人のための日曜学校、11時からR109号室でラブストランド牧師による礼拝、また月曜日午後7時からA238号室でラブストランド牧師による聖書の学が行われています。世界のベストセラー、聖書をご一緒に学びましょう。

今年もクリスマスにはJillybeanが来て、腹話術、奇術などの楽しいパフォーマンスを披露してくれます（英語です）。12月6日、土曜日午後4時半からをぜひ空けて置いて下さい。どうぞお友達もお誘い下さい。

「いのちの泉」は、シャーロット在住の日本人のコミュニケーションのための月刊紙を目指しています。皆さんも、どうぞ奮ってご参加下さい。お互いの向上に役立てるための趣旨に賛同して下さる内容であれば何でも結構です。Carmel Baptist ChurchのJapanese Ministry宛、または charlottejpn@hotmail.com にお願ひします。

編集者の一時帰国のため、11月は休刊させて頂きます。どうぞ12月号をお楽しみに。

カーメル・バプテスト教会
1145 Pineville-Matthews Rd.
Matthews, NC 28105
<http://ifc26.tripod.com>

モルモン教、エホバの証人（ものみの塔）、
統一教会とは関係のない、正統的なキリスト
教会です。安心して気軽においで下さい。

日本人ミニストリー連絡先：
李牧師（704-847-8575）
ラブストランド牧師（704-849-8851）
片山（704-843-6298）

いのちの泉

カーメルバプテスト教会
日本人ミニストリー月報
2003年10号

街路樹が少しずつ色づいて来ました。一本の木の葉が緑から黄色、オレンジ色と変化のある様は、ため息が出るほど美しく、これからの朝歩きが楽しくなりました。これから暫くの間は、自然の織りなす微妙な美しさを随所に楽しむことでしょう。

皆様にはお変わりなくお過ごしでいらっしゃいますか。今月は16日に日本から岸義紘先生をお迎えし、サクソフオンのコンサートと、先生のお証しを伺うチャンスに恵まれました。集会には、日本人だけでなく、中国人、韓国人、アメリカ人と、多勢の方が集まって下さり、岸先生が心を込めて演奏されるサクソフオンの音色が染み透った心で、先生のユーモラスなお証しを聞くことができ、感謝でした。

実を申しますと、私はここ一ヶ月余り、祈ることも、聖書を手取ることもできず、毎月ハーベストタイムミニストリーが送ってくれるテープを観ることもできずに過ごして来たのですが、四、五日前、ハーベストタイムのテープを意を決して観ることになりました。(意を決して、という言葉はこの時の私にとって、決して大げさな言葉ではありません。) 9月号のそのテープには、中川健一先生が最近出版された「日本人に送る聖書ものがたり」という本の製作に携わられた、編集者と挿絵画家へのインタビューが入っていました。その二人が語られる言葉と、真の謙虚な姿に私は引きつけられるように、TVの画面に見入りました。三日間続けて観ることによって、私は自分の心の中の問題点を見つけることができました。といたしますのも、私は最近、ノンクリスチャンの友人達と話す時に、「私の信仰なんてこの程度...」という言葉、何度か口にしておりました(そのつど心の中に何かを感じながら)。信仰を持つことは、自分で決めることかもしれませんが、(それでさえも、主に選ばれたことであるのですが)信仰を深めることは、勿論、聖書を学ぶこともあるでしょうが、聖霊の働きによるもの、主に引き上げられてあるものではないかと思いました。それなのに「私の信仰なんてこの程度...」とは、主に対してなんと不遜な言葉を吐いたものでしょう。ほんとうに謙虚な人に出会う時、人間は自分の傲慢さに気づくのでしょうか。祈りの中で、自分の愚かさを、傲慢さを、主に詫言いました。針の穴ほどの小さな小さな私にまで、目をそそいで下さり、諭して下さる主に、心から感謝しました。ハレルヤ!

(中藤百々代)



戦争中の私達 エペソ6章10節から20節

ジョエル・ラブストランド牧師

私は、かつて日本のテレビ番組を見て六十年代と七十年代の歌謡曲を聞きました。その中の一曲は、戦争の知らない新世代についての歌詞がありました。確かに、平和の時代に生きる事は大きな恵みですが、聖歌300番を見たら違うような歌詞が書いてあるのに気がつきます。そこに「進め主イエスの兵士らよ」という歌詞が入っています。その歌は、クリスチャン生活を戦争に喩えている訳です。あるアメリカの教会は、その歌詞が今の平和の時代に相応しくないから讚美歌集から除きました。しかしどうでしょうか。使徒パウロはよく軍隊に関する表現を使います。こんなに荒々しい表現を使う必要が本当にあるかと思われるかもしれませんが、戦争についての英語の言葉があります。

「War is hell」、訳すと「戦争は地獄だ」ということです。戦争は本当に怖くて苦しめるものです。しかし、私達の霊的な戦いは戦争と同じように敵がいて、その敵と戦う備えをしなければ、攻められる時戦おうとしても対抗できません。

ベトナム戦争の後でアメリカの軍隊が徴兵制度から志願制度に変わりました。冷戦がまだ続いていたので、時々週刊誌等に米軍の戦備はどうかという課題がのっていました。ロシアに攻められたら対抗できるでしょ

うか。自分の軍隊が強かったら敵に攻められないだろうし、攻められても勝つ事が出来るという風に考えられていました。

私達も戦備が必要です。霊的戦備が必要です。しかし私達の場合は、戦いを防ぐ為ではありません。クリスチャンなら必ずサタンに狙われます。戦わずをえないのです。イエスを信じたら、サタンの敵となります。キリストの兵士となりますから、アダムとエバが罪を犯した時、この世はサタンに支配されるようになりました。誘惑した蛇と人間が、神様に呪われてしまいました。しかし、神様は人間を見捨てはなさいませんでした。呪いと一緒に救い主の約束が加えられました。主なる神は、蛇に向かって言われた。「このようなことをしたお前は、あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で、呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に、わたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き、お前は彼のかかとを砕く。」(創世記3:14、15)

キリストが現れた時、神様のものをサタンの支配から取り返す事が始まりました。イエス様が罪を赦したり、悪霊を追い出したりしておられました。ヨハネの

福音書 12 章 3 1 節にこう言われます。「今こそ、この世が裁かれる時。今、この世の支配者が追放される。」（ヨハネ 12 : 3 1）罪人がイエスを信じたら、サタンの支配から神様の支配に移されます。こういうふうに神様の御国が広がります。イエス様を信じたら、神様と平和を持つ事になりながらサタンの敵になります。十字架の上でイエス様は人間をサタンの力から贖われました。イエス様は確かな勝利を得られましたが、御国は地上でまだ安全な形になっていません。サタンは、まだ暫くこの世の支配者です。第一コリント人への手紙にこういうふうに表現されています。「次いで、世の終わりが来ます。そのとき、キリストはすべての支配、すべての権威や勢力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます。」（コリント 1 15 : 2 4）

靈的には私達は今戦争中です。戦備はできていますか。今朝の聖書箇所は私達のサタンに対する戦いに何が必要かを教えています。ここに神の武具と呼ばれています。

では、この靈的な戦いにどんな武具が必要かを考える前に 1 2 節に注目してください。「わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。」（1 2）多くの場合、私たちは外面的な問題に注意を払いますが、靈的な事を忘れてしまいます。夫婦げんかをする時や自分を傷つけた人に対してうらみをもつ時、あるいはキリストチャンとして迫害される時、その人間の相手に対する戦いだと思い込んでしまいます。教会の中でも人間関係の問題にぶつかると、「あの人が悪い」と思って、サタンの策略に気がつかない事が多いと思います。しかし、1 2 節によると、「私達の格闘は・・・」私達の格闘はサタンと悪霊どもに対するものです。サタンは色々な状況の中で私達の弱い所を狙って誘惑します。それで 1 3 節に書いてあるように神の武具が役に立ちます。

では神の武具というのは何でしょうか。1 4 節から 1 7 節まで色々なものが述べられています。最初に 1 4 節に真理の帯という武具があります。パウロはこういう武具をリストアップした時、おそらくローマ兵と鎖につながっていました。その兵士の武具を見たら旧約聖書の御言葉を思い出すでしょう。実は、この真理の帯という文句はイザヤ書 1 1 章 5 節に書かれた文句とほとんど同じです。イザヤ書の場合は、正義の帯と真実の帯という言葉はその人の性質を表す表現です。エペソ人への手紙の場合も自分の性質を表す言葉でしょう。しかし、この真理は自分の知識によるものではありません。神様の絶対的な真理です。

この真理の帯を身につけるのに聖書を勉強する必要があります。しかし、真理の帯を身につける事は、真理を知る事だけでなく、**真理を??** と真理によって生きる事も含まれていると思います。

次の武具は、1 4 節の終わりに書いてある正義の胸当てです。これはイザヤ 5 9 章 1 7 節からの引用です。その箇所には、神様は御自分の正義によって裁きと救

いをもたらしました。私達はイエス様を信じたらそのいけにえのゆえに、イエス様の義を与えられました。神様に義と認められます。しかし、この手紙はキリストチャンに対して書かれた物なので、この正義は与えられた絶対的な義だけではないと思います。日常生活の中での義による生き方も大切だと教えられています。神様に義と認めて頂いたら日常生活はどうでもいいと思う事は大きな間違いです。そう思っていたら、悪魔に左右されやすくなります。

三つ目の武具は平和の福音の備えです。これは兵士の靴です。「どうして戦争中の私たちに平和の福音の備えが必要なのだろう」と思われるかも知れません。キリストチャンになる時、サタンと戦うようになるとしたら、どういう意味で「平和の福音」と呼ばれているのでしょうか。外面的に平和がないかも知れません。マタイによる福音書 10 節 3 4 - 3 5 節にイエス様は言われました。「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思っはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。わたしは敵対させるために来たからである。人をその父に、／娘を母に、／嫁をしゅうとめに。」（マタイ 10 : 3 4 - 3 5）サタンの敵となったらサタンの支配にある人々にぶつかってしまう事がよくあります。しかし、心の中で平安があります。ローマ書 5 章 1 節に「このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、（ローマ 5 : 1）」と書いてあります。この平和の福音を伝える特権が私達に与えられました。第二コリント 5 章 1 8 - 1 9 節を御覧ください。「これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。」（コリント 2 5 : 1 8 - 1 9）パウロと同じ様に、私達はこの平和の福音を伝える事が出来ます。そうするとイザヤ書 5 2 章 7 節の御言葉は私達に当て嵌まります。「いかに美しいことか／山々を歩き巡り、良い知らせを伝える者の足は。彼は平和を告げ、恵みの良い知らせを伝え／救いを告げ／あなたの神は王となられた、と／シオンに向かって呼ばれる。」（イザヤ 5 2 : 7）福音を伝える用意をしようではありませんか。これは本当に素晴らしい特権です。第一ペテロ 3 章 1 5 節を御覧ください。「心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。」（ペテロ 1 3 : 1 5）正しい態度をもって弁明する事は難しいですね。続けて 1 6 節をお読みします。「それも、穏やかに、敬意をもって、正しい良心で、弁明するようにしなさい。そうすれば、キリストに結ばれたあなたがたの善い生活をののしる者たちは、悪

口を言ったことで恥じ入るようになるのです。」（ペテロ 1 3 : 16）

それでは、本文に戻りましょう。エペソ6章16節に四つ目の武具が見つかります。信仰の大盾です。

「なおその上に、信仰を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことができるのです。」（エペソ6 : 16）サタンは、私達を神様から引き離そうをしています。神様の愛を疑わせようとします。「神様はあなたを本当に愛していたら、こんなにひどい目にあわせないだろう」とか「神様はあなたの事を忘れたんだよ。もう神様に仕えるのをやめた方がいい」とか、色々なうそをつきますが、私達の信仰がしっかりしていたらそういう思いがあっても、心の中で燃えるようになりません。質のいい盾に当たる火矢のように消えてしまいます。当時のローマ兵の大盾は長方形でした。高さは1メートル以上で幅はその半分でした。木で作られていて表面に固い皮が張ってありました。盾につなぎがあったのでほかの盾とつなぎ合わせる事ができました。そうすると、兵士がみんな一緒に進む事が出来ました。私達も互いの信仰を強めます。教会が一致していたら一緒にサタンに対して進む事が出来ます。

では、次の武具は何でしょうか。17節を御覧ください。「また、救いを兜としてかぶり、霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」（17）救いのかぶとという神の武具は、実は先程読ませていただいたイザヤ59章17節にもなっています。「主は恵みの御業を鎧としてまとい／救いを兜としてかぶり、報復を衣としてまとい／熱情を上着として身を包まれた。」

（イザヤ59 : 17）神様は救われる必要がないので、神様の場合は救われる事でなく、人を救うことを意味します。パウロの場合は多分、ちょっと違う意味で言っているのではないかと思います。つまり私達は救わ

れたのでサタンに攻められても、死に至るような負傷が決して与えられません。この兜を被らないでサタンと戦おうとするのは愚かな事です。使徒の働き19章13節から17節までお読みください。このスケワの息子たちは、自分が救われていないのにほかの人をサタンの力から救おうとしていました。しかしそれは無理でした。自分をさえ救う事が出来ませんでした。私達はイエス様によって救われたという確信をもっていたらほかの人を助ける事が可能となります。神様の子供としての権威をもって大胆にサタンと戦う事ができます。

そして、最後の武具は本文の17節に書いてあります。「霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」

（17b）。先週、陳先生はこの御霊の与え剣である御言葉についてメッセージをされました。私達はイエス様のように御言葉を使ってサタンに対して戦う事ができればいいですね。私たちも御言葉を心に留めていたらサタンの誘惑に対抗できます。詩篇119篇11節に「あなたに罪を犯さない為、私はあなたのことばを心にたくわえました。」と書いてあります。私たちは御言葉を覚えて適用出来れば出来る程、よりよいキリストの兵士になります。「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましい？と霊、間接と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心の色々な考えやばかりごとを判別することができます。」（ヘブル4 : 12）

今、戦争中です。私達の敵サタンは神様の子供達を憎んで、私達を滅ぼそうとしています。戦備が出来ていますか。神の武具、つまり真理の帯、正義の胸当て、平和の福音の備え、信仰の大盾、救いのかぶと、御霊の剣である御言葉、全部身に着けていますか。身に着けて大胆に戦いましょう。

お祈りしましょう。

心のマッサージ

ユダヤ笑話集 社会思想社三浦鞠郎著

自慢

ユダヤ社会では、肉の料理を食べた後、6時間以内にミルクの入った料理を食べてはいけない、という決まりがある。三人のユダヤ人がある時、どれほど自分達が信心深いかを自慢しあった。第一の男「うちにはかまどが二つあるんだ。一つは肉料理のために。もう一つはミルク料理のためにね。」第二の男「うちはずっと信心深いから、肉の料理をする女中とミルクの料理をする女中の2人がいるんだ。」第三の男「うちこそ、一番敬謙な家庭だと思うよ。何しろ「肉」という言葉を口にしたら、6時間たった後でなければ「ミルク」という言葉を口にしないのだからね。」

身代わり

詩人フランケルは、詩作だけでは食べていけないので、ある文化団体の事務主任をしていた。ある時、事務員が一人死んだ。せっちな男がいて、自分をその代わりにと、さっそく頼みに来た。その時は埋葬もまだすんでいなかった。「お安い御用だがね」とフランケルは約束した。「だが、君のような大きな男を、果して私だけで棺の中に入れられるかどうか。」

地磁気の変化

大洪水と直接の関連がないように見えますが、今回は神が天地を創造された時の地球と現在の地球が異なっ

ているという点で関連しているので、地磁気の変化の問題について論じることにしたいと思います。

「神様はどうして毒蛇や毒グモなんか造られたのだろう」と、考えたことはありませんか。実は私も、これだけではどうしても理解できませんでした。しかし、創世記1章節で「神はお造りになった全てのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった」と書かれていることは間違いではありませんでした。神は、人間に全てのものを支配させようとして創造されました。その中には人間に害を及ぼすようなものはなかったはずで、ということ、やはり毒蛇や毒グモは、その後何かから進化して来たのではないか、と思われるかもしれません。やはり進化説が正しかったのだと。しかし、そうではありません。今、毒を持っている蛇やクモも、最初に神が創造された時には毒を持っていなかったのです。だから、全てのものは神の目に極めて良かったのです。では、なぜ今、毒蛇や毒グモが居るのでしょうか。

以前、生命の誕生の所でお話しましたが、動物の体はタンパク質できていて、タンパク質はアミノ酸の連鎖によってできています。実は蛇やクモの毒も、このタンパク質の一種なのです。そしてタンパク質のアミノ酸の連鎖に磁気が強い影響を及ぼすことが分かっています。私はウイクリフ聖書翻訳協会に奉仕していますが、毒蛇や毒グモのいる地域で奉仕するウイクリフの宣教師達は、ザッパーという簡易発電機を持って行きます。ザッパーは、電流は極めて微弱ですが、2万ボルトほどの高電圧を発生します。これを毒の入った傷口周辺に当てて電気を起こすと、多少ショックがありますが人体には影響なく、毒であるタンパク質のアミノ酸の連鎖は、この高電圧によって破壊され、毒が毒でなくなる、つまり解毒されるのです。ザッパーのお陰で毒蛇にかまれた人が、助かったという例が何件もあります。

これに関して、ある時、「地球の磁気は1400年毎に半減しているということですが」と、京都大学の地磁気研究所に問い合わせたところ、研究者の方から回答を頂きました。それによると、過去400年のデータを見ると、このまま推移すれば1000年以内に地球には磁気がなくなる可能性があるとのことでした。

聖書に拠れば、ノアの洪水は約4500年前に起こりました。そこで、この地磁気に関する情報を適用すれば、ノアの洪水当時の地磁気の強度は現在の約10倍です。この磁気強度では、現在クモなどの毒として存在するアミノ酸は、連鎖を形成しないということです。

つまり、洪水以前には毒を持った蛇やクモはいなかったのです。最初に述べたとおり、神がこれらの生き物を創造された時、それらは良かったのです。

ファイアーアントがどんどん北上して来ていると言います。以前はいなかった所まで来ていて、噛まれて被害に会う人が出ています。渡り鳥が渡る途中で方向を失って死んでしまったという話を聞くこともあります。なぜそのようなことが起こるのでしょうか。それは地磁気が弱くなっているからです。地磁気が弱くなっているためファイアーアントが活動できる範囲が広がっているのです。また渡り鳥の体内磁石が方向を探知できなくなっているのです。

私達の罪によって、人間社会が崩壊しつつあると同様に、大気や海洋汚染だけでなく、このような形で地球も物理的に崩壊しつつあります。黙示録は、これらの事はやがて起こるべきことだと言うことを私達に教えてくれています。イエス・キリストを信じる人々の上にも、このような苦難は襲います。しかし、キリストを信じる人には、そのような苦難の後に与えられる勝利と平安が約束されています。ハレルヤ!

片山進悟

「第一の天使がラッパを吹いた。すると血の混じった雹と火とが生じ、地上に投げ入れられた。地上の三分の一が焼け、木々の三分の一が焼け、すべての青草も焼けてしまった。第二の天使がラッパを吹いた。すると、火で燃えている大きな山のようなものが、海に投げ入れられた。海の三分の一が血に変わり、また被造物で海に住む生き物の三分の一は死に、船という船の三分の一が壊された。第三の天使がラッパを吹いた。すると、松明のように燃えている大きな星が、天から落ちて来て、川という川の三分の一と、その水源の上に落ちた。この星の名は「苦よもぎ」といい水の三分の一が苦よもぎのように苦くなって、そのために多くの人が死んだ。第四の天使がラッパを吹いた。すると太陽の三分の一、月の三分の一、星という星の三分の一が損なわれたので、それぞれ三分の一が暗くなって、昼はその光の三分の一を失い、夜も同じようになった。」(黙示録8章7節～12節)

お知らせ

毎月第2と第4火曜日9時半から、A240号室でエクレシアの会という、肩のこらない形での聖書の学びと楽しい交わりの集まりをしています。どなたでもお気軽にどうぞ。お問い合わせは片山姉704-843-8038まで。

日曜日午前9時半からA231号室で高見憲次兄による成人のための日曜学校、11時からR109号室でラブストランド牧師による礼拝、また月曜日午後7時からA238号室でラブストランド牧師による聖書の学が行われています。世界のベストセラー、聖書をご一緒に学びましょう。

今年もクリスマスにはJillybeanが来て、腹話術、奇術などの楽しいパフォーマンスを披露してくれます（英語です）。12月6日、土曜日午後4時半からをぜひ空けて置いて下さい。どうぞお友達もお誘い下さい。

「いのちの泉」は、シャーロット在住の日本人のコミュニケーションのための月刊紙を目指しています。皆さんも、どうぞ奮ってご参加下さい。お互いの向上に役立てるための趣旨に賛同して下さる内容であれば何でも結構です。Carmel Baptist ChurchのJapanese Ministry宛、または charlottejpn@hotmail.com にお願ひします。

編集者の一時帰国のため、11月は休刊させて頂きます。どうぞ12月号をお楽しみに。

カーメル・バプテスト教会
1145 Pineville-Matthews Rd.
Matthews, NC 28105
<http://ifc26.tripod.com>

モルモン教、エホバの証人（ものみの塔）、
統一教会とは関係のない、正統的なキリスト
教会です。安心して気軽においで下さい。

日本人ミニストリー連絡先：
李牧師（704-847-8575）
ラブストランド牧師（704-849-8851）
片山（704-843-6298）

いのちの泉

カメルバプテスト教会
日本人ミニストリー月報
2003年10号

街路樹が少しずつ色づいて来ました。一本の木の葉が緑から黄色、オレンジ色と変化のある様は、ため息が出るほど美しく、これからの朝歩きが楽しくなりました。これから暫くの間は、自然の織りなす微妙な美しさを随所に楽しむことでしょう。

皆様にはお変わりなくお過ごしでいらっしゃいますか。今月は16日に日本から岸義紘先生をお迎えし、サクソフオンのコンサートと、先生のお証しを伺うチャンスに恵まれました。集会には、日本人だけでなく、中国人、韓国人、アメリカ人と、多勢の方が集まって下さり、岸先生が心を込めて演奏されるサクソフオンの音色が染み透った心で、先生のユーモラスなお証しを聞くことができ、感謝でした。

実を申しますと、私はここ一ヶ月余り、祈ることも、聖書を手取ることもできず、毎月ハーベストタイムミニストリーが送ってくれるテープを観ることもできずに過ごして来たのですが、四、五日前、ハーベストタイムのテープを意を決して観ることになりました。(意を決して、という言葉はこの時の私にとって、決して大げさな言葉ではありません。) 9月号のそのテープには、中川健一先生が最近出版された「日本人に送る聖書ものがたり」という本の製作に携わられた、編集者と挿絵画家へのインタビューが入っていました。その二人が語られる言葉と、真の謙虚な姿に私は引きつけられるように、TVの画面に見入りました。三日間続けて観ることによって、私は自分の心の中の問題点を見つけることができました。といいますのも、私は最近、ノンクリスチャンの友人達と話す時に、「私の信仰なんてこの程度...」という言葉、何度か口にしておりました(そのつど心の中に何かを感じながら)。信仰を持つことは、自分で決めることかもしれませんが、(それでさえも、主に選ばれたことであるのですが)信仰を深めることは、勿論、聖書を学ぶこともあるでしょうが、聖霊の働きによるもの、主に引き上げられてあるものではないかと思いました。それなのに「私の信仰なんてこの程度...」とは、主に対してなんと不遜な言葉を吐いたものでしょう。ほんとうに謙虚な人に出会う時、人間は自分の傲慢さに気づくのでしょうか。祈りの中で、自分の愚かさを、傲慢さを、主に詫言いました。針の穴ほどの小さな小さな私にまで、目をそそいで下さり、諭して下さる主に、心から感謝しました。ハレルヤ!

(中藤百々代)



戦争中の私達 エペソ6章10節から20節

ジョエル・ラブストランド牧師

私は、かつて日本のテレビ番組を見て六十年代と七十年代の歌謡曲を聞きました。その中の一曲は、戦争の知らない新世代についての歌詞がありました。確かに、平和の時代に生きる事は大きな恵みですが、聖歌300番を見たら違うような歌詞が書いてあるのに気がつきます。そこに「進め主イエスの兵士らよ」という歌詞が入っています。その歌は、クリスチャン生活を戦争に喩えている訳です。あるアメリカの教会は、その歌詞が今の平和の時代に相応しくないから讚美歌集から除きました。しかしどうでしょうか。使徒パウロはよく軍隊に関する表現を使います。こんなに荒々しい表現を使う必要が本当にあるかと思われるかもしれませんが、戦争についての英語の言葉があります。

「War is hell」、訳すと「戦争は地獄だ」ということです。戦争は本当に怖くて苦しめるものです。しかし、私達の霊的な戦いは戦争と同じように敵がいて、その敵と戦う備えをしなければ、攻められる時戦おうとしても対抗できません。

ベトナム戦争の後でアメリカの軍隊が徴兵制度から志願制度に変わりました。冷戦がまだ続いていたので、時々週刊誌等に米軍の戦備はどうかという課題がのっていました。ロシアに攻められたら対抗できるでしょ

うか。自分の軍隊が強かったら敵に攻められないだろうし、攻められても勝つ事が出来るという風に考えられていました。

私達も戦備が必要です。霊的戦備が必要です。しかし私達の場合は、戦いを防ぐ為ではありません。クリスチャンなら必ずサタンに狙われます。戦わずをえないのです。イエスを信じたら、サタンの敵となります。キリストの兵士となりますから、アダムとエバが罪を犯した時、この世はサタンに支配されるようになりました。誘惑した蛇と人間が、神様に呪われてしまいました。しかし、神様は人間を見捨てはなさいませんでした。呪いと一緒に救い主の約束が加えられました。主なる神は、蛇に向かって言われた。「このようなことをしたお前は、あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で、呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に、わたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き、お前は彼のかかとを砕く。」(創世記3:14、15)

キリストが現れた時、神様のものをサタンの支配から取り返す事が始まりました。イエス様が罪を赦したり、悪霊を追い出したりしておられました。ヨハネの

福音書 12 章 3 1 節にこう言われます。「今こそ、この世が裁かれる時。今、この世の支配者が追放される。」（ヨハネ 12 : 3 1）罪人がイエスを信じたら、サタンの支配から神様の支配に移されます。こういうふうに神様の御国が広がります。イエス様を信じたら、神様と平和を持つ事になりながらサタンの敵になります。十字架の上でイエス様は人間をサタンの力から贖われました。イエス様は確かな勝利を得られましたが、御国は地上でまだ安全な形になっていません。サタンは、まだ暫くこの世の支配者です。第一コリント人への手紙にこういうふうに表現されています。「次いで、世の終わりが来ます。そのとき、キリストはすべての支配、すべての権威や勢力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます。」（コリント 1 15 : 2 4）

靈的には私達は今戦争中です。戦備はできていますか。今朝の聖書箇所は私達のサタンに対する戦いに何が必要かを教えています。ここに神の武具と呼ばれています。

では、この靈的な戦いにどんな武具が必要かを考える前に 1 2 節に注目してください。「わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。」（1 2）多くの場合、私たちは外面的な問題に注意を払いますが、靈的な事を忘れてしまいます。夫婦げんかをする時や自分を傷つけた人に対してうらみをもつ時、あるいはキリストチャンとして迫害される時、その人間の相手に対する戦いだと思い込んでしまいます。教会の中でも人間関係の問題にぶつかると、「あの人が悪い」と思って、サタンの策略に気がつかない事が多いと思います。しかし、1 2 節によると、「私達の格闘は・・・」私達の格闘はサタンと悪霊どもに対するものです。サタンは色々な状況の中で私達の弱い所を狙って誘惑します。それで 1 3 節に書いてあるように神の武具が役に立ちます。

では神の武具というのは何でしょうか。1 4 節から 1 7 節まで色々なものが述べられています。最初に 1 4 節に真理の帯という武具があります。パウロはこういう武具をリストアップした時、おそらくローマ兵と鎖につながっていました。その兵士の武具を見たら旧約聖書の御言葉を思い出すでしょう。実は、この真理の帯という文句はイザヤ書 1 1 章 5 節に書かれた文句とほとんど同じです。イザヤ書の場合は、正義の帯と真実の帯という言葉はその人の性質を表す表現です。エペソ人への手紙の場合も自分の性質を表す言葉でしょう。しかし、この真理は自分の知識によるものではありません。神様の絶対的な真理です。

この真理の帯を身につけるのに聖書を勉強する必要があります。しかし、真理の帯を身につける事は、真理を知る事だけでなく、**真理を??** と真理によって生きる事も含まれていると思います。

次の武具は、1 4 節の終わりに書いてある正義の胸当てです。これはイザヤ 5 9 章 1 7 節からの引用です。その箇所には、神様は御自分の正義によって裁きと救

いをもたらしました。私達はイエス様を信じたらそのいけにえのゆえに、イエス様の義を与えられました。神様に義と認められます。しかし、この手紙はキリストチャンに対して書かれた物なので、この正義は与えられた絶対的な義だけではないと思います。日常生活の中での義による生き方も大切だと教えられています。神様に義と認めて頂いたら日常生活はどうでもいいと思う事は大きな間違いです。そう思っていたら、悪魔に左右されやすくなります。

三つ目の武具は平和の福音の備えです。これは兵士の靴です。「どうして戦争中の私たちに平和の福音の備えが必要なのだろう」と思われるかも知れません。キリストチャンになる時、サタンと戦うようになるとしたら、どういう意味で「平和の福音」と呼ばれているのでしょうか。外面的に平和がないかも知れません。マタイによる福音書 10 節 3 4 - 3 5 節にイエス様は言われました。「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思ってはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。わたしは敵対させるために来たからである。人をその父に、／娘を母に、／嫁をしゅうとめに。」（マタイ 10 : 3 4 - 3 5）サタンの敵となったらサタンの支配にある人々にぶつかってしまう事がよくあります。しかし、心の中で平安があります。ローマ書 5 章 1 節に「このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、（ローマ 5 : 1）」と書いてあります。この平和の福音を伝える特権が私達に与えられました。第二コリント 5 章 1 8 - 1 9 節を御覧ください。「これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。」（コリント 2 5 : 1 8 - 1 9）パウロと同じ様に、私達はこの平和の福音を伝える事が出来ます。そうするとイザヤ書 5 2 章 7 節の御言葉は私達に当て嵌まります。「いかに美しいことか／山々を歩き巡り、良い知らせを伝える者の足は。彼は平和を告げ、恵みの良い知らせを伝え／救いを告げ／あなたの神は王となられた、と／シオンに向かって呼ばれる。」（イザヤ 5 2 : 7）福音を伝える用意をしようではありませんか。これは本当に素晴らしい特権です。第一ペテロ 3 章 1 5 節を御覧ください。「心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。」（ペテロ 1 3 : 1 5）正しい態度をもって弁明する事は難しいですね。続けて 1 6 節をお読みします。「それも、穏やかに、敬意をもって、正しい良心で、弁明するようにしなさい。そうすれば、キリストに結ばれたあなたがたの善い生活をののしる者たちは、悪

口を言ったことで恥じ入るようになるのです。」（ペテロ 1 3 : 16）

それでは、本文に戻りましょう。エペソ6章16節に四つ目の武具が見つかります。信仰の大盾です。

「なおその上に、信仰を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことができるのです。」（エペソ6 : 16）サタンは、私達を神様から引き離そうをしています。神様の愛を疑わせようとします。「神様はあなたを本当に愛していたら、こんなにひどい目にあわせないだろう」とか「神様はあなたの事を忘れたんだよ。もう神様に仕えるのをやめた方がいい」とか、色々なうそをつきますが、私達の信仰がしっかりしていたらそういう思いがあっても、心の中で燃えるようになりません。質のいい盾に当たる火矢のように消えてしまいます。当時のローマ兵の大盾は長方形でした。高さは1メートル以上で幅はその半分でした。木で作られていて表面に固い皮が張ってありました。盾につなぎがあったのでほかの盾とつなぎ合わせる事ができました。そうすると、兵士がみんな一緒に進む事が出来ました。私達も互いの信仰を強めます。教会が一致していたら一緒にサタンに対して進む事が出来ます。

では、次の武具は何でしょうか。17節を御覧ください。「また、救いを兜としてかぶり、霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」（17）救いのかぶとという神の武具は、実は先程読ませていただいたイザヤ59章17節にもなっています。「主は恵みの御業を鎧としてまとい／救いを兜としてかぶり、報復を衣としてまとい／熱情を上着として身を包まれた。」

（イザヤ59 : 17）神様は救われる必要がないので、神様の場合は救われる事でなく、人を救うことを意味します。パウロの場合は多分、ちょっと違う意味で言っているのではないかと思います。つまり私達は救わ

れたのでサタンに攻められても、死に至るような負傷が決して与えられません。この兜を被らないでサタンと戦おうとするのは愚かな事です。使徒の働き19章13節から17節までお読みください。このスケワの息子たちは、自分が救われていないのにほかの人をサタンの力から救おうとしていました。しかしそれは無理でした。自分をさえ救う事が出来ませんでした。私達はイエス様によって救われたという確信をもっていたらほかの人を助ける事が可能となります。神様の子供としての権威をもって大胆にサタンと戦う事ができます。

そして、最後の武具は本文の17節に書いてあります。「霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」

（17b）。先週、陳先生はこの御霊の与え剣である御言葉についてメッセージをされました。私達はイエス様のように御言葉を使ってサタンに対して戦う事ができればいいですね。私たちも御言葉を心に留めていたらサタンの誘惑に対抗できます。詩篇119篇11節に「あなたに罪を犯さない為、私はあなたのことばを心にたくわえました。」と書いてあります。私たちは御言葉を覚えて適用出来れば出来る程、よりよいキリストの兵士になります。「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましい？と霊、間接と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心の色々な考えやばかりごとを判別することができます。」（ヘブル4 : 12）

今、戦争中です。私達の敵サタンは神様の子供達を憎んで、私達を滅ぼそうとしています。戦備が出来ていますか。神の武具、つまり真理の帯、正義の胸当て、平和の福音の備え、信仰の大盾、救いのかぶと、御霊の剣である御言葉、全部身に着けていますか。身に着けて大胆に戦いましょう。

お祈りしましょう。

心のマッサージ

ユダヤ笑話集 社会思想社三浦鞠郎著

自慢

ユダヤ社会では、肉の料理を食べた後、6時間以内にミルクの入った料理を食べてはいけない、という決まりがある。三人のユダヤ人がある時、どれほど自分達が信心深いかを自慢しあった。第一の男「うちにはかまどが二つあるんだ。一つは肉料理のために。もう一つはミルク料理のためにね。」第二の男「うちはもっと信心深いから、肉の料理をする女中とミルクの料理をする女中の2人がいるんだ。」第三の男「うちこそ、一番敬謙な家庭だと思うよ。何しろ「肉」という言葉を口にしたら、6時間たった後でなければ「ミルク」という言葉を口にしないのだからね。」

身代わり

詩人フランケルは、詩作だけでは食べていけないので、ある文化団体の事務主任をしていた。ある時、事務員が一人死んだ。せっちな男がいて、自分をその代わりにと、さっそく頼みに来た。その時は埋葬もまだすんでいなかった。「お安い御用だがね」とフランケルは約束した。「だが、君のような大きな男を、果して私だけで棺の中に入れられるかどうか。」

地磁気の変化

大洪水と直接の関連がないように見えますが、今回は神が天地を創造された時の地球と現在の地球が異なっ

ているという点に関連しているので、地磁気の変化の問題について論じることにしたいと思います。

「神様はどうして毒蛇や毒グモなんか造られたのだろう」と、考えたことはありませんか。実は私も、これだけではどうしても理解できませんでした。しかし、創世記1章節で「神はお造りになった全てのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった」と書かれていることは間違いではありませんでした。神は、人間に全てのものを支配させようとして創造されました。その中には人間に害を及ぼすようなものはなかったはずで、ということ、やはり毒蛇や毒グモは、その後何かから進化して来たのではないか、と思われるかもしれません。やはり進化説が正しかったのだと。しかし、そうではありません。今、毒を持っている蛇やクモも、最初に神が創造された時には毒を持っていなかったのです。だから、全てのものは神の目に極めて良かったのです。では、なぜ今、毒蛇や毒グモが居るのでしょうか。

以前、生命の誕生の所でお話しましたが、動物の体はタンパク質できていて、タンパク質はアミノ酸の連鎖によってできています。実は蛇やクモの毒も、このタンパク質の一種なのです。そしてタンパク質のアミノ酸の連鎖に磁気が強い影響を及ぼすことが分かっています。私はウイクリフ聖書翻訳協会に奉仕していますが、毒蛇や毒グモのいる地域で奉仕するウイクリフの宣教師達は、ザッパーという簡易発電機を持って行きます。ザッパーは、電流は極めて微弱ですが、2万ボルトほどの高電圧を発生します。これを毒の入った傷口周辺に当てて電気を起こすと、多少ショックがありますが人体には影響なく、毒であるタンパク質のアミノ酸の連鎖は、この高電圧によって破壊され、毒が毒でなくなる、つまり解毒されるのです。ザッパーのお陰で毒蛇にかまれた人が、助かったという例が何件もあります。

これに関して、ある時、「地球の磁気は1400年毎に半減しているということですが」と、京都大学の地磁気研究所に問い合わせたところ、研究者の方から回答を頂きました。それによると、過去400年のデータを見ると、このまま推移すれば1000年以内に地球には磁気がなくなる可能性があるとのことでした。

聖書に拠れば、ノアの洪水は約4500年前に起こりました。そこで、この地磁気に関する情報を適用すれば、ノアの洪水当時の地磁気の強度は現在の約10倍です。この磁気強度では、現在クモなどの毒として存在するアミノ酸は、連鎖を形成しないということです。

つまり、洪水以前には毒を持った蛇やクモはいなかったのです。最初に述べたとおり、神がこれらの生き物を創造された時、それらは良かったのです。

ファイアーアントがどんどん北上して来ていると言います。以前はいなかった所まで来ていて、噛まれて被害に会う人が出ています。渡り鳥が渡る途中で方向を失って死んでしまったという話を聞くこともあります。なぜそのようなことが起こるのでしょうか。それは地磁気が弱くなっているからです。地磁気が弱くなっているためファイアーアントが活動できる範囲が広がっているのです。また渡り鳥の体内磁石が方向を探知できなくなっているのです。

私達の罪によって、人間社会が崩壊しつつあると同様に、大気や海洋汚染だけでなく、このような形で地球も物理的に崩壊しつつあります。黙示録は、これらの事はやがて起こるべきことだと言うことを私達に教えてくれています。イエス・キリストを信じる人々の上にも、このような苦難は襲います。しかし、キリストを信じる人には、そのような苦難の後に与えられる勝利と平安が約束されています。ハレルヤ!

片山進悟

「第一の天使がラッパを吹いた。すると血の混じった雹と火とが生じ、地上に投げ入れられた。地上の三分の一が焼け、木々の三分の一が焼け、すべての青草も焼けてしまった。第二の天使がラッパを吹いた。すると、火で燃えている大きな山のようなものが、海に投げ入れられた。海の三分の一が血に変わり、また被造物で海に住む生き物の三分の一は死に、船という船の三分の一が壊された。第三の天使がラッパを吹いた。すると、松明のように燃えている大きな星が、天から落ちて来て、川という川の三分の一と、その水源の上に落ちた。この星の名は「苦よもぎ」といい水の三分の一が苦よもぎのように苦くなって、そのために多くの人が死んだ。第四の天使がラッパを吹いた。すると太陽の三分の一、月の三分の一、星という星の三分の一が損なわれたので、それぞれ三分の一が暗くなって、昼はその光の三分の一を失い、夜も同じようになった。」（黙示録8章7節～12節）

お知らせ

毎月第2と第4火曜日9時半から、A240号室でエクレシアの会という、肩のこらない形での聖書の学びと楽しい交わりの集まりをしています。どなたでもお気軽にどうぞ。お問い合わせは片山姉704-843-8038まで。

日曜日午前9時半からA231号室で高見憲次兄による成人のための日曜学校、11時からR109号室でラブストランド牧師による礼拝、また月曜日午後7時からA238号室でラブストランド牧師による聖書の学が行われています。世界のベストセラー、聖書をご一緒に学びましょう。

今年もクリスマスにはJillybeanが来て、腹話術、奇術などの楽しいパフォーマンスを披露してくれます（英語です）。12月6日、土曜日午後4時半からをぜひ空けて置いて下さい。どうぞお友達もお誘い下さい。

「いのちの泉」は、シャーロット在住の日本人のコミュニケーションのための月刊紙を目指しています。皆さんも、どうぞ奮ってご参加下さい。お互いの向上に役立てるための趣旨に賛同して下さる内容であれば何でも結構です。Carmel Baptist ChurchのJapanese Ministry宛、または charlottejpn@hotmail.com にお願ひします。

編集者の一時帰国のため、11月は休刊させて頂きます。どうぞ12月号をお楽しみに。

カーメル・バプテスト教会
1145 Pineville-Matthews Rd.
Matthews, NC 28105
<http://ifc26.tripod.com>

モルモン教、エホバの証人（ものみの塔）、
統一教会とは関係のない、正統的なキリスト
教会です。安心して気軽においで下さい。

日本人ミニストリー連絡先：
李牧師（704-847-8575）
ラブストランド牧師（704-849-8851）
片山（704-843-6298）

いのちの泉

カーメルバプテスト教会
日本人ミニストリー月報
2003年10号

街路樹が少しずつ色づいて来ました。一本の木の葉が緑から黄色、オレンジ色と変化のある様は、ため息が出るほど美しく、これからの朝歩きが楽しくなりました。これから暫くの間は、自然の織りなす微妙な美しさを随所に楽しむことでしょう。

皆様にはお変わりなくお過ごしでいらっしゃいますか。今月は16日に日本から岸義紘先生をお迎えし、サクソフオンのコンサートと、先生のお証しを伺うチャンスに恵まれました。集会には、日本人だけでなく、中国人、韓国人、アメリカ人と、多勢の方が集まって下さり、岸先生が心を込めて演奏されるサクソフオンの音色が染み透った心で、先生のユーモラスなお証しを聞くことができ、感謝でした。

実を申しますと、私はここ一ヶ月余り、祈ることも、聖書を手取ることもできず、毎月ハーベストタイムミニストリーが送ってくれるテープを観ることもできずに過ごして来たのですが、四、五日前、ハーベストタイムのテープを意を決して観ることになりました。(意を決して、という言葉はこの時の私にとって、決して大げさな言葉ではありません。) 9月号のそのテープには、中川健一先生が最近出版された「日本人に送る聖書ものがたり」という本の製作に携わられた、編集者と挿絵画家へのインタビューが入っていました。その二人が語られる言葉と、真の謙虚な姿に私は引きつけられるように、TVの画面に見入りました。三日間続けて観ることによって、私は自分の心の中の問題点を見つけることができました。といいますのも、私は最近、ノンクリスチャンの友人達と話す時に、「私の信仰なんてこの程度...」という言葉、何度か口にしておりました(そのつど心の中に何かを感じながら)。信仰を持つことは、自分で決めることかもしれませんが、(それでさえも、主に選ばれたことであるのですが)信仰を深めることは、勿論、聖書を学ぶこともあるでしょうが、聖霊の働きによるもの、主に引き上げられてあるものではないかと思いました。それなのに「私の信仰なんてこの程度...」とは、主に対してなんと不遜な言葉を吐いたものでしょう。ほんとうに謙虚な人に出会う時、人間は自分の傲慢さに気づくのでしょうか。祈りの中で、自分の愚かさを、傲慢さを、主に詫言いました。針の穴ほどの小さな小さな私にまで、目をそそいで下さり、諭して下さる主に、心から感謝しました。ハレルヤ!

(中藤百々代)



戦争中の私達 エペソ6章10節から20節

ジョエル・ラブストランド牧師

私は、かつて日本のテレビ番組を見て六十年代と七十年代の歌謡曲を聞きました。その中の一曲は、戦争の知らない新世代についての歌詞がありました。確かに、平和の時代に生きる事は大きな恵みですが、聖歌300番を見たら違うような歌詞が書いてあるのに気がつきます。そこに「進め主イエスの兵士らよ」という歌詞が入っています。その歌は、クリスチャン生活を戦争に喩えている訳です。あるアメリカの教会は、その歌詞が今の平和の時代に相応しくないから讚美歌集から除きました。しかしどうでしょうか。使徒パウロはよく軍隊に関する表現を使います。こんなに荒々しい表現を使う必要が本当にあるかと思われるかもしれませんが、戦争についての英語の言葉があります。

「War is hell」、訳すと「戦争は地獄だ」ということです。戦争は本当に怖くて苦しめるものです。しかし、私達の霊的な戦いは戦争と同じように敵がいて、その敵と戦う備えをしなければ、攻められる時戦おうとしても対抗できません。

ベトナム戦争の後でアメリカの軍隊が徴兵制度から志願制度に変わりました。冷戦がまだ続いていたので、時々週刊誌等に米軍の戦備はどうかという課題がのっていました。ロシアに攻められたら対抗できるでしょ

うか。自分の軍隊が強かったら敵に攻められないだろうし、攻められても勝つ事が出来るという風に考えられていました。

私達も戦備が必要です。霊的戦備が必要です。しかし私達の場合は、戦いを防ぐ為ではありません。クリスチャンなら必ずサタンに狙われます。戦わずをえないのです。イエスを信じたら、サタンの敵となります。キリストの兵士となりますから、アダムとエバが罪を犯した時、この世はサタンに支配されるようになりました。誘惑した蛇と人間が、神様に呪われてしまいました。しかし、神様は人間を見捨てはなさいませんでした。呪いと一緒に救い主の約束が加えられました。主なる神は、蛇に向かって言われた。「このようなことをしたお前は、あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で、呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に、わたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き、お前は彼のかかとを砕く。」(創世記3:14、15)

キリストが現れた時、神様のものをサタンの支配から取り返す事が始まりました。イエス様が罪を赦したり、悪霊を追い出したりしておられました。ヨハネの

福音書 12 章 3 1 節にこう言われます。「今こそ、この世が裁かれる時。今、この世の支配者が追放される。」（ヨハネ 12 : 3 1）罪人がイエスを信じたら、サタンの支配から神様の支配に移されます。こういうふうに神様の御国が広がります。イエス様を信じたら、神様と平和を持つ事になりながらサタンの敵になります。十字架の上でイエス様は人間をサタンの力から贖われました。イエス様は確かな勝利を得られましたが、御国は地上でまだ安全な形になっていません。サタンは、まだ暫くこの世の支配者です。第一コリント人への手紙にこういうふうに表現されています。「次いで、世の終わりが来ます。そのとき、キリストはすべての支配、すべての権威や勢力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます。」（コリント 1 15 : 2 4）

靈的には私達は今戦争中です。戦備はできていますか。今朝の聖書箇所は私達のサタンに対する戦いに何が必要かを教えています。ここに神の武具と呼ばれています。

では、この靈的な戦いにどんな武具が必要かを考える前に 1 2 節に注目してください。「わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。」（1 2）多くの場合、私たちは外面的な問題に注意を払いますが、靈的な事を忘れてしまいます。夫婦げんかをする時や自分を傷つけた人に対してうらみをもつ時、あるいはキリストチャンとして迫害される時、その人間の相手に対する戦いだと思い込んでしまいます。教会の中でも人間関係の問題にぶつかると、「あの人が悪い」と思って、サタンの策略に気がつかない事が多いと思います。しかし、1 2 節によると、「私達の格闘は・・・」私達の格闘はサタンと悪霊どもに対するものです。サタンは色々な状況の中で私達の弱い所を狙って誘惑します。それで 1 3 節に書いてあるように神の武具が役に立ちます。

では神の武具というのは何でしょうか。1 4 節から 1 7 節まで色々なものが述べられています。最初に 1 4 節に真理の帯という武具があります。パウロはこういう武具をリストアップした時、おそらくローマ兵と鎖につながっていました。その兵士の武具を見たら旧約聖書の御言葉を思い出すでしょう。実は、この真理の帯という文句はイザヤ書 1 1 章 5 節に書かれた文句とほとんど同じです。イザヤ書の場合は、正義の帯と真実の帯という言葉はその人の性質を表す表現です。エペソ人への手紙の場合も自分の性質を表す言葉でしょう。しかし、この真理は自分の知識によるものではありません。神様の絶対的な真理です。

この真理の帯を身につけるのに聖書を勉強する必要があります。しかし、真理の帯を身につける事は、真理を知る事だけでなく、**真理を??** と真理によって生きる事も含まれていると思います。

次の武具は、1 4 節の終わりに書いてある正義の胸当てです。これはイザヤ 5 9 章 1 7 節からの引用です。その箇所には、神様は御自分の正義によって裁きと救

いをもたらしました。私達はイエス様を信じたらそのいけにえのゆえに、イエス様の義を与えられました。神様に義と認められます。しかし、この手紙はキリストチャンに対して書かれた物なので、この正義は与えられた絶対的な義だけではないと思います。日常生活の中での義による生き方も大切だと教えられています。神様に義と認めて頂いたら日常生活はどうでもいいと思う事は大きな間違いです。そう思っていたら、悪魔に左右されやすくなります。

三つ目の武具は平和の福音の備えです。これは兵士の靴です。「どうして戦争中の私たちに平和の福音の備えが必要なのだろう」と思われるかも知れません。キリストチャンになる時、サタンと戦うようになるとしたら、どういう意味で「平和の福音」と呼ばれているのでしょうか。外面的に平和がないかも知れません。マタイによる福音書 10 節 3 4 - 3 5 節にイエス様は言われました。「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思っはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。わたしは敵対させるために来たからである。人をその父に、／娘を母に、／嫁をしゅうとめに。」（マタイ 10 : 3 4 - 3 5）サタンの敵となったらサタンの支配にある人々にぶつかってしまう事がよくあります。しかし、心の中で平安があります。ローマ書 5 章 1 節に「このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、（ローマ 5 : 1）」と書いてあります。この平和の福音を伝える特権が私達に与えられました。第二コリント 5 章 1 8 - 1 9 節を御覧ください。「これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。」（コリント 2 5 : 1 8 - 1 9）パウロと同じ様に、私達はこの平和の福音を伝える事が出来ます。そうするとイザヤ書 5 2 章 7 節の御言葉は私達に当て嵌まります。「いかに美しいことか／山々を歩き巡り、良い知らせを伝える者の足は。彼は平和を告げ、恵みの良い知らせを伝え／救いを告げ／あなたの神は王となられた、と／シオンに向かって呼ばれる。」（イザヤ 5 2 : 7）福音を伝える用意をしようではありませんか。これは本当に素晴らしい特権です。第一ペテロ 3 章 1 5 節を御覧ください。「心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。」（ペテロ 1 3 : 1 5）正しい態度をもって弁明する事は難しいですね。続けて 1 6 節をお読みします。「それも、穏やかに、敬意をもって、正しい良心で、弁明するようにしなさい。そうすれば、キリストに結ばれたあなたがたの善い生活をののしる者たちは、悪

口を言ったことで恥じ入るようになるのです。」（ペテロ 1 3 : 16）

それでは、本文に戻りましょう。エペソ6章16節に四つ目の武具が見つかります。信仰の大盾です。

「なおその上に、信仰を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことができるのです。」（エペソ6 : 16）サタンは、私達を神様から引き離そうをしています。神様の愛を疑わせようとします。「神様はあなたを本当に愛していたら、こんなにひどい目にあわせないだろう」とか「神様はあなたの事を忘れたんだよ。もう神様に仕えるのをやめた方がいい」とか、色々なうそをつきますが、私達の信仰がしっかりしていたらそういう思いがあっても、心の中で燃えるようになりません。質のいい盾に当たる火矢のように消えてしまいます。当時のローマ兵の大盾は長方形でした。高さは1メートル以上で幅はその半分でした。木で作られていて表面に固い皮が張ってありました。盾につなぎがあったのでほかの盾とつなぎ合わせる事ができました。そうすると、兵士がみんな一緒に進む事が出来ました。私達も互いの信仰を強めます。教会が一致していたら一緒にサタンに対して進む事が出来ます。

では、次の武具は何でしょうか。17節を御覧ください。「また、救いを兜としてかぶり、霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」（17）救いのかぶとという神の武具は、実は先程読ませていただいたイザヤ59章17節にもなっています。「主は恵みの御業を鎧としてまとい／救いを兜としてかぶり、報復を衣としてまとい／熱情を上着として身を包まれた。」（イザヤ59 : 17）神様は救われる必要がないので、神様の場合は救われる事でなく、人を救うことを意味します。パウロの場合は多分、ちょっと違う意味で言っているのではないかと思います。つまり私達は救わ

れたのでサタンに攻められても、死に至るような負傷が決して与えられません。この兜を被らないでサタンと戦おうとするのは愚かな事です。使徒の働き19章13節から17節までお読みください。このスケワの息子たちは、自分が救われていないのにほかの人をサタンの力から救おうとしていました。しかしそれは無理でした。自分をさえ救う事が出来ませんでした。私達はイエス様によって救われたという確信をもっていたらほかの人を助ける事が可能となります。神様の子供としての権威をもって大胆にサタンと戦う事ができます。

そして、最後の武具は本文の17節に書いてあります。「霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」

（17b）。先週、陳先生はこの御霊の与え剣である御言葉についてメッセージをされました。私達はイエス様のように御言葉を使ってサタンに対して戦う事ができたらいいですね。私たちも御言葉を心に留めていたらサタンの誘惑に対抗できます。詩篇119篇11節に「あなたに罪を犯さない為、私はあなたのことばを心にたくわえました。」と書いてあります。私たちは御言葉を覚えて適用出来れば出来る程、よりよいキリストの兵士になります。「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましい？と霊、間接と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心の色々な考えやばかりごとを判別することができます。」（ヘブル4 : 12）

今、戦争中です。私達の敵サタンは神様の子供達を憎んで、私達を滅ぼそうとしています。戦備が出来ていますか。神の武具、つまり真理の帯、正義の胸当て、平和の福音の備え、信仰の大盾、救いのかぶと、御霊の剣である御言葉、全部身に着けていますか。身に着けて大胆に戦いましょう。

お祈りしましょう。

心のマッサージ

ユダヤ笑話集 社会思想社三浦鞠郎著

自慢

ユダヤ社会では、肉の料理を食べた後、6時間以内にミルクの入った料理を食べてはいけない、という決まりがある。三人のユダヤ人がある時、どれほど自分達が信心深いかを自慢しあった。第一の男「うちにはかまどが二つあるんだ。一つは肉料理のために。もう一つはミルク料理のためにね。」第二の男「うちはもっと信心深いから、肉の料理をする女中とミルクの料理をする女中の2人がいるんだ。」第三の男「うちこそ、一番敬謙な家庭だと思うよ。何しろ「肉」という言葉を口にしたら、6時間たった後でなければ「ミルク」という言葉を口にしないのだからね。」

身代わり

詩人フランケルは、詩作だけでは食べていけないので、ある文化団体の事務主任をしていた。ある時、事務員が一人死んだ。せっちな男がいて、自分をその代わりにと、さっそく頼みに来た。その時は埋葬もまだすんでいなかった。「お安い御用だがね」とフランケルは約束した。「だが、君のような大きな男を、果して私だけで棺の中に入れられるかどうか。」

地磁気の変化

大洪水と直接の関連がないように見えますが、今回は神が天地を創造された時の地球と現在の地球が異なっ

ているという点に関連しているので、地磁気の変化の問題について論じることにしたいと思います。

「神様はどうして毒蛇や毒グモなんか造られたのだろう」と、考えたことはありませんか。実は私も、これだけではどうしても理解できませんでした。しかし、創世記1章節で「神はお造りになった全てのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった」と書かれていることは間違いではありませんでした。神は、人間に全てのものを支配させようとして創造されました。その中には人間に害を及ぼすようなものはなかったはずで、ということ、やはり毒蛇や毒グモは、その後何かから進化して来たのではないか、と思われるかもしれません。やはり進化説が正しかったのだと。しかし、そうではありません。今、毒を持っている蛇やクモも、最初に神が創造された時には毒を持っていなかったのです。だから、全てのものは神の目に極めて良かったのです。では、なぜ今、毒蛇や毒グモが居るのでしょうか。

以前、生命の誕生の所でお話しましたが、動物の体はタンパク質できていて、タンパク質はアミノ酸の連鎖によってできています。実は蛇やクモの毒も、このタンパク質の一種なのです。そしてタンパク質のアミノ酸の連鎖に磁気が強い影響を及ぼすことが分かっています。私はウイクリフ聖書翻訳協会に奉仕していますが、毒蛇や毒グモのいる地域で奉仕するウイクリフの宣教師達は、ザッパーという簡易発電機を持って行きます。ザッパーは、電流は極めて微弱ですが、2万ボルトほどの高電圧を発生します。これを毒の入った傷口周辺に当てて電気を起こすと、多少ショックがありますが人体には影響なく、毒であるタンパク質のアミノ酸の連鎖は、この高電圧によって破壊され、毒が毒でなくなる、つまり解毒されるのです。ザッパーのお陰で毒蛇にかまれた人が、助かったという例が何件もあります。

これに関して、ある時、「地球の磁気は1400年毎に半減しているということですが」と、京都大学の地磁気研究所に問い合わせたところ、研究者の方から回答を頂きました。それによると、過去400年のデータを見ると、このまま推移すれば1000年以内に地球には磁気がなくなる可能性があるとのことでした。

聖書に拠れば、ノアの洪水は約4500年前に起こりました。そこで、この地磁気に関する情報を適用すれば、ノアの洪水当時の地磁気の強度は現在の約10倍です。この磁気強度では、現在クモなどの毒として存在するアミノ酸は、連鎖を形成しないということです。

つまり、洪水以前には毒を持った蛇やクモはいなかったのです。最初に述べたとおり、神がこれらの生き物を創造された時、それらは良かったのです。

ファイアーアントがどんどん北上して来ていると言います。以前はいなかった所まで来ていて、噛まれて被害に会う人が出ています。渡り鳥が渡る途中で方向を失って死んでしまったという話を聞くこともあります。なぜそのようなことが起こるのでしょうか。それは地磁気が弱くなっているからです。地磁気が弱くなっているためファイアーアントが活動できる範囲が広がっているのです。また渡り鳥の体内磁石が方向を探知できなくなっているのです。

私達の罪によって、人間社会が崩壊しつつあると同様に、大気や海洋汚染だけでなく、このような形で地球も物理的に崩壊しつつあります。黙示録は、これらの事はやがて起こるべきことだと言うことを私達に教えてくれています。イエス・キリストを信じる人々の上にも、このような苦難は襲います。しかし、キリストを信じる人には、そのような苦難の後に与えられる勝利と平安が約束されています。ハレルヤ!

片山進悟

「第一の天使がラッパを吹いた。すると血の混じった雹と火とが生じ、地上に投げ入れられた。地上の三分の一が焼け、木々の三分の一が焼け、すべての青草も焼けてしまった。第二の天使がラッパを吹いた。すると、火で燃えている大きな山のようなものが、海に投げ入れられた。海の三分の一が血に変わり、また被造物で海に住む生き物の三分の一は死に、船という船の三分の一が壊された。第三の天使がラッパを吹いた。すると、松明のように燃えている大きな星が、天から落ちて来て、川という川の三分の一と、その水源の上に落ちた。この星の名は「苦よもぎ」といい水の三分の一が苦よもぎのように苦くなって、そのために多くの人が死んだ。第四の天使がラッパを吹いた。すると太陽の三分の一、月の三分の一、星という星の三分の一が損なわれたので、それぞれ三分の一が暗くなって、昼はその光の三分の一を失い、夜も同じようになった。」（黙示録8章7節～12節）

お知らせ

毎月第2と第4火曜日9時半から、A240号室でエクレシアの会という、肩のこらない形での聖書の学びと楽しい交わりの集まりをしています。どなたでもお気軽にどうぞ。お問い合わせは片山姉704-843-8038まで。

日曜日午前9時半からA231号室で高見憲次兄による成人のための日曜学校、11時からR109号室でラブストランド牧師による礼拝、また月曜日午後7時からA238号室でラブストランド牧師による聖書の学が行われています。世界のベストセラー、聖書をご一緒に学びましょう。

今年もクリスマスにはJillybeanが来て、腹話術、奇術などの楽しいパフォーマンスを披露してくれます（英語です）。12月6日、土曜日午後4時半からをぜひ空けて置いて下さい。どうぞお友達もお誘い下さい。

「いのちの泉」は、シャーロット在住の日本人のコミュニケーションのための月刊紙を目指しています。皆さんも、どうぞ奮ってご参加下さい。お互いの向上に役立てるための趣旨に賛同して下さる内容であれば何でも結構です。Carmel Baptist ChurchのJapanese Ministry宛、または charlottejpn@hotmail.com にお願ひします。

編集者の一時帰国のため、11月は休刊させて頂きます。どうぞ12月号をお楽しみに。

カーメル・バプテスト教会
1145 Pineville-Matthews Rd.
Matthews, NC 28105
<http://ifc26.tripod.com>

モルモン教、エホバの証人（ものみの塔）、
統一教会とは関係のない、正統的なキリスト
教会です。安心して気軽においで下さい。

日本人ミニストリー連絡先：
李牧師（704-847-8575）
ラブストランド牧師（704-849-8851）
片山（704-843-6298）

いのちの泉

カメルバプテスト教会
日本人ミニストリー月報
2003年10号

街路樹が少しずつ色づいて来ました。一本の木の葉が緑から黄色、オレンジ色と変化のある様は、ため息が出るほど美しく、これからの朝歩きが楽しくなりました。これから暫くの間は、自然の織りなす微妙な美しさを随所に楽しむことでしょう。

皆様にはお変わりなくお過ごしでいらっしゃいますか。今月は16日に日本から岸義紘先生をお迎えし、サクソフオンのコンサートと、先生のお証しを伺うチャンスに恵まれました。集会には、日本人だけでなく、中国人、韓国人、アメリカ人と、多勢の方が集まって下さり、岸先生が心を込めて演奏されるサクソフオンの音色が染み透った心で、先生のユーモラスなお証しを聞くことができ、感謝でした。

実を申しますと、私はここ一ヶ月余り、祈ることも、聖書を手取ることもできず、毎月ハーベストタイムミニストリーが送ってくれるテープを観ることもできずに過ごして来たのですが、四、五日前、ハーベストタイムのテープを意を決して観ることになりました。(意を決して、という言葉はこの時の私にとって、決して大げさな言葉ではありません。) 9月号のそのテープには、中川健一先生が最近出版された「日本人に送る聖書ものがたり」という本の製作に携わられた、編集者と挿絵画家へのインタビューが入っていました。その二人が語られる言葉と、真の謙虚な姿に私は引きつけられるように、TVの画面に見入りました。三日間続けて観ることによって、私は自分の心の中の問題点を見つけることができました。といいますのも、私は最近、ノンクリスチャンの友人達と話す時に、「私の信仰なんてこの程度…」という言葉、何度か口にしておりました(そのつど心の中に何かを感じながら)。信仰を持つことは、自分で決めることかもしれませんが、(それでさえも、主に選ばれたことであるのですが)信仰を深めることは、勿論、聖書を学ぶこともあるでしょうが、聖霊の働きによるもの、主に引き上げられてあるものではないかと思いました。それなのに「私の信仰なんてこの程度…」とは、主に対してなんと不遜な言葉を吐いたものでしょう。ほんとうに謙虚な人に出会う時、人間は自分の傲慢さに気づくのでしょうか。祈りの中で、自分の愚かさを、傲慢さを、主に詫言いました。針の穴ほどの小さな小さな私にまで、目をそそいで下さり、諭して下さる主に、心から感謝しました。ハレルヤ!

(中藤百々代)



戦争中の私達 エペソ6章10節から20節

ジョエル・ラブストランド牧師

私は、かつて日本のテレビ番組を見て六十年代と七十年代の歌謡曲を聞きました。その中の一曲は、戦争の知らない新世代についての歌詞がありました。確かに、平和の時代に生きる事は大きな恵みですが、聖歌300番を見たら違うような歌詞が書いてあるのに気がつきます。そこに「進め主イエスの兵士らよ」という歌詞が入っています。その歌は、クリスチャン生活を戦争に喩えている訳です。あるアメリカの教会は、その歌詞が今の平和の時代に相応しくないから讚美歌集から除きました。しかしどうでしょうか。使徒パウロはよく軍隊に関する表現を使います。こんなに荒々しい表現を使う必要が本当にあるかと思われるかもしれませんが、戦争についての英語の言葉があります。

「War is hell」、訳すと「戦争は地獄だ」ということです。戦争は本当に怖くて苦しめるものです。しかし、私達の霊的な戦いは戦争と同じように敵がいて、その敵と戦う備えをしなければ、攻められる時戦おうとしても対抗できません。

ベトナム戦争の後でアメリカの軍隊が徴兵制度から志願制度に変わりました。冷戦がまだ続いていたので、時々週刊誌等に米軍の戦備はどうかという課題がのっていました。ロシアに攻められたら対抗できるでしょ

うか。自分の軍隊が強かったら敵に攻められないだろうし、攻められても勝つ事が出来るという風に考えられていました。

私達も戦備が必要です。霊的戦備が必要です。しかし私達の場合は、戦いを防ぐ為ではありません。クリスチャンなら必ずサタンに狙われます。戦わずをえないのです。イエスを信じたら、サタンの敵となります。キリストの兵士となりますから、アダムとエバが罪を犯した時、この世はサタンに支配されるようになりました。誘惑した蛇と人間が、神様に呪われてしまいました。しかし、神様は人間を見捨てはなさいませんでした。呪いと一緒に救い主の約束が加えられました。主なる神は、蛇に向かって言われた。「このようなことをしたお前は、あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で、呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に、わたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き、お前は彼のかかとを砕く。」(創世記3:14、15)

キリストが現れた時、神様のものをサタンの支配から取り返す事が始まりました。イエス様が罪を赦したり、悪霊を追い出したりしておられました。ヨハネの

福音書 12 章 3 1 節にこう言われます。「今こそ、この世が裁かれる時。今、この世の支配者が追放される。」（ヨハネ 12 : 3 1）罪人がイエスを信じたら、サタンの支配から神様の支配に移されます。こういうふうに神様の御国が広がります。イエス様を信じたら、神様と平和を持つ事になりながらサタンの敵になります。十字架の上でイエス様は人間をサタンの力から贖われました。イエス様は確かな勝利を得られましたが、御国は地上でまだ安全な形になっていません。サタンは、まだ暫くこの世の支配者です。第一コリント人への手紙にこういうふうに表現されています。「次いで、世の終わりが来ます。そのとき、キリストはすべての支配、すべての権威や勢力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます。」（コリント 1 15 : 2 4）

靈的には私達は今戦争中です。戦備はできていますか。今朝の聖書箇所は私達のサタンに対する戦いに何が必要かを教えています。ここに神の武具と呼ばれています。

では、この靈的な戦いにどんな武具が必要かを考える前に 1 2 節に注目してください。「わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。」（1 2）多くの場合、私たちは外面的な問題に注意を払いますが、靈的な事を忘れてしまいます。夫婦げんかをする時や自分を傷つけた人に対してうらみをもつ時、あるいはキリストチャンとして迫害される時、その人間の相手に対する戦いだと思い込んでしまいます。教会の中でも人間関係の問題にぶつかると、「あの人が悪い」と思って、サタンの策略に気がつかない事が多いと思います。しかし、1 2 節によると、「私達の格闘は・・・」私達の格闘はサタンと悪霊どもに対するものです。サタンは色々な状況の中で私達の弱い所を狙って誘惑します。それで 1 3 節に書いてあるように神の武具が役に立ちます。

では神の武具というのは何でしょうか。1 4 節から 1 7 節まで色々なものが述べられています。最初に 1 4 節に真理の帯という武具があります。パウロはこういう武具をリストアップした時、おそらくローマ兵と鎖につながっていました。その兵士の武具を見たら旧約聖書の御言葉を思い出すでしょう。実は、この真理の帯という文句はイザヤ書 1 1 章 5 節に書かれた文句とほとんど同じです。イザヤ書の場合は、正義の帯と真実の帯という言葉はその人の性質を表す表現です。エペソ人への手紙の場合も自分の性質を表す言葉でしょう。しかし、この真理は自分の知識によるものではありません。神様の絶対的な真理です。

この真理の帯を身につけるのに聖書を勉強する必要があります。しかし、真理の帯を身につける事は、真理を知る事だけでなく、**真理を??** と真理によって生きる事も含まれていると思います。

次の武具は、1 4 節の終わりに書いてある正義の胸当てです。これはイザヤ 5 9 章 1 7 節からの引用です。その箇所には、神様は御自分の正義によって裁きと救

いをもたらしました。私達はイエス様を信じたらそのいけにえのゆえに、イエス様の義を与えられました。神様に義と認められます。しかし、この手紙はキリストチャンに対して書かれた物なので、この正義は与えられた絶対的な義だけではないと思います。日常生活の中での義による生き方も大切だと教えられています。神様に義と認めて頂いたら日常生活はどうでもいいと思う事は大きな間違いです。そう思っていたら、悪魔に左右されやすくなります。

三つ目の武具は平和の福音の備えです。これは兵士の靴です。「どうして戦争中の私たちに平和の福音の備えが必要なのだろう」と思われるかも知れません。キリストチャンになる時、サタンと戦うようになるとしたら、どういう意味で「平和の福音」と呼ばれているのでしょうか。外面的に平和がないかも知れません。マタイによる福音書 10 節 3 4 - 3 5 節にイエス様は言われました。「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思っはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。わたしは敵対させるために来たからである。人をその父に、／娘を母に、／嫁をしゅうとめに。」（マタイ 10 : 3 4 - 3 5）サタンの敵となったらサタンの支配にある人々にぶつかってしまう事がよくあります。しかし、心の中で平安があります。ローマ書 5 章 1 節に「このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、（ローマ 5 : 1）」と書いてあります。この平和の福音を伝える特権が私達に与えられました。第二コリント 5 章 1 8 - 1 9 節を御覧ください。「これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。」（コリント 2 5 : 1 8 - 1 9）パウロと同じ様に、私達はこの平和の福音を伝える事が出来ます。そうするとイザヤ書 5 2 章 7 節の御言葉は私達に当て嵌まります。「いかに美しいことか／山々を歩き巡り、良い知らせを伝える者の足は。彼は平和を告げ、恵みの良い知らせを伝え／救いを告げ／あなたの神は王となられた、と／シオンに向かって呼ばれる。」（イザヤ 5 2 : 7）福音を伝える用意をしようではありませんか。これは本当に素晴らしい特権です。第一ペテロ 3 章 1 5 節を御覧ください。「心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。」（ペテロ 1 3 : 1 5）正しい態度をもって弁明する事は難しいですね。続けて 1 6 節をお読みします。「それも、穏やかに、敬意をもって、正しい良心で、弁明するようにしなさい。そうすれば、キリストに結ばれたあなたがたの善い生活をののしる者たちは、悪

口を言ったことで恥じ入るようになるのです。」（ペテロ 1 3 : 16）

それでは、本文に戻りましょう。エペソ6章16節に四つ目の武具が見つかります。信仰の大盾です。

「なおその上に、信仰を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことができるのです。」（エペソ6 : 16）サタンは、私達を神様から引き離そうをしています。神様の愛を疑わせようとします。「神様はあなたを本当に愛していたら、こんなにひどい目にあわせないだろう」とか「神様はあなたの事を忘れたんだよ。もう神様に仕えるのをやめた方がいい」とか、色々なうそをつきますが、私達の信仰がしっかりしていたらそういう思いがあっても、心の中で燃えるようになりません。質のいい盾に当たる火矢のように消えてしまいます。当時のローマ兵の大盾は長方形でした。高さは1メートル以上で幅はその半分でした。木で作られていて表面に固い皮が張ってありました。盾につなぎがあったのでほかの盾とつなぎ合わせる事ができました。そうすると、兵士がみんな一緒に進む事が出来ました。私達も互いの信仰を強めます。教会が一致していたら一緒にサタンに対して進む事が出来ます。

では、次の武具は何でしょうか。17節を御覧ください。「また、救いを兜としてかぶり、霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」（17）救いのかぶとという神の武具は、実は先程読ませていただいたイザヤ59章17節にもなっています。「主は恵みの御業を鎧としてまとい／救いを兜としてかぶり、報復を衣としてまとい／熱情を上着として身を包まれた。」（イザヤ59 : 17）神様は救われる必要がないので、神様の場合は救われる事でなく、人を救うことを意味します。パウロの場合は多分、ちょっと違う意味で言っているのではないかと思います。つまり私達は救わ

心のマッサージ

ユダヤ笑話集 社会思想社三浦鞠郎著

自慢

ユダヤ社会では、肉の料理を食べた後、6時間以内にミルクの入った料理を食べてはいけない、という決まりがある。三人のユダヤ人がある時、どれほど自分達が信心深いかを自慢しあった。第一の男「うちにはかまどが二つあるんだ。一つは肉料理のために。もう一つはミルク料理のためにね。」第二の男「うちはもっと信心深いから、肉の料理をする女中とミルクの料理をする女中の2人がいるんだ。」第三の男「うちこそ、一番敬謙な家庭だと思うよ。何しろ「肉」という言葉を口にしたら、6時間たった後でなければ「ミルク」という言葉を口にしないのだからね。」

身代わり

詩人フランケルは、詩作だけでは食べていけないので、ある文化団体の事務主任をしていた。ある時、事務員が一人死んだ。せっちな男がいて、自分をその代わりにと、さっそく頼みに来た。その時は埋葬もまだすんでいなかった。「お安い御用だがね」とフランケルは約束した。「だが、君のような大きな男を、果して私だけで棺の中に入れられるかどうか。」

地磁気の変化

大洪水と直接の関連がないように見えますが、今回は神が天地を創造された時の地球と現在の地球が異なっ

れたのでサタンに攻められても、死に至るような負傷が決して与えられません。この兜を被らないでサタンと戦おうとするのは愚かな事です。使徒の働き19章13節から17節までお読みください。このスケワの息子たちは、自分が救われていないのにほかの人をサタンの力から救おうとしていました。しかしそれは無理でした。自分をさえ救う事が出来ませんでした。私達はイエス様によって救われたという確信をもっていたらほかの人を助ける事が可能となります。神様の子供としての権威をもって大胆にサタンと戦う事ができます。

そして、最後の武具は本文の17節に書いてあります。「霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」

（17b）。先週、陳先生はこの御霊の与え剣である御言葉についてメッセージをされました。私達はイエス様のように御言葉を使ってサタンに対して戦う事ができたらいいですね。私たちも御言葉を心に留めていたらサタンの誘惑に対抗できます。詩篇119篇11節に「あなたに罪を犯さない為、私はあなたのことばを心にたくわえました。」と書いてあります。私たちは御言葉を覚えて適用出来れば出来る程、よりよいキリストの兵士になります。「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましい？と霊、間接と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心の色々な考えやばかりごとを判別することができます。」（ヘブル4 : 12）

今、戦争中です。私達の敵サタンは神様の子供達を憎んで、私達を滅ぼそうとしています。戦備が出来ていますか。神の武具、つまり真理の帯、正義の胸当て、平和の福音の備え、信仰の大盾、救いのかぶと、御霊の剣である御言葉、全部身に着けていますか。身に着けて大胆に戦いましょう。

お祈りしましょう。

「神様はどうして毒蛇や毒グモなんか造られたのだろう」と、考えたことはありませんか。実は私も、これだけではどうしても理解できませんでした。しかし、創世記1章節で「神はお造りになった全てのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった」と書かれていることは間違いではありませんでした。神は、人間に全てのものを支配させようとして創造されました。その中には人間に害を及ぼすようなものはなかったはずで、ということ、やはり毒蛇や毒グモは、その後何かから進化して来たのではないか、と思われるかもしれません。やはり進化説が正しかったのだと。しかし、そうではありません。今、毒を持っている蛇やクモも、最初に神が創造された時には毒を持っていなかったのです。だから、全てのものは神の目に極めて良かったのです。では、なぜ今、毒蛇や毒グモが居るのでしょうか。

以前、生命の誕生の所でお話しましたが、動物の体はタンパク質できていて、タンパク質はアミノ酸の連鎖によってできています。実は蛇やクモの毒も、このタンパク質の一種なのです。そしてタンパク質のアミノ酸の連鎖に磁気が強い影響を及ぼすことが分かっています。私はウイクリフ聖書翻訳協会に奉仕していますが、毒蛇や毒グモのいる地域で奉仕するウイクリフの宣教師達は、ザッパーという簡易発電機を持って行きます。ザッパーは、電流は極めて微弱ですが、2万ボルトほどの高電圧を発生します。これを毒の入った傷口周辺に当てて電気を起こすと、多少ショックがありますが人体には影響なく、毒であるタンパク質のアミノ酸の連鎖は、この高電圧によって破壊され、毒が毒でなくなる、つまり解毒されるのです。ザッパーのお陰で毒蛇にかまれた人が、助かったという例が何件もあります。

これに関して、ある時、「地球の磁気は1400年毎に半減しているということですが」と、京都大学の地磁気研究所に問い合わせたところ、研究者の方から回答を頂きました。それによると、過去400年のデータを見ると、このまま推移すれば1000年以内に地球には磁気がなくなる可能性があるとのことでした。

聖書に拠れば、ノアの洪水は約4500年前に起こりました。そこで、この地磁気に関する情報を適用すれば、ノアの洪水当時の地磁気の強度は現在の約10倍です。この磁気強度では、現在クモなどの毒として存在するアミノ酸は、連鎖を形成しないということです。

つまり、洪水以前には毒を持った蛇やクモはいなかったのです。最初に述べたとおり、神がこれらの生き物を創造された時、それらは良かったのです。

ファイアーアントがどんどん北上して来ていると言います。以前はいなかった所まで来ていて、噛まれて被害に会う人が出ています。渡り鳥が渡る途中で方向を失って死んでしまったという話を聞くこともあります。なぜそのようなことが起こるのでしょうか。それは地磁気が弱くなっているからです。地磁気が弱くなっているためファイアーアントが活動できる範囲が広がっているのです。また渡り鳥の体内磁石が方向を探知できなくなっているのです。

私達の罪によって、人間社会が崩壊しつつあると同様に、大気や海洋汚染だけでなく、このような形で地球も物理的に崩壊しつつあります。黙示録は、これらの事はやがて起こるべきことだと言うことを私達に教えてくれています。イエス・キリストを信じる人々の上にも、このような苦難は襲います。しかし、キリストを信じる人には、そのような苦難の後に与えられる勝利と平安が約束されています。ハレルヤ!

片山進悟

「第一の天使がラッパを吹いた。すると血の混じった雹と火とが生じ、地上に投げ入れられた。地上の三分の一が焼け、木々の三分の一が焼け、すべての青草も焼けてしまった。第二の天使がラッパを吹いた。すると、火で燃えている大きな山のようなものが、海に投げ入れられた。海の三分の一が血に変わり、また被造物で海に住む生き物の三分の一は死に、船という船の三分の一が壊された。第三の天使がラッパを吹いた。すると、松明のように燃えている大きな星が、天から落ちて来て、川という川の三分の一と、その水源の上に落ちた。この星の名は「苦よもぎ」といい水の三分の一が苦よもぎのように苦くなって、そのために多くの人が死んだ。第四の天使がラッパを吹いた。すると太陽の三分の一、月の三分の一、星という星の三分の一が損なわれたので、それぞれ三分の一が暗くなって、昼はその光の三分の一を失い、夜も同じようになった。」(黙示録8章7節～12節)

お知らせ

毎月第2と第4火曜日9時半から、A240号室でエクレシアの会という、肩のこらない形での聖書の学びと楽しい交わりの集まりをしています。どなたでもお気軽にどうぞ。お問い合わせは片山姉704-843-8038まで。

日曜日午前9時半からA231号室で高見憲次兄による成人のための日曜学校、11時からR109号室でラブストランド牧師による礼拝、また月曜日午後7時からA238号室でラブストランド牧師による聖書の学が行われています。世界のベストセラー、聖書をご一緒に学びましょう。

今年もクリスマスにはJillybeanが来て、腹話術、奇術などの楽しいパフォーマンスを披露してくれます（英語です）。12月6日、土曜日午後4時半からをぜひ空けて置いて下さい。どうぞお友達もお誘い下さい。

「いのちの泉」は、シャーロット在住の日本人のコミュニケーションのための月刊紙を目指しています。皆さんも、どうぞ奮ってご参加下さい。お互いの向上に役立てるための趣旨に賛同して下さる内容であれば何でも結構です。Carmel Baptist ChurchのJapanese Ministry宛、または charlottejpn@hotmail.com にお願ひします。

編集者の一時帰国のため、11月は休刊させて頂きます。どうぞ12月号をお楽しみに。

カーメル・バプテスト教会
1145 Pineville-Matthews Rd.
Matthews, NC 28105
<http://ifc26.tripod.com>

モルモン教、エホバの証人（ものみの塔）、
統一教会とは関係のない、正統的なキリスト
教会です。安心して気軽においで下さい。

日本人ミニストリー連絡先：
李牧師（704-847-8575）
ラブストランド牧師（704-849-8851）
片山（704-843-6298）

いのちの泉

カーメルバプテスト教会
日本人ミニストリー月報
2003年10号

街路樹が少しずつ色づいて来ました。一本の木の葉が緑から黄色、オレンジ色と変化のある様は、ため息が出るほど美しく、これからの朝歩きが楽しくなりました。これから暫くの間は、自然の織りなす微妙な美しさを随所に楽しむことでしょう。

皆様にはお変わりなくお過ごしでいらっしゃいますか。今月は16日に日本から岸義紘先生をお迎えし、サクソフオンのコンサートと、先生のお証しを伺うチャンスに恵まれました。集会には、日本人だけでなく、中国人、韓国人、アメリカ人と、多勢の方が集まって下さり、岸先生が心を込めて演奏されるサクソフオンの音色が染み透った心で、先生のユーモラスなお証しを聞くことができ、感謝でした。

実を申しますと、私はここ一ヶ月余り、祈ることも、聖書を手取ることもできず、毎月ハーベストタイムミニストリーが送ってくれるテープを観ることもできずに過ごして来たのですが、四、五日前、ハーベストタイムのテープを意を決して観ることになりました。(意を決して、という言葉はこの時の私にとって、決して大げさな言葉ではありません。) 9月号のそのテープには、中川健一先生が最近出版された「日本人に送る聖書ものがたり」という本の製作に携わられた、編集者と挿絵画家へのインタビューが入っていました。その二人が語られる言葉と、真の謙虚な姿に私は引きつけられるように、TVの画面に見入りました。三日間続けて観ることによって、私は自分の心の中の問題点を見つけることができました。といたしますのも、私は最近、ノンクリスチャンの友人達と話す時に、「私の信仰なんてこの程度...」という言葉、何度か口にしておりました(そのつど心の中に何かを感じながら)。信仰を持つことは、自分で決めることかもしれませんが、(それでさえも、主に選ばれたことであるのですが)信仰を深めることは、勿論、聖書を学ぶこともあるでしょうが、聖霊の働きによるもの、主に引き上げられてあるものではないかと思いました。それなのに「私の信仰なんてこの程度...」とは、主に対してなんと不遜な言葉を吐いたものでしょう。ほんとうに謙虚な人に出会う時、人間は自分の傲慢さに気づくのでしょうか。祈りの中で、自分の愚かさを、傲慢さを、主に詫言いました。針の穴ほどの小さな小さな私にまで、目をそそいで下さり、諭して下さる主に、心から感謝しました。ハレルヤ!

(中藤百々代)



戦争中の私達 エペソ6章10節から20節

ジョエル・ラブストランド牧師

私は、かつて日本のテレビ番組を見て六十年代と七十年代の歌謡曲を聞きました。その中の一曲は、戦争の知らない新世代についての歌詞がありました。確かに、平和の時代に生きる事は大きな恵みですが、聖歌300番を見たら違うような歌詞が書いてあるのに気がつきます。そこに「進め主イエスの兵士らよ」という歌詞が入っています。その歌は、クリスチャン生活を戦争に喩えている訳です。あるアメリカの教会は、その歌詞が今の平和の時代に相応しくないから讚美歌集から除きました。しかしどうでしょうか。使徒パウロはよく軍隊に関する表現を使います。こんなに荒々しい表現を使う必要が本当にあるかと思われるかもしれませんが、戦争についての英語の言葉があります。

「War is hell」、訳すと「戦争は地獄だ」ということです。戦争は本当に怖くて苦しめるものです。しかし、私達の霊的な戦いは戦争と同じように敵がいて、その敵と戦う備えをしなければ、攻められる時戦おうとしても対抗できません。

ベトナム戦争の後でアメリカの軍隊が徴兵制度から志願制度に変わりました。冷戦がまだ続いていたので、時々週刊誌等に米軍の戦備はどうかという課題がのっていました。ロシアに攻められたら対抗できるでしょ

うか。自分の軍隊が強かったら敵に攻められないだろうし、攻められても勝つ事が出来るという風に考えられていました。

私達も戦備が必要です。霊的戦備が必要です。しかし私達の場合は、戦いを防ぐ為ではありません。クリスチャンなら必ずサタンに狙われます。戦わずをえないのです。イエスを信じたら、サタンの敵となります。キリストの兵士となりますから、アダムとエバが罪を犯した時、この世はサタンに支配されるようになりました。誘惑した蛇と人間が、神様に呪われてしまいました。しかし、神様は人間を見捨てはなさいませんでした。呪いと一緒に救い主の約束が加えられました。主なる神は、蛇に向かって言われた。「このようなことをしたお前は、あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で、呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に、わたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き、お前は彼のかかとを砕く。」(創世記3:14、15)

キリストが現れた時、神様のものをサタンの支配から取り返す事が始まりました。イエス様が罪を赦したり、悪霊を追い出したりしておられました。ヨハネの

福音書 12 章 3 1 節にこう言われます。「今こそ、この世が裁かれる時。今、この世の支配者が追放される。」（ヨハネ 12 : 3 1）罪人がイエスを信じたら、サタンの支配から神様の支配に移されます。こういうふうに神様の御国が広がります。イエス様を信じたら、神様と平和を持つ事になりながらサタンの敵になります。十字架の上でイエス様は人間をサタンの力から贖われました。イエス様は確かな勝利を得られましたが、御国は地上でまだ安全な形になっていません。サタンは、まだ暫くこの世の支配者です。第一コリント人への手紙にこういうふうに表現されています。「次いで、世の終わりが来ます。そのとき、キリストはすべての支配、すべての権威や勢力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます。」（コリント 1 15 : 2 4）

靈的には私達は今戦争中です。戦備はできていますか。今朝の聖書箇所は私達のサタンに対する戦いに何が必要かを教えています。ここに神の武具と呼ばれています。

では、この靈的な戦いにどんな武具が必要かを考える前に 1 2 節に注目してください。「わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。」（1 2）多くの場合、私たちは外面的な問題に注意を払いますが、靈的な事を忘れてしまいます。夫婦げんかをする時や自分を傷つけた人に対してうらみをもつ時、あるいはキリストチャンとして迫害される時、その人間の相手に対する戦いだと思い込んでしまいます。教会の中でも人間関係の問題にぶつかると、「あの人が悪い」と思って、サタンの策略に気がつかない事が多いと思います。しかし、1 2 節によると、「私達の格闘は・・・」私達の格闘はサタンと悪霊どもに対するものです。サタンは色々な状況の中で私達の弱い所を狙って誘惑します。それで 1 3 節に書いてあるように神の武具が役に立ちます。

では神の武具というのは何でしょうか。1 4 節から 1 7 節まで色々なものが述べられています。最初に 1 4 節に真理の帯という武具があります。パウロはこういう武具をリストアップした時、おそらくローマ兵と鎖につながっていました。その兵士の武具を見たら旧約聖書の御言葉を思い出すでしょう。実は、この真理の帯という文句はイザヤ書 1 1 章 5 節に書かれた文句とほとんど同じです。イザヤ書の場合は、正義の帯と真実の帯という言葉はその人の性質を表す表現です。エペソ人への手紙の場合も自分の性質を表す言葉でしょう。しかし、この真理は自分の知識によるものではありません。神様の絶対的な真理です。

この真理の帯を身につけるのに聖書を勉強する必要があります。しかし、真理の帯を身につける事は、真理を知る事だけでなく、**真理を??** と真理によって生きる事も含まれていると思います。

次の武具は、1 4 節の終わりに書いてある正義の胸当てです。これはイザヤ 5 9 章 1 7 節からの引用です。その箇所には、神様は御自分の正義によって裁きと救

いをもたらしました。私達はイエス様を信じたらそのいけにえのゆえに、イエス様の義を与えられました。神様に義と認められます。しかし、この手紙はキリストチャンに対して書かれた物なので、この正義は与えられた絶対的な義だけではないと思います。日常生活の中での義による生き方も大切だと教えられています。神様に義と認めて頂いたら日常生活はどうでもいいと思う事は大きな間違いです。そう思っていたら、悪魔に左右されやすくなります。

三つ目の武具は平和の福音の備えです。これは兵士の靴です。「どうして戦争中の私たちに平和の福音の備えが必要なのだろう」と思われるかも知れません。キリストチャンになる時、サタンと戦うようになるとしたら、どういう意味で「平和の福音」と呼ばれているのでしょうか。外面的に平和がないかも知れません。マタイによる福音書 10 節 3 4 - 3 5 節にイエス様は言われました。「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思っはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。わたしは敵対させるために来たからである。人をその父に、／娘を母に、／嫁をしゅうとめに。」（マタイ 10 : 3 4 - 3 5）サタンの敵となったらサタンの支配にある人々にぶつかってしまう事がよくあります。しかし、心の中で平安があります。ローマ書 5 章 1 節に「このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、（ローマ 5 : 1）」と書いてあります。この平和の福音を伝える特権が私達に与えられました。第二コリント 5 章 1 8 - 1 9 節を御覧ください。「これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。」（コリント 2 5 : 1 8 - 1 9）パウロと同じ様に、私達はこの平和の福音を伝える事が出来ます。そうするとイザヤ書 5 2 章 7 節の御言葉は私達に当て嵌まります。「いかに美しいことか／山々を歩き巡り、良い知らせを伝える者の足は。彼は平和を告げ、恵みの良い知らせを伝え／救いを告げ／あなたの神は王となられた、と／シオンに向かって呼ばれる。」（イザヤ 5 2 : 7）福音を伝える用意をしようではありませんか。これは本当に素晴らしい特権です。第一ペテロ 3 章 1 5 節を御覧ください。「心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。」（ペテロ 1 3 : 1 5）正しい態度をもって弁明する事は難しいですね。続けて 1 6 節をお読みします。「それも、穏やかに、敬意をもって、正しい良心で、弁明するようにしなさい。そうすれば、キリストに結ばれたあなたがたの善い生活をののしる者たちは、悪

口を言ったことで恥じ入るようになるのです。」（ペテロ 1 3 : 16）

それでは、本文に戻りましょう。エペソ6章16節に四つ目の武具が見つかります。信仰の大盾です。

「なおその上に、信仰を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことができるのです。」（エペソ6 : 16）サタンは、私達を神様から引き離そうをしています。神様の愛を疑わせようとします。「神様はあなたを本当に愛していたら、こんなにひどい目にあわせないだろう」とか「神様はあなたの事を忘れたんだよ。もう神様に仕えるのをやめた方がいい」とか、色々なうそをつきますが、私達の信仰がしっかりしていたらそういう思いがあっても、心の中で燃えるようになりません。質のいい盾に当たる火矢のように消えてしまいます。当時のローマ兵の大盾は長方形でした。高さは1メートル以上で幅はその半分でした。木で作られていて表面に固い皮が張ってありました。盾につなぎがあったのでほかの盾とつなぎ合わせる事ができました。そうすると、兵士がみんな一緒に進む事が出来ました。私達も互いの信仰を強めます。教会が一致していたら一緒にサタンに対して進む事が出来ます。

では、次の武具は何でしょうか。17節を御覧ください。「また、救いを兜としてかぶり、霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」（17）救いのかぶとという神の武具は、実は先程読ませていただいたイザヤ59章17節にもなっています。「主は恵みの御業を鎧としてまとい／救いを兜としてかぶり、報復を衣としてまとい／熱情を上着として身を包まれた。」（イザヤ59 : 17）神様は救われる必要がないので、神様の場合は救われる事でなく、人を救うことを意味します。パウロの場合は多分、ちょっと違う意味で言っているのではないかと思います。つまり私達は救わ

心のマッサージ

ユダヤ笑話集 社会思想社三浦鞠郎著

自慢

ユダヤ社会では、肉の料理を食べた後、6時間以内にミルクの入った料理を食べてはいけない、という決まりがある。三人のユダヤ人がある時、どれほど自分達が信心深いかを自慢しあった。第一の男「うちにはかまどが二つあるんだ。一つは肉料理のために。もう一つはミルク料理のためにね。」第二の男「うちはもっと信心深いから、肉の料理をする女中とミルクの料理をする女中の2人がいるんだ。」第三の男「うちこそ、一番敬謙な家庭だと思うよ。何しろ「肉」という言葉を口にしたら、6時間たった後でなければ「ミルク」という言葉を口にしないのだからね。」

身代わり

詩人フランケルは、詩作だけでは食べていけないので、ある文化団体の事務主任をしていた。ある時、事務員が一人死んだ。せっちな男がいて、自分をその代わりにと、さっそく頼みに来た。その時は埋葬もまだすんでいなかった。「お安い御用だがね」とフランケルは約束した。「だが、君のような大きな男を、果して私だけで棺の中に入れられるかどうか。」

地磁気の変化

大洪水と直接の関連がないように見えますが、今回は神が天地を創造された時の地球と現在の地球が異なっ

れたのでサタンに攻められても、死に至るような負傷が決して与えられません。この兜を被らないでサタンと戦おうとするのは愚かな事です。使徒の働き19章13節から17節までお読みください。このスケワの息子たちは、自分が救われていないのにほかの人をサタンの力から救おうとしていました。しかしそれは無理でした。自分をさえ救う事が出来ませんでした。私達はイエス様によって救われたという確信をもっていたらほかの人を助ける事が可能となります。神様の子供としての権威をもって大胆にサタンと戦う事ができます。

そして、最後の武具は本文の17節に書いてあります。「霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」

（17b）。先週、陳先生はこの御霊の与え剣である御言葉についてメッセージをされました。私達はイエス様のように御言葉を使ってサタンに対して戦う事ができたらいいですね。私たちも御言葉を心に留めていたらサタンの誘惑に対抗できます。詩篇119篇11節に「あなたに罪を犯さない為、私はあなたのことばを心にたくわえました。」と書いてあります。私たちは御言葉を覚えて適用出来れば出来る程、よりよいキリストの兵士になります。「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましい？と霊、間接と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心の色々な考えやばかりごとを判別することができます。」（ヘブル4 : 12）

今、戦争中です。私達の敵サタンは神様の子供達を憎んで、私達を滅ぼそうとしています。戦備が出来ていますか。神の武具、つまり真理の帯、正義の胸当て、平和の福音の備え、信仰の大盾、救いのかぶと、御霊の剣である御言葉、全部身に着けていますか。身に着けて大胆に戦いましょう。

お祈りしましょう。

「神様はどうして毒蛇や毒グモなんか造られたのだろう」と、考えたことはありませんか。実は私も、これだけではどうしても理解できませんでした。しかし、創世記1章節で「神はお造りになった全てのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった」と書かれていることは間違いではありませんでした。神は、人間に全てのものを支配させようとして創造されました。その中には人間に害を及ぼすようなものはなかったはずで、ということ、やはり毒蛇や毒グモは、その後何かから進化して来たのではないか、と思われるかもしれません。やはり進化説が正しかったのだと。しかし、そうではありません。今、毒を持っている蛇やクモも、最初に神が創造された時には毒を持っていなかったのです。だから、全てのものは神の目に極めて良かったのです。では、なぜ今、毒蛇や毒グモが居るのでしょうか。

以前、生命の誕生の所でお話しましたが、動物の体はタンパク質できていて、タンパク質はアミノ酸の連鎖によってできています。実は蛇やクモの毒も、このタンパク質の一種なのです。そしてタンパク質のアミノ酸の連鎖に磁気が強い影響を及ぼすことが分かっています。私はウイクリフ聖書翻訳協会に奉仕していますが、毒蛇や毒グモのいる地域で奉仕するウイクリフの宣教師達は、ザッパーという簡易発電機を持って行きます。ザッパーは、電流は極めて微弱ですが、2万ボルトほどの高電圧を発生します。これを毒の入った傷口周辺に当てて電気を起こすと、多少ショックがありますが人体には影響なく、毒であるタンパク質のアミノ酸の連鎖は、この高電圧によって破壊され、毒が毒でなくなる、つまり解毒されるのです。ザッパーのお陰で毒蛇にかまれた人が、助かったという例が何件もあります。

これに関して、ある時、「地球の磁気は1400年毎に半減しているということですが」と、京都大学の地磁気研究所に問い合わせたところ、研究者の方から回答を頂きました。それによると、過去400年のデータを見ると、このまま推移すれば1000年以内に地球には磁気がなくなる可能性があるとのことでした。

聖書に拠れば、ノアの洪水は約4500年前に起こりました。そこで、この地磁気に関する情報を適用すれば、ノアの洪水当時の地磁気の強度は現在の約10倍です。この磁気強度では、現在クモなどの毒として存在するアミノ酸は、連鎖を形成しないということです。

つまり、洪水以前には毒を持った蛇やクモはいなかったのです。最初に述べたとおり、神がこれらの生き物を創造された時、それらは良かったのです。

ファイアーアントがどんどん北上して来ていると言います。以前はいなかった所まで来ていて、噛まれて被害に会う人が出ています。渡り鳥が渡る途中で方向を失って死んでしまったという話を聞くこともあります。なぜそのようなことが起こるのでしょうか。それは地磁気が弱くなっているからです。地磁気が弱くなっているためファイアーアントが活動できる範囲が広がっているのです。また渡り鳥の体内磁石が方向を探知できなくなっているのです。

私達の罪によって、人間社会が崩壊しつつあると同様に、大気や海洋汚染だけでなく、このような形で地球も物理的に崩壊しつつあります。黙示録は、これらの事はやがて起こるべきことだと言うことを私達に教えてくれています。イエス・キリストを信じる人々の上にも、このような苦難は襲います。しかし、キリストを信じる人には、そのような苦難の後に与えられる勝利と平安が約束されています。ハレルヤ!

片山進悟

「第一の天使がラッパを吹いた。すると血の混じった雹と火とが生じ、地上に投げ入れられた。地上の三分の一が焼け、木々の三分の一が焼け、すべての青草も焼けてしまった。第二の天使がラッパを吹いた。すると、火で燃えている大きな山のようなものが、海に投げ入れられた。海の三分の一が血に変わり、また被造物で海に住む生き物の三分の一は死に、船という船の三分の一が壊された。第三の天使がラッパを吹いた。すると、松明のように燃えている大きな星が、天から落ちて来て、川という川の三分の一と、その水源の上に落ちた。この星の名は「苦よもぎ」といい水の三分の一が苦よもぎのように苦くなって、そのため多くの人が死んだ。第四の天使がラッパを吹いた。すると太陽の三分の一、月の三分の一、星という星の三分の一が損なわれたので、それぞれ三分の一が暗くなって、昼はその光の三分の一を失い、夜も同じようになった。」(黙示録8章7節～12節)

お知らせ

毎月第2と第4火曜日9時半から、A240号室でエクレシアの会という、肩のこらない形での聖書の学びと楽しい交わりの集まりをしています。どなたでもお気軽にどうぞ。お問い合わせは片山姉704-843-8038まで。

日曜日午前9時半からA231号室で高見憲次兄による成人のための日曜学校、11時からR109号室でラブストランド牧師による礼拝、また月曜日午後7時からA238号室でラブストランド牧師による聖書の学が行われています。世界のベストセラー、聖書をご一緒に学びましょう。

今年もクリスマスにはJillybeanが来て、腹話術、奇術などの楽しいパフォーマンスを披露してくれます（英語です）。12月6日、土曜日午後4時半からをぜひ空けて置いて下さい。どうぞお友達もお誘い下さい。

「いのちの泉」は、シャーロット在住の日本人のコミュニケーションのための月刊紙を目指しています。皆さんも、どうぞ奮ってご参加下さい。お互いの向上に役立てるための趣旨に賛同して下さる内容であれば何でも結構です。Carmel Baptist ChurchのJapanese Ministry宛、または charlottejpn@hotmail.com にお願ひします。

編集者の一時帰国のため、11月は休刊させて頂きます。どうぞ12月号をお楽しみに。

カーメル・バプテスト教会
1145 Pineville-Matthews Rd.
Matthews, NC 28105
<http://ifc26.tripod.com>

モルモン教、エホバの証人（ものみの塔）、
統一教会とは関係のない、正統的なキリスト
教会です。安心して気軽においで下さい。

日本人ミニストリー連絡先：
李牧師（704-847-8575）
ラブストランド牧師（704-849-8851）
片山（704-843-6298）

いのちの泉

カメルバプテスト教会
日本人ミニストリー月報
2003年10号

街路樹が少しずつ色づいて来ました。一本の木の葉が緑から黄色、オレンジ色と変化のある様は、ため息が出るほど美しく、これからの朝歩きが楽しくなりました。これから暫くの間は、自然の織りなす微妙な美しさを随所に楽しむことでしょう。

皆様にはお変わりなくお過ごしでいらっしゃいますか。今月は16日に日本から岸義紘先生をお迎えし、サクソフオンのコンサートと、先生のお証しを伺うチャンスに恵まれました。集会には、日本人だけでなく、中国人、韓国人、アメリカ人と、多勢の方が集まって下さり、岸先生が心を込めて演奏されるサクソフオンの音色が染み透った心で、先生のユーモラスなお証しを聞くことができ、感謝でした。

実を申しますと、私はここ一ヶ月余り、祈ることも、聖書を手取ることもできず、毎月ハーベストタイムミニストリーが送ってくれるテープを観ることもできずに過ごして来たのですが、四、五日前、ハーベストタイムのテープを意を決して観ることになりました。(意を決して、という言葉はこの時の私にとって、決して大げさな言葉ではありません。) 9月号のそのテープには、中川健一先生が最近出版された「日本人に送る聖書ものがたり」という本の製作に携わられた、編集者と挿絵画家へのインタビューが入っていました。その二人が語られる言葉と、真の謙虚な姿に私は引きつけられるように、TVの画面に見入りました。三日間続けて観ることによって、私は自分の心の中の問題点を見つけることができました。といいますのも、私は最近、ノンクリスチャンの友人達と話す時に、「私の信仰なんてこの程度…」という言葉で、何度か口にしておりました(そのつど心の中に何かを感じながら)。信仰を持つことは、自分で決めることかもしれませんが、(それでさえも、主に選ばれたことであるのですが)信仰を深めることは、勿論、聖書を学ぶこともあるでしょうが、聖霊の働きによるもの、主に引き上げられてあるものではないかと思いました。それなのに「私の信仰なんてこの程度…」とは、主に対してなんと不遜な言葉を吐いたものでしょう。ほんとうに謙虚な人に出会う時、人間は自分の傲慢さに気づくのでしょうか。祈りの中で、自分の愚かさを、傲慢さを、主に詫言いました。針の穴ほどの小さな小さな私にまで、目をそそいで下さり、諭して下さる主に、心から感謝しました。ハレルヤ!

(中藤百々代)



戦争中の私達 エペソ6章10節から20節

ジョエル・ラブストランド牧師

私は、かつて日本のテレビ番組を見て六十年代と七十年代の歌謡曲を聞きました。その中の一曲は、戦争の知らない新世代についての歌詞がありました。確かに、平和の時代に生きる事は大きな恵みですが、聖歌300番を見たら違うような歌詞が書いてあるのに気がつきます。そこに「進め主イエスの兵士らよ」という歌詞が入っています。その歌は、クリスチャン生活を戦争に喩えている訳です。あるアメリカの教会は、その歌詞が今の平和の時代に相応しくないから讚美歌集から除きました。しかしどうでしょうか。使徒パウロはよく軍隊に関する表現を使います。こんなに荒々しい表現を使う必要が本当にあるかと思われるかもしれませんが、戦争についての英語の言葉があります。

「War is hell」、訳すと「戦争は地獄だ」ということです。戦争は本当に怖くて苦しめるものです。しかし、私達の霊的な戦いは戦争と同じように敵がいて、その敵と戦う備えをしなければ、攻められる時戦おうとしても対抗できません。

ベトナム戦争の後でアメリカの軍隊が徴兵制度から志願制度に変わりました。冷戦がまだ続いていたので、時々週刊誌等に米軍の戦備はどうかという課題がのっていました。ロシアに攻められたら対抗できるでしょ

うか。自分の軍隊が強かったら敵に攻められないだろうし、攻められても勝つ事が出来るという風に考えられていました。

私達も戦備が必要です。霊的戦備が必要です。しかし私達の場合は、戦いを防ぐ為ではありません。クリスチャンなら必ずサタンに狙われます。戦わずをえないのです。イエスを信じたら、サタンの敵となります。キリストの兵士となりますから、アダムとエバが罪を犯した時、この世はサタンに支配されるようになりました。誘惑した蛇と人間が、神様に呪われてしまいました。しかし、神様は人間を見捨てはなさいませんでした。呪いと一緒に救い主の約束が加えられました。主なる神は、蛇に向かって言われた。「このようなことをしたお前は、あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で、呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に、わたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き、お前は彼のかかとを砕く。」(創世記3:14、15)

キリストが現れた時、神様のものをサタンの支配から取り返す事が始まりました。イエス様が罪を赦したり、悪霊を追い出したりしておられました。ヨハネの

福音書 12 章 3 1 節にこう言われます。「今こそ、この世が裁かれる時。今、この世の支配者が追放される。」（ヨハネ 12 : 3 1）罪人がイエスを信じたら、サタンの支配から神様の支配に移されます。こういうふうに神様の御国が広がります。イエス様を信じたら、神様と平和を持つ事になりながらサタンの敵になります。十字架の上でイエス様は人間をサタンの力から贖われました。イエス様は確かな勝利を得られましたが、御国は地上でまだ安全な形になっていません。サタンは、まだ暫くこの世の支配者です。第一コリント人への手紙にこういうふうに表現されています。「次いで、世の終わりが来ます。そのとき、キリストはすべての支配、すべての権威や勢力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます。」（コリント 1 15 : 2 4）

靈的には私達は今戦争中です。戦備はできていますか。今朝の聖書箇所は私達のサタンに対する戦いに何が必要かを教えています。ここに神の武具と呼ばれています。

では、この靈的な戦いにどんな武具が必要かを考える前に 1 2 節に注目してください。「わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。」（1 2）多くの場合、私たちは外面的な問題に注意を払いますが、靈的な事を忘れてしまいます。夫婦げんかをする時や自分を傷つけた人に対してうらみをもつ時、あるいはキリストチャンとして迫害される時、その人間の相手に対する戦いだと思い込んでしまいます。教会の中でも人間関係の問題にぶつかると、「あの人が悪い」と思って、サタンの策略に気がつかない事が多いと思います。しかし、1 2 節によると、「私達の格闘は・・・」私達の格闘はサタンと悪霊どもに対するものです。サタンは色々な状況の中で私達の弱い所を狙って誘惑します。それで 1 3 節に書いてあるように神の武具が役に立ちます。

では神の武具というのは何でしょうか。1 4 節から 1 7 節まで色々なものが述べられています。最初に 1 4 節に真理の帯という武具があります。パウロはこういう武具をリストアップした時、おそらくローマ兵と鎖につながっていました。その兵士の武具を見たら旧約聖書の御言葉を思い出すでしょう。実は、この真理の帯という文句はイザヤ書 1 1 章 5 節に書かれた文句とほとんど同じです。イザヤ書の場合は、正義の帯と真実の帯という言葉はその人の性質を表す表現です。エペソ人への手紙の場合も自分の性質を表す言葉でしょう。しかし、この真理は自分の知識によるものではありません。神様の絶対的な真理です。

この真理の帯を身につけるのに聖書を勉強する必要があります。しかし、真理の帯を身につける事は、真理を知る事だけでなく、**真理を??** と真理によって生きる事も含まれていると思います。

次の武具は、1 4 節の終わりに書いてある正義の胸当てです。これはイザヤ 5 9 章 1 7 節からの引用です。その箇所には、神様は御自分の正義によって裁きと救

いをもたらしました。私達はイエス様を信じたらそのいけにえのゆえに、イエス様の義を与えられました。神様に義と認められます。しかし、この手紙はキリストチャンに対して書かれた物なので、この正義は与えられた絶対的な義だけではないと思います。日常生活の中での義による生き方も大切だと教えられています。神様に義と認めて頂いたら日常生活はどうでもいいと思う事は大きな間違いです。そう思っていたら、悪魔に左右されやすくなります。

三つ目の武具は平和の福音の備えです。これは兵士の靴です。「どうして戦争中の私たちに平和の福音の備えが必要なのだろう」と思われるかも知れません。キリストチャンになる時、サタンと戦うようになるとしたら、どういう意味で「平和の福音」と呼ばれているのでしょうか。外面的に平和がないかも知れません。マタイによる福音書 1 0 節 3 4 - 3 5 節にイエス様は言われました。「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思っはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。わたしは敵対させるために来たからである。人をその父に、／娘を母に、／嫁をしゅうとめに。」（マタイ 1 0 : 3 4 - 3 5）サタンの敵となったらサタンの支配にある人々にぶつかってしまう事がよくあります。しかし、心の中で平安があります。ローマ書 5 章 1 節に「このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、（ローマ 5 : 1）」と書いてあります。この平和の福音を伝える特権が私達に与えられました。第二コリント 5 章 1 8 - 1 9 節を御覧ください。「これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。」（コリント 2 5 : 1 8 - 1 9）パウロと同じ様に、私達はこの平和の福音を伝える事が出来ます。そうするとイザヤ書 5 2 章 7 節の御言葉は私達に当て嵌まります。「いかに美しいことか／山々を歩き巡り、良い知らせを伝える者の足は。彼は平和を告げ、恵みの良い知らせを伝え／救いを告げ／あなたの神は王となられた、と／シオンに向かって呼ばれる。」（イザヤ 5 2 : 7）福音を伝える用意をしようではありませんか。これは本当に素晴らしい特権です。第一ペテロ 3 章 1 5 節を御覧ください。「心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。」（ペテロ 1 3 : 1 5）正しい態度をもって弁明する事は難しいですね。続けて 1 6 節をお読みします。「それも、穏やかに、敬意をもって、正しい良心で、弁明するようにしなさい。そうすれば、キリストに結ばれたあなたがたの善い生活をののしる者たちは、悪

口を言ったことで恥じ入るようになるのです。」（ペテロ 1 3 : 16）

それでは、本文に戻りましょう。エペソ6章16節に四つ目の武具が見つかります。信仰の大盾です。

「なおその上に、信仰を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことができるのです。」（エペソ6 : 16）サタンは、私達を神様から引き離そうをしています。神様の愛を疑わせようとします。「神様はあなたを本当に愛していたら、こんなにひどい目にあわせないだろう」とか「神様はあなたの事を忘れたんだよ。もう神様に仕えるのをやめた方がいい」とか、色々なうそをつきますが、私達の信仰がしっかりしていたらそういう思いがあっても、心の中で燃えるようになりません。質のいい盾に当たる火矢のように消えてしまいます。当時のローマ兵の大盾は長方形でした。高さは1メートル以上で幅はその半分でした。木で作られていて表面に固い皮が張ってありました。盾につなぎがあったのでほかの盾とつなぎ合わせる事ができました。そうすると、兵士がみんな一緒に進む事が出来ました。私達も互いの信仰を強めます。教会が一致していたら一緒にサタンに対して進む事が出来ます。

では、次の武具は何でしょうか。17節を御覧ください。「また、救いを兜としてかぶり、霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」（17）救いのかぶとという神の武具は、実は先程読ませていただいたイザヤ59章17節にもなっています。「主は恵みの御業を鎧としてまとい／救いを兜としてかぶり、報復を衣としてまとい／熱情を上着として身を包まれた。」

（イザヤ59 : 17）神様は救われる必要がないので、神様の場合は救われる事でなく、人を救うことを意味します。パウロの場合は多分、ちょっと違う意味で言っているのではないかと思います。つまり私達は救わ

れたのでサタンに攻められても、死に至るような負傷が決して与えられません。この兜を被らないでサタンと戦おうとするのは愚かな事です。使徒の働き19章13節から17節までお読みください。このスケワの息子たちは、自分が救われていないのにほかの人をサタンの力から救おうとしていました。しかしそれは無理でした。自分をさえ救う事が出来ませんでした。私達はイエス様によって救われたという確信をもっていたらほかの人を助ける事が可能となります。神様の子供としての権威をもって大胆にサタンと戦う事ができます。

そして、最後の武具は本文の17節に書いてあります。「霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」

（17b）。先週、陳先生はこの御霊の与え剣である御言葉についてメッセージをされました。私達はイエス様のように御言葉を使ってサタンに対して戦う事ができたらいいですね。私たちも御言葉を心に留めていたらサタンの誘惑に対抗できます。詩篇119篇11節に「あなたに罪を犯さない為、私はあなたのことばを心にたくわえました。」と書いてあります。私たちは御言葉を覚えて適用出来れば出来る程、よりよいキリストの兵士になります。「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましい？と霊、間接と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心の色々な考えやばかりごとを判別することができます。」（ヘブル4 : 12）

今、戦争中です。私達の敵サタンは神様の子供達を憎んで、私達を滅ぼそうとしています。戦備が出来ていますか。神の武具、つまり真理の帯、正義の胸当て、平和の福音の備え、信仰の大盾、救いのかぶと、御霊の剣である御言葉、全部身に着けていますか。身に着けて大胆に戦いましょう。

お祈りしましょう。

心のマッサージ

ユダヤ笑話集 社会思想社三浦鞠郎著

自慢

ユダヤ社会では、肉の料理を食べた後、6時間以内にミルクの入った料理を食べてはいけない、という決まりがある。三人のユダヤ人がある時、どれほど自分達が信心深いかを自慢しあった。第一の男「うちにはかまどが二つあるんだ。一つは肉料理のために。もう一つはミルク料理のためにね。」第二の男「うちはもっと信心深いから、肉の料理をする女中とミルクの料理をする女中の2人がいるんだ。」第三の男「うちこそ、一番敬謙な家庭だと思うよ。何しろ「肉」という言葉を口にしたら、6時間たった後でなければ「ミルク」という言葉を口にしないのだからね。」

身代わり

詩人フランケルは、詩作だけでは食べていけないので、ある文化団体の事務主任をしていた。ある時、事務員が一人死んだ。せっちな男がいて、自分をその代わりにと、さっそく頼みに来た。その時は埋葬もまだすんでいなかった。「お安い御用だがね」とフランケルは約束した。「だが、君のような大きな男を、果して私だけで棺の中に入れられるかどうか。」

地磁気の変化

大洪水と直接の関連がないように見えますが、今回は神が天地を創造された時の地球と現在の地球が異なっ

ているという点に関連しているので、地磁気の変化の問題について論じることにしたいと思います。

「神様はどうして毒蛇や毒グモなんか造られたのだろう」と、考えたことはありませんか。実は私も、これだけはどうしても理解できませんでした。しかし、創世記1章節で「神はお造りになった全てのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった」と書かれていることは間違いではありませんでした。神は、人間に全てのものを支配させようとして創造されました。その中には人間に害を及ぼすようなものはなかったはずで、ということ、やはり毒蛇や毒グモは、その後何かから進化して来たのではないか、と思われるかもしれません。やはり進化説が正しかったのだと。しかし、そうではありません。今、毒を持っている蛇やクモも、最初に神が創造された時には毒を持っていなかったのです。だから、全てのものは神の目に極めて良かったのです。では、なぜ今、毒蛇や毒グモが居るのでしょうか。

以前、生命の誕生の所でお話しましたが、動物の体はタンパク質できていて、タンパク質はアミノ酸の連鎖によってできています。実は蛇やクモの毒も、このタンパク質の一種なのです。そしてタンパク質のアミノ酸の連鎖に磁気が強い影響を及ぼすことが分かっています。私はウイクリフ聖書翻訳協会に奉仕していますが、毒蛇や毒グモのいる地域で奉仕するウイクリフの宣教師達は、ザッパーという簡易発電機を持って行きます。ザッパーは、電流は極めて微弱ですが、2万ボルトほどの高電圧を発生します。これを毒の入った傷口周辺に当てて電気を起こすと、多少ショックがありますが人体には影響なく、毒であるタンパク質のアミノ酸の連鎖は、この高電圧によって破壊され、毒が毒でなくなる、つまり解毒されるのです。ザッパーのお陰で毒蛇にかまれた人が、助かったという例が何件もあります。

これに関して、ある時、「地球の磁気は1400年毎に半減しているということですが」と、京都大学の地磁気研究所に問い合わせたところ、研究者の方から回答を頂きました。それによると、過去400年のデータを見ると、このまま推移すれば1000年以内に地球には磁気がなくなる可能性があるとのことでした。

聖書に拠れば、ノアの洪水は約4500年前に起こりました。そこで、この地磁気に関する情報を適用すれば、ノアの洪水当時の地磁気の強度は現在の約10倍です。この磁気強度では、現在クモなどの毒として存在するアミノ酸は、連鎖を形成しないということです。

つまり、洪水以前には毒を持った蛇やクモはいなかったのです。最初に述べたとおり、神がこれらの生き物を創造された時、それらは良かったのです。

ファイアーアントがどんどん北上して来ていると言います。以前はいなかった所まで来ていて、噛まれて被害に会う人が出ています。渡り鳥が渡る途中で方向を失って死んでしまったという話を聞くこともあります。なぜそのようなことが起こるのでしょうか。それは地磁気が弱くなっているからです。地磁気が弱くなっているためファイアーアントが活動できる範囲が広がっているのです。また渡り鳥の体内磁石が方向を探知できなくなっているのです。

私達の罪によって、人間社会が崩壊しつつあると同様に、大気や海洋汚染だけでなく、このような形で地球も物理的に崩壊しつつあります。黙示録は、これらの事はやがて起こるべきことだと言うことを私達に教えてくれています。イエス・キリストを信じる人々の上にも、このような苦難は襲います。しかし、キリストを信じる人には、そのような苦難の後に与えられる勝利と平安が約束されています。ハレルヤ!

片山進悟

「第一の天使がラッパを吹いた。すると血の混じった雹と火とが生じ、地上に投げ入れられた。地上の三分の一が焼け、木々の三分の一が焼け、すべての青草も焼けてしまった。第二の天使がラッパを吹いた。すると、火で燃えている大きな山のようなものが、海に投げ入れられた。海の三分の一が血に変わり、また被造物で海に住む生き物の三分の一は死に、船という船の三分の一が壊された。第三の天使がラッパを吹いた。すると、松明のように燃えている大きな星が、天から落ちて来て、川という川の三分の一と、その水源の上に落ちた。この星の名は「苦よもぎ」といい水の三分の一が苦よもぎのように苦くなって、そのために多くの人が死んだ。第四の天使がラッパを吹いた。すると太陽の三分の一、月の三分の一、星という星の三分の一が損なわれたので、それぞれ三分の一が暗くなって、昼はその光の三分の一を失い、夜も同じようになった。」(黙示録8章7節～12節)

お知らせ

毎月第2と第4火曜日9時半から、A240号室でエクレシアの会という、肩のこらない形での聖書の学びと楽しい交わりの集まりをしています。どなたでもお気軽にどうぞ。お問い合わせは片山姉704-843-8038まで。

日曜日午前9時半からA231号室で高見憲次兄による成人のための日曜学校、11時からR109号室でラブストランド牧師による礼拝、また月曜日午後7時からA238号室でラブストランド牧師による聖書の学が行われています。世界のベストセラー、聖書をご一緒に学びましょう。

今年もクリスマスにはJillybeanが来て、腹話術、奇術などの楽しいパフォーマンスを披露してくれます（英語です）。12月6日、土曜日午後4時半からをぜひ空けて置いて下さい。どうぞお友達もお誘い下さい。

「いのちの泉」は、シャーロット在住の日本人のコミュニケーションのための月刊紙を目指しています。皆さんも、どうぞ奮ってご参加下さい。お互いの向上に役立てるための趣旨に賛同して下さる内容であれば何でも結構です。Carmel Baptist ChurchのJapanese Ministry宛、または charlottejpn@hotmail.com をお願いします。

編集者の一時帰国のため、11月は休刊させて頂きます。どうぞ12月号をお楽しみに。

カーメル・バプテスト教会
1145 Pineville-Matthews Rd.
Matthews, NC 28105
<http://ifc26.tripod.com>

モルモン教、エホバの証人（ものみの塔）、
統一教会とは関係のない、正統的なキリスト
教会です。安心して気軽においで下さい。

日本人ミニストリー連絡先：
李牧師（704-847-8575）
ラブストランド牧師（704-849-8851）
片山（704-843-6298）

いのちの泉

カメルバプテスト教会
日本人ミニストリー月報
2003年10号

街路樹が少しずつ色づいて来ました。一本の木の葉が緑から黄色、オレンジ色と変化のある様は、ため息が出るほど美しく、これからの朝歩きが楽しくなりました。これから暫くの間は、自然の織りなす微妙な美しさを随所に楽しむことでしょう。

皆様にはお変わりなくお過ごしでいらっしゃいますか。今月は16日に日本から岸義紘先生をお迎えし、サクソフオンのコンサートと、先生のお証しを伺うチャンスに恵まれました。集会には、日本人だけでなく、中国人、韓国人、アメリカ人と、多勢の方が集まって下さり、岸先生が心を込めて演奏されるサクソフオンの音色が染み透った心で、先生のユーモラスなお証しを聞くことができ、感謝でした。

実を申しますと、私はここ一ヶ月余り、祈ることも、聖書を手取ることもできず、毎月ハーベストタイムミニストリーが送ってくれるテープを観ることもできずに過ごして来たのですが、四、五日前、ハーベストタイムのテープを意を決して観ることになりました。(意を決して、という言葉はこの時の私にとって、決して大げさな言葉ではありません。) 9月号のそのテープには、中川健一先生が最近出版された「日本人に送る聖書ものがたり」という本の製作に携わられた、編集者と挿絵画家へのインタビューが入っていました。その二人が語られる言葉と、真の謙虚な姿に私は引きつけられるように、TVの画面に見入りました。三日間続けて観ることによって、私は自分の心の中の問題点を見つけることができました。といたしますのも、私は最近、ノンクリスチャンの友人達と話す時に、「私の信仰なんてこの程度…」という言葉、何度か口にしておりました(そのつど心の中に何かを感じながら)。信仰を持つことは、自分で決めることかもしれませんが、(それでさえも、主に選ばれたことであるのですが)信仰を深めることは、勿論、聖書を学ぶこともあるでしょうが、聖霊の働きによるもの、主に引き上げられてあるものではないかと思いました。それなのに「私の信仰なんてこの程度…」とは、主に対してなんと不遜な言葉を吐いたものでしょう。ほんとうに謙虚な人に出会う時、人間は自分の傲慢さに気づくのでしょうか。祈りの中で、自分の愚かさを、傲慢さを、主に詫言いました。針の穴ほどの小さな小さな私にまで、目をそそいで下さり、諭して下さる主に、心から感謝しました。ハレルヤ!

(中藤百々代)



戦争中の私達 エペソ6章10節から20節

ジョエル・ラブストランド牧師

私は、かつて日本のテレビ番組を見て六十年代と七十年代の歌謡曲を聞きました。その中の一曲は、戦争の知らない新世代についての歌詞がありました。確かに、平和の時代に生きる事は大きな恵みですが、聖歌300番を見たら違うような歌詞が書いてあるのに気がつきます。そこに「進め主イエスの兵士らよ」という歌詞が入っています。その歌は、クリスチャン生活を戦争に喩えている訳です。あるアメリカの教会は、その歌詞が今の平和の時代に相応しくないから讚美歌集から除きました。しかしどうでしょうか。使徒パウロはよく軍隊に関する表現を使います。こんなに荒々しい表現を使う必要が本当にあるかと思われるかもしれませんが、戦争についての英語の言葉があります。

「War is hell」、訳すと「戦争は地獄だ」ということです。戦争は本当に怖くて苦しめるものです。しかし、私達の霊的な戦いは戦争と同じように敵がいて、その敵と戦う備えをしなければ、攻められる時戦おうとしても対抗できません。

ベトナム戦争の後でアメリカの軍隊が徴兵制度から志願制度に変わりました。冷戦がまだ続いていたので、時々週刊誌等に米軍の戦備はどうかという課題がのっていました。ロシアに攻められたら対抗できるでしょ

うか。自分の軍隊が強かったら敵に攻められないだろうし、攻められても勝つ事が出来るという風に考えられていました。

私達も戦備が必要です。霊的戦備が必要です。しかし私達の場合は、戦いを防ぐ為ではありません。クリスチャンなら必ずサタンに狙われます。戦わずをえないのです。イエスを信じたら、サタンの敵となります。キリストの兵士となりますから、アダムとエバが罪を犯した時、この世はサタンに支配されるようになりました。誘惑した蛇と人間が、神様に呪われてしまいました。しかし、神様は人間を見捨てはなさいませんでした。呪いと一緒に救い主の約束が加えられました。主なる神は、蛇に向かって言われた。「このようなことをしたお前は、あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で、呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に、わたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き、お前は彼のかかとを砕く。」(創世記3:14、15)

キリストが現れた時、神様のものをサタンの支配から取り返す事が始まりました。イエス様が罪を赦したり、悪霊を追い出したりしておられました。ヨハネの

福音書 12 章 3 1 節にこう言われます。「今こそ、この世が裁かれる時。今、この世の支配者が追放される。」（ヨハネ 12 : 3 1）罪人がイエスを信じたら、サタンの支配から神様の支配に移されます。こういうふうに神様の御国が広がります。イエス様を信じたら、神様と平和を持つ事になりながらサタンの敵になります。十字架の上でイエス様は人間をサタンの力から贖われました。イエス様は確かな勝利を得られましたが、御国は地上でまだ安全な形になっていません。サタンは、まだ暫くこの世の支配者です。第一コリント人への手紙にこういうふうに表現されています。「次いで、世の終わりが来ます。そのとき、キリストはすべての支配、すべての権威や勢力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます。」（コリント 1 15 : 2 4）

靈的には私達は今戦争中です。戦備はできていますか。今朝の聖書箇所は私達のサタンに対する戦いに何が必要かを教えています。ここに神の武具と呼ばれています。

では、この靈的な戦いにどんな武具が必要かを考える前に 1 2 節に注目してください。「わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。」（1 2）多くの場合、私たちは外面的な問題に注意を払いますが、靈的な事を忘れてしまいます。夫婦げんかをする時や自分を傷つけた人に対してうらみをもつ時、あるいはキリストチャンとして迫害される時、その人間の相手に対する戦いだと思い込んでしまいます。教会の中でも人間関係の問題にぶつかると、「あの人が悪い」と思って、サタンの策略に気がつかない事が多いと思います。しかし、1 2 節によると、「私達の格闘は・・・」私達の格闘はサタンと悪霊どもに対するものです。サタンは色々な状況の中で私達の弱い所を狙って誘惑します。それで 1 3 節に書いてあるように神の武具が役に立ちます。

では神の武具というのは何でしょうか。1 4 節から 1 7 節まで色々なものが述べられています。最初に 1 4 節に真理の帯という武具があります。パウロはこういう武具をリストアップした時、おそらくローマ兵と鎖につながっていました。その兵士の武具を見たら旧約聖書の御言葉を思い出すでしょう。実は、この真理の帯という文句はイザヤ書 1 1 章 5 節に書かれた文句とほとんど同じです。イザヤ書の場合は、正義の帯と真実の帯という言葉はその人の性質を表す表現です。エペソ人への手紙の場合も自分の性質を表す言葉でしょう。しかし、この真理は自分の知識によるものではありません。神様の絶対的な真理です。

この真理の帯を身につけるのに聖書を勉強する必要があります。しかし、真理の帯を身につける事は、真理を知る事だけでなく、**真理を??** と真理によって生きる事も含まれていると思います。

次の武具は、1 4 節の終わりに書いてある正義の胸当てです。これはイザヤ 5 9 章 1 7 節からの引用です。その箇所には、神様は御自分の正義によって裁きと救

いをもたらしました。私達はイエス様を信じたらそのいけにえのゆえに、イエス様の義を与えられました。神様に義と認められます。しかし、この手紙はキリストチャンに対して書かれた物なので、この正義は与えられた絶対的な義だけではないと思います。日常生活の中での義による生き方も大切だと教えられています。神様に義と認めて頂いたら日常生活はどうでもいいと思う事は大きな間違いです。そう思っていたら、悪魔に左右されやすくなります。

三つ目の武具は平和の福音の備えです。これは兵士の靴です。「どうして戦争中の私たちに平和の福音の備えが必要なのだろう」と思われるかも知れません。キリストチャンになる時、サタンと戦うようになるとしたら、どういう意味で「平和の福音」と呼ばれているのでしょうか。外面的に平和がないかも知れません。マタイによる福音書 10 節 3 4 - 3 5 節にイエス様は言われました。「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思っはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。わたしは敵対させるために来たからである。人をその父に、／娘を母に、／嫁をしゅうとめに。」（マタイ 10 : 3 4 - 3 5）サタンの敵となったらサタンの支配にある人々にぶつかってしまう事がよくあります。しかし、心の中で平安があります。ローマ書 5 章 1 節に「このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、（ローマ 5 : 1）」と書いてあります。この平和の福音を伝える特権が私達に与えられました。第二コリント 5 章 1 8 - 1 9 節を御覧ください。「これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。」（コリント 2 5 : 1 8 - 1 9）パウロと同じ様に、私達はこの平和の福音を伝える事が出来ます。そうするとイザヤ書 5 2 章 7 節の御言葉は私達に当て嵌まります。「いかに美しいことか／山々を歩き巡り、良い知らせを伝える者の足は。彼は平和を告げ、恵みの良い知らせを伝え／救いを告げ／あなたの神は王となられた、と／シオンに向かって呼ばれる。」（イザヤ 5 2 : 7）福音を伝える用意をしようではありませんか。これは本当に素晴らしい特権です。第一ペテロ 3 章 1 5 節を御覧ください。「心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。」（ペテロ 1 3 : 1 5）正しい態度をもって弁明する事は難しいですね。続けて 1 6 節をお読みします。「それも、穏やかに、敬意をもって、正しい良心で、弁明するようにしなさい。そうすれば、キリストに結ばれたあなたがたの善い生活をののしる者たちは、悪

口を言ったことで恥じ入るようになるのです。」（ペテロ 1 3 : 16）

それでは、本文に戻りましょう。エペソ6章16節に四つ目の武具が見つかります。信仰の大盾です。

「なおその上に、信仰を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことができるのです。」（エペソ6 : 16）サタンは、私達を神様から引き離そうをしています。神様の愛を疑わせようとします。「神様はあなたを本当に愛していたら、こんなにひどい目にあわせないだろう」とか「神様はあなたの事を忘れたんだよ。もう神様に仕えるのをやめた方がいい」とか、色々なうそをつきますが、私達の信仰がしっかりしていたらそういう思いがあっても、心の中で燃えるようになりません。質のいい盾に当たる火矢のように消えてしまいます。当時のローマ兵の大盾は長方形でした。高さは1メートル以上で幅はその半分でした。木で作られていて表面に固い皮が張ってありました。盾につなぎがあったのでほかの盾とつなぎ合わせる事ができました。そうすると、兵士がみんな一緒に進む事が出来ました。私達も互いの信仰を強めます。教会が一致していたら一緒にサタンに対して進む事が出来ます。

では、次の武具は何でしょうか。17節を御覧ください。「また、救いを兜としてかぶり、霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」（17）救いのかぶとという神の武具は、実は先程読ませていただいたイザヤ59章17節にもなっています。「主は恵みの御業を鎧としてまとい／救いを兜としてかぶり、報復を衣としてまとい／熱情を上着として身を包まれた。」（イザヤ59 : 17）神様は救われる必要がないので、神様の場合は救われる事でなく、人を救うことを意味します。パウロの場合は多分、ちょっと違う意味で言っているのではないかと思います。つまり私達は救わ

れたのでサタンに攻められても、死に至るような負傷が決して与えられません。この兜を被らないでサタンと戦おうとするのは愚かな事です。使徒の働き19章13節から17節までお読みください。このスケワの息子たちは、自分が救われていないのにほかの人をサタンの力から救おうとしていました。しかしそれは無理でした。自分をさえ救う事が出来ませんでした。私達はイエス様によって救われたという確信をもっていたらほかの人を助ける事が可能となります。神様の子供としての権威をもって大胆にサタンと戦う事ができます。

そして、最後の武具は本文の17節に書いてあります。「霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」

（17b）。先週、陳先生はこの御霊の与え剣である御言葉についてメッセージをされました。私達はイエス様のように御言葉を使ってサタンに対して戦う事ができたらいいですね。私たちも御言葉を心に留めていたらサタンの誘惑に対抗できます。詩篇119篇11節に「あなたに罪を犯さない為、私はあなたのことばを心にたくわえました。」と書いてあります。私たちは御言葉を覚えて適用出来れば出来る程、よりよいキリストの兵士になります。「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましい？と霊、間接と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心の色々な考えやばかりごとを判別することができます。」（ヘブル4 : 12）

今、戦争中です。私達の敵サタンは神様の子供達を憎んで、私達を滅ぼそうとしています。戦備が出来ていますか。神の武具、つまり真理の帯、正義の胸当て、平和の福音の備え、信仰の大盾、救いのかぶと、御霊の剣である御言葉、全部身に着けていますか。身に着けて大胆に戦いましょう。

お祈りしましょう。

心のマッサージ

ユダヤ笑話集 社会思想社三浦鞠郎著

自慢

ユダヤ社会では、肉の料理を食べた後、6時間以内にミルクの入った料理を食べてはいけない、という決まりがある。三人のユダヤ人がある時、どれほど自分達が信心深いかを自慢しあった。第一の男「うちにはかまどが二つあるんだ。一つは肉料理のために。もう一つはミルク料理のためにね。」第二の男「うちはもっと信心深いから、肉の料理をする女中とミルクの料理をする女中の2人がいるんだ。」第三の男「うちこそ、一番敬謙な家庭だと思うよ。何しろ「肉」という言葉を口にしたら、6時間たった後でなければ「ミルク」という言葉を口にしないのだからね。」

身代わり

詩人フランケルは、詩作だけでは食べていけないので、ある文化団体の事務主任をしていた。ある時、事務員が一人死んだ。せっちな男がいて、自分をその代わりにと、さっそく頼みに来た。その時は埋葬もまだすんでいなかった。「お安い御用だがね」とフランケルは約束した。「だが、君のような大きな男を、果して私だけで棺の中に入れられるかどうか。」

地磁気の変化

大洪水と直接の関連がないように見えますが、今回は神が天地を創造された時の地球と現在の地球が異なっ

ているという点に関連しているので、地磁気の変化の問題について論じることにしたいと思います。

「神様はどうして毒蛇や毒グモなんか造られたのだろう」と、考えたことはありませんか。実は私も、これだけではどうしても理解できませんでした。しかし、創世記1章節で「神はお造りになった全てのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった」と書かれていることは間違いではありませんでした。神は、人間に全てのものを支配させようとして創造されました。その中には人間に害を及ぼすようなものはなかったはずで、ということ、やはり毒蛇や毒グモは、その後何かから進化して来たのではないか、と思われるかもしれません。やはり進化説が正しかったのだと。しかし、そうではありません。今、毒を持っている蛇やクモも、最初に神が創造された時には毒を持っていなかったのです。だから、全てのものは神の目に極めて良かったのです。では、なぜ今、毒蛇や毒グモが居るのでしょうか。

以前、生命の誕生の所でお話しましたが、動物の体はタンパク質できていて、タンパク質はアミノ酸の連鎖によってできています。実は蛇やクモの毒も、このタンパク質の一種なのです。そしてタンパク質のアミノ酸の連鎖に磁気が強い影響を及ぼすことが分かっています。私はウイクリフ聖書翻訳協会に奉仕していますが、毒蛇や毒グモのいる地域で奉仕するウイクリフの宣教師達は、ザッパーという簡易発電機を持って行きます。ザッパーは、電流は極めて微弱ですが、2万ボルトほどの高電圧を発生します。これを毒の入った傷口周辺に当てて電気を起こすと、多少ショックがありますが人体には影響なく、毒であるタンパク質のアミノ酸の連鎖は、この高電圧によって破壊され、毒が毒でなくなる、つまり解毒されるのです。ザッパーのお陰で毒蛇にかまれた人が、助かったという例が何件もあります。

これに関して、ある時、「地球の磁気は1400年毎に半減しているということですが」と、京都大学の地磁気研究所に問い合わせたところ、研究者の方から回答を頂きました。それによると、過去400年のデータを見ると、このまま推移すれば1000年以内に地球には磁気がなくなる可能性があるとのことでした。

聖書に拠れば、ノアの洪水は約4500年前に起こりました。そこで、この地磁気に関する情報を適用すれば、ノアの洪水当時の地磁気の強度は現在の約10倍です。この磁気強度では、現在クモなどの毒として存在するアミノ酸は、連鎖を形成しないということです。

つまり、洪水以前には毒を持った蛇やクモはいなかったのです。最初に述べたとおり、神がこれらの生き物を創造された時、それらは良かったのです。

ファイアーアントがどんどん北上して来ていると言います。以前はいなかった所まで来ていて、噛まれて被害に会う人が出ています。渡り鳥が渡る途中で方向を失って死んでしまったという話を聞くこともあります。なぜそのようなことが起こるのでしょうか。それは地磁気が弱くなっているからです。地磁気が弱くなっているためファイアーアントが活動できる範囲が広がっているのです。また渡り鳥の体内磁石が方向を探知できなくなっているのです。

私達の罪によって、人間社会が崩壊しつつあると同様に、大気や海洋汚染だけでなく、このような形で地球も物理的に崩壊しつつあります。黙示録は、これらの事はやがて起こるべきことだと言うことを私達に教えてくれています。イエス・キリストを信じる人々の上にも、このような苦難は襲います。しかし、キリストを信じる人には、そのような苦難の後に与えられる勝利と平安が約束されています。ハレルヤ!

片山進悟

「第一の天使がラッパを吹いた。すると血の混じった雹と火とが生じ、地上に投げ入れられた。地上の三分の一が焼け、木々の三分の一が焼け、すべての青草も焼けてしまった。第二の天使がラッパを吹いた。すると、火で燃えている大きな山のようなものが、海に投げ入れられた。海の三分の一が血に変わり、また被造物で海に住む生き物の三分の一は死に、船という船の三分の一が壊された。第三の天使がラッパを吹いた。すると、松明のように燃えている大きな星が、天から落ちて来て、川という川の三分の一と、その水源の上に落ちた。この星の名は「苦よもぎ」といい水の三分の一が苦よもぎのように苦くなって、そのために多くの人が死んだ。第四の天使がラッパを吹いた。すると太陽の三分の一、月の三分の一、星という星の三分の一が損なわれたので、それぞれ三分の一が暗くなって、昼はその光の三分の一を失い、夜も同じようになった。」(黙示録8章7節～12節)

お知らせ

毎月第2と第4火曜日9時半から、A240号室でエクレシアの会という、肩のこらない形での聖書の学びと楽しい交わりの集まりをしています。どなたでもお気軽にどうぞ。お問い合わせは片山姉704-843-8038まで。

日曜日午前9時半からA231号室で高見憲次兄による成人のための日曜学校、11時からR109号室でラブストランド牧師による礼拝、また月曜日午後7時からA238号室でラブストランド牧師による聖書の学が行われています。世界のベストセラー、聖書をご一緒に学びましょう。

今年もクリスマスにはJillybeanが来て、腹話術、奇術などの楽しいパフォーマンスを披露してくれます（英語です）。12月6日、土曜日午後4時半からをぜひ空けて置いて下さい。どうぞお友達もお誘い下さい。

「いのちの泉」は、シャーロット在住の日本人のコミュニケーションのための月刊紙を目指しています。皆さんも、どうぞ奮ってご参加下さい。お互いの向上に役立てるための趣旨に賛同して下さる内容であれば何でも結構です。Carmel Baptist ChurchのJapanese Ministry宛、または charlottejpn@hotmail.com にお願ひします。

編集者の一時帰国のため、11月は休刊させて頂きます。どうぞ12月号をお楽しみに。

カーメル・バプテスト教会
1145 Pineville-Matthews Rd.
Matthews, NC 28105
<http://ifc26.tripod.com>

モルモン教、エホバの証人（ものみの塔）、
統一教会とは関係のない、正統的なキリスト
教会です。安心して気軽においで下さい。

日本人ミニストリー連絡先：
李牧師（704-847-8575）
ラブストランド牧師（704-849-8851）
片山（704-843-6298）

いのちの泉

カーメルバプテスト教会
日本人ミニストリー月報
2003年10号

街路樹が少しずつ色づいて来ました。一本の木の葉が緑から黄色、オレンジ色と変化のある様は、ため息が出るほど美しく、これからの朝歩きが楽しくなりました。これから暫くの間は、自然の織りなす微妙な美しさを随所に楽しむことでしょう。

皆様にはお変わりなくお過ごしでいらっしゃいますか。今月は16日に日本から岸義紘先生をお迎えし、サクソフオンのコンサートと、先生のお証しを伺うチャンスに恵まれました。集会には、日本人だけでなく、中国人、韓国人、アメリカ人と、多勢の方が集まって下さり、岸先生が心を込めて演奏されるサクソフオンの音色が染み透った心で、先生のユーモラスなお証しを聞くことができ、感謝でした。

実を申しますと、私はここ一ヶ月余り、祈ることも、聖書を手取ることもできず、毎月ハーベストタイムミニストリーが送ってくれるテープを観ることもできずに過ごして来たのですが、四、五日前、ハーベストタイムのテープを意を決して観ることになりました。(意を決して、という言葉はこの時の私にとって、決して大げさな言葉ではありません。) 9月号のそのテープには、中川健一先生が最近出版された「日本人に送る聖書ものがたり」という本の製作に携わられた、編集者と挿絵画家へのインタビューが入っていました。その二人が語られる言葉と、真の謙虚な姿に私は引きつけられるように、TVの画面に見入りました。三日間続けて観ることによって、私は自分の心の中の問題点を見つけることができました。といたしますのも、私は最近、ノンクリスチャンの友人達と話す時に、「私の信仰なんてこの程度…」という言葉、何度か口にしておりました(そのつど心の中に何かを感じながら)。信仰を持つことは、自分で決めることかもしれませんが、(それでさえも、主に選ばれたことであるのですが)信仰を深めることは、勿論、聖書を学ぶこともあるでしょうが、聖霊の働きによるもの、主に引き上げられてあるものではないかと思いました。それなのに「私の信仰なんてこの程度…」とは、主に対してなんと不遜な言葉を吐いたものでしょう。ほんとうに謙虚な人に出会う時、人間は自分の傲慢さに気づくのでしょうか。祈りの中で、自分の愚かさを、傲慢さを、主に詫言いました。針の穴ほどの小さな小さな私にまで、目をそそいで下さり、諭して下さる主に、心から感謝しました。ハレルヤ!

(中藤百々代)



戦争中の私達 エペソ6章10節から20節

ジョエル・ラブストランド牧師

私は、かつて日本のテレビ番組を見て六十年代と七十年代の歌謡曲を聞きました。その中の一曲は、戦争の知らない新世代についての歌詞がありました。確かに、平和の時代に生きる事は大きな恵みですが、聖歌300番を見たら違うような歌詞が書いてあるのに気がつきます。そこに「進め主イエスの兵士らよ」という歌詞が入っています。その歌は、クリスチャン生活を戦争に喩えている訳です。あるアメリカの教会は、その歌詞が今の平和の時代に相応しくないから讚美歌集から除きました。しかしどうでしょうか。使徒パウロはよく軍隊に関する表現を使います。こんなに荒々しい表現を使う必要が本当にあるかと思われるかもしれませんが、戦争についての英語の言葉があります。

「War is hell」、訳すと「戦争は地獄だ」ということです。戦争は本当に怖くて苦しめるものです。しかし、私達の霊的な戦いは戦争と同じように敵がいて、その敵と戦う備えをしなければ、攻められる時戦おうとしても対抗できません。

ベトナム戦争の後でアメリカの軍隊が徴兵制度から志願制度に変わりました。冷戦がまだ続いていたので、時々週刊誌等に米軍の戦備はどうかという課題がのっていました。ロシアに攻められたら対抗できるでしょ

うか。自分の軍隊が強かったら敵に攻められないだろうし、攻められても勝つ事が出来るという風に考えられていました。

私達も戦備が必要です。霊的戦備が必要です。しかし私達の場合は、戦いを防ぐ為ではありません。クリスチャンなら必ずサタンに狙われます。戦わずをえないのです。イエスを信じたら、サタンの敵となります。キリストの兵士となりますから、アダムとエバが罪を犯した時、この世はサタンに支配されるようになりました。誘惑した蛇と人間が、神様に呪われてしまいました。しかし、神様は人間を見捨てはなさいませんでした。呪いと一緒に救い主の約束が加えられました。主なる神は、蛇に向かって言われた。「このようなことをしたお前は、あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で、呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に、わたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き、お前は彼のかかとを砕く。」(創世記3:14、15)

キリストが現れた時、神様のものをサタンの支配から取り返す事が始まりました。イエス様が罪を赦したり、悪霊を追い出したりしておられました。ヨハネの

福音書 12 章 3 1 節にこう言われます。「今こそ、この世が裁かれる時。今、この世の支配者が追放される。」（ヨハネ 12 : 3 1）罪人がイエスを信じたら、サタンの支配から神様の支配に移されます。こういうふうに神様の御国が広がります。イエス様を信じたら、神様と平和を持つ事になりながらサタンの敵になります。十字架の上でイエス様は人間をサタンの力から贖われました。イエス様は確かな勝利を得られましたが、御国は地上でまだ安全な形になっていません。サタンは、まだ暫くこの世の支配者です。第一コリント人への手紙にこういうふうに表現されています。「次いで、世の終わりが来ます。そのとき、キリストはすべての支配、すべての権威や勢力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます。」（コリント 1 15 : 2 4）

靈的には私達は今戦争中です。戦備はできていますか。今朝の聖書箇所は私達のサタンに対する戦いに何が必要かを教えています。ここに神の武具と呼ばれています。

では、この靈的な戦いにどんな武具が必要かを考える前に 1 2 節に注目してください。「わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。」（1 2）多くの場合、私たちは外面的な問題に注意を払いますが、靈的な事を忘れてしまいます。夫婦げんかをする時や自分を傷つけた人に対してうらみをもつ時、あるいはキリストチャンとして迫害される時、その人間の相手に対する戦いだと思い込んでしまいます。教会の中でも人間関係の問題にぶつかると、「あの人が悪い」と思って、サタンの策略に気がつかない事が多いと思います。しかし、1 2 節によると、「私達の格闘は・・・」私達の格闘はサタンと悪霊どもに対するものです。サタンは色々な状況の中で私達の弱い所を狙って誘惑します。それで 1 3 節に書いてあるように神の武具が役に立ちます。

では神の武具というのは何でしょうか。1 4 節から 1 7 節まで色々なものが述べられています。最初に 1 4 節に真理の帯という武具があります。パウロはこういう武具をリストアップした時、おそらくローマ兵と鎖につながっていました。その兵士の武具を見たら旧約聖書の御言葉を思い出すでしょう。実は、この真理の帯という文句はイザヤ書 1 1 章 5 節に書かれた文句とほとんど同じです。イザヤ書の場合は、正義の帯と真実の帯という言葉はその人の性質を表す表現です。エペソ人への手紙の場合も自分の性質を表す言葉でしょう。しかし、この真理は自分の知識によるものではありません。神様の絶対的な真理です。

この真理の帯を身につけるのに聖書を勉強する必要があります。しかし、真理の帯を身につける事は、真理を知る事だけでなく、**真理を??** と真理によって生きる事も含まれていると思います。

次の武具は、1 4 節の終わりに書いてある正義の胸当てです。これはイザヤ 5 9 章 1 7 節からの引用です。その箇所には、神様は御自分の正義によって裁きと救

いをもたらしました。私達はイエス様を信じたらそのいけにえのゆえに、イエス様の義を与えられました。神様に義と認められます。しかし、この手紙はキリストチャンに対して書かれた物なので、この正義は与えられた絶対的な義だけではないと思います。日常生活の中での義による生き方も大切だと教えられています。神様に義と認めて頂いたら日常生活はどうでもいいと思う事は大きな間違いです。そう思っていたら、悪魔に左右されやすくなります。

三つ目の武具は平和の福音の備えです。これは兵士の靴です。「どうして戦争中の私たちに平和の福音の備えが必要なのだろう」と思われるかも知れません。キリストチャンになる時、サタンと戦うようになるとしたら、どういう意味で「平和の福音」と呼ばれているのでしょうか。外面的に平和がないかも知れません。マタイによる福音書 10 節 3 4 - 3 5 節にイエス様は言われました。「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思っはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。わたしは敵対させるために来たからである。人をその父に、／娘を母に、／嫁をしゅうとめに。」（マタイ 10 : 3 4 - 3 5）サタンの敵となったらサタンの支配にある人々にぶつかってしまう事がよくあります。しかし、心の中で平安があります。ローマ書 5 章 1 節に「このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、（ローマ 5 : 1）」と書いてあります。この平和の福音を伝える特権が私達に与えられました。第二コリント 5 章 1 8 - 1 9 節を御覧ください。「これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。」（コリント 2 5 : 1 8 - 1 9）パウロと同じ様に、私達はこの平和の福音を伝える事が出来ます。そうするとイザヤ書 5 2 章 7 節の御言葉は私達に当て嵌まります。「いかに美しいことか／山々を歩き巡り、良い知らせを伝える者の足は。彼は平和を告げ、恵みの良い知らせを伝え／救いを告げ／あなたの神は王となられた、と／シオンに向かって呼ばれる。」（イザヤ 5 2 : 7）福音を伝える用意をしようではありませんか。これは本当に素晴らしい特権です。第一ペテロ 3 章 1 5 節を御覧ください。「心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。」（ペテロ 1 3 : 1 5）正しい態度をもって弁明する事は難しいですね。続けて 1 6 節をお読みします。「それも、穏やかに、敬意をもって、正しい良心で、弁明するようにしなさい。そうすれば、キリストに結ばれたあなたがたの善い生活をののしる者たちは、悪

口を言ったことで恥じ入るようになるのです。」（ペテロ 1 3 : 16）

それでは、本文に戻りましょう。エペソ6章16節に四つ目の武具が見つかります。信仰の大盾です。

「なおその上に、信仰を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことができるのです。」（エペソ6 : 16）サタンは、私達を神様から引き離そうをしています。神様の愛を疑わせようとします。「神様はあなたを本当に愛していたら、こんなにひどい目にあわせないだろう」とか「神様はあなたの事を忘れたんだよ。もう神様に仕えるのをやめた方がいい」とか、色々なうそをつきますが、私達の信仰がしっかりしていたらそういう思いがあっても、心の中で燃えるようになりません。質のいい盾に当たる火矢のように消えてしまいます。当時のローマ兵の大盾は長方形でした。高さは1メートル以上で幅はその半分でした。木で作られていて表面に固い皮が張ってありました。盾につなぎがあったのでほかの盾とつなぎ合わせる事ができました。そうすると、兵士がみんな一緒に進む事が出来ました。私達も互いの信仰を強めます。教会が一致していたら一緒にサタンに対して進む事が出来ます。

では、次の武具は何でしょうか。17節を御覧ください。「また、救いを兜としてかぶり、霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」（17）救いのかぶとという神の武具は、実は先程読ませていただいたイザヤ59章17節にもなっています。「主は恵みの御業を鎧としてまとい／救いを兜としてかぶり、報復を衣としてまとい／熱情を上着として身を包まれた。」（イザヤ59 : 17）神様は救われる必要がないので、神様の場合は救われる事でなく、人を救うことを意味します。パウロの場合は多分、ちょっと違う意味で言っているのではないかと思います。つまり私達は救わ

れたのでサタンに攻められても、死に至るような負傷が決して与えられません。この兜を被らないでサタンと戦おうとするのは愚かな事です。使徒の働き19章13節から17節までお読みください。このスケワの息子たちは、自分が救われていないのにほかの人をサタンの力から救おうとしていました。しかしそれは無理でした。自分をさえ救う事が出来ませんでした。私達はイエス様によって救われたという確信をもっていたらほかの人を助ける事が可能となります。神様の子供としての権威をもって大胆にサタンと戦う事ができます。

そして、最後の武具は本文の17節に書いてあります。「霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」

（17b）。先週、陳先生はこの御霊の与え剣である御言葉についてメッセージをされました。私達はイエス様のように御言葉を使ってサタンに対して戦う事ができたらいいですね。私たちも御言葉を心に留めていたらサタンの誘惑に対抗できます。詩篇119篇11節に「あなたに罪を犯さない為、私はあなたのことばを心にたくわえました。」と書いてあります。私たちは御言葉を覚えて適用出来れば出来る程、よりよいキリストの兵士になります。「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましい？と霊、間接と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心の色々な考えやばかりごとを判別することができます。」（ヘブル4 : 12）

今、戦争中です。私達の敵サタンは神様の子供達を憎んで、私達を滅ぼそうとしています。戦備が出来ていますか。神の武具、つまり真理の帯、正義の胸当て、平和の福音の備え、信仰の大盾、救いのかぶと、御霊の剣である御言葉、全部身に着けていますか。身に着けて大胆に戦いましょう。

お祈りしましょう。

心のマッサージ

ユダヤ笑話集 社会思想社三浦鞠郎著

自慢

ユダヤ社会では、肉の料理を食べた後、6時間以内にミルクの入った料理を食べてはいけない、という決まりがある。三人のユダヤ人がある時、どれほど自分達が信心深いかを自慢しあった。第一の男「うちにはかまどが二つあるんだ。一つは肉料理のために。もう一つはミルク料理のためにね。」第二の男「うちはもっと信心深いから、肉の料理をする女中とミルクの料理をする女中の2人がいるんだ。」第三の男「うちこそ、一番敬謙な家庭だと思うよ。何しろ「肉」という言葉を口にしたら、6時間たった後でなければ「ミルク」という言葉を口にしないのだからね。」

身代わり

詩人フランケルは、詩作だけでは食べていけないので、ある文化団体の事務主任をしていた。ある時、事務員が一人死んだ。せっちな男がいて、自分をその代わりにと、さっそく頼みに来た。その時は埋葬もまだすんでいなかった。「お安い御用だがね」とフランケルは約束した。「だが、君のような大きな男を、果して私だけで棺の中に入れられるかどうか。」

地磁気の変化

大洪水と直接の関連がないように見えますが、今回は神が天地を創造された時の地球と現在の地球が異なっ

ているという点に関連しているので、地磁気の変化の問題について論じることにしたいと思います。

「神様はどうして毒蛇や毒グモなんか造られたのだろう」と、考えたことはありませんか。実は私も、これだけではどうしても理解できませんでした。しかし、創世記1章節で「神はお造りになった全てのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった」と書かれていることは間違いではありませんでした。神は、人間に全てのものを支配させようとして創造されました。その中には人間に害を及ぼすようなものはなかったはずで、ということ、やはり毒蛇や毒グモは、その後何かから進化して来たのではないか、と思われるかもしれません。やはり進化説が正しかったのだと。しかし、そうではありません。今、毒を持っている蛇やクモも、最初に神が創造された時には毒を持っていなかったのです。だから、全てのものは神の目に極めて良かったのです。では、なぜ今、毒蛇や毒グモが居るのでしょうか。

以前、生命の誕生の所でお話しましたが、動物の体はタンパク質できていて、タンパク質はアミノ酸の連鎖によってできています。実は蛇やクモの毒も、このタンパク質の一種なのです。そしてタンパク質のアミノ酸の連鎖に磁気が強い影響を及ぼすことが分かっています。私はウイクリフ聖書翻訳協会に奉仕していますが、毒蛇や毒グモのいる地域で奉仕するウイクリフの宣教師達は、ザッパーという簡易発電機を持って行きます。ザッパーは、電流は極めて微弱ですが、2万ボルトほどの高電圧を発生します。これを毒の入った傷口周辺に当てて電気を起こすと、多少ショックがありますが人体には影響なく、毒であるタンパク質のアミノ酸の連鎖は、この高電圧によって破壊され、毒が毒でなくなる、つまり解毒されるのです。ザッパーのお陰で毒蛇にかまれた人が、助かったという例が何件もあります。

これに関して、ある時、「地球の磁気は1400年毎に半減しているということですが」と、京都大学の地磁気研究所に問い合わせたところ、研究者の方から回答を頂きました。それによると、過去400年のデータを見ると、このまま推移すれば1000年以内に地球には磁気がなくなる可能性があるとのことでした。

聖書に拠れば、ノアの洪水は約4500年前に起こりました。そこで、この地磁気に関する情報を適用すれば、ノアの洪水当時の地磁気の強度は現在の約10倍です。この磁気強度では、現在クモなどの毒として存在するアミノ酸は、連鎖を形成しないということです。

つまり、洪水以前には毒を持った蛇やクモはいなかったのです。最初に述べたとおり、神がこれらの生き物を創造された時、それらは良かったのです。

ファイアーアントがどんどん北上して来ていると言います。以前はいなかった所まで来ていて、噛まれて被害に会う人が出ています。渡り鳥が渡る途中で方向を失って死んでしまったという話を聞くこともあります。なぜそのようなことが起こるのでしょうか。それは地磁気が弱くなっているからです。地磁気が弱くなっているためファイアーアントが活動できる範囲が広がっているのです。また渡り鳥の体内磁石が方向を探知できなくなっているのです。

私達の罪によって、人間社会が崩壊しつつあると同様に、大気や海洋汚染だけでなく、このような形で地球も物理的に崩壊しつつあります。黙示録は、これらの事はやがて起こるべきことだと言うことを私達に教えてくれています。イエス・キリストを信じる人々の上にも、このような苦難は襲います。しかし、キリストを信じる人には、そのような苦難の後に与えられる勝利と平安が約束されています。ハレルヤ!

片山進悟

「第一の天使がラッパを吹いた。すると血の混じった雹と火とが生じ、地上に投げ入れられた。地上の三分の一が焼け、木々の三分の一が焼け、すべての青草も焼けてしまった。第二の天使がラッパを吹いた。すると、火で燃えている大きな山のようなものが、海に投げ入れられた。海の三分の一が血に変わり、また被造物で海に住む生き物の三分の一は死に、船という船の三分の一が壊された。第三の天使がラッパを吹いた。すると、松明のように燃えている大きな星が、天から落ちて来て、川という川の三分の一と、その水源の上に落ちた。この星の名は「苦よもぎ」といい水の三分の一が苦よもぎのように苦くなって、そのために多くの人が死んだ。第四の天使がラッパを吹いた。すると太陽の三分の一、月の三分の一、星という星の三分の一が損なわれたので、それぞれ三分の一が暗くなって、昼はその光の三分の一を失い、夜も同じようになった。」(黙示録8章7節～12節)

お知らせ

毎月第2と第4火曜日9時半から、A240号室でエクレシアの会という、肩のこらない形での聖書の学びと楽しい交わりの集まりをしています。どなたでもお気軽にどうぞ。お問い合わせは片山姉704-843-8038まで。

日曜日午前9時半からA231号室で高見憲次兄による成人のための日曜学校、11時からR109号室でラブストランド牧師による礼拝、また月曜日午後7時からA238号室でラブストランド牧師による聖書の学が行われています。世界のベストセラー、聖書をご一緒に学びましょう。

今年もクリスマスにはJillybeanが来て、腹話術、奇術などの楽しいパフォーマンスを披露してくれます（英語です）。12月6日、土曜日午後4時半からをぜひ空けて置いて下さい。どうぞお友達もお誘い下さい。

「いのちの泉」は、シャーロット在住の日本人のコミュニケーションのための月刊紙を目指しています。皆さんも、どうぞ奮ってご参加下さい。お互いの向上に役立てるための趣旨に賛同して下さる内容であれば何でも結構です。Carmel Baptist ChurchのJapanese Ministry宛、または charlottejpn@hotmail.com にお願ひします。

編集者の一時帰国のため、11月は休刊させて頂きます。どうぞ12月号をお楽しみに。

カーメル・バプテスト教会
1145 Pineville-Matthews Rd.
Matthews, NC 28105
<http://ifc26.tripod.com>

モルモン教、エホバの証人（ものみの塔）、
統一教会とは関係のない、正統的なキリスト
教会です。安心して気軽においで下さい。

日本人ミニストリー連絡先：
李牧師（704-847-8575）
ラブストランド牧師（704-849-8851）
片山（704-843-6298）

いのちの泉

カーメルバプテスト教会
日本人ミニストリー月報
2003年10号

街路樹が少しずつ色づいて来ました。一本の木の葉が緑から黄色、オレンジ色と変化のある様は、ため息が出るほど美しく、これからの朝歩きが楽しくなりました。これから暫くの間は、自然の織りなす微妙な美しさを随所に楽しむことでしょう。

皆様にはお変わりなくお過ごしでいらっしゃいますか。今月は16日に日本から岸義紘先生をお迎えし、サクソフオンのコンサートと、先生のお証しを伺うチャンスに恵まれました。集会には、日本人だけでなく、中国人、韓国人、アメリカ人と、多勢の方が集まって下さり、岸先生が心を込めて演奏されるサクソフオンの音色が染み透った心で、先生のユーモラスなお証しを聞くことができ、感謝でした。

実を申しますと、私はここ一ヶ月余り、祈ることも、聖書を手取ることもできず、毎月ハーベストタイムミニストリーが送ってくれるテープを観ることもできずに過ごして来たのですが、四、五日前、ハーベストタイムのテープを意を決して観ることになりました。(意を決して、という言葉はこの時の私にとって、決して大げさな言葉ではありません。) 9月号のそのテープには、中川健一先生が最近出版された「日本人に送る聖書ものがたり」という本の製作に携わられた、編集者と挿絵画家へのインタビューが入っていました。その二人が語られる言葉と、真の謙虚な姿に私は引きつけられるように、TVの画面に見入りました。三日間続けて観ることによって、私は自分の心の中の問題点を見つけることができました。といたしますのも、私は最近、ノンクリスチャンの友人達と話す時に、「私の信仰なんてこの程度...」という言葉、何度か口にしておりました(そのつど心の中に何かを感じながら)。信仰を持つことは、自分で決めることかもしれませんが、(それでさえも、主に選ばれたことであるのですが)信仰を深めることは、勿論、聖書を学ぶこともあるでしょうが、聖霊の働きによるもの、主に引き上げられてあるものではないかと思いました。それなのに「私の信仰なんてこの程度...」とは、主に対してなんと不遜な言葉を吐いたものでしょう。ほんとうに謙虚な人に出会う時、人間は自分の傲慢さに気づくのでしょうか。祈りの中で、自分の愚かさを、傲慢さを、主に詫言いました。針の穴ほどの小さな小さな私にまで、目をそそいで下さり、諭して下さる主に、心から感謝しました。ハレルヤ!

(中藤百々代)



戦争中の私達 エペソ6章10節から20節

ジョエル・ラブストランド牧師

私は、かつて日本のテレビ番組を見て六十年代と七十年代の歌謡曲を聞きました。その中の一曲は、戦争の知らない新世代についての歌詞がありました。確かに、平和の時代に生きる事は大きな恵みですが、聖歌300番を見たら違うような歌詞が書いてあるのに気がつきます。そこに「進め主イエスの兵士らよ」という歌詞が入っています。その歌は、クリスチャン生活を戦争に喩えている訳です。あるアメリカの教会は、その歌詞が今の平和の時代に相応しくないから讚美歌集から除きました。しかしどうでしょうか。使徒パウロはよく軍隊に関する表現を使います。こんなに荒々しい表現を使う必要が本当にあるかと思われるかもしれませんが、戦争についての英語の言葉があります。

「War is hell」、訳すと「戦争は地獄だ」ということです。戦争は本当に怖くて苦しめるものです。しかし、私達の霊的な戦いは戦争と同じように敵がいて、その敵と戦う備えをしなければ、攻められる時戦おうとしても対抗できません。

ベトナム戦争の後でアメリカの軍隊が徴兵制度から志願制度に変わりました。冷戦がまだ続いていたので、時々週刊誌等に米軍の戦備はどうかという課題がのっていました。ロシアに攻められたら対抗できるでしょ

うか。自分の軍隊が強かったら敵に攻められないだろうし、攻められても勝つ事が出来るという風に考えられていました。

私達も戦備が必要です。霊的戦備が必要です。しかし私達の場合は、戦いを防ぐ為ではありません。クリスチャンなら必ずサタンに狙われます。戦わずをえないのです。イエスを信じたら、サタンの敵となります。キリストの兵士となりますから、アダムとエバが罪を犯した時、この世はサタンに支配されるようになりました。誘惑した蛇と人間が、神様に呪われてしまいました。しかし、神様は人間を見捨てはなさいませんでした。呪いと一緒に救い主の約束が加えられました。主なる神は、蛇に向かって言われた。「このようなことをしたお前は、あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で、呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に、わたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き、お前は彼のかかとを砕く。」(創世記3:14、15)

キリストが現れた時、神様のものをサタンの支配から取り返す事が始まりました。イエス様が罪を赦したり、悪霊を追い出したりしておられました。ヨハネの

福音書 12 章 3 1 節にこう言われます。「今こそ、この世が裁かれる時。今、この世の支配者が追放される。」（ヨハネ 12 : 3 1）罪人がイエスを信じたら、サタンの支配から神様の支配に移されます。こういうふうに神様の御国が広がります。イエス様を信じたら、神様と平和を持つ事になりながらサタンの敵になります。十字架の上でイエス様は人間をサタンの力から贖われました。イエス様は確かな勝利を得られましたが、御国は地上でまだ安全な形になっていません。サタンは、まだ暫くこの世の支配者です。第一コリント人への手紙にこういうふうに表現されています。「次いで、世の終わりが来ます。そのとき、キリストはすべての支配、すべての権威や勢力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます。」（コリント 1 15 : 2 4）

靈的には私達は今戦争中です。戦備はできていますか。今朝の聖書箇所は私達のサタンに対する戦いに何が必要かを教えています。ここに神の武具と呼ばれています。

では、この靈的な戦いにどんな武具が必要かを考える前に 1 2 節に注目してください。「わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。」（1 2）多くの場合、私たちは外面的な問題に注意を払いますが、靈的な事を忘れてしまいます。夫婦げんかをする時や自分を傷つけた人に対してうらみをもつ時、あるいはキリストチャンとして迫害される時、その人間の相手に対する戦いだと思い込んでしまいます。教会の中でも人間関係の問題にぶつかると、「あの人が悪い」と思って、サタンの策略に気がつかない事が多いと思います。しかし、1 2 節によると、「私達の格闘は・・・」私達の格闘はサタンと悪霊どもに対するものです。サタンは色々な状況の中で私達の弱い所を狙って誘惑します。それで 1 3 節に書いてあるように神の武具が役に立ちます。

では神の武具というのは何でしょうか。1 4 節から 1 7 節まで色々なものが述べられています。最初に 1 4 節に真理の帯という武具があります。パウロはこういう武具をリストアップした時、おそらくローマ兵と鎖につながっていました。その兵士の武具を見たら旧約聖書の御言葉を思い出すでしょう。実は、この真理の帯という文句はイザヤ書 1 1 章 5 節に書かれた文句とほとんど同じです。イザヤ書の場合は、正義の帯と真実の帯という言葉はその人の性質を表す表現です。エペソ人への手紙の場合も自分の性質を表す言葉でしょう。しかし、この真理は自分の知識によるものではありません。神様の絶対的な真理です。

この真理の帯を身につけるのに聖書を勉強する必要があります。しかし、真理の帯を身につける事は、真理を知る事だけでなく、**真理を??** と真理によって生きる事も含まれていると思います。

次の武具は、1 4 節の終わりに書いてある正義の胸当てです。これはイザヤ 5 9 章 1 7 節からの引用です。その箇所には、神様は御自分の正義によって裁きと救

いをもたらしました。私達はイエス様を信じたらそのいけにえのゆえに、イエス様の義を与えられました。神様に義と認められます。しかし、この手紙はキリストチャンに対して書かれた物なので、この正義は与えられた絶対的な義だけではないと思います。日常生活の中での義による生き方も大切だと教えられています。神様に義と認めて頂いたら日常生活はどうでもいいと思う事は大きな間違いです。そう思っていたら、悪魔に左右されやすくなります。

三つ目の武具は平和の福音の備えです。これは兵士の靴です。「どうして戦争中の私たちに平和の福音の備えが必要なのだろう」と思われるかも知れません。キリストチャンになる時、サタンと戦うようになるとしたら、どういう意味で「平和の福音」と呼ばれているのでしょうか。外面的に平和がないかも知れません。マタイによる福音書 10 節 3 4 - 3 5 節にイエス様は言われました。「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思っはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。わたしは敵対させるために来たからである。人をその父に、／娘を母に、／嫁をしゅうとめに。」（マタイ 10 : 3 4 - 3 5）サタンの敵となったらサタンの支配にある人々にぶつかってしまう事がよくあります。しかし、心の中で平安があります。ローマ書 5 章 1 節に「このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、（ローマ 5 : 1）」と書いてあります。この平和の福音を伝える特権が私達に与えられました。第二コリント 5 章 1 8 - 1 9 節を御覧ください。「これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。」（コリント 2 5 : 1 8 - 1 9）パウロと同じ様に、私達はこの平和の福音を伝える事が出来ます。そうするとイザヤ書 5 2 章 7 節の御言葉は私達に当て嵌まります。「いかに美しいことか／山々を歩き巡り、良い知らせを伝える者の足は。彼は平和を告げ、恵みの良い知らせを伝え／救いを告げ／あなたの神は王となられた、と／シオンに向かって呼ばれる。」（イザヤ 5 2 : 7）福音を伝える用意をしようではありませんか。これは本当に素晴らしい特権です。第一ペテロ 3 章 1 5 節を御覧ください。「心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。」（ペテロ 1 3 : 1 5）正しい態度をもって弁明する事は難しいですね。続けて 1 6 節をお読みします。「それも、穏やかに、敬意をもって、正しい良心で、弁明するようにしなさい。そうすれば、キリストに結ばれたあなたがたの善い生活をののしる者たちは、悪

口を言ったことで恥じ入るようになるのです。」（ペテロ 1 3 : 16）

それでは、本文に戻りましょう。エペソ6章16節に四つ目の武具が見つかります。信仰の大盾です。

「なおその上に、信仰を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことができるのです。」（エペソ6 : 16）サタンは、私達を神様から引き離そうをしています。神様の愛を疑わせようとします。「神様はあなたを本当に愛していたら、こんなにひどい目にあわせないだろう」とか「神様はあなたの事を忘れたんだよ。もう神様に仕えるのをやめた方がいい」とか、色々なうそをつきますが、私達の信仰がしっかりしていたらそういう思いがあっても、心の中で燃えるようになりません。質のいい盾に当たる火矢のように消えてしまいます。当時のローマ兵の大盾は長方形でした。高さは1メートル以上で幅はその半分でした。木で作られていて表面に固い皮が張ってありました。盾につなぎがあったのでほかの盾とつなぎ合わせる事ができました。そうすると、兵士がみんな一緒に進む事が出来ました。私達も互いの信仰を強めます。教会が一致していたら一緒にサタンに対して進む事が出来ます。

では、次の武具は何でしょうか。17節を御覧ください。「また、救いを兜としてかぶり、霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」（17）救いのかぶとという神の武具は、実は先程読ませていただいたイザヤ59章17節にもなっています。「主は恵みの御業を鎧としてまとい／救いを兜としてかぶり、報復を衣としてまとい／熱情を上着として身を包まれた。」（イザヤ59 : 17）神様は救われる必要がないので、神様の場合は救われる事でなく、人を救うことを意味します。パウロの場合は多分、ちょっと違う意味で言っているのではないかと思います。つまり私達は救わ

れたのでサタンに攻められても、死に至るような負傷が決して与えられません。この兜を被らないでサタンと戦おうとするのは愚かな事です。使徒の働き19章13節から17節までお読みください。このスケワの息子たちは、自分が救われていないのにほかの人をサタンの力から救おうとしていました。しかしそれは無理でした。自分をさえ救う事が出来ませんでした。私達はイエス様によって救われたという確信をもっていたらほかの人を助ける事が可能となります。神様の子供としての権威をもって大胆にサタンと戦う事ができます。

そして、最後の武具は本文の17節に書いてあります。「霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」

（17b）。先週、陳先生はこの御霊の与え剣である御言葉についてメッセージをされました。私達はイエス様のように御言葉を使ってサタンに対して戦う事ができたらいいですね。私たちも御言葉を心に留めていたらサタンの誘惑に対抗できます。詩篇119篇11節に「あなたに罪を犯さない為、私はあなたのことばを心にたくわえました。」と書いてあります。私たちは御言葉を覚えて適用出来れば出来る程、よりよいキリストの兵士になります。「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましい？と霊、間接と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心の色々な考えやばかりごとを判別することができます。」（ヘブル4 : 12）

今、戦争中です。私達の敵サタンは神様の子供達を憎んで、私達を滅ぼそうとしています。戦備が出来ていますか。神の武具、つまり真理の帯、正義の胸当て、平和の福音の備え、信仰の大盾、救いのかぶと、御霊の剣である御言葉、全部身に着けていますか。身に着けて大胆に戦いましょう。

お祈りしましょう。

心のマッサージ

ユダヤ笑話集 社会思想社三浦鞠郎著

自慢

ユダヤ社会では、肉の料理を食べた後、6時間以内にミルクの入った料理を食べてはいけない、という決まりがある。三人のユダヤ人がある時、どれほど自分達が信心深いかを自慢しあった。第一の男「うちにはかまどが二つあるんだ。一つは肉料理のために。もう一つはミルク料理のためにね。」第二の男「うちはずっと信心深いから、肉の料理をする女中とミルクの料理をする女中の2人がいるんだ。」第三の男「うちこそ、一番敬謙な家庭だと思うよ。何しろ「肉」という言葉を口にしたら、6時間たった後でなければ「ミルク」という言葉を口にしないのだからね。」

身代わり

詩人フランケルは、詩作だけでは食べていけないので、ある文化団体の事務主任をしていた。ある時、事務員が一人死んだ。せっちな男がいて、自分をその代わりにと、さっそく頼みに来た。その時は埋葬もまだすんでいなかった。「お安い御用だがね」とフランケルは約束した。「だが、君のような大きな男を、果して私だけで棺の中に入れられるかどうか。」

地磁気の変化

大洪水と直接の関連がないように見えますが、今回は神が天地を創造された時の地球と現在の地球が異なっ

ているという点に関連しているので、地磁気の変化の問題について論じることにしたいと思います。

「神様はどうして毒蛇や毒グモなんか造られたのだろう」と、考えたことはありませんか。実は私も、これだけではどうしても理解できませんでした。しかし、創世記1章節で「神はお造りになった全てのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった」と書かれていることは間違いではありませんでした。神は、人間に全てのものを支配させようとして創造されました。その中には人間に害を及ぼすようなものはなかったはずで、ということ、やはり毒蛇や毒グモは、その後何かから進化して来たのではないか、と思われるかもしれません。やはり進化説が正しかったのだと。しかし、そうではありません。今、毒を持っている蛇やクモも、最初に神が創造された時には毒を持っていなかったのです。だから、全てのものは神の目に極めて良かったのです。では、なぜ今、毒蛇や毒グモが居るのでしょうか。

以前、生命の誕生の所でお話しましたが、動物の体はタンパク質できていて、タンパク質はアミノ酸の連鎖によってできています。実は蛇やクモの毒も、このタンパク質の一種なのです。そしてタンパク質のアミノ酸の連鎖に磁気強い影響を及ぼすことが分かっています。私はウイクリフ聖書翻訳協会に奉仕していますが、毒蛇や毒グモのいる地域で奉仕するウイクリフの宣教師達は、ザッパーという簡易発電機を持って行きます。ザッパーは、電流は極めて微弱ですが、2万ボルトほどの高電圧を発生します。これを毒の入った傷口周辺に当てて電気を起こすと、多少ショックがありますが人体には影響なく、毒であるタンパク質のアミノ酸の連鎖は、この高電圧によって破壊され、毒が毒でなくなる、つまり解毒されるのです。ザッパーのお陰で毒蛇にかまれた人が、助かったという例が何件もあります。

これに関して、ある時、「地球の磁気は1400年毎に半減しているということですが」と、京都大学の地磁気研究所に問い合わせたところ、研究者の方から回答を頂きました。それによると、過去400年のデータを見ると、このまま推移すれば1000年以内に地球には磁気がなくなる可能性があるとのことでした。

聖書に拠れば、ノアの洪水は約4500年前に起こりました。そこで、この地磁気に関する情報を適用すれば、ノアの洪水当時の地磁気の強度は現在の約10倍です。この磁気強度では、現在クモなどの毒として存在するアミノ酸は、連鎖を形成しないということです。

つまり、洪水以前には毒を持った蛇やクモはいなかったのです。最初に述べたとおり、神がこれらの生き物を創造された時、それらは良かったのです。

ファイアーアントがどんどん北上して来ていると言います。以前はいなかった所まで来ていて、噛まれて被害に会う人が出ています。渡り鳥が渡る途中で方向を失って死んでしまったという話を聞くこともあります。なぜそのようなことが起こるのでしょうか。それは地磁気が弱くなっているからです。地磁気が弱くなっているためファイアーアントが活動できる範囲が広がっているのです。また渡り鳥の体内磁石が方向を探知できなくなっているのです。

私達の罪によって、人間社会が崩壊しつつあると同様に、大気や海洋汚染だけでなく、このような形で地球も物理的に崩壊しつつあります。黙示録は、これらの事はやがて起こるべきことだと言うことを私達に教えてくれています。イエス・キリストを信じる人々の上にも、このような苦難は襲います。しかし、キリストを信じる人には、そのような苦難の後に与えられる勝利と平安が約束されています。ハレルヤ!

片山進悟

「第一の天使がラッパを吹いた。すると血の混じった雹と火とが生じ、地上に投げ入れられた。地上の三分の一が焼け、木々の三分の一が焼け、すべての青草も焼けてしまった。第二の天使がラッパを吹いた。すると、火で燃えている大きな山のようなものが、海に投げ入れられた。海の三分の一が血に変わり、また被造物で海に住む生き物の三分の一は死に、船という船の三分の一が壊された。第三の天使がラッパを吹いた。すると、松明のように燃えている大きな星が、天から落ちて来て、川という川の三分の一と、その水源の上に落ちた。この星の名は「苦よもぎ」といい水の三分の一が苦よもぎのように苦くなって、そのために多くの人が死んだ。第四の天使がラッパを吹いた。すると太陽の三分の一、月の三分の一、星という星の三分の一が損なわれたので、それぞれ三分の一が暗くなって、昼はその光の三分の一を失い、夜も同じようになった。」（黙示録8章7節～12節）

お知らせ

毎月第2と第4火曜日9時半から、A240号室でエクレシアの会という、肩のこらない形での聖書の学びと楽しい交わりの集まりをしています。どなたでもお気軽にどうぞ。お問い合わせは片山姉704-843-8038まで。

日曜日午前9時半からA231号室で高見憲次兄による成人のための日曜学校、11時からR109号室でラブストランド牧師による礼拝、また月曜日午後7時からA238号室でラブストランド牧師による聖書の学が行われています。世界のベストセラー、聖書をご一緒に学びましょう。

今年もクリスマスにはJillybeanが来て、腹話術、奇術などの楽しいパフォーマンスを披露してくれます（英語です）。12月6日、土曜日午後4時半からをぜひ空けて置いて下さい。どうぞお友達もお誘い下さい。

「いのちの泉」は、シャーロット在住の日本人のコミュニケーションのための月刊紙を目指しています。皆さんも、どうぞ奮ってご参加下さい。お互いの向上に役立てるための趣旨に賛同して下さる内容であれば何でも結構です。Carmel Baptist ChurchのJapanese Ministry宛、または charlottejpn@hotmail.com をお願いします。

編集者の一時帰国のため、11月は休刊させて頂きます。どうぞ12月号をお楽しみに。

カーメル・バプテスト教会
1145 Pineville-Matthews Rd.
Matthews, NC 28105
<http://ifc26.tripod.com>

モルモン教、エホバの証人（ものみの塔）、
統一教会とは関係のない、正統的なキリスト
教会です。安心して気軽においで下さい。

日本人ミニストリー連絡先：
李牧師（704-847-8575）
ラブストランド牧師（704-849-8851）
片山（704-843-6298）

いのちの泉

カメルバプテスト教会
日本人ミニストリー月報
2003年10号

街路樹が少しずつ色づいて来ました。一本の木の葉が緑から黄色、オレンジ色と変化のある様は、ため息が出るほど美しく、これからの朝歩きが楽しくなりました。これから暫くの間は、自然の織りなす微妙な美しさを随所に楽しむことでしょう。

皆様にはお変わりなくお過ごしでいらっしゃいますか。今月は16日に日本から岸義紘先生をお迎えし、サクソフンのコンサートと、先生のお証しを伺うチャンスに恵まれました。集会には、日本人だけでなく、中国人、韓国人、アメリカ人と、多勢の方が集まって下さり、岸先生が心を込めて演奏されるサクソフンの音色が染み透った心で、先生のユーモラスなお証しを聞くことができ、感謝でした。

実を申しますと、私はここ一ヶ月余り、祈ることも、聖書を手取ることもできず、毎月ハーベストタイムミニストリーが送ってくれるテープを観ることもできずに過ごして来たのですが、四、五日前、ハーベストタイムのテープを意を決して観ることになりました。(意を決して、という言葉はこの時の私にとって、決して大げさな言葉ではありません。) 9月号のそのテープには、中川健一先生が最近出版された「日本人に送る聖書ものがたり」という本の製作に携わられた、編集者と挿絵画家へのインタビューが入っていました。その二人が語られる言葉と、真の謙虚な姿に私は引きつけられるように、TVの画面に見入りました。三日間続けて観ることによって、私は自分の心の中の問題点を見つけることができました。といたしますのも、私は最近、ノンクリスチャンの友人達と話す時に、「私の信仰なんてこの程度...」という言葉、何度か口にしておりました(そのつど心の中に何かを感じながら)。信仰を持つことは、自分で決めることかもしれませんが、(それでさえも、主に選ばれたことであるのですが)信仰を深めることは、勿論、聖書を学ぶこともあるでしょうが、聖霊の働きによるもの、主に引き上げられてあるものではないかと思いました。それなのに「私の信仰なんてこの程度...」とは、主に対してなんと不遜な言葉を吐いたものでしょう。ほんとうに謙虚な人に出会う時、人間は自分の傲慢さに気づくのでしょうか。祈りの中で、自分の愚かさを、傲慢さを、主に詫言いました。針の穴ほどの小さな小さな私にまで、目をそそいで下さり、諭して下さる主に、心から感謝しました。ハレルヤ!

(中藤百々代)



戦争中の私達 エペソ6章10節から20節

ジョエル・ラブストランド牧師

私は、かつて日本のテレビ番組を見て六十年代と七十年代の歌謡曲を聞きました。その中の一曲は、戦争の知らない新世代についての歌詞がありました。確かに、平和の時代に生きる事は大きな恵みですが、聖歌300番を見たら違うような歌詞が書いてあるのに気がつきます。そこに「進め主イエスの兵士らよ」という歌詞が入っています。その歌は、クリスチャン生活を戦争に喩えている訳です。あるアメリカの教会は、その歌詞が今の平和の時代に相応しくないから讚美歌集から除きました。しかしどうでしょうか。使徒パウロはよく軍隊に関する表現を使います。こんなに荒々しい表現を使う必要が本当にあるかと思われるかもしれませんが、戦争についての英語の言葉があります。

「War is hell」、訳すと「戦争は地獄だ」ということです。戦争は本当に怖くて苦しめるものです。しかし、私達の霊的な戦いは戦争と同じように敵がいて、その敵と戦う備えをしなければ、攻められる時戦おうとしても対抗できません。

ベトナム戦争の後でアメリカの軍隊が徴兵制度から志願制度に変わりました。冷戦がまだ続いていたので、時々週刊誌等に米軍の戦備はどうかという課題がのっていました。ロシアに攻められたら対抗できるでしょ

うか。自分の軍隊が強かったら敵に攻められないだろうし、攻められても勝つ事が出来るという風に考えられていました。

私達も戦備が必要です。霊的戦備が必要です。しかし私達の場合は、戦いを防ぐ為ではありません。クリスチャンなら必ずサタンに狙われます。戦わずをえないのです。イエスを信じたら、サタンの敵となります。キリストの兵士となりますから、アダムとエバが罪を犯した時、この世はサタンに支配されるようになりました。誘惑した蛇と人間が、神様に呪われてしまいました。しかし、神様は人間を見捨てはなさいませんでした。呪いと一緒に救い主の約束が加えられました。主なる神は、蛇に向かって言われた。「このようなことをしたお前は、あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で、呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に、わたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き、お前は彼のかかとを砕く。」(創世記3:14、15)

キリストが現れた時、神様のものをサタンの支配から取り返す事が始まりました。イエス様が罪を赦したり、悪霊を追い出したりしておられました。ヨハネの

福音書 12 章 3 1 節にこう言われます。「今こそ、この世が裁かれる時。今、この世の支配者が追放される。」（ヨハネ 12 : 3 1）罪人がイエスを信じたら、サタンの支配から神様の支配に移されます。こういうふうに神様の御国が広がります。イエス様を信じたら、神様と平和を持つ事になりながらサタンの敵になります。十字架の上でイエス様は人間をサタンの力から贖われました。イエス様は確かな勝利を得られましたが、御国は地上でまだ安全な形になっていません。サタンは、まだ暫くこの世の支配者です。第一コリント人への手紙にこういうふうに表現されています。「次いで、世の終わりが来ます。そのとき、キリストはすべての支配、すべての権威や勢力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます。」（コリント 1 15 : 2 4）

靈的には私達は今戦争中です。戦備はできていますか。今朝の聖書箇所は私達のサタンに対する戦いに何が必要かを教えています。ここに神の武具と呼ばれています。

では、この靈的な戦いにどんな武具が必要かを考える前に 1 2 節に注目してください。「わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。」（1 2）多くの場合、私たちは外面的な問題に注意を払いますが、靈的な事を忘れてしまいます。夫婦げんかをする時や自分を傷つけた人に対してうらみをもつ時、あるいはキリストチャンとして迫害される時、その人間の相手に対する戦いだと思い込んでしまいます。教会の中でも人間関係の問題にぶつかると、「あの人が悪い」と思って、サタンの策略に気がつかない事が多いと思います。しかし、1 2 節によると、「私達の格闘は・・・」私達の格闘はサタンと悪霊どもに対するものです。サタンは色々な状況の中で私達の弱い所を狙って誘惑します。それで 1 3 節に書いてあるように神の武具が役に立ちます。

では神の武具というのは何でしょうか。1 4 節から 1 7 節まで色々なものが述べられています。最初に 1 4 節に真理の帯という武具があります。パウロはこういう武具をリストアップした時、おそらくローマ兵と鎖につながれていました。その兵士の武具を見たら旧約聖書の御言葉を思い出すでしょう。実は、この真理の帯という文句はイザヤ書 1 1 章 5 節に書かれた文句とほとんど同じです。イザヤ書の場合は、正義の帯と真実の帯という言葉はその人の性質を表す表現です。エペソ人への手紙の場合も自分の性質を表す言葉でしょう。しかし、この真理は自分の知識によるものではありません。神様の絶対的な真理です。

この真理の帯を身につけるのに聖書を勉強する必要があります。しかし、真理の帯を身につける事は、真理を知る事だけでなく、**真理を??** と真理によって生きる事も含まれていると思います。

次の武具は、1 4 節の終わりに書いてある正義の胸当てです。これはイザヤ 5 9 章 1 7 節からの引用です。その箇所には、神様は御自分の正義によって裁きと救

いをもたらしました。私達はイエス様を信じたらそのいけにえのゆえに、イエス様の義を与えられました。神様に義と認められます。しかし、この手紙はキリストチャンに対して書かれた物なので、この正義は与えられた絶対的な義だけではないと思います。日常生活の中での義による生き方も大切だと教えられています。神様に義と認めて頂いたら日常生活はどうでもいいと思う事は大きな間違いです。そう思っていたら、悪魔に左右されやすくなります。

三つ目の武具は平和の福音の備えです。これは兵士の靴です。「どうして戦争中の私たちに平和の福音の備えが必要なのだろう」と思われるかも知れません。キリストチャンになる時、サタンと戦うようになるとしたら、どういう意味で「平和の福音」と呼ばれているのでしょうか。外面的に平和がないかも知れません。マタイによる福音書 10 節 3 4 - 3 5 節にイエス様は言われました。「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思っはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。わたしは敵対させるために来たからである。人をその父に、／娘を母に、／嫁をしゅうとめに。」（マタイ 10 : 3 4 - 3 5）サタンの敵となったらサタンの支配にある人々にぶつかってしまう事がよくあります。しかし、心の中で平安があります。ローマ書 5 章 1 節に「このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、（ローマ 5 : 1）」と書いてあります。この平和の福音を伝える特権が私達に与えられました。第二コリント 5 章 1 8 - 1 9 節を御覧ください。「これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。」（コリント 2 5 : 1 8 - 1 9）パウロと同じ様に、私達はこの平和の福音を伝える事が出来ます。そうするとイザヤ書 5 2 章 7 節の御言葉は私達に当て嵌まります。「いかに美しいことか／山々を歩き巡り、良い知らせを伝える者の足は。彼は平和を告げ、恵みの良い知らせを伝え／救いを告げ／あなたの神は王となられた、と／シオンに向かって呼ばれる。」（イザヤ 5 2 : 7）福音を伝える用意をしようではありませんか。これは本当に素晴らしい特権です。第一ペテロ 3 章 1 5 節を御覧ください。「心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。」（ペテロ 1 3 : 1 5）正しい態度をもって弁明する事は難しいですね。続けて 1 6 節をお読みします。「それも、穏やかに、敬意をもって、正しい良心で、弁明するようにしなさい。そうすれば、キリストに結ばれたあなたがたの善い生活をののしる者たちは、悪

口を言ったことで恥じ入るようになるのです。」（ペテロ 1 3 : 16）

それでは、本文に戻りましょう。エペソ6章16節に四つ目の武具が見つかります。信仰の大盾です。

「なおその上に、信仰を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことができるのです。」（エペソ6 : 16）サタンは、私達を神様から引き離そうをしています。神様の愛を疑わせようとします。「神様はあなたを本当に愛していたら、こんなにひどい目にあわせないだろう」とか「神様はあなたの事を忘れたんだよ。もう神様に仕えるのをやめた方がいい」とか、色々なうそをつきますが、私達の信仰がしっかりしていたらそういう思いがあっても、心の中で燃えるようになりません。質のいい盾に当たる火矢のように消えてしまいます。当時のローマ兵の大盾は長方形でした。高さは1メートル以上で幅はその半分でした。木で作られていて表面に固い皮が張ってありました。盾につなぎがあったのでほかの盾とつなぎ合わせる事ができました。そうすると、兵士がみんな一緒に進む事が出来ました。私達も互いの信仰を強めます。教会が一致していたら一緒にサタンに対して進む事が出来ます。

では、次の武具は何でしょうか。17節を御覧ください。「また、救いを兜としてかぶり、霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」（17）救いのかぶとという神の武具は、実は先程読ませていただいたイザヤ59章17節にもなっています。「主は恵みの御業を鎧としてまとい／救いを兜としてかぶり、報復を衣としてまとい／熱情を上着として身を包まれた。」（イザヤ59 : 17）神様は救われる必要がないので、神様の場合は救われる事でなく、人を救うことを意味します。パウロの場合は多分、ちょっと違う意味で言っているのではないかと思います。つまり私達は救わ

れたのでサタンに攻められても、死に至るような負傷が決して与えられません。この兜を被らないでサタンと戦おうとするのは愚かな事です。使徒の働き19章13節から17節までお読みください。このスケワの息子たちは、自分が救われていないのにほかの人をサタンの力から救おうとしていました。しかしそれは無理でした。自分をさえ救う事が出来ませんでした。私達はイエス様によって救われたという確信をもっていたらほかの人を助ける事が可能となります。神様の子供としての権威をもって大胆にサタンと戦う事ができます。

そして、最後の武具は本文の17節に書いてあります。「霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」（17b）。先週、陳先生はこの御霊の与え剣である御言葉についてメッセージをされました。私達はイエス様のように御言葉を使ってサタンに対して戦う事ができればいいですね。私たちも御言葉を心に留めていたらサタンの誘惑に対抗できます。詩篇119篇11節に「あなたに罪を犯さない為、私はあなたのことばを心にたくわえました。」と書いてあります。私たちは御言葉を覚えて適用出来れば出来る程、よりよいキリストの兵士になります。「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましい？と霊、間接と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心の色々な考えやばかりごとを判別することができます。」（ヘブル4 : 12）

今、戦争中です。私達の敵サタンは神様の子供達を憎んで、私達を滅ぼそうとしています。戦備が出来ていますか。神の武具、つまり真理の帯、正義の胸当て、平和の福音の備え、信仰の大盾、救いのかぶと、御霊の剣である御言葉、全部身に着けていますか。身に着けて大胆に戦いましょう。

お祈りしましょう。

心のマッサージ

ユダヤ笑話集 社会思想社三浦鞠郎著

自慢

ユダヤ社会では、肉の料理を食べた後、6時間以内にミルクの入った料理を食べてはいけない、という決まりがある。三人のユダヤ人がある時、どれほど自分達が信心深いかを自慢しあった。第一の男「うちにはかまどが二つあるんだ。一つは肉料理のために。もう一つはミルク料理のためにね。」第二の男「うちはもっと信心深いから、肉の料理をする女中とミルクの料理をする女中の2人がいるんだ。」第三の男「うちこそ、一番敬謙な家庭だと思うよ。何しろ「肉」という言葉を口にしたら、6時間たった後でなければ「ミルク」という言葉を口にしないのだからね。」

身代わり

詩人フランケルは、詩作だけでは食べていけないので、ある文化団体の事務主任をしていた。ある時、事務員が一人死んだ。せっちな男がいて、自分をその代わりにと、さっそく頼みに来た。その時は埋葬もまだすんでいなかった。「お安い御用だがね」とフランケルは約束した。「だが、君のような大きな男を、果して私だけで棺の中に入れられるかどうか。」

地磁気の変化

大洪水と直接の関連がないように見えますが、今回は神が天地を創造された時の地球と現在の地球が異なっ

ているという点で関連しているので、地磁気の変化の問題について論じることにしたいと思います。

「神様はどうして毒蛇や毒グモなんか造られたのだろう」と、考えたことはありませんか。実は私も、これだけはどうしても理解できませんでした。しかし、創世記1章節で「神はお造りになった全てのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった」と書かれていることは間違いではありませんでした。神は、人間に全てのものを支配させようとして創造されました。その中には人間に害を及ぼすようなものはなかったはずで、ということ、やはり毒蛇や毒グモは、その後何かから進化して来たのではないか、と思われるかもしれません。やはり進化説が正しかったのだと。しかし、そうではありません。今、毒を持っている蛇やクモも、最初に神が創造された時には毒を持っていなかったのです。だから、全てのものは神の目に極めて良かったのです。では、なぜ今、毒蛇や毒グモが居るのでしょうか。

以前、生命の誕生の所でお話しましたが、動物の体はタンパク質できていて、タンパク質はアミノ酸の連鎖によってできています。実は蛇やクモの毒も、このタンパク質の一種なのです。そしてタンパク質のアミノ酸の連鎖に磁気が強い影響を及ぼすことが分かっています。私はウイクリフ聖書翻訳協会に奉仕していますが、毒蛇や毒グモのいる地域で奉仕するウイクリフの宣教師達は、ザッパーという簡易発電機を持って行きます。ザッパーは、電流は極めて微弱ですが、2万ボルトほどの高電圧を発生します。これを毒の入った傷口周辺に当てて電気を起こすと、多少ショックがありますが人体には影響なく、毒であるタンパク質のアミノ酸の連鎖は、この高電圧によって破壊され、毒が毒でなくなる、つまり解毒されるのです。ザッパーのお陰で毒蛇にかまれた人が、助かったという例が何件もあります。

これに関して、ある時、「地球の磁気は1400年毎に半減しているということですが」と、京都大学の地磁気研究所に問い合わせたところ、研究者の方から回答を頂きました。それによると、過去400年のデータを見ると、このまま推移すれば1000年以内に地球には磁気がなくなる可能性があるとのことでした。

聖書に拠れば、ノアの洪水は約4500年前に起こりました。そこで、この地磁気に関する情報を適用すれば、ノアの洪水当時の地磁気の強度は現在の約10倍です。この磁気強度では、現在クモなどの毒として存在するアミノ酸は、連鎖を形成しないということです。

つまり、洪水以前には毒を持った蛇やクモはいなかったのです。最初に述べたとおり、神がこれらの生き物を創造された時、それらは良かったのです。

ファイアーアントがどんどん北上して来ていると言います。以前はいなかった所まで来ていて、噛まれて被害に会う人が出ています。渡り鳥が渡る途中で方向を失って死んでしまったという話を聞くこともあります。なぜそのようなことが起こるのでしょうか。それは地磁気が弱くなっているからです。地磁気が弱くなっているためファイアーアントが活動できる範囲が広がっているのです。また渡り鳥の体内磁石が方向を探知できなくなっているのです。

私達の罪によって、人間社会が崩壊しつつあると同様に、大気や海洋汚染だけでなく、このような形で地球も物理的に崩壊しつつあります。黙示録は、これらの事はやがて起こるべきことだと言うことを私達に教えてくれています。イエス・キリストを信じる人々の上にも、このような苦難は襲います。しかし、キリストを信じる人には、そのような苦難の後に与えられる勝利と平安が約束されています。ハレルヤ!

片山進悟

「第一の天使がラッパを吹いた。すると血の混じった雹と火とが生じ、地上に投げ入れられた。地上の三分の一が焼け、木々の三分の一が焼け、すべての青草も焼けてしまった。第二の天使がラッパを吹いた。すると、火で燃えている大きな山のようなものが、海に投げ入れられた。海の三分の一が血に変わり、また被造物で海に住む生き物の三分の一は死に、船という船の三分の一が壊された。第三の天使がラッパを吹いた。すると、松明のように燃えている大きな星が、天から落ちて来て、川という川の三分の一と、その水源の上に落ちた。この星の名は「苦よもぎ」といい水の三分の一が苦よもぎのように苦くなって、そのために多くの人が死んだ。第四の天使がラッパを吹いた。すると太陽の三分の一、月の三分の一、星という星の三分の一が損なわれたので、それぞれ三分の一が暗くなって、昼はその光の三分の一を失い、夜も同じようになった。」（黙示録8章7節～12節）

お知らせ

毎月第2と第4火曜日9時半から、A240号室でエクレシアの会という、肩のこらない形での聖書の学びと楽しい交わりの集まりをしています。どなたでもお気軽にどうぞ。お問い合わせは片山姉704-843-8038まで。

日曜日午前9時半からA231号室で高見憲次兄による成人のための日曜学校、11時からR109号室でラブストランド牧師による礼拝、また月曜日午後7時からA238号室でラブストランド牧師による聖書の学が行われています。世界のベストセラー、聖書をご一緒に学びましょう。

今年もクリスマスにはJillybeanが来て、腹話術、奇術などの楽しいパフォーマンスを披露してくれます（英語です）。12月6日、土曜日午後4時半からをぜひ空けて置いて下さい。どうぞお友達もお誘い下さい。

「いのちの泉」は、シャーロット在住の日本人のコミュニケーションのための月刊紙を目指しています。皆さんも、どうぞ奮ってご参加下さい。お互いの向上に役立てるための趣旨に賛同して下さる内容であれば何でも結構です。Carmel Baptist ChurchのJapanese Ministry宛、または charlottejpn@hotmail.com にお願ひします。

編集者の一時帰国のため、11月は休刊させて頂きます。どうぞ12月号をお楽しみに。

カーメル・バプテスト教会
1145 Pineville-Matthews Rd.
Matthews, NC 28105
<http://ifc26.tripod.com>

モルモン教、エホバの証人（ものみの塔）、
統一教会とは関係のない、正統的なキリスト
教会です。安心して気軽においで下さい。

日本人ミニストリー連絡先：
李牧師（704-847-8575）
ラブストランド牧師（704-849-8851）
片山（704-843-6298）